

Kunne chup kamui

アイヌ叙事詩

月の女神

金成マツ

切替英雄 訳

目次

例言	1
原テキスト	1
表題	1
「月の女神」の原テキスト最終ページ（影印と翻刻）	1
編集要綱	4
分担	6
参考文献	6
物語 月の女神	7
第1章 うばゆりが原の惨劇	7
1.1 シヌタブカとイヨチの結びつき	7
1.2 イヨチ一族との定められた結婚	7
1.3 育ての兄の船出	8
1.4 うばゆりを掘りに	8
1.5 惨劇	9
第2章 月の女神	10
2.1 月の女神の家で	10
2.2 遺体発見のいきさつ	10
2.3 真相	11
2.4 雷神たちの謝罪と蘇生	11
2.5 別れ	12
2.6 帰還	12
2.7 償い	13
第3章 華燭の典	13
3.1 宴の準備	13
3.2 イヨチ人の来訪	14
3.3 饗宴	15
3.4 結婚の儀	16
3.5 宴の果て	17
第4章 結婚	17
4.1 イヨチ長女来る	17
4.2 母の家	18
4.3 ちい兄さんを待つ	18
4.4 ちい兄さん来る	18

4.4 家の神々へのあいさつ	19
4.5 むつまじい二人	19
4.6 ちい兄さんの手料理	19
4.7 妻となる	19
4.8 親族のむつみ	20
4.9 神のもとへ	20
月の女神	21
第1章 うばゆりが原の惨劇	21
1.1 シヌタプカとイヨチの結びつき	21
1.2 イヨチ一族との定められた結婚	23
1.3 育ての兄の船出	27
1.4 うばゆりを掘りに	28
1.5 惨劇	30
第2章 月の女神	34
2.1 月の女神の家で	34
2.2 遺体発見のいきさつ	36
2.3 真相	38
2.4 雷神たちの謝罪と蘇生	40
2.5 別れ	42
2.6 帰還	45
2.7 償い	48
第3章 華燭の典	50
3.1 宴の準備	50
3.2 イヨチ人の来訪	53
3.3 饗宴	58
3.4 結婚の儀	60
3.5 宴の果て	65
第4章 結婚	66
4.1 イヨチ長女来る	66
4.2 母の家	68
4.3 ちい兄さんを待つ	70
4.4 ちい兄さん来る	71
4.5 むつまじい二人	73
4.6 ちい兄さんの手料理	74
4.7 妻となる	76
4.8 親族のむつみ	78
4.9 神のもとへ	78

例言

1. 原テキスト

本書で紹介するアイヌ語テキストは、アイヌ英雄叙事詩（ユーカラ）の一編であって、萱野志朗氏（萱野茂二風谷アイヌ資料館）が所蔵するいわゆる「金成マツノート」（金成マツ遺稿）に依っている（但し、翻訳に当たって編者らは萱野氏から送られた原テキストの複写（影印）を用い、原テキストそのものは見ていない）。「金成マツノート」は、アイヌの婦人^{かなり}金成マツ（1875-1961）が金田一京助宛に書いた自身が伝承するアイヌ口承文芸のローマ字によるテキスト群である。ここに紹介する「月の女神」は手帳の p.228 から p.287 に記されたものである。一葉、一葉ずつにマツの手によりノンブルが記されているのは、この手帳がルーズリーフを綴じるバインダーであるからである。マツの綿密な人柄がしのばれる（編者の知る限り、糸かがりの手帳の場合はノンブルが記入されない）。

手帳の p.228 から p.241, 1.5 まで、ところどころに金田一による書き込みが見られる。随時参考にした。

編集・翻訳にあたって、本編集者らは影印によって作業し、直接手帳を閲覧していないので、影印から知り得ることを記し、かつ編集方針を示す。

2. 表題

この叙事詩の表題^{*1}としてマツは冒頭に

kunne chup kamui araike pon menoko shik nure

と記している。編者らのアイヌ語ローマ字表記にしたがうなら、araike は a-raike 「殺される」、shik nure は shiknure 「生かす」となる。この手帳の目次のページで金田一京助はこれを「月神が殺されて、少女がそれを生かす物語」と訳して記している。この訳は文法的に誤りではない。しかし、「月神が殺された少女を生かす（物語）」とも読める。そしてこの方が内容から見て正しい読み方である。なお、kunne chup 「月神」は結婚を控えたまだ若い女神である。

本書ではア・日両表題として

アイヌ語表題 Kunne chup kamui クンネ チュプ カムイ

日本語表題 『月の女神』

とすることにした。また、参照の便を考慮して、日本語表題には「アイヌ英雄叙事詩」という句を付け足した。但し、このユーカラは、英雄（秀でた男子）の叙事詩ではなく、マツが筆を置くに当たってテキスト末尾に書いているように「メノコユーカラ」（女のユーカラ）であり、女が主人公で、いくさを叙すものではないから、「英雄叙事詩」という副題はいくらか不似合いである。

3. 「月の女神」の原テキスト最終ページ（影印と翻刻）

p.3 に原テキストの最終ページの影印と翻刻をしめす。

「明治三十五年頃坂田高子平取村の老婦人語 ッタメノコユーカラ」と記されているが、翻訳にあたって訳者は、沙流川流域の方言特徴に気づかなかった。例えば感謝し礼拝する仕草を叙する箇所に rikunruke 「高くあげる」、raunruke 「低くさげる」という対句が頻出するが、沙流川流域では rikuiruke, rauruke と言う。このような

^{*1} アイヌ口承文芸の個々の作品には、本来、現在見るような定まった表題、つまり作品の一部としての表題はついていなかった。だから、マツのこの記述もそういった意味での表題と見るべきかどうか疑問が残る。

形は「月の女神」には現れない。また、食後、あとが片付くことが *ibe ruoka / chiobashpare* と記されているが、沙流では *onuman ibe / auruoka / karpore* などと言うようである。

つまり、「月の女神」は坂田高子が口述し、金成マツが筆録したもの、と言って言えなくもないが、そのような言い方は誤解を招くものであって、金田一がワカルバやマツが口述したものをそれを聞きながら筆録したのとは訳が違う。マツは高子が口述した物語を耳から覚え、それを数十年たって自分の流儀のユーカラの語法で書き留めたということである。だからマツが、自身伝承するものを筆録したと言ってなんの差し支えもない。

なお、「月の女神」が書き終えられて、5) *konkani tampakop* という表題のウエベケレが同じページ（最終ページ p.287）から直ちに始まっている。そのページの内容は、およそ以下のとおりである。

金の煙草入れ 私は真の富者であり、真の淑女を娶り、たいへん仲睦まじく暮らしていた。私が山へ狩りに行くと多くの獲物があった。妻が畑を耕すと多くの倉が必要になるほど収穫があった。妻は健康で、容姿に優れ、料理、裁縫などに巧みであった。私も面立ちたいへん美しく、狩りの名人で、木彫に優れていた。体力も衆にまさっていた。賢くて度胸もあった。幼少の頃から既に評判が高かったが、ある日から（ここまで）

4. 二つの家系 「月の女神」を理解するために

このユーカラは、より正確に言えばメノコユーカラ（女のユーカラ）であり、女が主人公である。したがって、「英雄叙事詩」と呼ぶのはあまりふさわしくない。しかし、文法的にも韻律的にも通常のユーカラ（少年英雄ポイヤウンベが主人公となる）と変わりはない。ただ、内容については、ポイヤウンベのユーカラがいくさの情景に重きを置くのに対して、メノコユーカラには戦闘場面がほとんどなく、若い男女の恋と結婚がテーマとなっている点で異なっている。

メノコユーカラ「月の女神」は、シヌタブカの娘（ヒロイン）とイヨチの若者（ちい兄さん）が苦難のすえ、めでたく結婚する物語をヒロインの視点から述べるものである。というよりも、シヌタブカとイヨチの二つの名家が婚姻を通して結ばれたことが述べられていると見るべきかもしれない。

苦難というのは、雷神の兄、妹がそれぞれヒロインとちい兄さんに恋慕し、結婚しようとして引き起こされた苦難であって、事実、ヒロインはヒロインの姉（ちい姉さん）に化けた雷神の妹に殺害されたのである。殺害の手が、ちい兄さんに及んだかどうかはこの物語では触れられていない。雷神の兄妹が人間と結婚するとは、殺した人間の魂 *ramat* を奪って我が物にするということである。

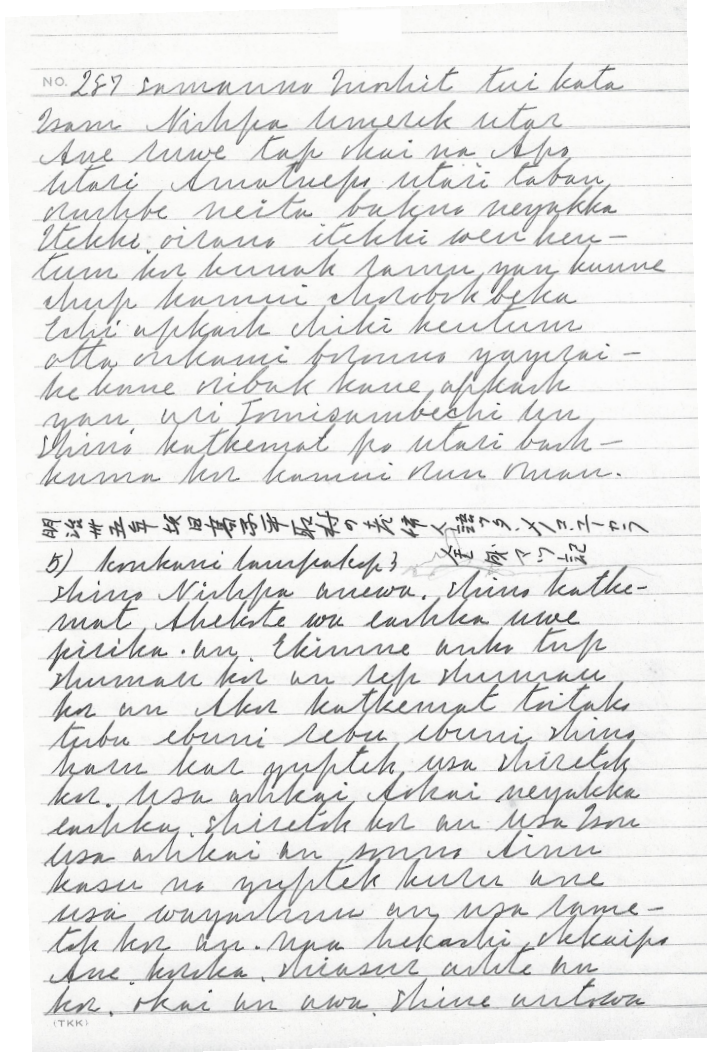
なお、上で雷神の妹がちい姉さんに化けた、と述べたが、本物のちい姉さんとそれに変装したニセ者のちい姉さんが同時に存在していた時間があったと誤解してはならない。言い換えるなら、ニセのちい姉さんが活躍している間、本物のちい姉さんがどこにいたのか、というふうには考えてはならない。雷神の妹は、本物のちい姉さんの身体に入ったのである。そのとき、ちい姉さんの魂がどのような状態にあったのかは、この物語では述べられていない。また、編者もそれを知らない。この物語では、雷神の悪事が露見したのち、ちい姉さんが *yayokabashte* 「我に帰った」と述べられているだけである。

雷神の妹によって損なわれたヒロインの身体は月の女神によって癒され、魂を回復し、蘇生した。

このメノコユーカラ（女のユーカラ）は、以上のようなことのほか、アイヌのエリートの結婚観、彼らが理想とした華燭の典、また、貞操、初夜の迎え方が興味深く描いている。

この物語の理解の便宜に、シヌタブカとイヨチの二つの家族の系譜を説明しておきたい。下図では、実線が血縁関係、二重線が婚姻関係を示している（シヌタブカは、正確にはトミサンベチ・シヌタブカと記すべきであるがこう略記する）。

この系譜から、第三世代の者すべてがイトコ婚により結ばれていることが明らかになる。また、この第三世代の者たちが、ヒロインを除いてすべてシヌタブカとイヨチのふた筋の血を引いていることも明らかである。第一世代の者たち相互の血縁関係はわからないが、仮に無関係だとしたら、ただヒロインだけがこの第三世代でイヨチの血を引いていないことになる（ヒロインはシヌタブカと狼神の血を引く）。しかし、ヒロインはイヨチのち

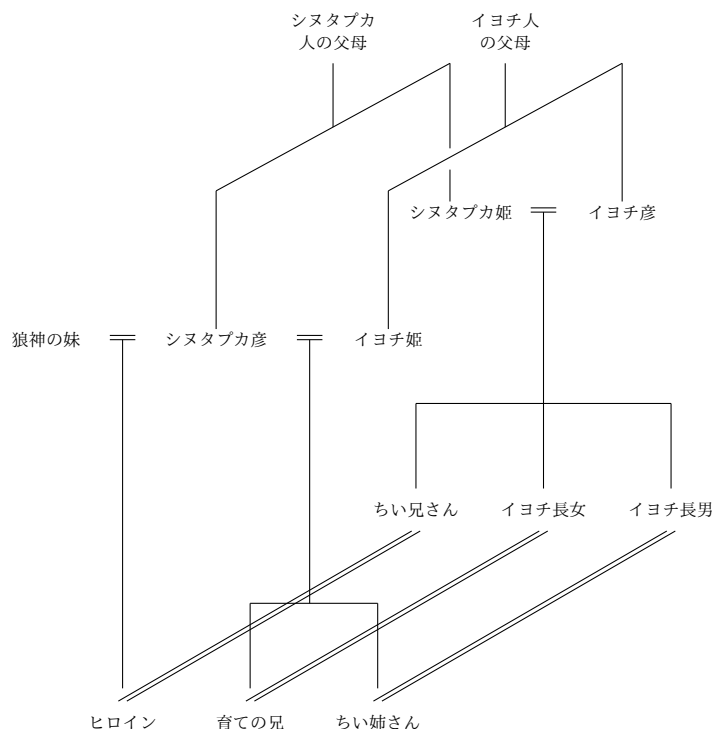


原テキスト「月の女神」の最終ページ（影印と翻刻）。ll. xxx-xxx.

い兄さんと結婚することになるから、二人の間に生まれる子供たちは結局、シヌタプカとイヨチの二系統の血を引くことになる。さらにその子たちは狼神の血をも受け継ぐことになる。

また、シヌタプカ彦にはイヨチ姫と狼神の妹の二人の妻があるが、それはかつてアイヌ社会で一夫多妻が行われていたことの反映であろう。一夫多妻制については詳しく知られていないが、この物語にしたがうならば、二人の妻は同一の家屋に同居していなかったことが読み取れる。

シヌタプカ人の父母、イヨチ人の父母はこの物語に登場もしないし、触れられることもない。系譜を書くうえで必要だから書いたまでのことである。また、シヌタプカ彦とその妻イヨチ姫、さらに、イヨチ彦とその妻シヌタプカ姫は、すでに故人である。たぶん、いくさで死んだ。



この系譜にある登場人物がこの物語でお互いをどのように呼んだり指したりしているかを次のページに一覧する。この表を見るさいは、たとえば「ヒロインはシヌタプカ彦を *a-kor ainu* と名指している」と読んでいただきたい。ちい姉さん（異腹の姉）だけではなく、育ての兄の妻となるイヨチ長女も *pon a-kor sabo* と呼ばれることがありえる、などが見て取れる。

育ての兄が実の妹（ちい姉さん）、腹違いの妹（ヒロイン）、イヨチ長女をまとめて名指すときには *a-tureshutori* という。また、ヒロインがイヨチの兄弟（イヨチ長男とちい兄さん）を名指すときには、*Iyochi un a-yubutari* という。育ての兄がイヨチの兄弟を指すときには *a-akutari* という語が使われている。

yub は、ふつう、「兄」と訳されるが、この語はまた女が夫や恋人を指すときにも用いられる。同じく *turesh* は（男からみた）「妹」と理解されているが、同時に男が妻や恋人を指すこともあることを承知していただきたい。でなければこのユーカラの理解が困難になる。

5. 編集要綱

マツのテキスト（原テキスト）の最終ページ（p.287）を複写して p.3 左に掲げた（影印）。「月の女神」II. 3924-3952 に相当する叙事詩最終部分である。原テキストの紙面の体裁はこれから推し量れよう。これを忠実に複写したとすれば p.3 右のようなものとなるか（翻刻）。本書ではこのようなものを以下の要領で提示した。

- (a) 行を改めた。叙事詩のリズムに合わせ、1行が4音節ないし5音節に収まるように改行した。これはアイヌ語の詩句（詩行）に一致する。但し、例外もきわめて多く、6音節以上になることがある。
- (b) 大文字の使用を固有名詞の頭に限定した。そのほかの大文字はすべて小文字に換えた。マツの大文字の使用については、よくわからない点が多い。大文字が文頭で用いられると決まったわけではない。但し、人名、地名などの最初の文字は大文字となっている。人称接頭辞 (*a-*, *an-*, *i-*, *e-*, *echi-*) のつけられた語がたいいてい大文字で始まっていることが注意される（例：影印3行目の *Ane (a-ne)* 「我は～である」）。また、小文字の母音字のうち *o* は、点を打ち忘れた *i* と紛らわしく、*a* と *u* の違いもしばしば紛らわしい。行頭およびスペース直後の大文字の繁用はそのような曖昧さを回避するためと推察される。
- (c) 原テキストには句読法を指示するピリオド、コンマ、また、括弧など、いわゆる約物が用いられていない。

名指す者	ヒーロイン	ちい兄さん	育ての兄	ちい姉さん	イヨチ長女	月の女神
名指される者						
シヌタプカ彦	a-kor ainu		a-kor ainu			
シヌタプカ姫			a-kor unarbe			
ヒーロイン		tureshpo	pon a-tureshi	a-matakibo	matakpo	ainu pon katkemat
育ての兄	iresuyubi					e-yubi
ちい姉さん	pon a-kor sabo		a-borotureshi			pon e-kor sapo
	i-koshikup mat		boro a-tureshi			e-kor sapo
ちい兄さん	Pon Iyochiunkuru		Iyochiunkuru			Pon Iyochiunkuru
	Pon Iyochiumbe		pon a-aktonoke			
			pon e-kor yubi			
イヨチ彦	pon a-kor yubi		a-aktonoke			
イヨチ姫			Iyochiunkuru			
イヨチ長男			Iyochiummat			
	Iyochi un boro a-yubi		Iyochiunkuru			yubihhi
イヨチ長女	pon a-kor sabo		poro a-akihhi			kor sapo
	Iyochiummat		Iyochiummat			
	sapo		a-tureshipo			
狼神の妹	kamui a-kor totto					

本書でもこれを補うことはしなかった。ただし行末にハイフンが記されることがある。

- (d) 語、助詞は、その境界で切った。但し、強固な助詞連結の表記にあたり、この原則に従わないこともある。影印4行目の *taban* 「この」は3行目の *tap okai* の単数形だから *tab an* と表記すべきだったかもしれない。
- (e) 語、助詞が空白（スペース）や改行によって途中で切断している場合はそれらの断片を結合した。影印1行目の *tui kata* は *tuika ta* 「(曲面をなぞった) 上」となる。影印21行目、22行目にまたがる *ram* と *ma* は *ramma* 「いつも」となる。
- (f) 原ノートの行末に見られるハイフンはすべて落とした。
- (g) 長大な動詞が2行にまたがるときは、1行目の末尾にハイフンを補った。

- (h) 原テキストでは人称を示す接頭辞は多くの場合、人称語幹と結合されて示されているが、本書ではこの境界にハイフンを挿入した。影印4行目の *Amatnepo utari* は *a-matnepoutari* 「私の娘達」となる。離れて記されている場合、たとえば影印9行目の *Echi apkashi* も *echi-apkashi* 「汝らは歩く」となる。人称を示す接尾辞は人称語幹と離されて示されることが多いが、ここにもハイフンを挿入した。影印最終行の *okai an* は *okai-an* 「私はいる」となる。
- (i) 各行（詩句）に通し番号をつけた。手帳のページ番号は、該当する行の上を示した。
- (j) 原テキストには一切の章立てはない。ここでは、内容によって4つの章に分け、各章をいくつかの節に分けた。それぞれの章、節に見出しを付けた。
- (k) アイヌ語片仮名文は原テキストにはないものである。マツは *ne* 「その」（繫辞類）をときおり *nei* と、*re* 「名」を *rei* と書くことがある。その綴りはそのままとしたが、片仮名表記ではそれぞれ *ネ*、*レ* とした。
- (l) アイヌ語片仮名文の下に記した逐語訳は極めて大雑把なものである。各語の中心的な意味を示すような訳語を当てた。なお、紙面の制約があって、たとえば繫辞類を繫、理由・目的を由、形式名詞を形名、音節調整を音調などと縮めて記した。
- (m) 日本語訳には通読しにくい箇所が多い。これは、読みやすさのある程度犠牲にしてアイヌ語の詩句を逐条的に翻訳することが多かったからにほかならない。読者には、「物語月の女神」によって物語の大意を把握せられたい。
- (n) 脚注は、主に原テキストと本書の表記の違いを示すにとどめた。
- (o) 「物語 月の女神」はこの叙事詩の日本語訳をもとに一編の物語として編んだものである。欄外の数字は該当する叙事詩の行番号を示す。

6. 分担

編集に当たっての分担を示す。

- (a) 編集全般
切替英雄
- (b) 原テキストの解説・翻訳（数字は「月の女神」の行番号）
切替英雄
- (c) 片仮名アイヌ語表記
切替英雄・山下浩一
- (d) 逐語訳
切替英雄・高橋靖以
- (e) 物語 月の女神
切替英雄
- (f) レイアウト・組版
切替英雄・山下浩一

7. 参考文献

- (a) 最初から最後まで『アイヌ叙事詩ユーカラの研究Ⅱ』（金田一京助、東洋文庫、1931年）『アイヌ叙事詩ユーカラ集 I-IX』（金成まつ筆録、金田一京助訳注、三省堂、1959-1966年）にはお世話になりっぱなしであった。難解な語句は、ほとんどこれらの書物に何らかの言及がなされていた。
- (b) 『アイヌ・英・和辞典』（第4版、ジョン・バチラー、岩波書店、1938/1981年）と『アイヌ叙事詩神謡・聖伝の研究』（久保寺逸彦、岩波書店、1977年）と『アイヌ語沙流方言辞典』（田村すず子、草風館、1996年）は有益な情報源となった。

物語 月の女神

第1章 うばゆりが原の惨劇

1.1 シヌタプカとイヨチの結びつき

- 1 育の兄が、たぐいぬ養い、常ならぬ養いをわれにほどこし、つつがなく暮らしていた。ともに育つちい姉さんとわれとの二人が養われていた。
- 10 少し大きくなり、気づくとなんとまあこの住まいの美しいことか。宏壮な屋敷の内部はどこもかしこも輝きすぎているほどで、宝物が大きな家を満たしており、宝列の前には板の寝台、金の寝台が置かれていた。
- 28 育ての兄は寝台の上に座っていた。ああ、育ての兄のなんともいえず美しく秀麗な面立ちであろうか。神のいずまいで寝台の上に腰掛けていた。
- 39 ともに育つちい姉さんもまた、まだ幼い少女だけれど美しい顔立ちであった。神のありようであった。
- 48 二人いっしょに炉の直ぐそばに座っていた。まだ幼い頃は育ての兄が作ったものを食べたが、少し大きくなると「このようにわれが食事を整えるようなことは、昔から女というものこそがすると決まっているのだよ。」と育ての兄が言った。「食事の支度だけでなく針仕事もだよ」と言ってわれら二人にそのやり方を教えてくれた。
- 68 ともに育つちい姉は、われよりも先に生まれていたもので、早くに料理も針仕事も覚えた。遅れて、われも覚えた。
- 75 代わる代わる炊事をした。育ての兄の椀に盛ると、兄はよしよしとうなづき返した。
- 83 年を追うごとにわれは大きくなった。姉と同様に美しくなったようで、たちこめるもやの中に入った。われの周りには神々しい光が輝いていた。育ての兄とちい姉さんは息のただ中、心臓のただ中にわれを結びつけ、深くわれを愛おしんだ。
- 100 今や、われの縫う刺繍も何層もの空に届くばかりとなった。それでますます育ての兄もちい姉さんもわれを愛おしんだ。
- 110 育ての兄は今では若者振りが身に備わり、ますますその体に目が向けられないほど立派になった。たちこめる

もやの中に入った。

あるときは山狩りに、あるときは沖の狩りに出ては脂身ばかり、比べようもないものばかりでわれらの口を奢らせた。 120

ときに兄は数日家にこもって、器に木彫りをほどこし、鞘の彫りに一心不乱であった。 125

おりしも幼い頃から耳にする遠くの村の名はイヨチ村であったが、そのイヨチ人は二人兄弟で、妹が一人いる。兄弟はその風貌も、弁の才も胆力も神の国にも人間の国にもかなうものがなかった。妹のほうもこれまたその手仕事の巧さ、その容姿容貌の点で神の国にも人間の国にも及ぶ者は一人もいない、との評判が多くの村々を越えて聞こえていた。 131

1.2 イヨチ一族との定められた結婚

ある日、育ての兄が喉を鳴らして言うことには、 159
「さて、妹たちよ、われが言うことに耳を傾けよ。先に生まれたわれであるから、今こそわれらがいかなる素性の者であるのか物語って聴かせよう。

わが村の名はトミサンベチ・シヌタプカというが、 178
ずっと以前のこと、われらの父（シヌタプカ彦）には男兄弟がなく、ただ一人の妹がいるだけだった。人間の身ではあったけれどその肝っ玉、その風采、弁の立つこと、神にも人にも及ぶ者がいなかった。

同様にわが叔母（父の妹、シヌタプカ姫）も美しい顔立ち、手先の器用さで神にも人にも比べようものがなかった。国々を越え、村々を越えて令名を馳せた。 197

それを遠くにいるもの、近くにいたものが耳にして実にわが父を妬み、トミサンベチ・シヌタプカへ激しいいくさ、ひといくさを仕掛けようと遠く、いたるところでいくさ支度、いくさまかないをしているという噂をわが父は妹（叔母）と聞いた。まだ年若いのに、いくさに立ち上がり、海々を巡っていくさばかり、戦いばかりの厳しさの中に二人は育った。 208

同じ先祖に連なるといふイヨチ彦、神のように勇敢なその人が妹（イヨチ姫）とともにわが父のいくさのきな 236

- かに助けに駆けつけてくれた。一つのいくさ、おなじいくさを長い間ともに肌で苦しみ抜いた。
- 250 いくさのあい間、戦いのあい間一息入れたときいくさの礼、同盟の挨拶をしようと、わが叔母(シヌタプカ姫)は首にたくさんの飾り物を下げられて、美しく装わされて、イヨチ村に嫁いだ。男の子を二人、女の子を一人産んだ。
- 265 それからまた、イヨチ姫も首をたくさんの宝物で装われてトミサンベチ・シヌタプカシにやって来てわが父と結ばれた。そこで、われと大きい妹(ちい姉さん)との二人が生まれた。
- 279 わが小さな妹(ヒロイン)は誰の子かといえば、天に狼神がいて、狼神は二人兄弟で、二人姉妹がいたが、下の妹がわが父の男振りと胆力に惚れきって宝物をたずさえ、家たずさえ、トミサンベチ・シヌタプカに降りてきて人間の女(イヨチ姫)とともにわが父の相い妻になった。父との間におまえ一人が、妹よ、おまえ一人が生まれた。
- 299 評判の高い者たち(イヨチ人たち)は決して縁のないよそ者ではない。まことの親族であるのだ。またさらに、わが父のいまはの言葉によれば、
- 308 イヨチ姫を入れたむつき、うぶぎの半分でわれは育てられた。歳相応になればイヨチ彦の娘(イヨチ長女)と結婚してこの神の住まいのような祖父らから伝わる家も川筋のかみも、しもも治めることになっている。
- わが大きな妹(ちい姉さん)はイヨチ彦の長男をくるんだうぶぎの半分でわれが育てた。成長したらイヨチ彦とイヨチの城の川筋のかみとしもを治めなさい。
- 330 また、小イヨチ人(ちい兄さん)、わが弟にはわが小さな妹が成人したら教え諭して嫁がせる。神なるおまへの母が天からもたらした神の住まいがこの屋敷のそばにあるのだ。おまえはそこに住んで神なる母の遺徳を後世に伝えるのだ。それこそが先祖の教えだ。今ここにおまへたちに語り伝えた。
- 352 おまへたちは、よもや夫のない女たちのようになっはなるまい。よくよく神のしきたり、淑女の振る舞いを保つのだ。犬のような身分の低い者、痩せぎすの貧乏人を目にしても、決してほほえんだり、言葉をかけたりしてはいけない。」と育ての兄が言う
- 368 われとちい姉さんは顔を見合わせ驚き、また、気づくところがあった。別の人、ほかの人が評判が高いと言われても、こんなに驚くことはなかったであろう。高貴な
- 郷紳を慕いその夫人を慕う気持ちがわれらにはあるが、なんと、まあ同じ祖先に連なる者がいて、そのうえさらにまもなく何やら夫といわれる者を、大丈夫の富貴の夫、首領たる夫を二人がそれぞれ得るとのことで、ほんとうに心の中でうれしかった。
- ちい姉さんもわれと違うふうにも思ってもよさそうなものだが、われと同じように思ったに違いなく、含み笑いをしていた。
- 1.3 育ての兄の船出
- ある日育ての兄がいうことには、「さて、妹たちよわが片足を沖に掛け、もう片足を陸に掛けて和人の国に船を漕ぎ出し交易し、米やら麴やら酒、美味しいものを数多く、和人の良き品物ばかりを購って、土産としてたくさん得て、帰ってこよう。
- そして、わが一族、近隣の者たちを皆招いて楽しい会食、穏やかな会見をしたい。神を祭り、先祖を祭り、心を静めたい。その式のあとですべきことだが、われら皆、習いどおりに配偶者を得て安心することにした。どうか戻って来るまでこの神の住まいをおまへたち、守っていてくれ。」と言って、毎日人を集めて熊の毛皮、鹿の毛皮を船に運んだ。
- 育ての兄は和人との会見の装いにますます立派になった。二人の勇敢な若者を船に乗り込ませてはるか和人の国へと航海に出た。
- 1.4 うばゆりを掘りに
- そのあと、すっかり寂しくなって、毎日、あることないことをおしゃべりして、ふざけて笑ってともに遊んだ。刺繍をすればお互いに縫ったものをほめ合った。「早くお兄さんが帰ってくればいいな」と言いあって過ごした。
- あすあさってにも育ての兄の船が着くと思われたとき、ちい姉さんが言うことには「さあ、われの妹よ、われの言うことに耳を傾けてください。育ての兄は良い土産を携えて急いで戻ってくるでしょう。そこで、きょうはとてもよい日和のようですから、いつものように家にばかりいるのもとてもつまらなく、頭から皮を被っているようにうっとうしく思われます。それで、わが狩場を巡って、歩き、山菜を掘ってきましょう。うばゆりを掘りましょう。育ての兄が戻る前に新しい澱粉を作ったならば、どれほど喜ぶでしょう。ますますわれらを愛おしんでくれるでしょう。さあ、準備しましょう。」と言いながら、

- 523 美しい脚絆やら手甲やらを取り出して身のまかないに手を動かした。だけど、いったいなぜわれは戸惑いを感じたのだろう。ちい姉さんは良い思いつきと言っただけど、その言葉は激しい風のようにわれの耳のへりをかすめた。まったく気乗りしなく、体を動かすこともうっとうしく思われたが、
- 541 ちい姉さんはまったく楽しそうに言葉を重ね、嬉しそうに言葉を繰り返す。
- 549 「これは、どうしたこと、妹のすぐれぬ様子、ただごととは思えない。それなら今すぐにでも山に行きましょう。そうすれば、すっかり愉快になりましょうよ。」と言いながら、われに駆け寄りわれの横になって脚絆を付けてくれた。手甲もつけてくれた。美しく大きな編み袋も背負わせてくれた。
- 572 われの手を握って玄関納屋へ赴き家の外に出た。見ると驚いたことにいまこそ初めてわが家のたたずまいが分かった。
- 584 てっきり低い平地の家で育てられているとばかり思っていたが、盛り上がる小山が天にそびえ揺れていて山腹まで黒いもやが取り巻いている、そんな小山の上になが家は、宏壮な邸はそびえていた。その中でわれは育てられていたのだ。
- 601 家の外、柵の外の美しさはいうまでもない。これは、人間の住まいではない。神の住まいも凄い。まことに、昔、どのような生まれ、どのような巡りあわせであったか、わが父とわが母は妬み嫉まれ、いくさばかりの厳しい中で暮らし、長いあいだ人間の村に穏やかにいることさえ難しかった。
- 626 そこで、早々にわれが見ぬうち神の国へ立ち去ったとのことなのでわが心は泣き、目の端から涙があふれた。
- 636 山へ伸びる道のおもては黒々として、その上をわれらは走るように登っていった。何ともはや、わが狩場の表は美しいことか。美しい木原が広がっている。心立つ思いが胸を騒がした。林野の下に降り立った。うばゆりと呼ばれる山の幸がどこまでも芦原のように広がっていた。
- 1.5 惨劇
- 658 それからうばゆりを掘った。ちい姉さんばかりが笑ったり、話したりした。だけど、われは、口を利くのさえ億劫だった。息を漏らすのも止めてうばゆりを掘った。うばゆりの茎を落として大きな編み袋をそれぞれいっばいにして荷縄に縛って胸に荷縄を掛けた。
- 立ち上がろうとすると、そのときまさかそんなことを思いもしなかったのに、何にも警戒していなかったのに、突然、私の後ろから、ちい姉さんがわが髪を手に絡めて、後ろ向きにわれを引き寄せ、地べたへ引きずり倒した。
- その上さらに激しい罵りをわれに浴びせこう言った。さあ、わが悪しき妹、割れ目っ子。わが言うことをよく聞け。まことおまえに良くしてやろうと、おまえをここに連れてきたと夢思うな。おまえをぶち殺そうと、ひどい目にあわせようと連れてきたのだ。
- 憎むべき、わが割れ目娘ばかりが淑女の気品、美貌、仕事ぶりと三拍子備わっている。イヨチのわが兄たちはいずれをとっても優劣がなく、度胸も容貌も弁の才にも恵まれているが、見なくとも一番下の弟が何にせよ良きところで勝っていると思われる。そこでわが憎き妹とともにイヨチの兄弟と見合いすれば、われではなくおまえが末弟に望まれるに違いない。
- それゆえおまえを殺し、おまえがいなくなれば、われがイヨチの末弟と結ばれることになる。われだって十分に美しく、手さばきにも巧みで、淑女の名に値するんだよ。」と言って、私を地べたに引き倒した。
- 私がとても驚いて一声大声で叫び起き上がろうとすると、われをギュッと締め付けて、小刀を懐からとりだし、われにひどく切りつけた。今こそ、痛みというものわれは知った。われがあげる悲鳴が響く。
- アー痛い、オー痛いと言いながら、ちい姉さんの刀持つ手をかわしながら、こう言った。
- 「マーちい姉さんよ、さあ、穏やかな死に至らない折檻に留めてください、どうか。今までちい姉さんはわが成長に合わせてわれを愛し、心臓の先にわれを置いてくれたのではないですか。それゆえ、われも少しもちい姉さんを憎んだことはない。
- 小イヨチ人であるちいさな兄さんがどんな顔立ち、どんな目鼻立ちなのかだれもまだ見てはいない。そんな者を夫に欲しいと姉さんが望んで山の狩場のでわれを殺すならば、酷い死を、鳥についばまれるような死をわれが遂げるならば、神から姉さんはひどく罰せらましよう。小イヨチ人が欲しいというのなら喜んで姉さんに譲ります。ちい姉さん、われらは同族ではありませんか。決して手荒にあつかって女の印、祖母、母から伝わる尊い帯をめちゃくちゃにしないでください。どうか死なない程度の折檻に留めてください。

828 あんなに育ての兄さんがわれを慈しんでくれたのですよ。隠れてこんなことをして、われが死んでいなくなったら育ての兄は生きていられるでしょうか。」と言いながら許しを請ってしがみついた。

841 だけでも少しも耳をかさなかった。なんとまあ、ちい姉さんに力のあることか。それでもわれもなんとかがんばって恐ろしいちい姉さんの手を振りほどこうとした。それで姉の腕の上、腕の下へとしなやかな蔓のように絡みついたけれど、今やわれを深く刺し、また、浅く刺した。

862 わが絹の帯がプツンと切れた。わが着物が裂け破れた。傷口の先も傷口の末も樺の皮が巻き込むように痛んだ。ああ、痛いああ、苦しいとわれの泣く声が鳴り響いた。わが心はボロボロになった。暗い洞窟の底にわれは突き落とされたかのようで、気を失ってしまった。

第2章 月の女神

2.1 月の女神の家で

883 眠ったのか死んだのか、瞬時のことなのか、長い時を経たのか、何をしているのかわからなくなった。意識がもうろうとなった。どうしたわけか、ときおり何度も目覚めようとしたが、多くの夢を見続けているうちに、ふとあるときわれは覚醒した。

902 見回すとこんなものを見ようとは思わなかった金の家、宏壮な家の内部で目を開けたのだった。恐る恐る見ると大きな家の内部の設えはまったく人の住まうところではないとはっきり理解できた。

919 金の床が平らで、金の炉縁の伸びる様は輝かしかった。右座の火のそばに小さな靄の小山が立っていた。どうしたわけであろうか、靄の中は黒い靄、赤い靄、白い靄が混じり合っている。その中に神々しい光が月の光線のように立っているようだった。

940 われは左座で体を伸び伸びさせた。われは暖かい寝床の上の高い枕に頭を載せていた。我に返った。

947 われのどこに傷があって痛んでいたのか、以前のような体にもどり、少しも痛くない。力が漲っていた。

957 どうしたことか、われもまた右座に座る何者かのいつまいとそっくりにわが周囲に神々しい光が輝き、不思議に思った。

969 そこで体の上に傷でも負ってはいないかと見てみるとどうしたことか、下の方から肌へ直に鎖かたびらの肌着を着ていて、その上から金の小袖を普段着のようにし

てまとっていた。

その着物の上、金の小袖の襟元にも裾にも幅の広い平金を取り付けられている。平金の表は二つの金の模様、三つの金の模様があしらわれていた。小袖の表面には、三日月の形と新月の形があしらわれていた。その上に二つの神々しい光、三つの神々しい光がまぶしく輝いていた。

われを包むもやもすっかり変わっていて不審の念をもよおすものとなっていた。先に着ていたものは、一枚も身につけていなかった。

われはほんとうに驚いたので恐る恐る顔をあげた。髪の毛の先を床に垂らし、垂れた髪の間からのぞいて見た。

右座に座っている者の二つ靄の中心、三つの靄の中心を払ってみると、驚いたことに神のような淑女がいるのではないか。

今年になってわずかにわれを超えて成長した者らしく見えるのが、今われが着ているような小袖をまとっていた。

この娘は神であるから神の容貌が匂っていた。神々しい髪の毛が絹のように頭の上を覆っている。その下には、気高い面立ちが上天気の日和のように輝いていた。どうにもこうにも讃えられないほどである。

2.2 遺体発見のいきさつ

娘は一箇所を見つめていたが、わが方に優美に顔を上げた。高貴な顔ばせが家の中をパツと明るくした。喉を美しく響かせてこのように言った。

「さて、トミサンベチ・シヌタブカの人間の娘よ、われの言うことに耳を傾けなさい。われを人間などと思っではいけません。下天を治めるために遠い最上層の上天から降ろされてきたものです。

年少の頃から人間の村を治め統治、守護していたのですが、ある日、日が暮れるといつもしていることですから、わが住まいを出て人間世界を上空からあますなく巡回したが、なんの不足も見つからなかった。われはニコリして帰途につきました。

わが住まいに戻ろうと、おまえの村の狩場の上に差しかかったとき、神が造った険しい山の麓でとわが目の傍らの肉が何かを察知して震えた。

目を凝らすとよもやこんなもの目にするとは予想もしなかったのに、おまえの着物は刈られる青草のようにならずたに切り刻まれ、おまえの体はまったく削られたようにただ骨が残るばかりにされて投げ捨てられていま

983

1001

1010

1018

1027

1034

1048

1060

1075

1094

1105

した。

1119 ただ見ただけでびっくりしてしまった。どうやってこんなに山の猟場で人間の女がかわいそうに尋常でない殺され方をしているのか。

1131 もしや悪い獣が神の目を盗んでこんなことをしたのか、と急ぎ頭を巡らすと、すぐに実情が知れた。

1141 なんと、おまえのちい姉さんがこのように戦慄するような殺害をおまえになして発覚するのを厭い、だれも行きそうにもないところ、神の盛り上げた山岳の麓におまえを投げ捨てたのです。

1154 神の恵みでわれがそこに出くわしたのです。われは神であるからみつけれられました。見逃していくことはとうていできないので、まったく骨ばかりのおまえの骸を運んでここでおまえの体を繕い、おまえを新たに作り直したけれど、魂はもうなくなっていました。

2.3 真相

1170 そこで、われはその魂を探した。探して分かったことには、思いもよらぬことに、まったき天に雷神と呼ばれている神が六人の男兄弟と六人の女姉妹とでいますが、末の弟が神の世界で妻にふさわしい女を探したが、心にかなうものがないかった。

1189 そこで、人間世界の偵察したところ、なんとまあ、おまえが心にかない、胸にかない、惚れきってしまったのです。そこで、おまえを殺したら、おまえの魂を奪って、神の世界に妻として迎えたいと思ったが、神々の多くの目があるため手がくたせなかったのです。

1207 一番小さな妹も神の世界に夫としてふさわしい者を探したが、誰もいなかった。人間の世界を見わたして小さなイヨチ人、おまえの許嫁こそと、その美貌、その気性に惚れこんでしまいました。

1223 そこで小さな雷神は小さな妹とともに神の目を盗んで多くの神々、すなわち天や人間の世界、地の世界にましますまことに尊い神々の目、取るに足らない神々の目がことごとくくらむよう霧を立てて小さな妹を督励して殺させたのです。

1242 おまえが死ねば、小さなイヨチ人はおまえを哀れに思い、悲しみ、ヤケ食いして寝てしまおうだろう。そのときこそしめたもの、その魂を取っておまえたちと結ばれるよう共謀したのです。

1254 そこで雷神の妹はおまえたちの住まいに降りて、高い空窓から夜も昼もおまえを狙った。ところが、どうやっておまえを殺そうかと一人思索したが、どうしたらいい

のか分らなかった。おりしもおまえの兄が交易のため船出した後、おまえのちい姉さんに化けてうばゆり掘りにおまえを誘っておまえを殺した、というのが真相です。

おまえのちい姉さんがたった一人で一人っきりでおまえを襲ったというわけではありません。雷神の妹とはいえ、誰かの助けを借りておまえを襲ったのです。小さなおまえの姉に化けて、ただ一人でしたことなら、おまえは殺されることもなかったでしょう。^{*2}こうしたことをすべてわれは見抜いたのです。おまえの魂を雷神の妹が奪い取って兄に与えてしまったのです。 1274

2.4 雷神たちの謝罪と蘇生

ちょっとのあいだここに寝ていた、と考えるなら誤りです。今ではあれからもう六ヶ月もたったのですよ。 1293

おまえの兄が航海から戻ってくると、おまえの姉にニセの姉は兄に答えて「妹はちょっとのあいだ留守にする、とばかり思っていたが、戻ってくるようすがまったくありません。探してみたが、どこに行ったのやら、行方不明です。」と嘘をつきました。 1299

そこで、おまえの兄は驚いて手下とともに山の狩場一帯を探索したが見つからなかったのです。イヨチ村も大騒ぎになりました。大勢の者が近隣の多くの村々へ伝えておまえを探したが、まったく手がかりが見つかりません。 1316

小さなイヨチ人やその兄やその姉はみんな怒り、死んでしまおうとした。皆は何も口にせず、寝台の上に身を投げてしまったのです。 1333

同じく、おまえの家ではおまえの兄とおまえの姉はヤケ食いして寝て、泣いたあげく起きあがることもできなかったのです。そこで、われはかくかくしかじかとそのありさまを真天を統べる神に使者を送ったら、真天の神も大変驚いた。そこで多くの神々も一斉に今こそ人間世界に目をやって、ことの次第を知るに至りました。 1343

天では神の審議が激しく行われました。雷神たちは、仲間ごと地獄に落とされることになりましたが、その審判に驚倒して、「もうこれからはそんな悪さを人間にいたしません。」と答え、さかんに詫びて、神々に償いを差し出しました。 1366

トミサンベチ・シヌタブカへもイヨチへも償おうと涙ながらにくどくど言いつつ謝罪したのです。 1385

そこで、「天の神が赦した者は、神でも人間でも、も 1392

^{*2} 共犯の神々がいたことを暗示する。

はや世にいう淫ら事、ふしだらな振る舞いは、まちがってもあってはならない。たまたま雷神たちが人間に心を寄せても決して人間を殺さず、決して人間を泣かさずに神々が承知した上で恋するならば、悪いことではないけれど、惚れた表情を顔に浮かべるのは悪いことの中でも悪いことだと悟るならば、赦してやろう。^{*3}その上でトミサンベチに住まう娘の高貴な魂などを元に戻すならばまことに結構。」と尊い神がよかれと命じた。

1428 そこでわれはおまえの魂を持ち帰っておまえを生き返らせました。

2.5 別れ

1431 月の神、尊い神で私はあるけれど、おまえと同様、女であるから、おまえを介抱してあげたのです。いつまでも、われを忘れないようにしなさい。われもまた、いつまでもおまえを忘れません。

1447 今年、われもまたおとなの女、成熟した娘になったので、結婚します。おまえもおとなの女になります。だからおまえはわれにもう会えません。

1458 だけど、われは尊い神であるから、いつまでも、おまえの子々孫々までたえず見守ってあげるつもりです。

1464 われの着物は、全部おまえにあたえます。いつまでも子孫に伝えなさい。

1470 いつだって人間の淑女たちの間には神の恵みがあるものだが、ただおまえ一人ばかりはこのように神が宝物を恵んでそれを子孫に伝えられるのです。こうしたことをすべてトミサンベチ・シヌタプカの家を統べる神々に夢見をさせて伝えました。

1487 既にその神々からおまえの兄、姉にも伝わっています。

1490 おまえの姉は意識が戻って何度も何度も自殺しようとしたが、おのれがしたことが悪かったのではないから神のおかげでそのたび命をとりとめました。おまえが戻るまえに床を離れています。

1504 イヨチの親族の人々も神から言葉を賜り、みなして驚いています。

1510 さあ、早くこれから自分の村に降りて、ともに無事を祝いなさい。」と月の神は言った。

1516 それを聞いただけで一日中大地に揺すられたかのような思いになった。まことに神の介抱であったとわれには分かったけれど、まだ幼い取るに足らない神とは思っていたが、頭が下がる思いであった。

月の神と呼ばれる神は貧しい卑しいわれが死ぬにしても無残な死に方をしたところをねんごろに介抱してくれた。それだけでも感謝したりないのに尊い着物、この人間世界にどこを探してもないような立派な着物をわれが着るようにとくださったので、感謝の言葉、感謝の祈りを言おうとしても泣けて言葉にならなかった。

1558 どこの馬の骨ともしれない悪の雷神、汚い雷神たちが、どれほどわれが美貌であるか知らないが、われに心奪われ、殺害のなかでも無残な殺害によって祖母、母譲りの肌を露わにして暴行した。

1575 とても耐えがたい辱め、酷い恥ずかしめを受けたけれど、今や尊い神々が良かれと配慮してくださった。言葉にならないから、ただ心の祈りを捧げた。

1591 神の淑女がわが心を見透かすように配慮してくださって「よし、よし、決していろいろあったことに怒らず、速やかにお戻りなさい」と言われたので、まこと涙とともにたくさん、たくさん感謝の言葉を述べて家の外に出た。

2.6 帰還

1608 夜は更け闇夜だったけれど、大きな町が見えた。広々とした町が見えた。その町の中央にきわめて大きな家が神の造った小山の上に建っていた。大きな柵とともに並び建っていた。神の住まいであるからその周囲は輝いてまぶしいほどで、息の飲むほど感心した。

1626 天の戸が明々と開いていた。天の戸に向かった。どんな神がわれに憑いているのか、わが頭上で爆音を立てた。おおきな神風の先端に軽々と載せられてわが音を立って降りて行くと、わが耳たぶがぶるぶる震えた。

1642 見れば、いつものように人に住まわれた盛り上がった小山が天までその肩をそびやかしていた。家のそばの矢倉の上にわれは吹き降ろされた。

1652 見れば、焚き火が外で炎を上げていた。家の周囲を歩くと、わが懐に入れた宝物が音を立てた。下屋の土間に目を向けると良い香り、財宝の香りが強い風となって我を後ずさりさせた。垂れた戸の御簾を手を伸ばして上げ、ゆっくりと開けた。土間に霞とともに、光とともに静々と入った。

1676 育ての兄がいた。かつてあれほどの神人であったのに、しばらく何も食べなかったからであろう、骨ばかりとなっていた。骨に皮膚が巻きついているかのようになっていた。顔の骨も突き出ていた。目のくぼみが黒ずんでいた。まったく気力を失って、顔色がすぐれず炉の

^{*3} こちら辺の意味は良くわからない。

- かみに座っていた。
- 1698 右座の傍らにちい姉さんも兄と同じようにやせ細って、泣き暮らしていたためか、まぶたが腫れ、まつ毛が半分しか出ていなかった。ほんとに表情がこわばっていた。
- 1709 「兄さん」と「姉さん」と言って、育ての兄の腕の中に身を投げた。育ての兄とちい姉さんは一斉にわが身を目でさぐった。変わった装いをしているので、なんども、なんどもわれを包む靄の根を払おうとした。ほとんど数限りなくわれの姿を現そうと試みたができなかった。しばらくそうしていると、やっとわれの横顔を捉えることができた。
- 1735 すると二人の顔色が青ざめた。われをくまなく見改めた。あたりまえにわれを賛嘆し、われに驚嘆するのならあっても、おかしくないが、まったく目を伏せてわれの手前に目を落とした。愛しいものよ、と言いながら二人してわが上にもたれかかり、われの両腿を泣きながらなんどもなんども撫ぜさすった。いくども、いくども泣き崩れた。
- 1764 炉縁の後ろにかかとを立てて激しく踏み鳴らし、同じ言葉を取り合うよう口々に言った。
- 1771 「なんということ、呆れたもの。卑しい雷神、悪の雷神たちの曲がった行いのために、つまらない人でも憐れむわが妹であるのに、かわいそうに死のなかでも無残きわまりない死を遂げざるをえなかったが、尊い神が目を掛けてくれたので、今こそわが妹はわれらが祭り送る神が地上を飛び立つ姿のように美しくなっている。」と言うと、
- 1794 われを抱きしめ愛撫して苦勞をねぎらってくれた。ちい姉さんはこのように生い立つあいだ心を尽くして世話をみた者が極悪の神の魔の企みのため手荒な仕打ちにあったことを思い出し、さかんに口惜しく嘆いた。数々の悪口雑言をぶちまけた。
- 2.7 償い**
- 1815 われは、良い言葉、優しい言葉を姉にかけて、鮭の尾びれ、胸びれ、えらを炙って、煮て、そのだしを二人に飲ませると、おいに飲んだ。それから美味しい食事の拵えに精一杯尽くした。われらは三人で食べた。
- 1832 そうやって毎日食べているとやがて育ての兄もちい姉も体力を回復した。ある朝、育ての兄が神窓から身半分を出して表に立つ幣棚に目をやった。
- 1845 それから外へ出た。神窓から何かを家の中に入れた。
- すると家の中が明るく輝いた。黄金の中から掘り出したかのような金の宝箱、紐のかかった箱の神々しい光が家の中を照らした。これがいわゆる雷神たちが宝物で詫びの印としたもの、とわれは理解した。
- 育ての兄が夢でその到来を知り、家に入れたということもわかった。 1868
- イヨチの兄たちもひどくふさぎ込んで、もう少しで死んでしまうところだったが、このような次第で今では床から上がり、まったく健康になったとのこと。イヨチの兄たちのもとにも雷神たちが同じく宝物で賠償したそうだ。われは安心した。 1874
- 以前と同様再び多くの村々をまたいで、遠くまで、イヨチ人とともに遠くまでこの名が知れ渡ることになった。 1891
- 毎日ちい姉さんと炬をはさんで刺繍に意を注いだ。なんとまあ、ちい姉さんもわれも巧みなことか。以前の手仕事は子供のわざで、今は著しく上達している。夥しい光が刺繍のおもてに躍っていた。 1899
- ちい姉さんは肩に手をかざして上げ下げしてわれの刺繍をひどく褒めた。お互いにほめ合った。 1920
- 色々とおしゃべりをして楽しんだ。物語を交わした。 1928
- 育ての兄もときには二人で縫った刺繍のおもてに目を凝らしてあたりまえに驚くならば不思議ではないが、目を近づけてその手前に目を伏せ、恐れ入っている。 1932
- 育ての兄はいつもと変わりなく狩りに行き、狩りの合間には酒器のおもてに彫り物をし、彫琢を施していた。 1947
- 今となっては皆がとても元気になった。あるときからわれはあれこれと思いに耽るようになった。 1953
- どんな生まれ合わせなのか、小イヨチ人、ちい兄さんとわれの二人に雷神たちが恋慕して、そうこうするうちもう少しのところで殺されるころだった。月の神がいらしなおかげで命があった。 1959
- われの悪い定めでせいでイヨチの兄たちも姉たちもともに若い身で嘆き悲しんだことを思い返すと、直ぐにでも兄たちやちい姉さんに会いたいと思った。また、小イヨチ人、ちい兄さんの姿が目の前にちらつき力も失せてしまった。 1977
- 夜になると寝台の上で涙にくれた。夜が開けると別人のようになって色々楽しい話を交わしたけれど。 1996
- 第3章 華燭の典**
- 3.1 宴の準備**
- ある日、育ての兄がこう言った。「妹たち、穀物に残 2005

- りがあるか。あるなら下ろして酒を醸してくれ。前に交易で得た酒もそのまま手付かずに船荷の小屋にある。アイヌの酒、和人の酒を取り混ぜて今こそ一族の者たち、近隣の者たちをことごとく招いてお祭りをしよう。」と言ったので、われはどれほど喜んだことか。
- 2032 ちい姉さんと戸外に出た。ちい姉さんは外の矢倉の上に立った。「酒宴を催すので近隣の者たちよ、やって来て手伝ってくださいますか」と言うと、なんとまあ、近隣の者たちは言うことを聞いてくれた。村の上からも村の下からもざわざわ人声がして、そのうちに、数少ない長者、奥方が集まってきた。
- 2058 われはちい姉さんと二人で、帯の掛かった六つの網袋を倉からだした。それから、多くの者たちの前でともに躍った。二人心合せて躍った。搗くものは搗いて、水を汲むものは汲んで、炊くものは炊いて、イナウの木を切るものは切って、たきぎを集めるものはたきぎを集め、なんと、あつという間に六つの酒樽が神の座に並んだ。
- 2077 二日、三日すると、神が食べたく思う物、飲みたく思う物であるから、神聖な酒のたえなる香が家いっぱいにみなぎった。
- 2087 多くの者が家に入ってきて、イナウを削る役の者がイナウを削るとシュツツ、シュツツと響いた。酒をこす者は、助け合ってざるを走らせた。イナウを削る音、ざるでこす音が断続して響き渡った。しびれるほどの心地よさ。
- 2101 わが住まいの中に差しかけてある古いイナウは外に出し、幣棚の端に納めた。新しいイナウを神のいますところに差しかけて荘厳した。
- 2109 今や、神の住まうわが家の中に白いもやがたなびき、船荷の家からも芳醇な酒やら、米やら、和人の美味、珍味やら、絹のきれやら、黄金の手函やら、黄金のほかいやら、などなど、くさぐさ、殿様の持ち物を、たくさんわが住まいに満ち溢れるほど皆が大勢で運んだ。これほど大量のすばらしい贈り物見事なお土産を兄はもたらしたのだった。ずいぶん長いあいだ手付かずに船荷の家にあったもの、とわれは驚いた。
- 2141 さて酒宴の準備がすべて整った。近隣の者たちは男の席、女の席にと酒宴の正装に身を包み、着席した。育ての兄は酒宴の礼服に身を装い、ますます威儀を正していた。ちい姉さんにあっても酒宴の晴れ着で身を飾り、一層高貴なおなりであった。
- 2162 われもまた酒宴のお召しを身につけて、濃いもやに包まれていた。われの周りに神々しい稲光が輝き、多くの者たちの眼差しがわれに注がれた。あたりまえにわれに感嘆し、われを好ましく思うだけならばさこそあれ、われの手前に目を落として正視できないでいる。
- 3.2 イヨチ人の来訪
- うたげの筵は長々と延びていた。そのとき育ての兄がみごとな弁舌の才を駆使してイヨチの親族への幸便を語った。
- 「さて、わが弟たち、妹たちよ。今、先祖の家、母の家、神の住まう家に会し酒をいささかかもし、今晚その酒もて祭りを催している。その一方、先祖の霊祭りもわれはした。われは一安心している。
- これから身内だけの遠慮のない席、二晩でも三晩でもうまい酒を飲み、うまい飯を食べ、そのあいまに良きことも悪しきことも、ともに語りあおう。遠くからいらしてくだされば、まずは盃を干していただきたい」との伝言を述べると、伝令はおもての矢倉の上から空に向かって飛び立ち、何処へか去る音がゴーゴーと響いた。
- それを聞くと心の底から胸の底からひどく嬉しくなった。今こそ小さなわが兄（イヨチ長兄）も、ちい兄さんも、ちい姉さん（イヨチ長女）もまじかにこのことで、小躍りしたい気がしたが密かに笑みを浮かべた。
- しばらくして、伝令が戻ってくる音がゴーゴーと響いた。伝令は入ってきて、「神のような方々は皆一斉に喜びの声をあげ、『今すぐ参る』と言っておりました」と述べた。育ての兄、それにちい姉さんも実に喜んだ。
- しばらくすると、はや、人呼んでイヨチ村という村の頂きに爆発音がとどろき、神々がやってくる音が響いた。
- まもなくしてそれに伴う風が柵に当たり、音がビュービュー鳴り、地面を打つ音がビュービュー鳴ると幾人かが外の矢倉の上に舞い降りた。音鳴りが止んだ。
- 家のそばにその人々が歩く音がした。鏝の鳴る音が響いた。女の胸の飾りがチャリンチャリンと鳴った。その断続する音が響き渡った。好ましい音にわが胸は揺すぶられた。
- にわからその人々の大きな咳払いの音が次々と奥へ聞こえた。若々しい咳払いが金属の音とともに響いた。
- 垂れた御簾の裾が風にそよいだ。土間にすばやく入ってきた者は光のかたまり、もやのかたまりだった。
- 最初に入ってきた者のもやを目で払って見ると、わが育ての兄と同じくらいの年頃の者らしい若者で、育ての

- 兄の刀の佩き方、身の装いがそっくりであった。
- 2325 金の小袖の中で足を上げていた。留め金のついたベルトを胴に巻いていた。神授の太刀をベルトに差し、金の小さな兜の紐を締めていた。兜の庇から美しいかんばせが輝いていた。
- 2338 続いて、その背の上にのしかかるような小さなもやのかたまりをなんどもなんどもはらいのけてみようとしたが、ほとんど限りなく試みても人間の姿を現せなかった。
- 2349 しばらくそうしていると、もやの中でわが視線の先がくらんだ。人のいうちい兄さんは今年まさに若武者振りが備わっている。
- 2359 この若者は大切に育てられ、最高の養いを受けたものらしく、金の小袖の胸元にも裾にも幅広の平金で飾られている。平金の上は多くの金の文様で飾られていた。その上におびたらしい光が照り映えていた。
- 2376 留め金のついた帯を胴に回していた。神授の太刀を鞘も長く反らせていた。鞘の上にはあまたの神々の像があしらわれていて、そのため脇の下がきらびやかであった。
- 2388 金の兜の垂れた紐は突き出た顎に絞められていた。兜の縁には神々しいかんばせが中天にあがる月のように輝いていた。勇者らしく、勇者の気品で容貌が際立ったものとなっていた。
- 2400 わが兄たちの美しさをわれは賛嘆していたが、それに及ぶ者、それを凌ぐ者がいるであろうか。いや、いや、わがちい兄さんに及ぶものは一人もありはしまいとわれは思った。
- 2415 これほどの神、これほどの神人がなんのやまい、なんの煩いにかかったのか、表情がさえなかった。とはいえ、ますます美しすぎるほどであった。
- 2426 続いて、背に乗るほどにくびすを接して現れた者のもやの中心を幾度も目で払って見ると、世にいうイヨチ姫であった。
- 2436 今年、ちい姉さんと同じ年齢になるとも見える娘で、まこと、酒宴の装いは、なおいっそう天に帰る神のように美しかった。
- 2445 神々しい刺繍衣、金の晴れ着を身にまとい、絹の帯を胴に回していた。耳に、首に耳環、玉飾りをさげ、金のほかいを脇に抱えていた。
- 2458 ちい姉さんに負けぬ容貌、それを凌ぐほどの容貌であった。まことに競い合うような美貌だとわれは思った。皆ともに兄弟弟であるから同じ目つき、同じ眉つきをしており、なんとも讚えようもないほど美しかった。
- 若者二人は向こう座の上手を回った。兄は炉の上手に腰をおろした。ちい兄さんはそのすぐそばに座った。ちい姉さんは左座に座った。
- 酒宴の席で首領たち、その夫人たちは慎み、畏まる念が強いので、頭を垂れてうつむいていた。声ひとつ音一つさえ立てなかった。座全体が静まり返った。
- ちい姉さんは右座の脇の、育ての兄の下手に座った。髪先の先を床に垂らしていた。その下手にわれは座った。われもまた髪先の先を床に垂らして慎んでいた。
- 3.3 饗宴**
- 育ての兄は手を高々と上げて、兄弟姉妹の会見の言葉を朗々と述べた。イヨチなるわが兄たちもそろって手を高々と上げて兄弟姉妹会見の辞を高らかに述べた。
- 弁につきいづれに優劣があるといえようか。いづれもまったく雄弁家であり、われは驚き呆れた。
- 会見の辞のあと、兄たちは互の手をさすり合って挨拶した。
- ちい姉さんといっしょに育ての兄の後ろを膝つき進み行き、兄たちの裳裾を両手につかみ敬礼した。「お兄様」とわれは言い、手と膝頭をさすった。
- これに返して「妹よ」と言って、われら二人の頭の上に手を伸ばし引き寄せ、撫でさすってくれた。それが済むとちい姉さんは左座に慎んで座っていた。
- 姉とともに小イヨチ人（ちい兄さん）に近づいて撫でさすった。これに返して小イヨチ人もわれらをさすり、挨拶した。
- われらは皆、女たちも一斉に、イヨチの兄たちも、ちい姉さんともに挨拶しあい、一同落ち着いた。
- それからイヨチのおお兄さんの（イヨチ長兄）美しい手をとって、ほかいの後ろに導いた。ちい兄さんは自らやってきた。ちい姉さんは座の間を静々と周り、酒を注いだ。
- それから、祈りが始まった。遠くの神、近くの神に盃が捧げられた。天までイナウを送った。神々へ酒を送って一安心した。
- それからまたわれらが先祖をまとめて祭り終えた。
- いよいよ、たぐいなき酒、香しき酒が交された。今こそわれは酒宴の作法、神を祭る作法が見られたので感銘深かった。
- うたげの席で首領たち、勇士たちのあげる酒宴の音が

神の天に帰るときのように美しく響いた。女たちのも、大勢の女たちの躍る声、歌う声がにぎやかに響いた。趣き深かった。

2625 踊り初めをわれは締め、歌の初めをわれは締めながら際立って目に立つものとしてわれは女たちに加わった。月の神がわれに賜った着物と女の装身具とで装っていたものだから、多くの者はすっかり感心してわれの身に目をやることさえできないようであった。

2643 同じようにちい兄さんは酒宴の座で際立った美しさで加わっていた。その周りには神々しい光が輝き渡った。

2651 この宴のあまりの美しさを目にするとますます月の女神が思い出された。

2660 身分の低い神さえつまらない人間からイノウと酒とで祭られていられるのに、それならば月の女神もこのような饗宴のときに祭られるべきである。

2671 われは浅ましい身であるが、尊い神の美しい晴れ着で身を包み、一人、ご馳走や酒や麴やおしくいただけるのを思うにつけ、わがこころは、泣き死にし、涙を流して宴に連なっていた。

3.4 結婚の儀

2686 饗宴がたけなわとなると、育ての兄は盃を高々と上げてちい姉さんに呑みさしの盃を与えようと呼び寄せると、ちい姉さんは銚子を座の間に置いて、手をつき膝をすり進み、盃の下に頭を垂れた。

2702 育ての兄は盃の上からちい姉さんをなでさすりながらこのように言った。

2709 「さて、わがおお妹（ちい姉さん）よ、先祖の言葉、遺言に定められていることだから、イヨチ人、おお弟（イヨチ長兄）の賄いの世話をしなさい。よくよく気品高く身を保ち、夫人のたしなみを忘れないことだ。」と言うと、

2725 ちい姉さんは畏まって盃を受け、上へ下へと拝して感謝の意を表した。それから盃をイヨチ人のもとに運んだ。

2732 ちい姉さんはただ普通に喜んだのではなくて、大きな喜びをこらえきれずに含み笑いをしていた。

2740 イヨチのおお兄さんは、腰を折って妻を迎える礼をした。おお兄さんはとてもうれしかったようで、口元に笑いを浮かべた。

2749 育ての兄は一層大きな盃に酒をなみなみと注いで、その盃を高々とあげてわれを呼び寄せた。

2757 心の中でとても喜んで手をつき膝をすり畏まって近

づき、盃の下に頭を垂れた。

育ての兄は、盃の上からわれを愛撫してこう言った。 2765
「さて、わがちい妹よ、おまえも承知のように、残された言葉、先祖の遺言にあるのだから、イヨチ人、わがちい弟の賄いの世話をやいてあげなさい。

よき人は、適齢になってもすみやかに合い添わなければ、隙をみつければ、油断につけこんでは最悪の魔神、極悪の魔物が悪さをするという神の言い伝えがあるということだ。 2781

そこで、今すぐにでも、先祖の衣鉢を継ぐ責任がわれにはあるから、早くなすべきことをなそうと思っていたが、うかうかしている間にこの度はその前に竜神の妹に悪さをされた。悪さをしたのは魔物、魔神ではなく、われらが祭る神々だった。 2793

その神が愚かな思いを抱いたために最初におまえが酷い妬み、嫉みの犠牲となったのだ。 2807

そのためわれらはもろとも危うく嘆き死ぬところであったが、あのように尊い神々のなされた処置がよかったおかげで、イヨチ人とともにわれらは神の恵みを受ける郷紳であったが、われらの恩寵深き神がその何倍も何十倍も恵みを垂れてくれた。以後一切なんの恐怖もなくなるだろう。 2814

おまえは隣に建つ神なる母の住まいにわが弟とともに移りなさい。それなら毎日会うことができる。支え合うことができる。 2832

それゆえよくよく郷紳の妻にふさわしい心を保ち、神の習いを学び、おまえのちい兄さんを夫として万事賄いよろしくやるのだ。」と良かれと思うことをわれに教えた。 2843

兄の差し出す大きな盃を受け取り、上にあげ、下にさげて礼拝した。われは少し飲んで酒が残る盃をちい兄さんのもとに運んだ。なんと大きな喜びが込められていることか。われは笑みを押し隠した。 2855

ちい兄さんは腰の真ん中を折って結婚の礼拝をした。 2868

育ての兄は再び勢いよく盃を高く掲げイヨチ姫を呼び寄せた。ちい姉さん（イヨチ姫）は神のように美しくうやうやしく手をつき膝行し、盃の下に頭を垂れた。 2872

育ての兄は盃の上からちい姉さんをさすりながら、こう言った。 2886

「さて、イヨチ姫、わが妹よ、母系を継いで伝わる遺言に従って、こうあるので、これからはこの神の住まい、先祖から伝わる家に移ってきて、食事を整え、われの世 2889

話をしてあげようと心に決めなさい。

2905 心を込めて淑女の習い、気品高さふるまいをするのですよ。」と言うと、

2911 ちい姉さん（イヨチ姫）はあたりまえに喜ぶならば尋常のことなのだが、胸のなかに喜びの笑いを押し隠し、下座に戻り笑いを押し殺していた。それを見ると、われもまたうれしくてならなかった。

2924 宴の席で近隣の郷紳たち、その夫人たちの祝いの言葉、喜びの声が飛びかった。宴の席で、わが一族とはいえ成婚するばかりの者は、皆そろって育ての兄のよき教えを受け入れ、ともち保ち、心が落ち着いた。

2939 それからまた、近隣の者たちとともにたぐいなき神の酒を交わし、ともに喜んだ。それから、近隣の者たちにご馳走をたくさん土産として包んだ。皆、感謝の言葉を口々に言い、幾度も幾度も礼拝を繰り返して帰った。

2956 本当の兄妹たちばかりとなって、二日も三日も穏やかに口々に悪かったことも良かったことも男たちは語り合った。

2966 われはちい姉さんたちとともに以前とそっくりにお話を楽しんだ。たくさん楽しい話を交わした。

2973 兄たちの間にどちらが容貌容姿の点で胆力の点で優劣があろうか。まさに同等の美貌、並び立つ気迫であるが、いつもちい兄さんのほうが見栄えでも肝の太さでも勝っていた。

3.5 宴の果て

2992 イヨチの人々が帰るときとなった。ちい兄さんとちい姉さん（イヨチ長女）は、イヨチの村に一旦帰ってから戻って来る、と言った。

2998 ちい姉さんは立ち上がり、女物の鞆に美しいものばかり選んで詰めて抑えて荷縄（タラ）を締めた。

3007 多くのよきことどもをわれに教え諭して多くのよき教えをわれに覚えさせた。幾度も幾度も我と別れて行くのが辛いそぶりを見せた。われも別れが辛かった。ちい姉さんは何度も何度もうなずいて、赤ん坊をあやすようにわれに口づけした。

3023 兄たちは深く、深く感謝していくども礼拝を繰り返した。

3029 イヨチ姫、ちい姉さん、兄さんたちは美味の振る舞いもの、うまい残り酒の大きな荷を背負い「もう少ししたら戻ってきますよ」と言いながら、一団となって肩を接して帰っていった。

3042 ちい兄さんは密かにわれに振り向くとにっこりとほ

ほえんだ。まるで神のように気高かった。なにかわれに言いたかったようだが、臆するところがあるのか一言も言わなかった。われも一言も口にできなかった。

無垢でおずおずするわれであるから、ちい兄さんが去り、家の方へ振り返るとわが頬に涙が激しく流れた。ちい兄さんたちの遥か大空へ飛び上がり行く音がゴーゴーと鳴った。その音がやむと、しんと静まり返った。

3071 そのあと、育ての兄と二人していた。育ての兄も深い寂しさに浸っているように見えた。

第4章 結婚

4.1 イヨチ長女来る

3078 二日、三日してイヨチ村の峰の頂きに爆発音がとどろき、神がやってくる音がゴーゴーと鳴った。どんどん近づいてきた。そのとどろきの中心を調べて見ると、イヨチ姫（ここではちい姉さんと呼ばれている。）がやってくる音だとわかった。外の矢倉の上に降り立った。あたり一面静まりかえった。

3099 そこでわれは急いで立ち上がり、家の外へ飛び出た。見るとまことに小石狩姫（イヨチ姫のこと）であって、神々しい姿だった。金の小さな鞆の荷縄で締めたものをおのれの傍らに置いて、にわに髪の毛の先を地面に垂らして座っていた。

3113 われは「お姉さま」と言って飛びついた。それに応えてわれを抱きしめ、「妹よ、わが心臓よ」と言いながら、われを抱きながら愛撫した。

3120 われが鞆を背負って手を取って家の中に入ると板造りの寝台の上で育ての兄が槍や刀、ナイフの鞆を一心不乱に彫っていた。

3131 ちい姉さん（イヨチ姫）の姿が目に入ると、あたりまえに喜ぶのならば尋常なことなのに、心の底から喜んだものだから、刀を上にあげて口元に笑みを浮かべた。

3143 われはちい姉さんを右座へ案内し、火のすぐそばに座らせた。育ての兄は立ち上がり喉を鳴らしてこう言った。

3152 「やあ、やあわが妹よ、もうはやイヨチ姫、わが妹が腰を上げて神の住まい（わが家）に嫁入りするべくやって来たのだな。

3160 ならばわが弟（ちい兄さん）もまもなく出かけてくるだろう。先祖からの家、神の住まい（ヒロインの母の家）へもう着くであろう。そこに住みつき煙を立てるであろう。

3171 わが弟君がいつやって来てもおまえたちは人目を気にせず交わることができるのだ。これからその家におまえを連れて行く。さあ、おいで。」と言いながら家の外に出た。喜んで兄の後ろについて外へ出た。

4.2 母の家

3187 われらが住んでいる家の東側に行くと、とても大きな黄金の家と黄金の柵が立ち並んでいた。地面がキラキラ輝いていた。家の外も、柵の外もどこもかしこもが驚くほど美しく好ましい。

3202 入口は金の皮縄で、しっかりと閉ざされていたので育ての兄はそれをほどいてにわの中へ入った。神々しい財宝の匂いが強い風となってわれを後ずさりさせるほどであった。

3215 入口に下がる御簾が美しく揺れていた。育ての兄は手を伸ばしゆっくりと上げた。にわに光とともにやとともに踏みいった。見ると黒いもやと白いもやが家の中にみなぎっていた。

3230 しばらくすると東向きの煙り出しと西向きの煙り出しへもやが昇り家の中が明るくなった。

3237 驚いた、この大きな家の内部の飾り付けは、今までわれが住んでいた家の飾り付けと少しも変わらない。まったくそっくりに飾られ輝いている。

3250 宝壇の手前に板造りの寝台、金の寝台が長々と延びていた。その上に神々しい光が照り映えていた。

3257 金の座の上は平らかであった。金の炉縁が伸びるさまはルマイベの色をなしていた。

3263 右座のそばでは宝壇のしも端から女持ち金の箱が並んでいて、その下はきらびやかに輝いて下座の隅まで届いていた。

3270 その手前に女物の枕、金の枕が延びていた。その上に異族の者が、異国の者が作った物なのか、上の掛け竿、下の掛け竿の上に立派な金の刺繍着が掛かり、たわんでいた。その表は神々しい光がさかんに照り映えていた。好ましい思いに心が揺すぶられた。

3291 育ての兄は神の座の上に立ち、あたりまえにこの神の住まいのしつらいに驚いたとしても不思議ではないが、ほんとうに驚きかつ愉快に思ったものだから、あらゆる物に目をしばたかかせてこう言った。

3306 「さあ、火を焚き今晚からは、母の用いた祖先から伝わる臥所にぐっすり休みなさい。」と言い残して出て行った。

4.3 ちい兄さんを待つ

そのあと、わたしは炉の埋もれ火を灰の上に掘り起こした。盛んな炎をわれは立てた。 3314

火の傍らに腰をおろし、神の住まいの中を見渡した。隅ずみまで目をやった。興味にあふれている。 3320

どんな生まれのどんな筋の者でわが母上はあらせましたのか。その母の住まわれたこの家は尋常でない美しさであまりにも眩いほどだ。 3329

これから母方の遺風の残る家に住まうことになって半分はうれしく、半分は母や父に会いたいとの思いで、わが目元が涙でうるんだ。 3337

まもなくして、ちい姉さん（イヨチ姫）がすてきな食材をたくさん携えて、いぎるようになじるようにしてうやうやしく入ってきた。 3348

あることないことを口の端にのせて談笑しているとやがて日が暮れた。ちい姉さん（兄嫁）が帰って行ってしまったあと、調理して食べた。 3358

今こそ先祖から伝わる母の寝床の中に身を横たえた。よく眠れた。二日ほど、三日ほどそうして過ごした。 3368

刺繍づくりに心に向けて針を運んだが、ちい兄さんの姿が目にとらついた。わが思いをそれから逸らそうとしても、ますます思い起こされ早く早く来てください、と念じた。 3376

ときには何も食わずに二日三日寝込んで臥所で涙をぬぐっていた。 3392

4.4 ちい兄さん来る

ある日、日が沈む頃、トミサンベチの川のみなもとで、爆発音がして、誰かが川を下る風とともにさがって来る音がゴーゴーと鳴った。 3399

ほかの人のもとに下りてくるならさもあるうが、さにあらず、われをめがけて下りて来るのだから伴う神風がバタバタと屋根を打った。地を打つ音がとどろいた。 3410

その音の中を耳を立てて注意していると、このようにやまいに寝付くほどこがれていたちい兄さんに憑く守り神であることがはっきりとした。まこと、心の底からうれしく思った。 3422

縫いかけの刺繍衣に針を差しとどめ、まるめて後ろに隠した。髪の毛を床に垂らし、畏まっていると（外の）幣棚のそばからおおきな荷にした獲物をおろす音がドスンと聞こえた。ちい兄さんが一人で神窓から肉を入れた。 3438

家をまわって鐙の音を響かせながら下屋の前に立ち、 3454

おとないの咳払いをした。その音が奥に届いた。金の風がそれに続いた。垂れている御簾をおだやかに上げ、にわの上にもやと光とともにすっと入ってきた。

3469 垂らした髪の間からうかがうと、ちい兄さんがこの前来たときの美しさなど赤ん坊のようなもので、今の美しさはものすごかった。神のように美しかったが、それよりもなにかのやまい、なにかのわずらいにおかされているようだった。

3486 われと同じくやせ細って表情がすぐれず、萎れ、歪んでいる。そのためいっそう美しい。美しすぎる。とは言え、ますらお振りがその表情に際立っている。

3498 われの身を目でなでまわし、われに向かって右座へと足を運んだ。すると、われは後ろにいざった。われの前を通過して足を運び、われより上座に優美に座った。

4.4 家の神々へのあいさつ

3511 座るやいなや火の神に高々と手を上げて、おのれの血筋を解きほぐして語り、これよりこの神の住まいに住むので幸せになるよう、神よ、われに目をかけよ、と祈り、また、家にいますほかの神々にも同じように述べて祈った。

3526 それが終わると再び右座寄りの神座にいます家の神に向かって先と同様かくかくと願いの言葉をかけた。それが済んで心が静まった。

4.5 むつまじい二人

3537 火の傍らに振り向いて、おのれより下座にいるわれに抱きつきわれを抱きしめた。愛しい妹よ、と言いながら腕の中にわれを抱いた。

3547 わが頭をなでさすり、わが顔に口づけした。匂い立つ首領の気品が強い風のようにわれを後ずさりさせる。

3556 われもまた涙を流して今こそお兄さま、と泣きじゃくった。わが兄の裾を両手で引き寄せた。手の上を、膝をさすった。顔を差し出し互いに口づけした。

3569 このまたとない美丈夫がわれの上に尊い涙をポロポロこぼした。いくどもいくどもわれを抱きしめ、われを祝福した。

3578 互いにこれまであったさまざまなことを語った。草々語った。お互い密かに思い焦がれ、病気にかかったときよりやせ細ってしまったことなど言葉を交わしてねぎらいあった。

3590 育ての兄が言ったように人目をはばかり必要もなく、心の底から打ち明け合い、ねぎらい合い、愛し合って人心地ついた。

4.6 ちい兄さんの手料理

ちい兄さんは立ち上がり、みずからの手を動かして大鍋に水を入れ火の上に掛けた。 3599

それを見て、われはたくさんの薪を腕に抱えて運んだ。ちい兄さんを助けて強い炎を躍らせた。 3607

ちい兄さんは肉の脂ののったところ、こったりした脂身を鍋の上でぶつぶつ切って大きな鍋になみなみと入れた。 3615

炉端では生で食べられるところを刀でさばいて大盛りにして宝壇に置いてから、その椀をわれに差し出した。われは上へ下へと押し頂き礼拝し座の前に置いた。 3621

ちい兄さんも自分の椀に盛った。それらの生ものをわれらは食べたが、なんと新鮮な獲物に実の入っていておいしかったことだろう。ほんとうにおいしい。 3635

しばらくすると大きな鍋が煮えてきた。ちい兄さんは大きな鉢を取り出してそこに肉をあげ、脂身をあげた。再び高盛の椀を宝壇に置いた。 3645

それから肉や脂身の高盛をわれに差し出した。われは押しいただいた。食べてみると、新しい獲物の肉がとてもおいしかった。ハップという感謝の声が漏れた。 3655

するとちい兄さんは、われに唇を寄せ愛撫してくれた。自分のためにも椀に盛り付け、われらは食べた。 3666

食事がすみ、あとが片付くとちい兄さんはこう言った。「ちょっとのあいだ育ての兄さん夫妻の食事を持って行ってくる。われが来たことは二人とも承知しているだろうが、こちらからも伝えておきたい。」と言って金の下駄を履いてたくさんのご馳走を抱えて外に出た。 3674

それからまた挨拶のあと歓談しているらしく、ちい兄さんはなかなか帰ってこなかった。 3693

4.7 妻となる

もうすっかり日が暮れた。しばらくして、ちい兄さんはとてもうれしそうに帰ってきた。「育ての兄さんもちい姉さんもととても喜んでいた。」と言って、われの上座に座った。 3701

そしてこう言った。「さあ、妹よ。やっと神の住まいに戻ってきた。神のそばで今晚から本当の夫婦になるのだ。そこで口に入れるものを作って欲しいのだが」と言うのでわれの心もホッとして、言われてすぐに立ち上がり下座に行った。 3712

柄杓で数多くのしずくを滴らせて手を洗い、美しい小鍋にその耳の付け根から水を掛けて清め、その中に水を入れた。それを炉に掛けた。鍋の下に顔を入れて息吹き 3733

かけて火を起こした。小鍋はブツブツ沸いてきた。

3748 しまっておいた精米を鍋の中へ撒きこぼした。おいしい粥を一人で炊いた。よく炊けた粥をへらでかました。粥はへらの上で湯気をたなびかせ、湯気をふるわせていた。われは鍋ぶたを閉じたり開けたりした。少しして火からあげた。

3763 うす造りの御膳とうす造りの椀を取り出して並べ、高盛の椀を恭しく頭の上に上げてちい兄さんに差し出すとちい兄さんは受け取って上に下にと押し頂き礼拝した。

3777 ゆったりと食事をした。料理が上手だと誉めてくれた。ハップと感謝して食べ終えた。椀の残った半分をわれによこした。われは取って礼拝して食べてみるとなんとまあ、ちい兄さんが上手に盛ったご馳走のおいしかったことか。そのおいしさにハップと感謝の声をあげた。われは優美に食べた。

3801 食事のあとが片付くといよいよ人の習わし、神の習わしとはこうであるから、ちい兄さんといっしょに先祖からの母から譲られた臥所、美しい寢床の上でわれらは良き眠りについた。今はもうわれはちい兄さんの後ろに座ることになった（妻となった）。

3818 ちい兄さんは息のただ中心臓のただ中にわれを結びつけた。われもまた、ちい兄さんを心臓の先に入れて、いとおしく上をさすり、下をさすった。ちい兄さんはますますわれをかわいがってくれた。この国で幸せにしていると神の噂が広がった。

4.8 親族のむつみ

3834 育ての兄夫婦もイヨチに住まうちい姉さん夫婦も同じように幸せに暮らしていると噂が村々を越えて神の噂となって伝わってきた。

3845 どちらが前に座り、どちらが後に座るか決められない全き紳士、淑女にわれらは成った。

3852 このようにわれらがいずれも富者となったのは、実に愚かなふるまい、悪しき心根とは無縁でただひたすら先祖の遺訓、数々の女の戒めを幼いころから守ってきたからで、それゆえわれらに神の恵みがあつたからである。

3869 いまでは三組の夫婦ともたくさん子供ができた。イヨチに祝い事、祭り事があると、われらは皆で出かけ、喜びあつた。

3880 互の家に泊まりあつた。代わる代わる子供たちを可愛がってあやしなながら、よく食べ、よく話した。我が家で祝い事、祭り事があつても同じようにした。育ての兄の家で祝い事、祭り事があつても同じようにした。

4.9 神のもとへ

せめて宴の時だけでも、とは思うが、歩くに疲れるようになり、順番に老いていった。足が重くなった。子供たちが老いの介護を親切にしてくれたから、われらは誇り高く暮らせた。

以上、若い時分、雷神たちに妬まれそねまれたが、われらいずれともよき心を持っていたので尊い月の女神の看護によって傷を癒された。

その上さらに神の恵みがあるように気遣ってくれた。それでこのように、あいともにこの国にはほかにいない富貴な夫と妻になったのです。

わが子たちよ、この話をいつまでも忘れずに、悪い思いにかられたりしないように。

月の神の下を歩くときは心の中で拝んで、うんと感謝して慎んで歩きなさいな、と

トミサンベチに住まう立派な夫人が子供たちに語り、神のもとへ行った。

3895

3906

3920

3933

3941

3949

月の女神

第1章 うばゆりが 原の惨劇

1.1 シヌタブカとイヨチ

の結びつき p. 228

- 1 iresuyubi
イレスユビ
育ての兄
育の兄が
- 2 shisak chireshu
シサク チレシュ
またとない はぐくみ
たぐいぬ養い、
- 3 kamui chireshu
カムイ チレシュ
神 はぐくみ
常ならぬ養いを
- 4 i-y-ekarkar wa
イ・イエカカラワ
我・する 接
われにほどこし、
- 5 ramma kane
ラムマ カネ
いつも 音調整
つつがなく
- 6 katkor kane okai-an
カトコロ カネ オカイ・アン
振舞う 同時 いる・我
暮らしていた。
- 7 i-koshikup mat^{*4} tura
イ・コシクマ マト トウラ
我・ともに育つ 女 ともに
ともに育つ姉と
- 8 tun a-ne wa
トゥン ア・ネワ
二人 我・繋 接
われたちとの二人が
- 9 i-ukorespha-an
イ・ウコレッパ・アン
我ら・ともに育てられる
養われていた。
- 10 tane ponno
タネ ポンノ
今 少し
少し
- 11 rupne-an wa
ルプネ・アン ワ
成長する・我 接
大きくなり、
- 12 inkar-an ko
インカラ・アン コ
見る・我 条件
気づくと
- 13 ineapkusu
イネアプクス
何と
なんとまあ
- 14 a-un chisehe
ア・ウン チセヘ
我・いる 家
この住まいの
- 15 pirika wa
ピリカ ワ
よい 接
美しい
- 16 shiran nankor a
シラン ナンコラ
有様である だろう 疑
ことか。
- 17 tam boro chise
タム ボロ チセ
この 大きい 家
宏壮な屋敷の
- 18 eashka oshke
エアシカ オシケ
とても 中
内部は
- 19 huihuinawano
フイフイナワン
隅々まで
どこもかしこも
- 20 a-tomte kashpa kane
ア・トムテ カシパ カネ
輝いている 甚だしい 音調整
輝きすぎているほどで、
- 21 kamui koro be
カムイ コロ ベ
神 持つ もの
宝物が
- 22 tam boro chise
タム ボロ チセ
この 大きい 家
大きな家を
- 23 eshik kane
エシク カネ
いっぱいである 音調整
満たしており、
- 24 ikit tukari
イキト トウカリ
列 手前
宝列の前には
- 25 chituyeamset
チトゥイエアムセト
切られた寝台
板の寝台、
- 26 kani amset
カニ アムセト
黄金 寝台
金の寝台が
- 27 chieshituri
チエシトゥリ
伸びている
置かれていた。
- 28 ireshuyubi
イレシュユビ
育ての兄
育ての兄は
- 29 amset kurka
アムセト クルカ
寝台 上
寝台の上に
- 30 ehorarpa
エホラッパ
居る
座っていた。
- 31 ineapkusu
イネアプクス
何と
ああ、
- 32 ireshuyubi
イレシュユビ
育ての兄
育ての兄の
- 33 pirika kashpa wa
ピリカ カシパ ワ
よい 甚だしい 接
なんともいえず美しく
- 34 shiretok kor wa
シレトク コロ ワ
美貌の人 持つ 接
秀麗な面立ちで
- 35 okai nankor a
オカイ ナンコラ
ある だろう 疑
あろうか。
- 36 kamui shiri ne okai wa
カムイ シリ ネ オカイ ワ
神 様子 繋 ある 接
神のいずまいで
- 37 amset kurka
アムセト クルカ
寝台 上
寝台の上に
- 38 ehorarpa
エホラッパ
居る
腰掛けていた。
- 39 i-koshikup mat
イ・コシクマ マト
我・ともに育つ 女
ともに育つ
- 40 pon a-kor sapo
ポン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さんも
- 41 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤッカ
繋 接 繋 譲
また
- 42 naa pom matkachi
ナア ポム マトカチ
まだ 小さい 少女
まだ幼い少女だ
- 43 ikikorkaiki
イキコロカイキ
逆
けれど
- 44 shiretok ante wa
シレトク アンテ ワ
美貌の人 あらしめる 接
美しい顔立ちで
- 45 shiran nankor a
シラン ナンコラ
有様である だろう 完
あった。
- 46 kamui shiri ne
カムイ シリ ネ
神 様子 繋
神のありようで
- 47 okai wa
オカイ ワ
ある 接
あった。
- 48 tun a-ne
トゥン ア・ネ
二人 我・繋
二人いっしょに
- 49 abe tuisam ta okai-an
アベ トウイスアム タ オカイ・アン
火 すぐ側 場 いる・我
炬の直ぐそばに座っていた。
- 50 pon ram ot ta
ポン ラム オト タ
小さい 心 所 場
まだ幼い頃は
- 51 ireshuyubi shuke wa
イレシュユビ シュケ ワ
育ての兄 炊事する 接
育ての兄が作ったものを
- 52 ibe-an a koroka
イベ・アン ア コロカ
食事する・我 疑 逆
食べたが、
- 53 tane ponno rupne-an
タネ ポンノ ルプネ・アン
今 少し 成長する・我
少し大きくなる
- 54 oro wano ene ene
オロ ワノ エネ エネ
所 から 斯く 斯く
「このように」
- 55 shuke-an kuni hene
シュケ・アン クニ ヘネ
炊事する・我 必 も
われが食事を整える
- 56 nep ne yakka
ネフ ネ ヤッカ
繋 繋 譲
ようなことは、
- 57 hoshkino menoko ari
ホシキノ メノコ アリ
先に 女 引用
昔から女と
- 58 borse kuni p anakne
ボロセ クニ プ アナクネ
名づける 必 もの は
いうものこそがすると
- 59 ki kuni p ne ari
キ クニ プ ネ アリ
する 必 もの 繋 引用
決まっているのだよ。」と
- 60 ireshuyubi
イレシュユビ
育ての兄
育ての兄が
- 61 itak kane
イタク カネ
言う 同時
言った。
- 62 shuke hene
シュケ ヘネ
炊事する も
「食事の支度だけでなく

*4 mat は欄外に書かれたもので、おそらく金田一により書き込まれたもの。

- 63 kemeiki ne
ケメイキ ネ
針仕事をする 繋
針仕事もだよ」と
- 64 ari itak koro
アリ イタク コロ
引用 言う 持つ
言って
- 65 tun a-ne wa
トゥン ア・ネ ワ
二人 我・繋 接
われたち二人に
- 66 tapne tapne ari
タプネ タプネ アリ
これである これである 引用
そのやり方を
- 67 baroho^{*5} ari i-ebakashnu
バロホ アリ イ・エバカシヌ
口 引用 我・教える
教えてくれた。
- 68 i-koshikup mat
イ・コシクプ マト
我・ともに育つ 女
ともに育つ姉^{*6}は、
- 69 hoshki tuk be
ホシキ トウク ベ
先に 生える もの
われよりも先に生まれて
- 70 kone p^{*7} ne kusu
コネ プ ネ クス
である もの 繋 由
いたので、
- p. 229
- 71 hoshkino usa
ホシキノ ウサ
先に 譲
早くに
- 72 shuke usa
シュケ ウサ
炊事する 譲
料理も
- 73 kemeiki hene eraman
ケメイキ ヘネ エラマン
針仕事をする も 知る
針仕事も覚えた。
- 74 oshi aokai a-eraman
オシ アオカイ ア・エラマン
追いかけて 我 我・知る
遅れてわれも覚えた。
- 75 uwosakarpa-an wa
ウオサカラバ・アン ワ
我ら・交代する 接
代わる代わる
- 76 shuke-an wa
シュケ・アン ワ
炊事する・我 接
炊事をした。
- 77 ireshuyubi
イレシュユビ
育ての兄
育ての兄の
- 78 a-koibuni ko
ア・コイブニ コ
我・腕を授ける 条件
腕に盛ると、
- 79 ireshuyubi
イレシュユビ
育ての兄
兄は
- 80 otu henkuror
オトゥ ヘンクロロ
二つの うなづくこと
よしよしと
- 81 ore henkuror
オレ ヘンクロロ
三つの うなづくこと
うなづき
- 82 i-koanukar kane
イ・コアナカラ カネ
我・置く 同時
返した。
- 83 tu shukupramkuru
トゥ シュクプラムクル
二つの 幼年
年を
- 84 re shukupramkuru
レ シュクプラムクル
三つの 幼年
追うごとに
- 85 a-unoshpare
ア・ウノシパレ
我・刺繍をする 必 もの
われは大きくなった。
- 86 aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤッカ
我 繋 譲
姉と同様に
- 87 sonno pirika-an
ソンノ ピリカ・アン
真に 美しくある
美しくなった
- 88 kotom ne
コトム ネ
ようである 繋
ようで、
- 89 okutchi urar
オクトチ ウララ
たちこめる 霧
たちこめる
- 90 urar tumu a-yayomare
ウララ トウム ア・ヤヨマレ
霧 中 我・入る
もやの中に入った。^{*8}
- 91 i-bishkanike
イ・ビシカニケ
我・周囲
われの周りには
- 92 kamui imeru
カムイ イメル
神 光
神々しい光が
- 93 eshimaka kane
エシマカ カネ
輝く 同時
輝いていた
- 94 ireshuyubi ne wa
イレシュユビ ネ ワ
育ての兄 繋 接
育ての兄と
- 95 pon a-kor sapo
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さんは
- 96 hese attom
ヘセ アトトム
息をする 中
息のただ中、
- 97 sambe attom
サムベ アトトム
心臓 中
心臓のただ中に
- 98 i-ekote karpa
イ・エコテ カラバ
我・結びついている 作る
われを結びつけ、
- 99 i-toikoomappa
イ・トイコオマツパ
我・大変愛する
深くわれを愛おしんだ。
- 100 tane ne kusu
タネ ネ クス
今 繋 由
今や、
- 101 a-karkar kuni p
ア・カカラ クニ プ
我・刺繍をする 必 もの
われの縫う刺繍も
- 102 tu kamui nish ne
トゥ カムイ ニシ ネ
二つの 神 空 繋
何層もの
- 103 re kamui nish ne
レ カムイ ニシ ネ
三つの 神 空 繋
空に
- 104 yayebumpa kane
ヤイエブムパ カネ
立ちのぼる 同時
届くばかりとなった。
- 105 boo hene
ボオ ヘネ
なおさら も
それですます
- 106 ireshuyubi
イレシュユビ
育ての兄
育ての兄も
- 107 pon a-kor sapo
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さんも
- 108 i-eomapkar kor
イ・エオマツカラ コロ
我・愛する 持つ
われを
- 109 okai-an
オカイ・アン
いる・我
愛おしんだ。
- 110 ireshuyubi
イレシュユビ
育ての兄
育ての兄は
- 111 tane ne kusu
タネ ネ クス
今 繋 由
今では
- 112 okkayo shirika
オッカヨ シリカ
若者 表面
若者振りが
- 113 aruwoshmare
アルウオシマレ
すっかり備わる
身に備わり、
- 114 mashkin teta
マシキン テタ
ますます ここで
ますます
- 115 netoba shiri
ネトバ シリ
身体 様子
その体に目が向けられ
- 116 somo a-nukara
ソモ ア・ヌカラ
否定 我・見る
ないほど立派になった。^{*9}
- 117 okutchi urar
オクトチ ウララ
たちこめる 霧
たちこめる
- 118 urar tumu
ウララ トウム
霧 中
もやの中に
- 119 yayomare kane
ヤヨマレ カネ
自分を入れる 同時
入った。
- 120 makanneko ekimne
マカンネコ エキムネ
あるときには 山に行く
あるときは山狩りに、
- 121 makanneko repa kane
マカンネコ レパ カネ
あるときには 沖に出る 同時
あるときは沖の狩りに出は
- 122 kirbu batek^{*10}
キルブ バテク
脂身 のみ
脂身ばかり、
- 123 shisakbe batek
シサクベ バテク
またどなきもの のみ
比べようもないものばかりで
- 124 a-ebaropirika kane
ア・エバロピリカ カネ
我・美食する 同時
われたちの口を奢らせた。

^{*5} baroho は初め boroho と書かれたが最初の o に抹消傍線が引かれ、a が添えられている。

^{*6} ちい姉さん

^{*7} konep の k に抹消傍線が引かれ、s が書き添えられているが、もとのままとする。

^{*8} 貴人はもやに包まれている。

^{*9} この2行の解釈には、ユ集 i, p.320 の netopa shiri ashikniukeshte に対する金田一による解釈が参考になった。

^{*10} アイヌは赤身よりも脂身を喜ぶ。

- 125 makanneko
マカンネコ
あるときには
ときに兄は
- 126 keshto chise ot ta
ケット チセ オト タ
毎日 家 所 場
数日
- 127 an wa
アン ワ
ある 接
家にこもって、
- 128 kebushbe nuye
ケブシベ ヌイエ
鞆 彫り刻む
器に木彫りをほどこし、
- 129 shirka nuye
シッカ ヌイエ
鞆 彫り刻む
鞆の彫りに
- 130 kokipshirechiu kane
コキプシレチウ カネ
額を伏せる 音調整
一心不乱であった。
- 131 raboki ta
ラボキ タ
間 場
おりしも
- 132 pon ram orwano
ボン ラム オロワノ
小さい 心 始点
幼い頃から
- 133 inu-an ko
イヌ・アン コ
聞く・我 条件
耳にする
- 134 tuima kane
トゥイマ カネ
速い 音調整
速くの村の
- 135 reikor kotan
レコロ コタン
名前をもつ 村
名は
- 136 Iyochi ne wa
イヨチ ネ ワ
地名 繋 接
イヨチ村であったが、
- 137 Iyochiunkuru
イヨチウンクル
イヨチ人
そのイヨチ人は
- 138 tu irwak ne wa
トゥ イリワク ネ ワ
二つの 兄弟 繋 接
二人兄弟で、
- 139 shine turesh ne
シネ トウレシ ネ
一つの 妹 繋
妹が一人いる。
- 140 okkayo utar
オッカヨ ウタヲ
若者 たち
兄弟は
- 141 koro shiretok
コロ シレトク
持つ 美貌の人
その風貌も、
- 142 kor bawetok
コロ バウエトク
持つ 雄弁
弁の才も
- 143 kon rametok
コン ラメトク
持つ 勇者
胆力も
- 144 kamui ot ta ka
カムイ オト タ カ
神 所 場 も
神の国にも
- 145 ainu ot ta ka
アイヌ オト タ カ
人間 所 場 も
人間の国にも
- 146 ariteksakka
アリテックスカ
匹敵する者がいない
かなうものがなかった。
- 147 menoko sama
メノコ サマ
女 そば
妹のほうも
- 148 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤッカ
繋 接 繋 譲
これまた
- 149 kor teketok
コロ テケトク
持つ 手先が器用だ
その手仕事の巧さ、
- 150 koro shiretok
コロ シレトク
持つ 美貌の人
その容姿容貌の点で
- 151 kamui ot ta hene
カムイ オト タ ヘネ
神 所 場 も
神の国にも
- 152 ainu ot ta hene
アイヌ オト タ ヘネ
人間 所 場 も
人間の国にも
- 153 eirbak kuni p
エイバック クニ プ
並ぶ 必 もの
及ぶ者は
- 154 shinen ka isam ari
シネン カ イサム アリ
一人 も ない 引用
一人もいない、との
- 155 kamui asun ne
カムイ アスン ネ
神 噂 繋
評判が
- 156 tu kotan kama
トゥ コタン カマ
二つの 村 越える
多くの
- 157 re kotan kama
レ コタン カマ
三つの 村 越える
村々を越えて
- 158 a-nu kor okai-an awa
ア・ヌ コロ オカイ・アン アワ
我・聞く 持つ いる・我 展開
聞こえていた。
- 160 ireshuyubi
イレシュユビ
育ての兄
育ての兄が
- 161 kutsam konna
クトサム コンナ
喉元 は
喉を
- 162 tununitara
トゥヌニタラ
美しい音が響く
鳴らして
- 163 itak hawe
イタク ハウエ
言う 声
言う
- 164 ene okai i
エネ オカイ イ
斯くある 形名
ことには
- 165 koninkarkusu
コニンカルクス
いざいざ
「さて、
- 166 a-tureshutari
ア・トゥレシュユタリ
我・妹たち
妹たちよ、
- 167 itak-an chiki
イタク・アン チキ
言う・我 条件
われが言うことに
- 168 pirikano nu yan
ピリカノ ヌ ヤン
良く 聞く 命令
耳を傾けよ。
- 169 hoshki tuk be
ホシキ トウク ベ
先に 生える もの
先に生まれた
- 170 a-ne kusu
ア・ネ クス
我・繋 由
われであるから、
- 171 tanebo konna
タネボ コンナ
今 は
今こそわれらが
- 172 nekona tapne
ネコナ タプネ
どのように これである
いかなる
- 173 shinrit kor be
シンリト コロ ベ
出自 持つ もの
素性の者で
- 174 a-ne ruwe okai ya
ア・ネ ルウエ オカイ ヤ
我・繋 跡 ある 疑
あるのか
- 175 ubashkuma-an wa
ウバシクマ・アン ワ
教え諭す・我 接
物語って
- 176 echi-nure-an kusu
エチ・ヌレ・アン クス
汝ら・聞かせる・我 由
聴かせ
- 177 ne ruwe taban
ネ ルウエ タバン
繋 跡 この
よう。
- 178 tan a-kor kotan
タン ア・コロ コタン
この 我・もつ 村
わが村の
- 179 reikor katu
レコロ カトウ
名前をもつ 様子
名は
- 180 Tomisambechi
トミサムベチ
地名
トミサンベチ
- 181 Shinutapka
シヌタプカ
地名
シヌタプカ
- 182 ne ruwe ne
ネ ルウエ ネ
繋 跡 繋
というが、
- 183 teeta kane
テエタ カネ
以前 音調整
ずっと以前のこと、
- 184 a-kor ainu
ア・コロ アイヌ
我・もつ 男
われらの父には
- 185 yayirwakikor
ヤイリワキコロ
男兄弟がいない
男兄弟がなく、
- 186 shine turesh ne wa
シネ トウレシ ネ ワ
一つの 妹 繋 接
ただ一人の妹が
- 187 okai ruwe ne
オカイルウエ ネ
ある 跡 繋
いるだけだった。
- 188 ainu bito
アイヌ ビト
人間 人
人間の
- 189 ikikorkaiki
イキコロカイキ
逆
身ではあったけれど
- 190 kon rametok
コン ラメトク
持つ 勇者
その肝つ玉、
- 191 kor shiretok
コロ シレトク
持つ 美貌の人
その風采、
- 192 kor bawetok
コロ バウエトク
持つ 雄弁
弁の立つこと、
- 193 kamui ot ta hene
カムイ オト タ ヘネ
神 所 場 も
神にも
- 194 ainu ot ta hene
アイヌ オト タ ヘネ
人間 所 場 も
人にも

1.2 イヨチ一族との定め

られた結婚

- 159 shine an to ta
シネ アン ト タ
一つの ある 日 場
ある日、

- 195 ebetturashi p
エベトウラシ
匹敵するもの
及ぶ者が
- 196 shinen ka isam
シネン カイサム
一人もない
いなかった。
- 197 neino sui
ネノ スイ
ように再び
同様に
- 198 a-kor unarbe
ア・コロ ウナラベ
我・もつ 叔母
わが叔母(父の妹)も
- 199 kor shiretok
コロ シレトク
持つ 美貌の人
美しい顔立ち、
- 200 kor teketok
コロ テケトク
持つ 手先が器用だ
手先の器用さで
- 201 kamui ot ta hene
カムイ オト タ ヘネ
神 所 場 も
神にも
- 202 ainu ot ta hene
アイヌ オト タ ヘネ
人間 所 場 も
人にも
- 203 ariteksakka
アリテッサッカ
匹敵する者がいない
比べようものがなかった。
- 204 tu moshiri kama
トゥ モシリ カマ
二つの 国土 越える
国々を越え、
- 205 re kotan kama
レ コタン カマ
三つの 村 越える
村々を越えて
- 206 kamui asun ne
カムイ アスン ネ
神 噂 繫
令名を
- 207 chihobunire
チホブニレ
起きる
馳せた。
- 208 ne wa am be
ネ ワ アム ベ
繫 接 あるもの
それを
- 209 tuima okai be
トゥイマ オカイ ベ
速い あるもの
速くにいるもの、
- 210 hanke okai be
ハンケ オカイ ベ
近い あるもの
近くにいるものが
- 211 nu chiki
ヌ チキ
聞く 条件
耳にして
- 212 sonno a-kor ainu
ソンノ ア・コロ アイヌ
真に 我・もつ 男
実にわが父を
- 213 keshkepa kusu
ケッケパ クス
ねたむ 由
妬み、
- 214 Tomisambechi
トミサムベチ
地名
トミサンベチ
- 215 Shinutapka un
シヌタプカ ウン
地名 方向
シヌタプカへ
- 216 attumunchi
アトウムンチ
激しい戦闘
激しいいくさ、
- 217 anrorumbe
アンロルムベ
激しい戦い
ひといくさを
- 218 oyapte kusu
オヤapte クス
上陸させる 由
仕掛けようと
- 219 toop oyakak ta
トオプ オヤカク タ
ずっと遠く あちらこちら 場
遠く、いたるところで
- 220 tumunchi shikarkar
トゥムンチ シカラカラ
戦争 支度する
いくさ支度、
- 221 rorumbe shikarkar
ロルムベ シカラカラ
戦闘 支度する
いくさまかないを
- 222 ne i asuruhu
ネ イ アスルフ
繫 形名 噂
しているという噂を
- 223 a-kor ainu
ア・コロ アイヌ
我・もつ 男
わが父は
- 224 turesh turanno
トゥレシ トウランノ
妹 ともに
妹(叔母)といっしょに
- 225 nu wa
ヌ ワ
聞く 接
聞いて「自分たちだけで
- 226 a-yaikomore p
ア・ヤイコモレ プ
我・みずから治めるもの
穏やかに治めている
- 227 totto kotan
トット コタン
母 村
母なる村、祖先から
- 228 shirit kotan ne awa
シリト コタン ネ アワ
先祖 村 繫 展開
伝わる村ではないか。」
- 229 ari haweokai kane
アリ ハウェオカイ カネ
引用 言う 音調整
と言い、
- 230 naa nokan shiri
ナア ノカン シリ
まだ 幼い 様子
まだ年若いのに、
- 231 tu rur ekari
トゥ ルル エカリ
二つの 海水 回る
海々を
- 232 re rur ekari
レ ルル エカリ
三つの 海水 回る
巡って
- 233 rorumbe batek
ロルムベ バテク
戦闘 のみ
いくさばかり、
- 234 tumunchi batek
トゥムンチ バテク
戦争 のみ
戦いばかりの
- 235 eritne shikup kipa
エリトネ シクッ キパ
つらい 成長する する
厳しさの中に育った。
- 236 shine shinrit
シネ シンリト
一つの 出自
同じ先祖に
- 237 ukokor kuni p
ウココロ クニ プ
ともに持つ 必 もの
連なるという
- 238 Iyochiunkuru
イヨチウンクル
イヨチ人
イヨチ人、神のように
- 239 kamui rametok
カムイ ラメトク
神 勇者
勇敢なその人が
- 240 turesh turanno
トゥレシ トウランノ
妹 ともに
妹とともに
- 241 a-kor ainu
ア・コロ アイヌ
我・もつ 男
わが父の
- 242 kon rorumbe
コン ロルムベ
持つ 戦闘
いくさの
- 243 tumumchi tapka
トゥムムチ タツカ
いくさ 頂き
さなかに
- 244 koikaobash
コイカオバシ
救援する
助けに駆けつけてくれた。
- 245 shine tumunchi
シネ トウムンチ
一つの 戦争
一つのいくさ、
- 246 shine rorumbe
シネ ロルムベ
一つの 戦闘
おなじいくさを
- 247 somo setakno
ソモ セタクノ
否定 長い時間に
長い間
- 248 euarkamkashi
エウアラカムカシ
互の肌
ともに肌で苦しみ
- 249 otasashkepa^{*11} rokiné
オタサッケパ ロキネ
苦勞を分かちあう 接
抜いた。
- 250 tumunchi utur
トゥムンチ ウトゥル
戦争 間
いくさのあい間
- 251 rorumbe utur
ロルムベ ウトゥル
戦闘 間
戦いのあい間
- 252 eshinipa i ta
エシニパ イ タ
休息する 形名 場
一息入れたとき
- 253 tumunchi ukoheboki
トゥムンチ ウコヘボキ
戦争 戦の礼
いくさの礼、
- 254 rorumbe ukoheboki
ロルムベ ウコヘボキ
戦闘 挨拶
同盟の挨拶を
- 255 an kusu
アン クス
ある 由
しようと
- 256 a-kor unarbe
ア・コロ ウナラベ
我・もつ 叔母
わが叔母(父の妹)が
- 257 okkeu kashi
オクケウ カシ
首 上
首にたくさんの
- 258 kamui kor be
カムイ コロ ベ
神 持つもの
飾り物を下げられて、
- 259 boronno a-epirikare wa
ボロンノ ア・エピリカレ ワ
たくさん 飾りつけられる 接
美しく装わされて、
- 260 Iyochi kotan
イヨチ コタン
地名 村
イヨチ村に
- 261 eitomnukar ruwe ne
エイトムヌカラ ルウェ ネ
嫁ぐ 跡 繫
嫁いだ。
- 262 okkayo^{*12} tumbish
オクカヨ トウムビシ
若者 二人
男の子を二人、

*11 euarkamkashi otasashkepa: 金田一による「相共ニ辛苦ヲ分カツ」との書き込みあり。ここではこれに従う。

- 263 menoko shinen
メノコ シネン
女 一人
女の子を一人
- 264 ukosapte ruwe ne
ウコサプテ ルウェ ネ
産む 跡 繋
産んだ。
- 265 eebaki ta
エエバキ タ
次 場
それからまた、
- 266 Iyochiummat ne yakka
イヨチウムマト ネ ヤッカ
イヨチ姫 繋 譲
イヨチ姫も
- 267 okkeu kashi
オクケウ カシ
首 上
首を
- 268 kamui korobe
カムイ コロベ
神 持つ物
たくさんの宝物で
- 269 boronno a-epirikare wa
ボロンノ ア・エビリカレ ワ
たくさん 飾りつけられる 接
装われて
- 270 Tomisambechi
トミサムベチ
地名
トミサンベチ
- 271 Shinutapkashi
シヌタプカシ
地名
シヌタプカシに
- 272 chioette
チオエトテ
攻められる
やって来て
- 273 a-kor ainu tura
ア・コロ アイヌ トウラ
我・もつ 男 ともに
わが父と
- 274 utomnukar
ウトムヌカラ
結婚する
結ばれた。
- 275 orota
オロタ
そこで
そこで、
- 276 boro a-tureshi turanno
ボロ ア・トゥレシ トウランノ
大きい 我・妹 ともに
大きい妹と
- 277 tumbish a-ne wa
トゥムビシ ア・ネ ワ
二人 我・繋 接
われの二人が
- 278 shiko-an ruwe ne
シコ・アン ルウェ ネ
生まれる・我 跡 繋
生まれた。
- 279 a-pontureshi anakne
ア・ポントウレシ アナクネ
我・小さな妹 は
わが小さな妹は誰の子か
- 280 kanto ot ta
カント オト タ
天 所 場
といえば、天に
- 281 horkeu kamui
ホロケウ カムイ
狼 神
狼神がいて、
- 282 tu irwak ne wa
トゥ イリワク ネ ワ
二つの 兄弟 繋 接
狼神は二人兄弟で、
- 283 tu turesh ne
トゥ トウレシ ネ
二つの 妹 繋
二人姉妹がいたが、
- 284 iyotta pon menoko
イヨッタ ポン メノコ
最も 小さい 女
下の妹が
- 285 a-kor ainu kor shiretok
ア・コロ アイヌ コロ シレトク
我・もつ 男 持つ 美貌の人
わが父の男振りと
- 286 kon rametok
コン ラメトク
持つ 勇者
胆力に
- 287 arkatetokomare
アッカテトコマレ
気に入る
惚れ
- 288 tambe kusu
タムベ クス
これ 由
きって
- 289 ikottura
イコトウラ
宝物とともに
宝物をたずさえ、
- 290 chise tura
チセ トウラ
家 ともに
家たずさえ、
- 291 Tomisambechi
トミサムベチ
地名
トミサンベチ
- 292 Shinutapka
シヌタプカ
地名
シヌタプカに
- 293 chioranke wa
チオランケ ワ
降りる 接
降りてきて
- 294 ainu menoko tura
アイヌ メノコ トウラ
人間 女 ともに
人間の女^{*13} とともに
- 295 utush ruwe ne
ウトウシ ルウェ ネ
相妻になる 跡 繋
わが父の相い妻になった。
- 296 orota shinen e-ne wa
オロタ シネン エ・ネ ワ
そこで 一人 汝・繋 接
父との間におまえ一人が、
- 297 pon a-tureshi
ボン ア・トゥレシ
小さい 我・妹
妹よ、
- 298 e-shiko ruwe ne
エ・シコ ルウェ ネ
汝・生まれる 跡 繋
おまえ一人が生まれた。
- 299 tap asuru ash be
タプ アスル アシ ベ
これ 噂 立つ もの
評判の高い者
- 300 utar anakne
ウタラ アナクネ
たち は
たち^{*14} は
- 301 konep anuni
コネプ アヌニ
繋 よそ者
決して縁のない
- 302 konep oyabe somone
コネプ オヤベ ソモネ
繋 よそ者 ではない
よそ者ではない。
- 303 sonno a-utari
ソンノ ア・ウタリ
真に 我・人々
まことの親族で
- 304 tapne ne na
タプネ ネ ナ
これである 繋 ぞ
あるのだよ。
- 305 eebaki ta
エエバキ タ
次 場
またさらに、
- 306 chihoppa itak
チホッパ イタク
残される 言葉
わが父はいまはの言葉に
- 307 ene okai i
エネ オカイ イ
斯くある 形名
よれば、^{*15}
- 308 Iyochiummat
イヨチウムマト
イヨチ姫
「イヨチ姫^{*16}を
- 309 oma yarbe
オマ ヤラベ
ある ぼろ布
入れたむつき、
- 310 yarbe emko
ヤラベ エムコ
ぼろ布 半分
うぶぎの半分で
- 311 a-i-y-oreshu
ア・イ・ヨレシュ
我・育てられる
われは育てられた。
- 312 rupne-an chiki
ルフネ・アン チキ
成長する・我 条件
歳相応になれば
- 313 utomnukar-an wa
ウトムヌカラ・アン ワ
結婚する・我ら 接
イヨチ人の娘と結婚して
- 314 taban kamui ewaki
タバタン カムイ エワキ
この 神 住まい
この神の住まいのような
- 315 shinrit chise
シンリト チセ
出自 家
祖父から伝わる家も
- 316 a-benkirechriu
ア・ベンキレチウ
我・川上を治める
川筋の
- 317 a-bankirechriu
ア・バンキレチウ
我・川下を治める
かみも、しもも
- 318 kusu ne ari
クス ネ アリ
由 繋 引用
治めることになって
- 319 eebakita
エエバキタ
次に
いる、とのことだから
- 320 a-borotureshi anakne
ア・ボロトウレシ アナクネ
我・大きい妹 は
「わが大きな妹は
- 321 Iyochiunkuru
イヨチウングル
イヨチ人
イヨチ人の
- 322 kiyanne ike
キヤンネ イケ
年長である こと
長男を
- 323 oma yarbe
オマ ヤラベ
ある ぼろ布
くるんだうぶぎの
- 324 yarbe emko
ヤラベ エムコ
ぼろ布 半分
半分で
- 325 a-reshu wa
ア・レシュ ワ
我・育てる 接
われが育てた。
- 326 rupne i ta
ルフネ イ タ
大きい 形名 場
成長したらイヨチ人と

*12 この語に続いて shinen menoko と書かれているが傍線で抹消されている。

*13 イヨチ姫

*14 イヨチの者たち

*15 以下は父の言葉を兄の立場から言い改められている。

*16 父の妻、つまり育て兄とちい姉さんの母。

- 327 **Iyochi chashi**
イヨチ チャシ
地名 チャシ
イヨチの城の
- 328 **benkirechiu**
ベンキレチウ
上流を治める
川筋のかみと
- 329 **bankirechiu kuni ne**
バンキレチウ クニ ネ
下流を治める 必 繋
しもとを治めなさい。
- 330 **eebakita**
エエバキタ
次に
また、
- 331 **pon Iyochiunkuru**
ポン イヨチウンクル
小さい イヨチ人
小イヨチ人、*17
- 332 **a-ak tonoke**
ア・アットノケ
我・弟 殿
わが弟には
- 333 **a-pontureshi**
ア・ポントウレシ
我・小さな妹
わが小さな妹が
- 334 **rupne chiki**
ルプネ チキ
大きい 条件
成人したら
- 335 **a-ukobakashnu wa**
ア・ウコバカシヌ ワ
我ら・教える x 接
教え諭して嫁がせる。
- 336 **kamui e-kot totto**
カムイ エ・コト トトト
神 汝・持つ 母
神なるおまへの母が
- 337 **kanto oro wa**
カント オロワ
天 所 から
天から
- 338 **turanno ran**
トゥランノ ラン
ともに 下がる
もたらした
- 339 **kamui ewaki**
カムイ エウキ
神 住まい
神の住まいが
- 340 **chashi ba ta**
チャシ バ タ
チャシ 縁 場
城のそばに
- 341 **an ruwe ne**
アンルウェ ネ
ある 跡 繋
あるのだ。
- 342 **ne i echi-ehorarpa wa**
ネ イ エチ・エホラパ ワ
繋 形名 汝ら・住まう 接
おまへたちはそこに住んで
- 343 **kamui e-kot totto**
カムイ エ・コト トトト
神 汝・持つ 母
神なる母の
- 344 **ruwokakehe**
ルウォカケヘ
残された跡
遺徳を
- 345 **echi-shiturire**
エチ・シトゥリレ
汝ら・伸ばす
後世に伝える
- 346 **kushune na**
クシュネ ナ
すべき ぞ
のだ。
- 347 **arino tapne**
アリノ タプネ
と これである
それこそが
- 348 **shinrit itak okai**
シンリト イタク オカイ
出自 言葉 ある
先祖の教えだ。
- 349 **tanebo konna**
タネボ コンナ
今 は
今ここに
- 350 **echi-bashkuma-an hawe**
エチ・バシクマ・アン ハウエ
汝ら・教える・我 声
おまへたちに語り
- 351 **taban na**
タバナン
この ぞ
伝えた。
- 352 **somoka hoku sak**
ソモカ ホク サク
否定 夫 欠く
おまへたちは、よもや
- 353 **menoko utar**
メノコ ウタ
女 たち
夫のない女たちのように
- 354 **echi-ne ruwe taban na**
エチ・ネ ルウェ タバン ナ
汝ら・繋 跡 この ぞ
なつてはなるまい。
- 355 **pirikano**
ピリカノ
良く
よくよく
- 356 **kamui buri**
カムイ ブリ
神 行い
神のしきたり、
- 357 **katkemat buri**
カトケマト ブリ
婦人 行い
淑女の振る舞いを
- 358 **echi-kor kusu**
エチ・コロ クス
汝ら・持つ 由
保つ
- 359 **ne ruwe taban**
ネ ルウェ タバン
繋 跡 この
のだ。
- 360 **ikanebeka**
イカネベカ
決して
犬のような身分の低い者、
- 361 **seta hene**
セタ ヘネ
犬 も
痩せぎすの貧乏人を
- 362 **rit ush kane okai be**
リト ウシ カネ オカイ ベ
筋 ある 同時 ある もの
目にして、
- 363 **echi-nukar ko**
エチ・ヌカラ コ
汝ら・見る 条件
決して
- 364 **or un mina hene**
オロ ウン ミナ ヘネ
所 方向 笑う も
ほほえんだり、
- 365 **itak hene**
イタク ヘネ
言葉 も
言葉をかけた
- 366 **echi-ki kotom an na**
エチ・キ コトム アン ナ
汝ら・する ようである ある ぞ
してはいけない
- 367 **ari hawash chiki**
アリ ハワシ チキ
引用 言われる 条件
と（育ての兄が）言う
- 368 **pon a-kor sapo turanno**
ポン ア・コロ サポ トゥランノ
小さい 我・もつ 姉 ともに
われとちい姉さん*18は
- 369 **utomohosarba-an kane**
ウトモホサラバ・アン カネ
見合う・我ら 同時
顔を見合わせ
- 370 **shiyoro keutum**
シヨロ ケウトウム
驚く 心
驚き、
- 371 **ibashte rambo**
イバシテ ラムボ
気付く 心
また、
- 372 **a-yaikorpore**
ア・ヤイコロパレ
我・見る
気づくところがあつた。
- 373 **konep oyabe**
コネプ オヤベ
繋 よそ者
別の人、
- 374 **konep anuni**
コネプ アヌニ
繋 よそ者
ほかの人が
- 375 **ene asuru ash**
エネ アスル アシ
斯く 噂 立つ
評判が高い
- 376 **hawe ne yakka**
ハウエ ネ ヤッカ
声 繋 譲
と言われても、こんなに
- 377 **tapne a-erayap humi**
タプネ ア・エラヤフ フミ
これである 我・感心する 気配
驚くことはなかつた
- 378 **nishpa kateomare**
ニシパ カテオマレ
長者 慕う
あろう。高貴な郷紳を慕い
- 379 **katkemat kateomare**
カトケマト カテオマレ
婦人 慕う
その夫人を慕う
- 380 **a-ki humi**
ア・キ フミ
我・する 気配
気持ちが
- 381 **okai rok awa**
オカイ ロク アワ
ある 完 展開
われらにはあるが、
- 382 **oroyachiki**
オロヤチキ
驚いたことに
なんと、まあ
- 383 **tantebota**
タンテボタ
じきに
じきに*19
- 384 **shine shinrit**
シネ シンリト
一つの 出自
同じ祖先に
- 385 **ukokor kuni p**
ウココロ クニ プ
ともに持つ 必 もの
連なる者が
- 386 **a-ne hawe okai**
ア・ネ ハウエ オカイ
我・繋 声 ある
いて、
- 387 **eepakita**
エエバキタ
次に
そのうえさらに
- 388 **konep tap reihe**
コネプ タプ レヘ
繋 これ その名
何やら夫といわれる
- 389 **hoku ne wa**
ホク ネ ワ
夫 繋 接
者を、
- 390 **senne bewatekno**
センネ ベワテクノ
否定 虚弱的な
大丈夫の
- 391 **nishpa hoku**
ニシパ ホク
長者 夫
富貴の夫、

*17 ちい兄さん

*18 育ての兄が boro a-tureshi とか a-borotureshi と呼ぶ者。Iyochiunmat の腹から生まれた女。育ての兄の妻の妹

*19 11 行下「得るとのこと」に続く。

- 392 utarpa hoku
ウタラバ ホク
首領 夫
首領たる夫を
- 393 eusa usa
エウサ ウサ
それぞれ 譲
二人がそれぞれ
- 394 a-kor hawe okai chiki
ア・コロ ハウエ オカイ チキ
我・もつ 声 ある 条件
得るとのことで、
- 395 eashka keutum ot ta
エアシカ ケウトウム オト タ
とても 心 所 場
ほんとうに心の中で
- 396 boronno nubetne-an
ボロンノ ヌベトネ・アン
たくさん 喜ぶ・我
うれしかった。
- 397 pon a-kor sapo
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さん
- 398 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤッカ
繋 接 繋 譲
も
- 399 somo i-echutkonno
ソモ イ・エチユトコンノ
否定 我・異なって
われと違うふう*20
- 400 yainu kuni p
ヤイヌ クニ プ
考える 必 もの
思っても
- 401 ne wa ne yakne
ネ ワ ネ ヤクネ
繋 接 繋 条件
よさそうな
- 402 kotom korkaiki
コトム コロカイキ
ようである 逆
ものだが、
- 403 sonno i-nepkor kane
ソンノ イ・ネツコロ カネ
真に 我・ように 同時
われと同じように
- 404 yainu kuni p
ヤイヌ クニ プ
考える 必 もの
思ったに
- 405 kone p ne kusu
コネ プ ネ クス
であるもの 繋 由
違いなく、
- 406 yaisembir-
ヤイセムビリ・
自分の陰
含み笑いを
- 407 omina kane
オミナ カネ
笑う 同時
して
- 408 okai-an awa
オカイ・アン アワ
いる・我 展開
いた。
- 1.3 育ての兄の船出
- 409 shine an to ta
シネ アン ト タ
一つのある 日 場
ある日
- 410 ireshuyubi ene itak i
イレシュユビ エネ イタキ
育ての兄 斯く言う 形名
育ての兄がいうことには、
- 411 koninkarkusu
コニンカルクス
いざいざ
「さて、
- 412 a-tureshi utar
ア・トゥレシ ウタラ
我・妹 たち
妹たちよ
- 413 a-oatchikiri
ア・オアトチキリ
我・片足
わが片足を
- 414 orebun kane
オレブン カネ
沖から 同時
沖に掛け、
- 415 a-oatchikiri
ア・オアトチキリ
我・片足
もう片足を
- 416 oyaun kane
オヤウン カネ
陸から 同時
陸に掛けて
- 417 tono moshiri
トノ モシリ
殿 国土
和人の国に
- 418 a-ochipnere
ア・オチッペレ
我・舟に乗る
船を漕ぎ出し
- 419 uimam-an wa
ウイマム・アン ワ
交易する・我 接
交易し、
- 420 usa amam
ウサ アマム
譲 穀物
米やら
- 421 usa kamtachi
ウサ カムタチ
譲 麴
麴やら
- 422 usa sake
ウサ サケ
譲 酒
酒、
- 423 usa kerambe boronno
ウサ ケラムベ ボロンノ
譲 おいしいもの たくさん
美味しいものを数多く、
- 424 tono kor be
トノ コロベ
殿 持つもの
和人の
- 425 pirika p batek
ピリカ プ バテク
よい もののみ
良き品物ばかりを
- 426 a-uimamkar
ア・ウイマムカラ
我・交易する
購って、
- 427 pirika imoka
ピリカ イモカ
よい 土産
土産として
- 428 boronno a-kor wa
ボロンノ ア・コロ ワ
たくさん 我・もつ 接
たくさん得て、
- 429 yan-an wa
ヤン・アン ワ
陸にあがる・我 接
帰てこよう。
- 430 oro ta tapne
オロ タ タプネ
所 場 これである
そして、わが一族、
- 431 a-utari utar
ア・ウタリ ウタラ
我・人々 たち
近隣の者たちを
- 432 obittano
オビタタノ
皆
皆
- 433 a-tak wa
ア・タク ワ
我・招く 接
招いて
- 434 pirika unukar
ピリカ ウヌカラ
よい 会見
楽しい会食、
- 435 ratchi unukar a-ki
ラトチ ウヌカラ ア・キ
穏やかな 会見 我・する
穏やかな会見をしたい。
- 436 kamuinomi-an
カムイノミ・アン
神に祈る・我
神を祭り、
- 437 shinurapka-an wa
シヌラッパ・アン ワ
先祖を祭る・我 接
先祖を祭り、
- 438 a-eramushinne
ア・エラムシンネ
我・心落ち着く
心を静めたい。
- 439 nei ikir keseke ta
ネ イキリ ケセケ タ
繋 列 末端 場
その式のあとで
- 440 a-ki kusu
ア・キ クス
我・する 由
すべき
- 441 okai be ne kusu
オカイ ベ ネ クス
あるもの 繋 由
ことだが
- 442 a-obittano
ア・オビタタノ
我・すべて
われら皆、
- 443 umurek buri hemem
ウムレク ブリ ヘメム
夫婦 行い も
夫婦の習いも
- 444 a-ki wa
ア・キ ワ
我・する 接
して(配偶者を得て)
- 445 a-eramushinne
ア・エラムシンネ
我・心落ち着く
安心する
- 446 kusune ruwe ne
クスネ ルウエ ネ
意志 跡 繋
ことにしたい。
- 447 pirikanobo
ピリカノボ
どうか
どうか
- 448 yan-an bakno
ヤン・アン バクノ
陸にあがる・我 まで
戻って来るまで
- 449 kamui ewaki
カムイ エウキ
神 住まい
この神の住まいを
- 450 echi-shikkashima
エチ・シッカシマ
汝ら・守る
おまえたち、守って
- 451 kusune na
クスネ ナ
意志 ぞ
いてくれ。」
- 452 ari itak kane
アリ イタク カネ
引用 言う 音調整
と言って、
- 453 keshto uwekarire
ケスト ウウエカリレ
毎日 集める
毎日人を集めて
- 454 kamui chihoki
カムイ チホキ
神 毛皮
熊の毛皮
- 455 yuk chihoki
ユク チホキ
鹿 毛皮
鹿の毛皮を
- 456 chip or un rura
チップ オロ ウン ルラ
舟 所 方向 運ぶ
船に運んだ。
- 457 tonokoshiyukbe
トノコシユクベ
和人と会見する装い
和人ととの会見の装いに
- 458 mashkinteta
マシキンテタ
ますます
ますます
- 459 kamui shiri ne okai wa
カムイ シリ ネ オカイ ワ
神 様子 繋 ある 接
立派になった。

*20 somo を誤記とみなして解釈する。somo があれば「われと同じように」となる。

- 460 tu okkaipo
トゥ オッカイポ
二つの 男の子
二人の
- 461 shino rametok utar
シノ ラメトク ウタラ
まことに 勇者 たち
勇敢な若者を
- 462 shiechibore wa
シエチボレ ワ
乗船させる 接
船に乗り込ませて
- 463 too tono moshiri un
トオ トノ モシリ ウン
はるか 殿 国 土 方向
はるか和人の国へと
- 464 rebun wa baye
レブン ワ バイエ
沖の 接 行く
航海に出た。
- 1.4 うばゆりを掘りに
- 465 okake ta
オカケ タ
あと 場
そのあと、
- 466 shino nishmu-an kane
シノ ニシム・アン カネ
まことに 寂しい・我 同時
すっかり寂しくなって、
- 467 keshto sunke ashbe
ケスト スンケ アッベ
毎日 嘘 うわさ
毎日、あること
- 468 sone ashbe
ソネ アッベ
らしく あること
ないことを
- p. 235
- 469 a-ubarokatata kane
ア・ウバロカタタ カネ
我・おしゃべりする 同時
おしゃべりして
- 470 wem mina hau
ウエム ミナ ハウ
悪い 笑う 声
ふざけて
- 471 wen shinot hau
ウエン シノト ハウ
悪い 遊び 声
わらって
- 472 a-utasare
ア・ウタサレ
我ら・交換する
ともに遊んだ。
- 473 ikarkar-an kor
イカラカラ・アン コロ
刺繍をする・我 持つ
刺繍をすれば
- 474 utashpa
ウタッパ
互いに
お互いに
- 475 a-karkar kuni p
ア・カッカラ クニ ヲ
我・刺繍をする 必 もの
縫ったものを
- 476 a-erasasu kane
ア・エラマス カネ
我・好ましく思う 同時
ほめ合った。
- 477 hetak ta usa
ヘタク タ ウサ
さあ これ 譲
「早く
- 478 ireshuyubi
イレシュユビ
育ての兄
お兄さんが
- 479 yan okai ari
ヤン オカイ アリ
上陸する ある 引用
帰ってくれば」と
- 480 ukoitak-an kane
ウコイタク・アン カネ
話し合う・我ら 同時
言いあって
- 481 okai-an
オカイ・アン
いる・我
過ごした。
- 482 nisatta
ニサッタ
明日
あす
- 483 oyashim hene
オヤシム ヘネ
明後日 も
あざってにも
- 484 ireshuyubi
イレシュユビ
育ての兄
育ての兄の
- 485 yan kuni
ヤン クニ
上陸する 必
船が着くと
- 486 a-ramu i ta
ア・ラム イ タ
我・思う 形名 場
思われたとき、
- 487 pon a-kor sapo
ポン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さんが
- 488 ene itak i
エネ イタキ
斯く言う 形名
言うことには
- 489 koninkarkusu
コニンカルクス
いざいざ
「さあ、
- 490 kamui a-mataki
カムイ ア・マタキ
神 我・妹
われの妹よ、
- 491 itak-an chiki
イタク・アン チキ
言う・我 条件
われの言うことに
- 492 pirikano nu yan
ピリカノ ヌ ヤン
良く 聞く 命令
耳を傾けてください。
- 493 ireshuyubi
イレシュユビ
育ての兄
育ての兄は
- 494 tane tunashno
タネ トウナシノ
今 早く
急いで
- 495 pirka imoka kor wa
ピリカ イモカ コロ ワ
よい 土産 持つ 接
良い土産を携えて
- 496 yan nankoro
ヤン ナンコロ
上陸する だろう
戻ってくるでしょう。
- 497 tambe kusu
タムベ クス
これ 由
そこで、
- 498 tanto shino
タント シノ
今日 まことに
きょうはとでも
- 499 shiri pirika
シリ ピリカ
様子 よい
よい日和の
- 500 hemem ki
ヘメム キ
も する
ようですから、
- 501 ramma chise ot ta batek
ラムマ チセ オト タ バテク
いつも 家 所 場のみ
いつものように家にばかり
- 502 okai-an ko
オカイ・アン コ
いる・我 条件
いるのも
- 503 shino katutoranne-an
シノ カトウトランネ・アン
まことに 気乗りしない・我
とてもつまらなく、頭から
- 504 ekapkamu-an
エカッカム・アン
頭に皮を被る・我
皮を被っているように
- 505 apkoro yainu-an
アッコロ ヤイス・アン
ように 考える・我
うっとうしく思われます。
- 506 tambe kusu
タムベ クス
これ 由
それで、
- 507 a-kor iwor
ア・コロ イウオロ
我・もつ 奥地
わが狩場を
- 508 iworso kurka
イウオロソ クルカ
山奥 上
巡って、
- 509 a-koapkash wa
ア・コアッカシ ワ
我・歩く 接
歩き、
- 510 kamui ratashkep
カムイ ラタシケッ
神 山菜
山菜を
- 511 a-ta kusune
ア・タ クスネ
我・汲む 意志
掘ってきましょう。
- 512 turepta-an
トゥレプタ・アン
ウバユリを採る・我
うばゆりを掘りましょう。
- 513 ireshuyubi
イレシュユビ
育ての兄
育ての兄が
- 514 etoko un wa
エトコ ウン ワ
前方 方向 接
戻る 前に
- 515 ashiri irup a-kar
アシリ イルッア・カラ
新しい 澱粉 我・作る
新しい澱粉を作った
- 516 wa ne yakne
ワ ネ ヤクネ
接 繋 条件
ならば、
- 517 nekona tapne
ネコナ タプネ
どのように これである
どれほど
- 518 ekatnu ruwe
エカトヌ ルウエ
好む 跡
喜ぶでしょう。
- 519 okai nankor a
オカイ ナンコロ
ある だろう 疑
ますますわれらを
- 520 boo i-omap nankor
ボオ イ・オマップ ナンコロ
なおさら 我・可愛がる だろう
愛おしんでくれるでしょう。
- 521 hetak shibimpa-an ro
ヘタク シビムバ・アン ロ
さあ 身支度する・我 勤
さあ、準備しましょう。」
- 522 ari itak kane
アリ イタク カネ
引用 言う 同時
と言いながら、
- 523 pirika hosh hene
ピリカ ホシ ヘネ
よい 脚絆 も
美しい脚絆やら
- 524 tekumbe hene
テクムベ ヘネ
手っ甲 も
手甲やらを
- 525 sanasapte wa
サナサッテ ワ
取り出す 接
取り出して
- 526 shibini ne a p
シビニ ネ ア ヲ
外出の用意をする 繋 完 もの
身のまかないに
- 527 kotekkankari
コテッカカンカリ
手早くおこなう
手を動かした。
- 528 kipnekoroka
キッネコロカ
しかし
だけど、
- 529 orhemkusu
オロヘムクス
いったいどうして
いったいなぜわれは

- 530 yainu-an^{*21} nankor a
ヤイヌ・アン ナンコラ
考える・我 だろう 疑
戸惑いを感じたのだろう。
- 531 pon a-kor sapo
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さんは
- 532 pirika itak ne
ピリカ イタク ネ
よい 言う 繋
良い思いつきと
- 533 ki p ne koroka
キ ッ ネ コロカ
するもの 繋 逆
言ったのだけど、その
- p. 236
- 534 rui rera ne
ルイ レラ ネ
激しい 風 繋
言葉は激しい風のように
- 535 a-kisarmekka
ア・キサラムッカ
我・耳の縁
われの耳のへりを
- 536 chituresu
チテスレ
かすって逸れる
かすめた。
- 537 sonno a-etoranne
ソンノ ア・エトランネ
真に 我・大儀に思う
まったく気乗りしなく、
- 538 moimoike boka
モイモイケ ボカ
動く さえ
体を動かすことも
- 539 a-etoranne kane
ア・エトランネ カネ
我・大儀に思う 同時
うっとうしく
- 540 an-an chiki
アナン チキ
いる・我 条件
思われたが、
- 541 pon a-kor sapo
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さんは
- 542 eashka shino
エアシカ シノ
とても まことに
まったく
- 543 nuchattek
ヌチャットテク
楽しむ
楽しそうに
- 544 tu ban re ban^{*22}
トゥ バン レ バン
二つの 未詳 三つの 未詳
言葉を
- 545 chieushi
チエウシ
とどく
重ね、
- 546 tu mina itak
トゥ ミナ イタク
二つの 笑う 言う
嬉しそうに
- 547 re mina itak
レ ミナ イタク
三つの 笑う 言う
言葉を
- 548 itasare kane
イタサレ カネ
返す 音調整
繰り返す。
- 549 usainetapsui
ウサイネタプスイ
（呼びかけ）
「これは、どうしたこと、
- 550 a-matakipo
ア・マダキポ
我・妹
妹の
- 551 katu toranne
カトゥ トランネ
様子 怠ける
すぐれぬ
- 552 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤッカ
繋 接 繋 譲
様子
- 553 orsaureko
オロサウレコ
とんでもなく
ただごと
- 554 kipa ruwe
キパ ルウェ
する 跡
とは
- 555 okai be ne ya
オカイ ベ ネ ヤ
あるもの 繋 疑
思えない。
- 556 tambe kusu
タムベ クス
これ 由
それなら
- 557 orotunashno
オロトゥナシノ
一刻も早く
今すぐにも
- 558 ekimun baye-an wa
エキムン バイエ・アン ワ
山へ 行く・我 接
山に行きましよう。
- 559 ne wa ne yakne
ネ ワ ネ ヤクネ
繋 接 繋 条件
そうすれば、
- 560 sonno e-nuchakakke^{*23}
ソンノ エ・ヌチャカクケ
真に 汝・愉快になる
すっかり愉快に
- 561 etokush ruwe
エトクシ ルウェ
しようとする 跡
なりましよう
- 562 taban na ari itak kane
タバナン ナ アリ イタク カネ
この ぞ 引用 言う 同時
よ。」と言いながら、
- 563 i-kotetterke
イ・コテテレケ
我・跳びかかる
われに駆け寄り
- 564 i-samake wa
イ・サマケ ワ
我・そば 接
われの横になって
- 565 i-hoshushte
イ・ホシユシテ
我・脚絆を付けさす
脚絆を付けてくれた。
- 566 tekumbe hemem
テクムベ ヘMEM
手っ甲 も
手甲も
- 567 a-tekeunu kane
ア・テケウヌ カネ
我・手ずから付ける 音調整
つけてくれた。
- 568 pirika boro
ピリカ ボロ
よい 大きい
美しく大きな
- 569 saranip hemem
サラニフ ヘMEM
網袋 も
編み袋も
- 570 shiupbakar^{*24} wa
シウフバカラ ワ
網袋に紐をかける 接
背負わせて
- 571 i-sere
イ・セレ
我・背負わせる
くれた。
- 572 a-santekebo
ア・サンテケボ
我・手
われの手を
- 573 amba kane
アムバ カネ
持つ 同時
握って
- 574 mosem tuyor
モセム トウヨロ
玄関納屋 中
玄関納屋へ
- 575 a-eshikirpa
ア・エシキリパ
我・向かう
赴き
- 576 soiwasamne
ソイワサムネ
外へ
家の外に
- 577 a-oshiraipa wa
ア・オシライパ ワ
我・移動する 接
出た。
- 578 inkar-an chiki
インカラ・アン チキ
見る・我 条件
見ると
- 579 eyainumare
エヤイヌマレ
驚く
驚いたことに
- 580 tanebo konna
タネボ コンナ
今 は
いまこそ初めて
- 581 a-ewak ushike
ア・エワク ウシケ
我・住む ところ
わが家の
- 582 soike sama
ソイケ サマ
家の外 そば
たたずまいが
- 583 a-yaiamkire na
ア・ヤイアムキレ ナ
我・知る ぞ
分かった。
- 584 ramno hene
ラムノ ヘネ
低い土地でも
てっきり低い平地の家で
- 585 i-reshpa-an
イ・レシパ・アン
我・育てられる
育てられて
- 586 ruwe ne kuni
ルウェ ネ クニ
跡 繋 必
いるとばかり
- 587 a-ramu rok wa
ア・ラム ロク ワ
我・思う 完 接
思っていたが、
- 588 chibuni tapkop
チブニ タップコフ
盛り上がる 小山
盛り上がる小山が
- 589 chiekantoor-
チエカントオロ・
天
天にそびえ
- 590 suipa kane
スイパ カネ
揺する 音調整
揺れていて
- 591 noshke bakno
ノシケ バクノ
真中 まで
山腹まで
- 592 kunne urar
クンネ ウララ
黒い 霧
黒いもやが

*21 原ノートでは a-yainu と記されている。

*22 金田一は、欄外に「二言モ三言モカサネテイフ」と注記している。tu par re par chieushi 「二つの口、三つの口が続く」ということか。しかし、re pan の -n が説明つかない。

*23 金田一は、欄外に「愉快」と注記している。

*24 「カラガイテ背負フヤウニスル事」との書き込みあり。

- 593 **chikonoipa kane**
チコノイバ カネ
たなびく 音調整
取り巻いている、
- 594 **tapkop ka ta**
タッコフ カ タ
小山 上 場
そんな小山の上に
- 595 **tam boro chise**
タム ボロ チセ
この 大きい 家
わが家は、
- 596 **tam boro chashi**
タム ボロ チャシ
この 大きい チャシ
宏壮な邸は
- 597 **uworeroshki kane**
ウウオレロシキ カネ
重なってそびえる 音調整
そびえていた。
- 598 **nei upsoro**
ネ ウッソロ
繫 内部
その中で
- 599 **a-i-oreshpa ruwe**
ア・イ・オレシパ ルウェ
我・育てられる 跡
われは育てられて
- 600 **ne rok okai**
ネ ロク オカイ
繫 完 ある
いたのだ。
- 601 **chise soinake**
チセ ソイナケ
家 家の外
家の外、
- p. 237*
- 602 **chashi soinake usa**
チャシ ソイナケ ウサ
チャシ 家の外 譲
柵の外は
- 603 **huihuinake**
フイフイナケ
どこもかしこも
どこもかしこも
- 604 **tane eashiri**
タネ エアシリ
今 それこそ
今こそ
- 605 **usa bishkani**
ウサ ビシカニ
譲 周囲
あたり一面について
- 606 **a-koomommomo kane**
ア・コオモムモモ カネ
我・詳述する 音調整
云々。
- 607 **ainu ewaki anakne**
アイヌ エワキ アナクネ
人間 住まい は
これは、人間の住まい
- 608 **oar somone**
オアヲ ソモネ
全く ではない
ではない。
- 609 **kamui ewaki**
カムイ エワキ
神 住まい
神の住まいも
- 610 **chiekasure kane**
チエカスレ カネ
凌ぐ 音調整
凌いでいる。
- 611 **ebosokusu**
エボソクス
なるほど
まことに、
- 612 **teeta kane**
テエタ カネ
以前 音調整
昔、
- 613 **nekona shiko p**
ネコナ シコ プ
どのように 生まれる もの
どのような生まれ、
- 614 **nekona baro p**
ネコナ バロ プ
どのように 口がつく もの
どのような素性であった
- 615 **tapne**
タッネ
これである
からか、
- 616 **a-kor ainu**
ア・コロ アイヌ
我・もつ 男
わが父と
- 617 **a-kor totto utar ne wa**
ア・コロ トット ウタラ ネ ワ
我・もつ 母 たち 繫 接
わが母は
- 618 **a-ekeshke kusu**
ア・エケシケ クス
ねたまれる 由
妬み嫉まれ、
- 619 **tumunchi batek**
トゥムンチ バテク
戦争 のみ
いくさ
- 620 **rorumbe batek**
ロルムベ バテク
戦闘 のみ
あらそいばかりの
- 621 **eritne shukup kici wa**
エリトネ シュクフ キ C イ ワ
つらい 成長する 為す 接
厳しい中での暮らし、
- 622 **ohonno**
オホンノ
しばらく
長いあいだ
- 623 **ainu kotan ot ta**
アイヌ コタン オト タ
人間 村 所 場
人間の村に
- 624 **okai boka**
オカイ ボカ
ある さえ
いることさえ
- 625 **eramubekamam**
エラムベカマム
困難だ
難しかった。
- 626 **tambe kusu**
タムベ クス
これ 由
そこで、
- 627 **orotunashno**
オロトゥナシノ
一刻も早く
早々に
- 628 **somo a-nukar no**
ソモ ア・ヌカラ ノ
否定 我・見る 接
われが見ぬうち
- 629 **kamui moshiri**
カムイ モシリ
神 国土
神の国へ
- 630 **koikeshuipa**
コイケシユイパ
怒り立ち去る
立ち去った
- 631 **hawe okai chiki**
ハウエ オカイ チキ
声 ある 条件
とのことなので
- 632 **a-keutum kashi**
ア・ケウトウム カシ
我・心 上
わが心は
- 633 **chishkot kane**
チシコト カネ
泣く 音調整
泣き、
- 634 **a-shikshutkonna-**
ア・シクシユトコンナ・
我・目頭
目の端から
- 635 **ekobuyuse kane**
エコブユイセ カネ
濡る 音調整
涙があふれた。
- 636 **ekimne toiru**
エキムネ トイル
山に行く 道
山へ伸びる道の
- 637 **toiru kurka**
トイル クルカ
道 上
おもては
- 638 **kokunnatara kane**
コクンナタラ カネ
黒々としている 音調整
黒々として、
- 639 **kurkashike**
クルカシケ
上
その上を
- 640 **a-ne hobumpa**
ア・ネ ホブムパ
我・繫 飛ぶ
われらは走るように
- 641 **kim ta baye-an**
キム タ バイエ・アン
山 場 行く・我
登っていった。
- 642 **ineapkusu**
イネアプクス
何と
何ともはや、
- 643 **a-kor iwor**
ア・コロ イウオロ
我・もつ 奥地
わが狩場、
- 644 **iworso kashi**
イウオロソ カシ
山奥 上
狩場の上は
- 645 **pirika wa**
ピリカ ワ
よい 接
美しい
- 646 **shiran nankor a**
シラン ナンコラ
有様である だろう 疑
ことか。
- 647 **pirika kenash**
ピリカ ケナシ
よい 木原
美しい
- 648 **kenashso kurka**
ケナシソ クルカ
木原 上
木原が
- 649 **kotesnara**
コテシナラ
滑っていく
広がっている。
- 650 **anramasu**
アンラマス
まったく好ましい
心立つ思いが
- 651 **a-uwesuye kane**
ア・ウウエスイエ カネ
我・思う 同時
胸を騒がした。
- 652 **kenashso rabok**
ケナシソ ラボク
木原 間
林野の下に
- 653 **si-y-erapete**
シイ・イエラフテ
降りる
降り立った。
- 654 **a-ye manu turep**
ア・イエ マヌ トウレフ
言われる という ウバユリ
うばゆりと呼ばれる
- 655 **ratashkep**
ラタシケフ
山菜
山の幸が
- 656 **neita bakno**
ネイタ バクノ
繫 まで
どこまでも
- 657 **sar ikir teshnatara**
サラ イキリ テシナタラ
芦原 列 平らである
芦原のように広がっていた。

1.5 惨劇

- 658 **oro wano turepta-an**
オロ ワノ トウレフタ・アン
所 から ウバユリを採る・我
それからうばゆりを掘った。
- 659 **pon a-kor sapo batek**
ボン ア・コロ サポ バテク
小さい 我・もつ 姉 のみ
ちい姉さんばかりが
- 660 **mina hawe**
ミナ ハウエ
笑う 声
笑ったり、
- 661 **itak hawe**
イタク ハウエ
言う 声
話したり
- 662 **bebunitara**
ベブニタラ
騒がしい
した。

- 663 kipnekoroka
キップネコロカ
しかし
だけど、
- 664 itak boka
イタク ボカ
言葉 さえ
われは、口を利くのさえ
- 665 a-etoranne wa
ア・エトランネ ワ
我・大儀に思う 接
億劫だった。
- p. 238
- 666 tashkush kuni
タシクシ クニ
息をする 必
息を
- 667 maukush kuni
マウクシ クニ
息をする 必
漏らすのも
- 668 a-yaikoseshke kane
ア・ヤイコセシケ カネ
我・ふさぐ 同時
止めて
- 669 turepta-an
トゥレプタ・アン
ウバユリを探る・我
うばゆりを掘った。
- 670 turepecha-an
トゥレペチャ・アン
ウバユリの茎を落とす・我
うばゆりの茎を落として
- 671 boro saranip
ボロ サラニフ
大きい 網袋
大きな編み袋を
- 672 eusa a-shikte wa
エウサ ア・シクテ ワ
それぞれ 我・満たす 接
それぞれいっぱいにして
- 673 a-shupbakar
ア・シュフバカラ
我・縛る
荷縄に縛って
- 674 tane a-benramu
タネ ア・ベンラム
今 我・胸
胸に
- 675 a-tareokte
ア・タレオクテ
我・荷縄をかける
荷縄を掛けた。
- 676 a-eyayeni kusu
ア・エイエイニ クス
我・立ち上がる 由
立ち上がろうと
- 677 iki-an awa
イキ・アン アワ
する・我 展開
すると、
- 678 raboki ta
ラボキ タ
間 場
そのとき
- 679 seenne nak sui
セエンネ ナク スイ
否定 未詳 再び
まさか
- 680 shiri ki kuni
シリ キ クニ
様子 する 必
そんなことを
- 681 humash kuni
フマシ クニ
気配がする 必
思いも
- 682 a-ramu rok i
ア・ラム ロク イ
我・思う 完 形名
しなかったのに、
- 683 nep a-ekambakka
ネフ ア・エカムバッカ
繁 我・警戒する
何にも警戒し
- 684 somokino
ソモキノ
しないうちに
なかったのに、
- 685 arekushkonna
アレクシコンナ
突然
突然、
- 686 i-oshmake wa
イ・オシマケ ワ
我の・背後 接
私の後ろから、
- 687 pon a-kor sapo
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さんが
- 688 a-bakeushbe
ア・バケウシベ
我・髪
わが髪を
- 689 tekonoipa
テッコノイパ
手に絡める
手に絡めて、
- 690 a-shikehe wa
ア・シケヘ ワ
我・荷物 接
わが荷のほうから
- 691 i-shikoetaipa
イ・シコエタイパ
我・引き寄せる
われを引き寄せ、
- 692 bokna so ne
ボクナ ソ ネ
下方の 平面 繫
地べたへ
- 693 i-shirekatta
イ・シレカタ
我・引きずり寄せる
引きずり倒した。
- 694 kurkashike
クルカシケ
上
その上さらに
- 695 tanarka itak
タナッカ イタク
この痛い 言葉
激しい罵りを
- 696 i-koteshere hawe
イ・コテシエレ ハウエ
我・浴びせる 声
われに浴びせ
- 697 ene okai i
エネ オカイ イ
斯くある 形名
こう言った。
- 698 koninkarkusu
コニンカルクス
いざいざ
さあ、
- 699 a-wemmataki
ア・ウエムマタキ
我・悪妹
わが悪しき妹、
- 700 a-otuiike
ア・オトウイイケ
我・尻の切れた者
割れ目っ子。
- 701 itak-an chiki
イタク・アン チキ
言う・我 条件
わが言うことを
- 702 pirikano nu yan
ピリカノ ヌ ヤン
良く 聞く 命令
よく聞け。
- 703 shino shino
シノ シノ
まことに まことに
まこと、おまえに
- 704 e-pirikare-an kusu
エ・ピリカレ・アン クス
汝・良くする・我 由
良くしてやろうと、
- 705 taban ushike ta
タバン ウシケ タ
この ところ 場
おまえをここに
- 706 e-tura-an
エ・トゥラ・アン
汝・同行する・我
連れてきた
- 707 ruwe ne nankor a
ルウェ ネ ナンコラ
跡 繫 だろう 疑
と夢思うな。
- 708 chitoikoraike
チトイコライケ
殺害
おまえをぶち殺そうと
- 709 e-ekarkar-an kusu
エ・エカカラ・アン クス
汝・為す・我 由
ひどく殺そうと
- 710 e-tura-an ruwe taban
エ・トゥラ・アン ルウェ タバン
汝・同行する・我 跡 この
連れてきたのだ。
- 711 a-wenmataki
ア・ウエンマタキ
我・悪妹
憎むべき
- 712 a-otuiike batek
ア・オトウイイケ バテク
我・尻の切れた者 のみ
わが割れ目娘ばかりが
- 713 katkemat batek
カトケマト バテク
婦人 のみ
淑女の気品、
- 714 shiretok batek
シレトク バテク
美貌の人 のみ
美貌、仕事ぶりと
- 715 teketok ne wa kusu
テケトク ネ ワ クス
手先が器用だ 繫 接 由
三拍子備わっている。
- 716 Iyochi un a-yubutari
イヨチ ウン ア・ユブタリ
地名 ある 我・兄たち
イヨチのわが兄たちは
- 717 inkinebe
インキネベ
どちら
いずれをとつても
- 718 urabokkari
ウラボクカリ
優劣がある
優劣が
- 719 somokino
ソモキノ
しないうちに
なく、
- 720 usa rametok
ウサ ラメトク
譲 勇者
度胸も
- 721 usa shiretok
ウサ シレトク
譲 美貌の人
容貌も
- 722 usa bawetok
ウサ バウエトク
譲 雄弁
弁の才にも
- 723 kor nankor yakka
コロ ナンコロ ヤッカ
持つ だろう 譲
恵まれているが、
- 724 somo a-nukar yakka
ソモ ア・ヌカラ ヤッカ
否定 我・見る 譲
見なくとも
- 725 poniunekur
ポニウネクル
下の弟
一番下の弟が
- 726 iyotta nep ne yakka
イヨッタ ネフ ネ ヤッカ
最も 繫 譲
何にせよ
- 727 ot ta pirika i
オト タ ピリカ イ
所 場 よい 形名
良きところで
- 728 eikaun kuni a-ramu
エイカウン クニ ア・ラム
勝る 必 我・思う
勝っていると思われる。
- 729 tambe kusu
タムベ クス
これ 由
そこで
- p. 239
- 730 a-wemmataki tura
ア・ウエムマタキ トウラ
我・悪妹 ともに
わが憎き妹とともに
- 731 utomnukar wa
ウトムヌカラ ワ
結婚する 接
見合いですれば、
- 732 ne a yakne
ネ ア ヤクネ
繫 完 条件
われではなくおまえが

- 733 shino a-e-ikoituipa
シノ ア・エ・イコイトウイパ
まことに 汝・妻に望まれる
末弟に望まれるに
- 734 kuni a-ramu
クニ ア・ラム
必 我・思う
違いな。
- 735 tambe kusu
タムベ クス
これ 由
それゆえ
- 736 e-raike-an wa
エ・ライケ・アン ワ
汝・殺す・我 接
おまえを殺し、
- 737 e-isam yakne
エ・イサム ヤクネ
汝・いない 条件
おまえがいなくなれば、
- 738 pon Iyochiunkuru
ボン イヨチウンクル
小さい イヨチ人
われがイヨチの末弟と
- 739 aokai a-hekote
アオカイ ア・ヘコテ
我 我・連れ添う
結ばれる
- 740 eashkai ruwe ne
エアスカイ ルウェ ネ
できる 跡 繋
ことになる。
- 741 aokai ka tashi
アオカイ カ タシ
我 強調
われだって
- 742 shiretok^{*25} a-ne
シレトク ア・ネ
美貌の人 我・繋
十分に美しく、
- 743 teketok a-ne
テケトク ア・ネ
手先が器用だ 我・繋
手さばきにも巧みで、
- 744 katkemat ane ne
カトケマト アネ ネ
婦人 細い 繋
淑女の名に値するんだよ。」
- 745 ari itak kane
アリ イタク カネ
引用 言う 同時
と言って、
- 746 bokna so ne
ボクナ ソ ネ
下方の 平面 繋
私を地べたに
- 747 i-shirekatta
イ・シレカッタ
我・引きずり寄せる
引き倒した。
- 748 sonno homatu ruibe
ソンノ ホマトウ ルイベ
真に 驚く 激しいもの
私は
- 749 a-ne p ne kusu
ア・ネ プ ネ クス
我・繋もの 繋 由
とても驚いて
- 750 arbutanki
アッベウタンキ
激しい危急の叫び
一声
- 751 a-ekususuye kane
ア・エクススイエ カネ
我・声を振り絞る 同時
大声で叫び
- 752 matke-an kushne ko
マトケ・アン クシネ コ
立ち上がる つもりである 条件
起き上がろうとすると、
- 753 i-toikokishma
イ・トイコキシマ
我・きつく抱く
われをギュッと抱きしめ、
- 754 pon seppaumbe
ボン セッパウムベ
小さい 小刀
小刀を
- 755 sawekatta
サウエカタ
取り出す
懐からとりだし、
- 756 i-toikotauki
イ・トイコタウキ
我・激しく斬る
われにひどく切りつけた。
- 757 konepkeukata
コネツケウカタ
何ということか
コネツケウカタ
- 758 konepkashita
コネツカシタ
何としたことか
コネツケウカタ
- 759 tanebo konna
タネボ コンナ
今 は
今こそ、
- 760 arka kuni p
アッカ クニ プ
痛い 必 もの
痛みというものを
- 761 a-yaiamkire
ア・ヤイアムキレ
我・知る
われは知った。
- 762 a-chishhaukonna-
ア・チシハウコンナ・
我・泣く声
われがあげる
- 763 tununitara
トゥヌニタラ
美しい音が響く
悲鳴が響く。
- 764 ayabo ari
アヤボ アリ
感 引用
ア一痛い、
- 765 oyoyo ari
オヨヨ アリ
感 引用
オ一痛い
- 766 itak-an kane
イタク・アン カネ
言う・我 同時
言いながら、
- 767 pon a-kor sapo
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さんの
- 768 tek tuibok wa
テクトウイボク ワ
手 すぐ下 から
刀持つ手を
- 769 tek tuika wa
テクトウイカ ワ
手 上 から
かわし
- 770 kari-an kane
カリ・アン カネ
まわる・我 同時
ながら、
- 771 itak-an hawe
イタク・アン ハウエ
言う・我 声
こう
- 772 ene okai i
エネ オカイ イ
斯くある 形名
言った。
- 773 koinkar kusu
コインカラ クス
見守る 由
「マー
- 774 pon a-kor sapo
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さんよ、
- 775 keke hetak
ケケ ヘタク
さあ さあ
さあ、
- 776 chisaurere wa
チサウレレ ワ
穏やかなになる 接
穏やかな
- 777 shiknu chikoiki
シクヌ チコイキ
生きている いじめ
死に至らない折檻に
- 778 i-y-ekarkar wa
イ・イエカカラ ワ
我・する 接
留めて
- 779 i-kore kunak
イ・コレ クナク
我・与える 引用
ください、
- 780 ramu yan
ラム ヤン
思う 命令
どうか。
- 781 sonno ene he tapne
ソンノ エネ ヘ タツネ
真に 斯く疑 これである
今まで
- 782 pon a-kor sapo
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さんはわが成長に
- 783 shukup turashi i-omap
シュクプ トウラシ イ・オマツ
成長する 沿って 我・可愛がる
合わせてわれを愛し、
- 784 sambe etok ne
サムベ エトク ネ
心臓 前方 繋
心臓の先にわれを置いて
- 785 i-omare shiri okai
イ・オマレ シリ オカイ
我・入れる 様子 ある
くれたではないですか。
- 786 tambe kusu
タムベ クス
これ 由
それゆえ、
- 787 aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤッカ
我 繋 譲
われも
- 788 ponno boka wenno
ボンノ ボカ ウェンノ
少し さえ 悪く
少しも
- 789 pon a-kor sapo
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さんを
- 790 a-ebokpa somoki
ア・エボクパ ソモキ
生まれる しない
憎んだ
- 791 ruwe ne awa
ルウェ ネ アワ
跡 繋 展開
ことはない。

p. 240

792 pon Iyochiunkuru

ボン イヨチウンクル
小さい イヨチ人
小イヨチ人である

793 pon a-kor yubi

ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
ちいさな兄さんは

794 nekona shiko p

ネコナ シコ プ
どのように 目がつくもの
どんな顔立ち、

795 nekona baro p ne wa

ネコナ バロ プ ネ ワ
どのように 目がつくもの 繋 接
どんな目鼻立ちなのか

796 obittano

オビタノ
皆
だれも

797 naa somo a-nukar be

ナア ソモ ア・ヌカラ ベ
まだ 否定 我・見るもの
まだ見てはいない者を

798 hoku ne e-kon rusui

ホク ネ エ・コン ルスイ
夫 繋 汝・持つ 欲
夫に欲しいと

799 tambe kusu

タムベ クス
これ 由
姉さんが望んで

800 kimun iwor

キムン イウオロ
山の奥地 奥地
山の狩場の

*25 to atode

- 801 iworso ka ta
イウオロソ カ タ
山奥 上 場
中で
- 802 e-i-raike yakne
エ・イ・ライケ ヤクネ
汝・我・殺す 条件
われを殺すならば
- 803 wen rai toi rai
ウエン ライ トイ ライ
悪い 死ぬ 土 死ぬ
酷い死を、鳥に
- 804 chikapera^{*26}
チカペライ
未詳
ついはまれるような死を
- 805 a-ki a chiki
ア・キ ア チキ
我・する 完 条件
われが遂げると
- 806 kamui orwano
カムイ オロワノ
神 始点
神から
- 807 chiarbanakte
チア^ラバナクテ
ひどく罰せられる
姉さんは
- 808 e-ekarkar-am be
エ・エカ^ラカラ・アム ベ
汝・される もの
ひどく罰せられる
- 809 somone ya
ソモネ ヤ
ではない 疑
のではないか
- 810 pon Iyochiunkuru
ボン イヨチウンクル
小さい イヨチ人
小イヨチ人が
- 811 e-kon rusui
エ・コンルスイ
汝・持つ 欲
欲しい
- 812 shiri hawe ne
シリ ハウエ ネ
様子 声 繋
という
- 813 ko anakne
コ アナクネ
条件 は
のなら
- 814 nubetnenno
ヌベトネノ
喜んで
喜んで
- 815 e-kore-an kushune na
エ・コレ・ア^ンクシュネ ナ
汝・与える・我 すべき ぞ
姉さんに譲ります。
- 816 pon a-kor sapo
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さん、
- 817 ushirikorobe^{*27}
ウシリコロベ
同じ先祖を持つ者
われらは
- 818 a-ne a na
ア・ネ ア ナ
我・繋 完 ぞ
同族ではありませんか。
- 819 ikanebeka
イカネベカ
決して
決して手荒にあつかつて
- 820 huchi upsorka
フチ ウツソロカ
祖母 貞操の帯
女の印、
- 821 totto upsor
トトト ウツソロ
母 内部
祖母、母から伝わる
- 822 base upsorka
バセ ウツソロカ
重い 貞操の帯
尊い帯を
- 823 e-i-kochari
エ・イ・コチャリ
汝・我・散らす
めちやくちやに
- 824 kotomno an na
コトムノ アン ナ
ように ある ぞ
しないでください。
- 825 nekon ka ne wa
ネコン カ ネ ワ
どのようにも 繋 接
どうか
- 826 chishiknukoiki wa
チシクヌコイキ ワ
生きて罰を受ける 接
死なない程度の
- 827 i-kore yan
イ・コレ ヤン
我・与える 命令
折檻に留めてください。
- 828 ene he tapne
エネ ヘ タプネ
斯く 疑 これである
あんなに
- 829 ireshuyubi
イレシュユビ
育ての兄
育ての兄さんが
- 830 i-omap shiri
イ・オマツ シリ
我・可愛がる 様子
われを慈しんで
- 831 okai rok awa
オカイ ロク アワ
ある 完 展開
くれたのですよ。
- 832 sembirke ta
セムビリケ タ
陰 場
隠れて
- 833 tap korachi e-i-kar
タプ コラチ エ・イ・カラ
これように 汝・我・為す
こんなことをして、
- 834 rai-an wa
ライ・アン ワ
死ぬ・我 接
われが死んで
- 835 isam-an chiki
イサム・アン チキ
死ぬ・我 条件
いなくなったら
- 836 ireshuyubi
イレシュユビ
育ての兄
育ての兄は生きて
- 837 etusa p he an
エトウサツ ヘ アン
回復する もの 疑 ある
いられるでしょうか。」
- 838 ari itak-an kane
アリ イタク・アン カネ
引用 言う・我 同時
と言いながら
- 839 a-koyaiunashke kane
ア・コヤイウナシケ カネ
我・謝る 同時
許しを請って
- 840 yayeikishma-an
ヤイエイクシマ・アン
しがみつく・我
しがみついた。
- 841 kipnekoroka
キプネコロカ
しかし
だけでも
- 842 ponno ka nu somokino
ボンノ カ ヌ ソモキノ
少し も 聞かれないうちに
少しも耳をかさず
- 843 inerokbekusu
イネロクベクス
感
なんとまあ、
- 844 tumkor wa
トゥムコロ ワ
力がある 接
ちい姉さんの力の
- 845 humash nankor a
フマシ ナンコラ
気配がする だろう 疑
あることか。
- 846 ene he tapne
エネ ヘ タプネ
斯く 疑 これである
このように
- 847 aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤッカ
我 繋 譲
われも
- 848 nekon boka
ネコン ボカ
どのように さえ
なんとか
- 849 iki-an wa
イキ・アン ワ
する・我 接
がんばって
- 850 pon a-wensapo
ボン ア・ウエンサポ
小さい 我・悪い妹
恐ろしいちい姉さんの
- 851 santeke wa
サンテケ ワ
腕 から
手を
- 852 ebittek-an rusui
エビテック・アン ルスイ
逃れる・我 欲
振りほどこうとした。
- 853 tambe kusu
タムベ クス
これ 由
それで
- 854 tek tuika wa
テック トウイカ ワ
手 上 から
姉の腕の上、
- 855 tek tuibok wa
テック トウイボク ワ
手 すぐ下 から
腕の下へと
- 856 riten bunkau ne
リテン ブンカウ ネ
軟かい 蔓 繋
しなやかな蔓のように

p. 241

857 a-konoitanke kane
ア・コノイタンケ カネ
我・からみつく 同時
絡みついた858 iki^{*28} yakka
イキ ヤッカ
する 譲
けれど、859 tane anakne
タネ アナクネ
今 は
今や860 i-rauneotke
イ・ラウネオトケ
我・深く刺す
われを深く刺し、861 i-kashreotke
イ・カシレオトケ
我・浅く刺す
また、浅く刺した。862 a-sarambekuchi
ア・サラムベクチ
我・絹の帯
わが絹の帯が863 i-kotuitekka
イ・コトウイテッカ
我・切れる
ブツと切れた。864 a-mi chikirbe
ア・ミ チキリベ
我・着る 刺繍衣
わが着物が

*26 chikap erai「鳥によって死ぬ」とも読めるが、あるいは遺体が鳥に啄まれる情景か。

*27 「同胞」「兄弟」との金田一による書き込みあり。

*28 -an は金田一が補ったもの

- 865 i-kobetpa
イ・コベトバ
我・裂く
裂け
- 866 i-koyashpa kane
イ・コヤシパ カネ
我・破る 音調整
破れた。
- 867 a-birpake bake wa
ア・ビツパケ バケ ワ
我・傷がしら 先頭 から
傷口の先も
- 868 a-birkese wa
ア・ビツケセ ワ
我・傷末 から
傷口の末も
- 869 tatkararse
タトカララセ
樺皮が巻き込む
樺の皮が巻き込む
- 870 ekannayukar
エカンナユカラ
ようである
ように痛んだ。
- 871 ayabo ari
アヤボ アリ
感 引用
ああ、痛い
- 872 oyoyo ari
オヨヨ アリ
感 引用
ああ、苦しいと
- 873 a-chishhaukonna-
ア・チシハウコンナ・
我・泣く声
われれの泣くこえが
- 874 tununitara
トゥヌニタラ
美しい音が響く
鳴り響いた。
- 875 a-kon ram konna
ア・コン ラム コンナ
我・もつ心 は
わが心は
- 876 turushtara
トゥルシタラ
垢まみれになる
ポロポロになった。
- 877 kunne toshiri
クンネ トシリ
暗い 洞穴
暗い洞窟の
- 878 toshiri asam
トシリ アサム
洞穴 底
底に
- 879 a-i-y-eotke^{*29}
ア・イ・イエオトケ
我・突き落とされる
われは突き落とされた
- 880 semkorachi
セムコラチ
まるで(する)ように
かのように
- 881 nekon ne ya
ネコン ネヤ
どのように 繫 疑
何がなにやら

- 882 a-attaraye
ア・アトタライエ
我・気絶する
気を失ってしまった。

第2章 月の女神

2.1 月の女神の家で

- 883 mokor he tapne
モコロ ヘ タプネ
眠る 疑 これである
眠ったのか
- 884 rai he tapne
ライ ヘ タプネ
死ぬ 疑 これである
死んだのか、
- 885 setakno hetap
セタクノ ヘタプ
長い時間に これ
瞬時のことなのか、
- 886 irukai hetap ne
イルカイ ヘタプ ネ
しばらくの間 これ 繫
長い時を経たのか、
- 887 a-ki humi
ア・キ フミ
我・する 気配
何をしているのか
- 888 an-ekonramu-
アネコンラム・
我・持つ心
わからなく
- 889 tanak kane
タナク カネ
うつらうつらする 音調整
なった。
- 890 turush kane
トゥルシカネ
激しい 音調整
意識がもうろうとなった。
- 891 ine nep hawe
イネ ネプ ハウエ
接どこ 繫 声
どうした
- 892 ine nep humi
イネ ネプ フミ
接どこ 繫 気配
わけか、
- 893 tu utur sama
トゥ ウトゥル サマ
二つの 間 そば
ときおり
- 894 re utur sama
レ ウトゥル サマ
三つの 間 そば
何度も
- 895 koyaimososa^{*30}
コヤイモソサ
起きる
目覚めようと
- 896 a-ki kushne ko
ア・キ クシネ コ
我・する つもりである 条件
したが、

- 897 tu takar sone
トゥ タカラ ソネ
二つの 夢 らしく
多くの

- 898 re takar sone
レ タカラ ソネ
三つの 夢 らしく
夢を

- 899 a-uweomante aine
ア・ウウェオマンテ アイネ
我・互に行かせる 接
見続けているうちに、

- 900 hunakpaketa
フナクパケタ
あるとき
ふとあるとき

- 901 a-yaisshikarun
ア・ヤイシカルン
我・正気に返る
われは覚醒した。

- 902 inkar-an awa
インカラ・アン アワ
見る・我 展開
見回すと

- 903 seenne ka sui
セエンネ カ スイ
否定 も 再び
こんなものを

- 904 inkar-an kuni
インカラ・アン クニ
見る・我 必
見ようとは

- 905 a-ramu awa
ア・ラム アワ
我・思う 展開
思わなかった

- 906 kani chise
カニ チセ
黄金 家
金の家、

- 907 tam boro chise
タム ボロ チセ
この 大きい 家
宏壮な家の

- 908 upsoroho
ウツソロホ
内部
内部で

- 909 a-koshikmaka
ア・コシクマカ
我・目を開ける
目を開けたのだった。

- 910 oribak tura
オリバク トウラ
畏まる とともに
恐る恐る

- 911 inkar-an chiki
インカラ・アン チキ
見る・我 条件
見ると

- 912 tam boro chise
タム ボロ チセ
この 大きい 家
大きな家の

- 913 upsororke
ウツソロロケ
懐の中
内部の

- 914 iyoma ruwe
イヨマ ルウエ
家内部を宝物で飾る 跡
設えは

- 915 oar oar
オアラ オアラ
全く 全く
まったく

- 916 ainu ewaki
アイヌ エワキ
人間 住まい
人の住まうところ

- 917 somone ruwe
ソモネ ルウエ
ではない 跡
ではないと

- 918 usetara a-eraman
ウセタラ ア・エラマン
はっきり 我・知る
はっきり理解した。

- 919 kani so kurka
カニ ソ クルカ
黄金 平面上
金の床が

- 920 teshnatara
テシナタラ
平らである
平らで、

- 921 kani inumbe
カニ イヌムベ
黄金 妒縁
金の妒縁の

- 922 baye ruwe konna
バイエ ルウエ コンナ
行く 跡 は
伸びる様は

- 923 maknatara
マクナタラ
輝いている
輝かしかった。

- 924 oshisoun
オシソウン
右座の
右座の

- 925 abe teksam ta
アベ テクサム タ
火 すぐそば 場
火のそばに

p. 242

- 926 pon urar tapkop
ボン ウララ タツコフ
小さい 霧 小山
小さな霧の小山が

- 927 chishireanu
チシレアヌ
おかれる
立っていた。

- 928 nekon ne shiri
ネコン ネ シリ
どのように 繫 様子
どうしたわけで

- 929 ne nankor a
ネ ナンコラ
繫 だろう 疑
あろうか、

*29 現ノートでは aieyeotke。

*30 金田一、末尾の a を o と改める。

- 930 urar tumu
ウラ ヲトム
霧 中
霧の中は
- 931 kunne urar
クンネ ウラ
黒い 霧
黒い霧、
- 932 hure urar
フレ ウラ
赤い 霧
赤い霧、
- 933 retar urar
レタ ヲラ
白い 霧
白い霧が
- 934 chiukoboye kane
チウコボイェ カネ
混ざっている 音調整
混じり合っている。
- 935 nei tumuke^{*31}
ネ トムケ
繫 中
その中に
- 936 kamui imeru
カムイ イメル
神 光
神々しい光が
- 937 chup kiyai ne
チュ ヰキヤイ ネ
月 光 繫
月の光線のように
- 938 ekiyairoshki
エキヤイロシキ
立つ
立って
- 939 roshki semkorachi
ロシキ セムコラチ
立っている まるで(する)ように
いるかのようだった。
- 940 harkiso ne
ハラソ ネ
左座 繫
われは左座で
- 941 an-eshituri
アネシトゥリ
我・伸びをする
体を伸び伸びさせた。
- 942 pirika sotki
ピリカ ソトキ
よい 寝床
われは暖かい
- 943 sotki ka ta
ソトキ カ タ
寝床 上 場
寝床の上の
- 944 ri chienunui^{*32}
リ チエヌイベ
高い 枕
高い枕に
- 945 a-eoma kane
ア・エオマ カネ
我・頭を乗せる 音調整
頭を載せていた。
- 946 a-koyai shikarun
ア・コヤイシカルン
我・気が付く
われに返った。
- 947 a-ne ike tapne
ア・ネ イケ タプネ
我・繫 こと これである
われのどこに
- 948 biro rok wa
ビロ ロク ワ
傷がつく 完 接
傷があつて
- 949 arka humi
アラカ フミ
痛い 気配
痛んでいた
- 950 okai rok wa
オカイ ロク ワ
ある 完 接
のか、
- 951 teeta kamka
テエタ カムカ
以前 皮膚
以前のように
- 952 a-i-y-eunu noine
ア・イ・イエウヌ ノイネ
我・傷口が盛り上がる らしく
肉が盛り上がっていた。
- 953 a-ebittano
ア・エビタノ
我・すべて
体中
- 954 ponno boka
ボンノ ボカ
少し さえ
少しも
- 955 arka somokino
アラカ ソモキノ
痛い しないうちに
痛くない。
- 956 shino tumashnu-an
シノ トウマシヌ・アン
まことに 元気になる・我
力が漲っていた。
- 957 nekon ne shiri
ネコン ネ シリ
どのように 繫 様子
どうした
- 958 ne nankor a
ネ ナンコラ
繫 だるう 疑
ことか、
- 959 aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤッカ
我 繫 譲
われもまた
- 960 shiso sam ne
シソ サム ネ
右座 そば 繫
右座に
- 961 ehorarpa
エホララパ
居る
座る
- 962 kanakankunip
カナカクニ
何者か
何者か
- 963 okai ruwe
オカイ ルウェ
ある 跡
のいつまい
- 964 arukorachino
アルコラチノ
そっくりに
とそっくりに
- 965 i-bishkanike
イ・ビシカニケ
我・周囲
わが周囲に
- 966 kamui imeru
カムイ イメル
神 光
神々しい光が
- 967 uweshimaka kane
ウエシマカ カネ
盛んに光る 音調整
輝き、
- 968 shino iyoyamokte-an
シノ イヨヤモクテ・アン
まことに 不思議に思う・我
怪訝に思った。
- 969 tambe kusu
タムベ クス
これ 由
そこで
- 970 a-yaitumamka
ア・ヤイトウマムカ
我・体の上
体の上に
- 971 koihuimampa-an wa
コイフイマムパ・アン ワ
未詳 接
傷でも負ってはいないかと
- 972 inkar-an ko
インカラ・アン コ
見る・我 条件
見てみると
- 973 nekon ne ruwe ne
ネコン ネ ルウェ ネ
どのように 繫 跡 繫
どうした
- 974 nankor a
ナンコラ
だるう 疑
ことか、
- 975 hoboknashi
ホボクナシ
下の方から
下の方から
- 976 kam tutanu
カム トウタヌ
肉 次々
肌へ直に
- 977 kani ya mour
カニ ヤ モウル
黄金 疑 女性の肌着
鎖かたびらの肌着を
- 978 a-mi kane
ア・ミ カネ
我・着る 同時
着ていて
- 979 nei kashike wa
ネ カシケ ワ
繫 上 から
その上から
- 980 kani kosonte
カニ コソント
黄金 小袖
金の小袖を
- 981 nina^{*33} imi ne
ニナ イミネ
薪を集める 着物 繫
普段着のようにして
- 982 a-utomechiu
ア・ウトメチウ
我・着物を着る
まとっていた。
- 983 imi kashi wa
イミ カシ ワ
着物 上 から
その着物の上
- 984 kani kosonte
カニ コソント
黄金 小袖
金の小袖の
- 985 kotbar ka ta
コトバラ カ タ
襟元 上 場
襟元にも
- 986 chinki ka ta
チンキ カ タ
裾 上 場
裾にも
- 987 sep birankani
セフ ビランカニ
幅広い 平金
幅の広い平金が
- 988 chiekarbare kane
チエカラバレ カネ
取り囲む 音調整
取り付けられている。
- p. 243
- 989 birankani kurka
ビランカニ クルカ
平金 上
平金の表面は
- 990 tu kani shiriki
トゥ カニ シリキ
二つの 黄金 模様
二つの金の模様、
- 991 re kani shiriki
レ カニ シリキ
三つの 黄金 模様
三つの金の模様が
- 992 chietomte
チエトムテ
輝いている
あしらわれていた。
- 993 kosonte kurka
コソント クルカ
小袖 上
小袖の表面には、

*31 原文は tumike となっている。

*32 幌別方言では chienunumbe となること。ユ集 I. しかし、『アイヌ語方言辞典』にはこの形が乗っている。沙流方言では chienunibe であろうか。

*33 現ノートでは nena と記されている。

- 994 shikarichup noka
シカリチュフ ノカ
満月 形
三日月の形と
- 995 ninchup noka
ニンチュフ ノカ
新月 形
新月の形が
- 996 chietomte
チエトムテ
離れている
あしらわれていた。
- 997 kurkashike
クルカシケ
上
その上に
- 998 tu kamui chupki
トゥ カムイ チュフキ
二つの 神 光
二つの神々しい光、
- 999 re kamui chupki
レ カムイ チュフキ
三つの 神 光
三つの神々しい光が
- 1000 uweshimaka
ウエシマカ
盛んに光る
まぶしく輝いていた。
- 1001 tambe kusu
タムベ クス
これ 由
それで
- 1002 shinnaino
シンナイノ
違つて
われを包むもやも
- 1003 a-urarihi an wa
ア・ウラリヒ アンワ
我・もや ある 接
すっかり違つていて
- 1004 a-oyamokte i
ア・オヤモクテ イ
我・不思議に思う 形名
不審の念をもよおすものと
- 1005 ne rok okai
ネ ロク オカイ
繫 完 ある
なつていた。
- 1006 hoshkino
ホシキノ
先に
先に
- 1007 a-mi rok be
ア・ミ ロク ベ
我・着る 完 もの
着ていたものは、
- 1008 shinep boka
シネフ ボカ
一つ さえ
一枚も
- 1009 somo a-mi kane
ソモ ア・ミ カネ
否定 我・着る 音調整
身につけていなかった。
- 1010 eashka homatu rui be
エアシカ ホマトウ ルイ ベ
とても 驚く 激しい もの
われはほんとうに
- 1011 a-ne p ne kusu
ア・ネ フ ネ クス
我・繫 もの 繫 由
驚いたので
- 1012 oribak tura
オリバク トウラ
畏まる ともに
恐る恐る
- 1013 hetarkosampa-an
ヘタラコサムバ・アン
顔を上げる・我
顔をあげた。
- 1014 otop chiki
オトフ チキ
髪 条件
髪の先を
- 1015 a-eshitchiure
ア・エシチウレ
我・床に垂らす
床に垂らし、
- 1016 otopka utur
オトフカ ウトウル
髪 間
垂れた髪の毛の間から
- 1017 a-ebekare^{*34} wa
ア・エベカレ ワ
我・覗く 接
のぞいて見た。
- 1018 shiso sam ne
シソ サム ネ
右座 そば 繫
右座に
- 1019 ehorarpa kuni p
エホララバ クニ フ
居る 必 もの
座っている者の
- 1020 tu urar ikkeu
トゥ ウララ イクケウ
二つの 霧 腰
二つ霧の中心
- 1021 re urar ikkeu
レ ウララ イクケウ
三つの 霧 腰
三つの霧の中心を
- 1022 a-kochari wa
ア・コチャリ ワ
我・散らす 接
払つて
- 1023 inkar-an ko
インカラ・アン コ
見る・我 条件
みると、
- 1024 iyainumare
イヤイヌマレ
驚いた
驚いたことに
- 1025 kamui moremat^{*35}
カムイ モレマト
神 淑女
神のような淑女が
- 1026 okai nankor a
オカイ ナンコラ
ある だろう 疑
いるではないか。
- 1027 tampa ne wa^{*36}
タムバ ネ ワ
今年 繫 接
今年になつて
- 1028 ponno i-turkasuno
ボンノ イ・トゥルカスノ
少し 我・以上
わずかにわれをこえて
- 1029 chishikupka kotomno
チシクフカ コトムノ
成長する ように
成長した者らしく
- 1030 a-ramu p
ア・ラム フ
我・思う もの
見えるのが
- 1031 sonno tane a-mi p
ソンノ タネ ア・ミ フ
真に 今 我・着る もの
今われが着ているものの
- 1032 neino okai kosonte
ネノ オカイ コソント
ようにある 小袖
ような小袖を
- 1033 arutomechiu kane
アルトメチウ カネ
身にまどう 音調整
まどつていた。
- 1034 kamui ne kusu
カムイ ネ クス
神 繫 由
この娘は神であるから
- 1035 kamui ibor
カムイ イボロ
神 顔色
神の容貌が
- 1036 annoyekar kane
アンノイエカラ カネ
からみつく 音調整
匂つていた。
- 1037 kamui otobi
カムイ オトビ
神 髪
神々しい髪の毛が
- 1038 sarambe ka ne
サラムベ カ ネ
絹 上 繫
絹のように
- 1039 ekimuikashi
エキムイカシ
頭上
頭の上を
- 1040 chiusurure
チウスルレ
ひろがり蔽っている
覆っている。
- 1041 reuboki ta
レウボキ タ
下 場
その下には、
- 1042 kamui sannanu
カムイ サンナヌ
神 顔
神々しい面立ちが
- 1043 shikushtoi kunne
シクシトイ クンネ
よく晴れた日和 ように
上天気の日和のように
- 1044 komaknatara
コマクナタラ
輝いている
輝いていた。
- 1045 ene wa boka
エネ ワ ボカ
斯く さえ
どうにもこうにも
- 1046 a-reka i ka
ア・レカ イ カ
我・ほめる 形名 も
讃えられない
- 1047 isam kane
イサム カネ
ない 音調整
ほどである。

2.2 遺体発見のいきさつ

- 1048 shineanibo
シネアニボ
一個所
娘は一箇所を
- 1049 shikomare kane
シコマレ カネ
見つめる 同時
見つめて
- 1050 okai rok i ne
オカイ ロク イ ネ
ある 完 形名 繫
いたが、
- 1051 moiretara
モイレタラ
緩やかに
わが方に優美に
- 1052 i-kohebuni
イ・コヘブニ
我・頭を上げる
顔を上げた。
- p. 244
- 1053 kamui sannanu
カムイ サンナヌ
神 顔
高貴な顔ばせが
- 1054 chise upsoro
チセ ウッソロ
家 内部
家の中を
- 1055 eemakkosampa
エエマッコサムバ
急に明るくなる
パツと明るくした。
- 1056 kutsam konna
クトサム コнна
喉元 は
喉を
- 1057 tununitara
トゥヌニタラ
美しい音が響く
美しく響かせて

*34 otopka utur a-shikbekare とも言う。ユ集 i p.

*35 原ノートのまま。moiremat がよく知られている形。

*36 この句の意味はよくわからない。金田一は「今年あたり（我ぐらいに成長した）」と訳しているが、年齢の差が年によって伸び縮みするわけがない。また、金田一は tanpa ne pa 「今年・である・年」と言うことも普通にであると記している。

- 1058 itak hawe
イタク ハウエ
言う 声
このように
- 1059 ene okai i
エネ オカイ イ
斯くある 形名
言った。
- 1060 koninkarkusu
コニンカルクス
いざいざ
「さて、
- 1061 Tomisambechi
トミサムベチ
地名
トミサンベチ
- 1062 Shinutapka ta
シヌタツカ タ
地名 場
シヌタプカの
- 1063 ainu pon katkemat
アイヌ ボン カトケマト
人間 小さい 婦人
人間の娘よ、
- 1064 itak-an chiki
イタク・アン チキ
言う・我 条件
われの言うことに
- 1065 pirikano nu wa
ピリカノ ヌ ワ
良く 聞く 接
耳を
- 1066 i-kore yan
イ・コレ ヤン
我・与える 命令
傾けなさい。
- 1067 aokai anakne
アオカイ アナクネ
我 は
われを
- 1068 konep ainu
コネプ アイヌ
繋 人間
人間などと
- 1069 a-ne ruwe ka somone
ア・ネ ルウェ カ ソモネ
我・繋 跡 も ではない
思っではいけません。
- 1070 ranke kanto
ランケ カント
下の 天
下天を
- 1071 ebunkine kusu
エブンキネ クス
守る 由
統治するために
- 1072 toop shirikun
トオプ シリクン
ずっと速く 最も上にある
遠い最上層の上天
- 1073 kanto oro wa
カント オロ ワ
天 所 から
から
- 1074 i-ranke-an
イ・ランケ・アン
我・降ろされる
降ろされてきたものです。
- 1075 pon ram oro wano
ボン ラム オロ ワノ
小さい 心 所 から
年少の頃から
- 1076 ainu kotan
アイヌ コタン
人間 村
人間の村を
- 1077 a-ebunkine
ア・エブンキネ
我・保護する
統治し、
- 1078 a-shikkashima wa
ア・シッカシマ ワ
見守られる 接
守護して
- 1079 an-an ruwe ne awa
アナン ルウェ ネ アワ
いる・我 跡 繋 展開
いたのですが、
- 1080 shine an to ta
シネ アン ト タ
一つのある 日 場
ある日、
- 1081 shiri kunne oro wa
シリ クンネ オロ ワ
様子 暗い 所 から
日が暮れると
- 1082 a-ki kusu ne p
ア・キ クス ネ プ
我・する 由 繋 もの
いつもしていること
- 1083 ne kusu
ネ クス
繋 由
ですから、
- 1084 taban a-un chise wano
タバン ア・ウン チセ ワノ
この 我・いる 家 から
このわが住まいを
- 1085 soine-an
ソイネ・アン
外出する・我
出て
- 1086 ainu kotan
アイヌ コタン
人間 村
人間世界を
- 1087 kotan enka
コタン エンカ
村 離れた上
上空から
- 1088 shiri ebittano
シリ エビットانو
様子 一面中
あまずなく
- 1089 a-uwampare okere
ア・ウワムパレ オケレ
我・調べる 完
巡回したが、
- 1090 nep a-erannak be
ネプ ア・エランナク ベ
繋 我・心配する もの
なんの不足も
- 1091 ka isam
カ イサム
も ない
見つからなかった。
- 1092 shino nubetne tura
シノ ヌベトネ トウラ
まことに 喜ぶ ともに
われはニッコリして
- 1093 hoshihi-an
ホシビ・アン
戻る・我
帰途につきました。
- 1094 taban a-ewak ushike un
タバン ア・エワク ウシケ ウン
この 我・住む ところ 方向
このわが住まいに
- 1095 ek-an kusu
エック・アンス
来る・我 由
戻ろうと、
- 1096 e-kor kotan
エ・コロ コタン
汝・持つ 村
おまえの村の
- 1097 kimun iwor
キムン イウオロ
山の奥地 奥地
狩場の
- 1098 iworso enka
イウオロソ エンカ
山奥 離れた上
上に
- 1099 a-kush i ta
ア・クシ タ
我・通る 形名 場
差しかかったとき、
- 1100 kamui kar wen shiri
カムイ カラ ウェン シリ
神 作る 悪い 様子
神が造った険しい山の
- 1101 chorboki un
チョロボキ ウン
下 方向
麓へとわが目の
- 1102 a-hemshiksama^{*37}
ア・ヘムシクサマ
我・目の周開
傍らの肉が何かを
- 1103 hemanta ambe
ヘマント アムベ
何 あること
察知して
- 1104 chiekurure
チエクルレ
震える
震えた。
- 1105 tambe kusu
タムベ クス
これ 由
それで
- 1106 inkar-an awa
インカラ・アン アワ
見る・我 展開
目を凝らすと
- 1107 seenne nak sui
セエンネ ナク スイ
否定 未詳 再び
よもや
- 1108 inkar-an kuni
インカラ・アン クニ
見る・我 必
こんなもの
- 1109 shiran kuni
シラン クニ
有様である 必
目にするとは
- 1110 a-ramu rok i
ア・ラム ロク イ
我・思う 完 形名
予想もしなかったのに、
- 1111 e-mi chikirbe hene
エ・ミ チキリベ ヘネ
汝・着る 刺繍衣 も
おまえの着物は
- 1112 hu mun shiri ne
フ ムン シリ ネ
生の 草 様子 繋
刈られる青草のように
- 1113 chitata shiri
チタタ シリ
切り刻む 様子
ずたずたに切り刻まれ、
- 1114 e-kewebo hene
エ・ケウエボ ヘネ
汝・体 も
おまえの体は
- 1115 sonno chikeure shir
ソンノ チケウレ シリ
真に 削られる 様子
まったく削られたように
- 1116 ouse bonehe
オウセ ボネヘ
ただ 骨
ただ骨が残るばかりに
- 1117 korachino a-kar wa
コラチノ ア・カラ ワ
ように される 接
されて
- 1118 a-osurpa kane shiran
ア・オスルパ カネ シラン
我・捨てる 同時 有様である
投げ捨てられていた。
- 1119 inkan ne wa
インカン ネ ワ
見る 繋 接
ただ
- 1120 a-ki p ne koroka
ア・キ プ ネ コロカ
我・する もの 繋 逆
見ただけで

p. 245

1121 shino shino homatu-an
シノ シノ ホマトウ・アン
まことに まことに 驚く・我
びっくりしてしまった。

1122 nekon iki wa
ネコン イキワ
どのように する 接
どうやって

1123 tap korachi
タップ コラチ
これ ように
こんなに

1124 kimun iwor
キムン イウオロ
山の奥地 奥地
山の

1125 iworso ka ta
イウオロソ カ タ
山奥 上 場
猟場の上に

*37 hem shik sama a-amkir kane p と見て解釈すると「目つきに見覚えのない者」ととれる。ユ研 p. 参照。

- 1126 ainu matainu
アイヌ マタイヌ
人間 女
人間の女が
- 1127 inunukashki
イヌヌカシキ
可哀想に
かわいそうに
- 1128 chiraike ne yakka
チライケ ネ ヤッカ
殺される 繋 譲
尋常でない
- 1129 semkatune
セムカトウネ
並でなく
殺され方を
- 1130 a-ekarkar ruwe
ア・エカラカラ ルウェ
される 跡
しているのか。
- 1131 seennebeka nep ka
セエンネベカ ネプ カ
もしや 繋 も
もしや
- 1132 wen chikoikip hene
ウエン チコイキプ ヘネ
悪い 獲物 も
悪い獣が
- 1133 kamui shikutur
カムイ シクトウル
神 目の間
神の目を
- 1134 tushmak wa
トウシマク ワ
鏡う 接
盗んで
- 1135 katkor ruwe
カトコロ ルウェ
振舞う 跡
こんなことを
- 1136 he an ari
ヘ アン アリ
疑 ある 引用
したのか、と
- 1137 nisap ram ka ta
ニサプ ラム カ タ
急に 心 上 場
急ぎ頭を
- 1138 a-yainu kane
ア・ヤイヌ カネ
我・考える 音調整
巡らすと、
- 1139 tanebo konna
タネボ コンナ
今 は
すぐに
- 1140 inkar-an awa
インカラ・アン アワ
見る・我 展開
実情が知れた。
- 1141 oroyachiki
オロヤチキ
驚いたことに
なんと、
- 1142 pon e-kor sapo
ボン エ・コロ サポ
小さい 汝・持つ 姉
おまえのちい姉さんが
- 1143 ene ashtomano
エネ アットマノ
斯く 恐ろしく
このように戦慄するような
- 1144 e-raike oro wa
エ・ライケ オロ ワ
汝・殺す 所 から
殺害をおまえになして
- 1145 moshma ainu
モシマ アイヌ
ほか 人間
他人に
- 1146 nukar kuni
ヌカラ クニ
見る 必
発覚するのを
- 1147 koban kusu
コバン クス
嫌がる 由
厭い、
- 1148 somo nen ka
ソモ ネン カ
否定 誰 も
だれも
- 1149 ot ta baye noine an
オト タ バイエ ノイネ アン
所 場 行く らしくある
行きそうにもない
- 1150 ushike
ウシケ
ところ
ところ、
- 1151 kamui kar nuburi
カムイ カラ ヌブリ
神 作る 山
神の盛り上げた山岳の
- 1152 chinkewe ta
チンケウェ タ
下肢 場
麓に
- 1153 e-osura awan ko
エ・オスラ アワン コ
汝・捨てる のだった 条件
おまえを投げ捨てた。
- 1154 kamui renkaine
カムイ レンカイネ
神 意志に従う
神の恵みで
- 1155 a-koekari ruwe ne
ア・コエカリ ルウェ ネ
我・出会う 跡 繋
われがそこに出くわした。
- 1156 kamui a-ne wa
カムイ ア・ネ ワ
神 我・繋 接
われは神であるから
- 1157 tapne am be a-nukar
タプネ アム ベ ア・ヌカラ
これである ある もの 我・見る
みつげられたのだ。
- 1158 oro wa
オロ ワ
所 から
そこで、
- 1159 somo a-ekottanu ka
ソモ ア・エコッタヌ カ
否定 我・関わる も
見逃していくことは
- 1160 eaikap
エアイカプ
できない
とうていできない
- 1161 tambe kusu
タムベ クス
これ 由
ので
- 1162 sonno ouse bonehe
ソンノ オウセ ボネヘ
真に ただ 骨
まったく骨
- 1163 batek an
バテク アン
のみ ある
ばかりの
- 1164 e-kewehe a-ani wa
エ・ケウェヘ ア・アニ ワ
汝・体 我・運ぶ 接
おまえの骸を運んで
- 1165 teta e-netobake
テタ エ・ネットバケ
ここで 汝・からだ
ここでおまえの体を
- 1166 a-utapke
ア・ウタプケ
我・繕う
繕い、おまえを
- 1167 e-eashirkar-an
エ・エアシリカラ・アン
汝・新たに作る・我
新たに作り直した
- 1168 ruwe ne koroka
ルウェ ネ コロカ
跡 繋 逆
けれど、
- 1169 ramat e-sak ruwe ne
ラマト エ・サク ルウェ ネ
魂 汝・持たない 跡 繋
魂はもうなくなっていた。
- 2.3 真相
- 1170 tambe kusu
タムベ クス
これ 由
そこで、
- 1171 a-hunara wa
ア・フナラ ワ
我・探す 接
われはその魂を探した。
- 1172 inkar-an awa
インカラ・アン アワ
見る・我 展開
探して分かったことには、
- 1173 seennekasui
セエンネカスイ
少しも～しない
思いも
- 1174 inkar-an kuni
インカラ・アン クニ
見る・我 必
よらぬ
- 1175 a-ramu rok i
ア・ラム ロク イ
我・思う 完 形名
ことに、
- 1176 shinish kanto ot ta
シニシ カント オト タ
大きな雲 天 所 場
まったき天に
- 1177 kannakamui ari
カンナカムイ アリ
雷神 引用
雷神と
- 1178 a-borse p
ア・ボロセ プ
よばれる もの
呼ばれている神が
- 1179 iwan irwak ne
イワン イリワク ネ
六人 兄弟 繋
六人の男兄弟と
- 1180 iwan turesh ne wa
イワン トウレシ ネ ワ
六人 妹 繋 接
六人の女姉妹とで
- 1181 okai ruwe ne
オカイ ルウェ ネ
ある 跡
いますが、
- 1182 iyotta poniunekuru
イヨッタ ポニウネクル
最も 末息子
末の弟が
- 1183 kamui ot ta
カムイ オト タ
神 所 場
神の世界で
- 1184 yaikotomka p
ヤイコトムカ プ
ふさわしい もの
妻にふさわしい女を
- 1185 hunara korka
フナラ コロカ
探す 逆
探したが
- 1186 oar oar yaikotomka p
オアラ オアラ ヤイコトムカ プ
全く 全く ふさわしい もの
探してもふさわしい者、
- 1187 ramuoshma p
ラムオシマ プ
同意する もの
心になうものが
- 1188 shinen ka isam
シネン カ イサム
一人 も 死ぬ
いなかった。
- p. 246
- 1189 tambe kusu
タムベ クス
これ 由
そこで、
- 1190 ainu moshiri
アイヌ モシリ
人間 国土
人間世界の
- 1191 moshiri upsoro
モシリ ウッソロ
国土 内部
中を
- 1192 uwampare a kusu
ウワムパレ ア クス
見て調べる 完 由
偵察したところ、
- 1193 tap eashir
タプ エアシリ
これ 強調
なんとまあ、
- 1194 eani sonno sambe
エアニ ソンノ サムベ
汝 真に 心臓
おまえが心にかない、
- 1195 ramu oshma
ラム オシマ
思う ぶつかる
胸にかない、惚れきって

- 1196 sonno e-oshikote ruwe ne 1213 ainu moshiri 1230 ainu moshiri 1247 sonno ibeno
ソノノ エ・オシコテ ルウェ ネ アイヌ モシリ アイヌ モシリ ソノノ イベノ
真に 汝・惚れる 跡 繋 人間 国土 人間 国土 真に 食べて
しまったのです。 人間の世界、 人間の世界、 ヤケ食いで
- 1197 tambe kusu 1214 moshiriso kurka 1231 moshiri so ka ta 1248 hotke nankoro yakne
タムベ クス モシリソ クルカ モシリ ソ カ タ ホトケ ナンコロ ヤクネ
これ 由 国土の上 上 国土の平面上 場 寝る だろう 条件
そこで、 一面を 地の世界に 寝てしまうだろう。
- 1198 nekon boka ne wa 1215 koihunara awa 1232 horarpa 1249 neita shino
ネコン ボカ ネ ワ コイフナラ アワ ホララバ ネイタ シノ
どのように さえ 繋 接 探す 展開 住む まことに
おまえが殺されたら 探したが します そのときこそ
- 1199 e-raike-an wa 1216 pon Iyochiunkuru 1233 shinuburu kamui hene 1250 koashkai wa
エ・ライケ・アン ワ ボン イヨチウンクル シヌブル カムイ ヘネ コアシカイ ワ
汝・殺す・我 接 小さい イヨチ人 神威強い 神 も 上手である 接
なんとか 小さなイヨチ人、 まことに尊い神々 したものの、
- 1200 ne yakne 1217 e-koreshu-an kuru 1234 shiban kamui hene p. 247
ネ ヤクネ エ・コレシュ・アン クル シバン カムイ ヘネ ラマチ ウクワ
繋 条件 汝・ともに育てる・我 人 神威弱い 神 も 取るに足らない神々の 取る 接
して おまえの許嫁 取 その魂を取って
- 1201 e-ramachi uk wa 1218 tap eashiri 1235 arobitta no 1252 eusa echi-kor kuni ne
エ・ラマチ ウクワ タップ エアシリ アロビタ ノ エウサ エチ・コロ クニ ネ
汝・魂 取る 接 すべて 接 それぞれ 汝ら・持つ 必 繋
おまえの魂を奪って、 こそ、 目がごとごとく おまえたちと結ばれるよう
- 1202 kamui ot ta 1219 koro shiretok 1236 shiketoko 1253 eukosai rok okai
カムイ オト タ コロ シレトク シケトコ エウコサイ ロク オカイ
神 所 場 持つ 美貌の人 目の先 共謀する 完 ある
神の世界に その美貌、 くらむよう 共謀したのです。
- 1203 mat ne e-kon 1220 kon rametok 1237 urar atte wa 1254 tambe kusu
マト ネ エ・コン コン ラメトク ウララ アトテ ワ タムベ クス
女 繋 汝・持つ 妻として迎えたいと 持つ 勇者 霧 たたせる 接 これ 由
その気性が 霧を立てて
- 1204 rusui yakka 1221 arkatetokomare 1238 kannakamui 1255 kannakamui menoko
ルスイ ヤッカ アッカテトコマレ カンナカムイ カンナカムイ メノコ
欲 譲 気に入る 雷神 雷神は 雷神の女は
思ったが、 すっかり気に入る、
- 1205 kamui inne p ne kusu 1222 shino oshikote ruwe ne 1239 pon tureshi
カムイ インネ ヲ ネ クス シノ オシコテ ルウェ ネ ボン トウレシ
神 大勢 もの 繋 由 小さい 妹 小さい 妹
神がたくさんいるので、 惚れきってしまった。 小さな妹を
- 1206 oar emonkoaikap 1223 tambe kusu 1240 koorshutke wa
オアラ エモンコアイカプ タムベ クス コオロシユトケ ワ
全く 手がくだせない 手がくだせなかった。 これ 由 励ます 接
そこで 督励して
- 1207 koeturenno sui 1224 pon kannakamui 1241 raikere ruwe ne
ゴエトウレンノ スイ ボン カンナカムイ ライケレ ルウェ ネ
それとともに 再び 小さい 雷神 殺させる 跡 繋 殺させましたのです。
それとともに 小さな雷神は
- 1208 iyotta pom menoko 1225 pon tureshi turanno 1242 e-rai wa
イヨッタ ポム メノコ ボン トウレシ トウランノ エ・ライ ワ
最も 小さい 女 繋 譲 小さい 妹 ともに 汝・死ぬ 接
一番小さな妹も 小さな妹とともに おまえが死ねば、
- 1209 ne yakka kamui ot ta 1226 kamui shikutur 1243 ne wa ne yakne
ネ ヤッカ カムイ オト タ カムイ シクトウル ネ ワ ネ ヤクネ
繋 譲 神 所 場 神 目の間 神の 繋 接 繋 条件
神の世界に 神の そうなれば、
- 1210 yaikotomka p 1227 tushmak wa 1244 pon Iyochiunkuru
ヤイコトムカ ヲ トウシマク ワ ボン イヨチウンクル
ふさわしい もの 競う 接 小さい イヨチ人
夫としてふさわしい者を 目を盗んで 小さなイヨチ人は
- 1211 hunara yakka 1228 inne kamui utar 1245 e-eyaikataikar*³⁸
フナラ ヤッカ インネ カムイ ウタラ エ・エヤイカタイカラ
探す 譲 大勢 神 たち 汝・気の毒に思う
探したが、 多くの神々、 すなわち おまえを哀れに思い、
- 1212 oar shinen ka isam 1229 kanto ot ta hene 1246 e-eimokir wa
オアラ シネン カ イサム カント オト タ ヘネ エ・エイモキリ ワ
全く 一人 も ない 天 所 場 も 汝・悲しむ 接
誰もいなかった。 天や 悲しみ、
- 1251 ramachi uk wa 1256 echi-unih ta ran wa
ラムチ ウクワ エチ・ウニヒ タラン ワ
取る 接 汝・住まい 場 下がる 接
その魂を取って おまえたちの住まいに
- 1257 benetubokka ta 1258 kunne hene 1259 tokap hene
ベネトウボッカ タ クンネ ヘネ トカプ ヘネ
東の空窓 場 夜 も 昼 も
降りて、 上の空窓から 夜も おまえを
- 1260 e-eyoko yakka 1261 ene e-kar wa 1262 e-raike kuni i
エ・エヨコ ヤッカ エネ エ・カラ ワ エ・ライケ クニ イ
汝・狙う 譲 どうやっておまえを 汝・殺す 必 形名
狙った。ところが、 殺そうかと
- 1263 eyaikoshiramse yakka
エヤイコシラムセ ヤッカ
一人で思案する 譲
一人思案したが、

*³⁸ 金田一は eeyaikataikap と書いている。yaikataikap「気のどくに思う」ユ集 i, p.

- 1264 oar erambetek
オアラ エラムベテク
全く 知らない
どうしたらいいのか
- 1265 raboki ta
ラボキ タ
間 場
分らなかった。おりしも
- 1266 e-yubih uimam kusu
エ・ユビヒ ウイマム クス
汝・兄 交易をする 由
おまえの兄が交易のため
- 1267 rebun okake ta
レブン オカケ タ
沖の あと 場
船出した後、
- 1268 pon e-kor sapo
ボン エ・コロ サポ
小さい 汝・持つ 姉
おまえのちい姉さんに
- 1269 katuhu kar wa
カトゥフ カラ ワ
姿 作る 接
化けて
- 1270 turepta or un
トゥレプタ オロ ウン
ウバユリを掘る 所 方向
うばゆり掘りに
- 1271 e-shiren wa
エ・シレン ワ
汝・誘う 接
おまえを誘って
- 1272 e-raike ruwe ne
エ・ライケ ルウェ ネ
汝・殺す 跡 繋
おまえを殺した、
- 1273 rok okai
ロク オカイ
完 ある
というのが真相です。
- 1274 pon e-kor sapo
ボン エ・コロ サポ
小さい 汝・持つ 姉
おまえのちい姉さんが
- 1275 ouse shinen ne wa
オウセ シネン ネ ワ
ただ 一人 繋 接
たった一人で
- 1276 batek e-koiki i
バテク エ・コイキ イ
のみ 汝・いじめる 形名
おまえを襲った
- 1277 somone
ソモネ
ではない
というわけではありません。
- 1278 kannakamui menoko
カンナカムイ メノコ
雷神 女
雷神の女
- 1279 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤッカ
繋 接 繋 譲
とはいえ、
- 1280 ikasui wa
イカスイ ワ
手伝う 接
誰かの助けを借りて
- 1281 ene e-koiki-an
エネ エ・コイキ・アン
斯く 汝・いじめられる
おまえを襲ったのです。
- 1282 pon e-kor sapo
ボン エ・コロ サポ
小さい 汝・持つ 姉
小さなおまえの姉*39 が
- 1283 use shinen ne a yakne
ウセ シネン ネ ア ヤクネ
並の 一人 繋 完 条件
ただ一人なら
- 1284 e-raike-an
エ・ライケ・アン
汝・殺す・我
おまえは殺されることが
- 1285 somoki ruwe ne
ソモキ ルウェ ネ
しない 跡 繋
なかったでしょう。
- 1286 tap okai be
タップ オカイ ベ
これ ある もの
こうしたことを
- 1287 arobittano
アロビタノ
すべて
すべて
- 1288 a-ramnukare
ア・ラムヌカレ
我・見抜く
われは見抜いたのです。
- 1289 e-ramachi
エ・ラマチ
汝・魂
おまえの魂を
- 1290 kannakamui menoko
カンナカムイ メノコ
雷神 女
雷神の女が
- 1291 uk wa yubih kore
ウク ワ ユビヒ コレ
取る 接 兄 与える
奪い取って兄に与えて
- 1292 nisa ruwe ne
ニサ ルウェ ネ
完 跡 繋
しまったのです。
- 2.4 雷神たちの謝罪と蘇生
- 1293 irukai hene
イルカイ ヘネ
しばらくの間 も
ちょっとしたあいだ
- 1294 teta e-an apkor
テタ エ・アン アッコ
ここで 汝・ある かのよう
ここにいた、と
- 1295 e-yainu yakka
エ・ヤイヌ ヤッカ
汝・考える ヤッカ
考えるなら誤りです。
- 1296 tane anakne
タネ アナクネ
今 は
今ではあれからもう
- 1297 iwan chup
イワン チュブ
六人 月
六ヶ月も
- 1298 teta e-an ruwe ne
テタ エ・アン ルウェ ネ
ここで 汝・ある 跡 繋
たったのですよ。
- 1299 e-yubi uimam wa
エ・ユビ ウイマム ワ
汝・兄 交易をする 接
おまえの兄が航海から
- 1300 yan awa
ヤン アワ
上陸する 展開
戻ってくると
- 1301 e-kor sapo
エ・コロ サポ
汝・持つ 姉
おまえの姉に
- 1302 katu a-kar kuni p
カトゥ ア・カラ クニ ヲ
姿 される 必 もの
化けて
- 1303 konep ne kusu
コネプ ネ クス
繋 繋 由
いたものだから、
- 1304 a-matakibo
ア・マタキボ
我・妹
兄に答えて「妹は
- 1305 irukai yaisoinere
イルカイ ヤイソイネレ
しばらくの間 外に出る
ちょっとしたあいだ
- 1306 shiri ne kuni
シリ ネ クニ
様子 繋 必
留守にする、とばかり
- 1307 a-ramu awa
ア・ラム アワ
我・思う 展開
思っていたが、
- 1308 ahun kuni
アフン クニ
入る 必
戻ってくるようすが
- 1309 kasuno isam
カスノ イサム
以上 ない
まったくない。
- 1310 tambe kusu
タムベ クス
これ 由
そこで
- 1311 a-hunara awa
ア・フナラ アワ
我・探す 展開
探してみたが、
- 1312 neun oman
ネウン オマン
どこに行く
どこに行ったの
- 1313 ruwe ne ya
ルウェ ネ ヤ
跡 繋 疑
やら、
- 1314 oararisam
オアラリスラム
すっかりなくなる
跡を絶ててしまいました。」
- 1315 ari sunke
アリ スンケ
引用 嘘
と嘘をついた。
- p. 248
- 1316 oro wano
オロ ワノ
所 から
そこで、
- 1317 e-kor yubi
エ・コロ ユビ
汝・持つ 兄
おまえの兄は
- 1318 shino homatu wa
シノ ホマトウ ワ
まことに 驚く 接
驚いて
- 1319 utat turanno
ウタト トゥランノ
たち ともに
手下とともに
- 1320 kimun iworso
キムン イウオロソ
山の奥地 山奥
山の狩場
- 1321 iworso kurka hene
イウオロソ クルカ ヘネ
山奥 上 も
一面を
- 1322 e-hunarpa-an yakka
エ・フナパ・アン ヤッカ
汝・探す・我 譲
おまえを探索したが
- 1323 e-isam
エ・イサム
汝・いない
見つからなかった。
- 1324 Iyochi kotan
イヨチ コタン
地名 村
イヨチ村は
- 1325 haushitaiki
ハウシタイキ
騒ぎ声があつ
大騒ぎになった。
- 1326 inne utar
インネ ウタラ
大勢 たち
大勢の者が
- 1327 tu bishkan kotan^{*40}
トゥ ビシカン コタン
二つの 周囲 村
近隣の多くの
- 1328 re bishkan kotan
レ ビシカン コタン
三つの 周囲 村
村々へ
- 1329 a-sonkokushte
ア・ソンコクシテ
我・伝言する
伝えて

*39 雷神の妹が化けた者

*40 原ノートでは tu bish- (改行) kotan となっているが、次の行にならう。

- 1330 a-hunara p e-ne koroka 1346 e-kor sapo
ア・フナラ ヲ エ・ネ コロカ
我・探す もの 汝・繋 逆
おまえを探したが、
- 1331 sonno a-ukoeramtek 1347 sonno ibeno
ソンノ ア・ウコエラムテク
真に 誰にも分からない
まったく手がかりが
- 1332 oro wano 1348 hotke wa
オロ ワノ
所 から
見つからなかった。
- 1333 pon Iyochiunkuru hene 1349 chish rok ine
ボン イヨチウンクル ヘネ
小さい イヨチ人 も
小さなイヨチ人や
- 1334 yubihine 1350 hobumpa boka
ユビヒ ヘネ
兄 も
その兄や
- 1335 kor sapo hene 1351 koyaikush ruwe ne
コロ サポ ヘネ
持つ 姉 も
その姉は
- 1336 obittano irushka wa 1352 tambe kusu
オビタノ イルシカ ワ
皆 怒る 接
みんな怒り、死んで
- 1337 rayeshinupa 1353 tapne tapne
ライエシヌバ
未詳
しまおうとした。*41
- 1338 somo ibeno 1354 nei katu
ソモ イベノ
否定 食べて
皆は何も口にせず、
- 1339 chiamasotki*42 1355 shirikun kanto
チアマソトキ
寝台
寝台の
- 1340 sotki kurka 1356 esabane kamui or un
ソトキ クルカ
寝床 上
上に
- 1341 koyayosurpa wa 1357 a-esonkoampayar awa
コヤヨスルパ ワ
身を投げる 接
身を投げて
- 1342 okai ruwe ne 1358 sonno homatu
オカイ ルウェ ネ
ある 跡 繋
しまったのです。
- 1343 nei no korachi 1359 tambe kusu
ネ ノ コラチ
繋 接 ように
それと同じく
- 1344 e-un chise ta 1360 inne kamui utar
エ・ウン チセ タ
汝・住まう 家 場
おまえの家では
- 1345 e-yubi ne wa 1361 shine ikin ne
エ・ユビ ネ ワ
汝・兄 繋 接
おまえの兄と
- 1363 hosarpa hine 1380 somo a-ki ari
ホサラバ ヒネ
振り向く 接
人間世界に目をやって、
- 1364 tapne ne i nukarpa p. 249
タツネ ネ イ ヌカラバ
これである 繋 形名 見る
ことの次第を認識した。
- 1365 oro wano 1381 haweokai koro
オロ ワノ
所 から
それから、
- 1366 kanto ot ta 1382 boronno yayapabu usa
カント オト タ
天 所 場
天で
- 1367 kamui irenka 1383 kamui ot ta hene
カムイ イレンカ
神 意図
神の掟 (についての)
- 1368 kamui ukohawash i 1384 iyashipte
カムイ ウコハワシ
神 皆で話す 形名
議論が
- 1369 shino yupke ike 1385 Tomisambechi
シノ ユツケ イケ
まことに 強い こと
激しく
- 1370 ukohetuku 1386 Shinutapka un hemem
ウコヘトウク
共に起こる
沸き起こった。
- 1371 kannakamui utar 1387 Iyochi un hemem
カンナカムイ ウタラ
雷神 たち
雷神たちは、
- 1372 utat turanno 1388 iyashipte kuni
ウタト トウランノ
たち ともに
仲間ごと
- 1373 bokna moshiri 1389 chish turanno
ボクナ モシリ
下方の 国土
地獄に
- 1374 a-koahupte 1390 yepa kane
ア・コアフツテ
入れられる
落とされる
- 1375 kusune rok awa 1391 yayunashkepa ruwe ne
クスネ ロク アワ
意志 完 展開
ことになったが、
- 1376 eashka itak ehokushpa 1392 tambe kusu
エアッカ イタク エホクッパ
とても 言葉 ひっくり返る
その言葉に驚倒して、
- 1377 tantewano 1393 kanto*43 kor kamui
タンテワノ
これから
「もうこれからは
- 1378 neino okai irara 1394 tusarepa kamui hene
ネノ オカイ イララ
ように ある 悪戯する
そんな悪さを
- 1379 ainu or un 1395 ainu hene
アイヌ オロ ウン
人間 所 方向
人間に

*41 この語、未詳。ユ研 II p. に raishinu 「死んでしまう」という語が見られる。

*42 原ノートでは amasotki と書かれているが chi-を補う。

*43 現ノートでは kotonto と記されている。

- 1396 ochiu ari
オチウ アリ
姦通 引用
世にいう淫ら事
- 1397 kinin ari
キニン アリ
淫乱 引用
ふしだらな振る舞い
- 1398 a-ye p anakne
ア・イエフ アナクネ
言われるものは
は
- 1399 somo nochutkonno
ソモ ノチュトコンノ
否定 異なって
まちがっても
- 1400 an nankor
アン ナンコロ
ある だろう
あつてはならない。
- 1401 katu renkaine
カトゥ レンカイネ
様子 意志に従う
たまたま
- 1402 kannakamui utar
カンナカムイ ウタラ
雷神 たち
雷神たちが
- 1403 ainu or un
アイヌ オロ ウン
人間 所 方向
人間に
- 1404 iyoshikotpa yakka
イヨシコトパ ヤッカ
惚れる 譲
心を寄せても
- 1405 itekki ainu ronnu no
イテッキ アイヌ ロンヌ ノ
決して 人間 殺す 接
決して人間を殺さず
- 1406 itekki ainu chishte no
イテッキ アイヌ チシテ ノ
決して 人間 泣かす 接
決して人間を泣かさずに
- 1407 kamui utar
カムイ ウタラ
神 たち
神々が
- 1408 eraman no
エラマン ノ
知る 接
承知した上で恋する
- 1409 ne wa ne yakne
ネ ワ ネ ヤクネ
繋 接 繋 条件
ならば、
- 1410 wen somoki
ウエン ソモキ
悪い しない
悪いことでは
- 1411 ruwe ne koroka
ルウェ ネ コロカ
跡 繋 逆
ないけれど、
- 1412 iyoshikote
イヨシコテ
惚れる
惚れた表情を
- 1413 kokateun shiri
コカテウン シリ
未詳 様子
顔に浮かべるのは
- 1414 shino wen a yakka
シノ ウエン ア ヤッカ
まことに 悪い 完 譲
悪いことの中でも
- 1415 shino wen ruwe ne
シノ ウエン ルウェ ネ
まことに 悪い 跡 繋
悪いことだ
- 1416 ari eramokai ko
アリ エラモカイ コ
引用 知る 条件
と悟る
- 1417 anakne
アナクネ
は
ならば、
- 1418 a-tusare kusune
ア・トゥサレ クスネ
我・蘇生させる 意志
赦してやろう。
- 1419 oro wa
オロワ
所 から
それから
- 1420 Tomisambechi un
トミサムベチ ウン
地名 方向
トミサンベチに住まう
- 1421 ainu pon katkemat
アイヌ ボン カトケマト
人間 小さい 婦人
娘の
- 1422 kamui ramachi hemem
カムイ ラマチ ヘMEM
神 魂 も
高貴な魂などを
- 1423 hoshippare yakne
ホシッパレ ヤクネ
帰す 条件
元に戻すならば
- 1424 sonno pirika ari
ソンノ ピリカ アリ
真に よい 引用
まことに結構。」と
- 1425 base kamui
バセ カムイ
重い 神
尊い神が
- 1426 pirika kuni ne
ピリカ クニ ネ
よい 必 繋
よかれと
- 1427 irenka kor
イレンカ コロ
意図 持つ
命じた。
- 1428 tambe kusu
タムベ クス
これ 由
そこで
- 1429 e-ramachi a-uk wa
エ・ラマチ ア・ウク ワ
我・魂 我・取る 接
おまえの魂を持ち帰って
- 1430 tane e-shiknure-an^{*44}
タネ エ・シクヌレ・アン
今 汝・生かす・我
おまえを生き返らせた。
- 2.5 別れ
- 1431 oro wa neibakno
オロワ ネイバクノ
所 から いつまでも
そこで、いつまでも^{*45}
- 1432 kunne chup kamui
クンネ チュフカムイ
夜 月 神
月の神、
- 1433 sonno base kamui
ソンノ バセ カムイ
真に 重い 神
尊い神で
- 1434 a-ne a yakka
ア・ネ ア ヤッカ
我・繋 完 譲
私があるけれど、
- 1435 uneno matainu
ウネノ マタイヌ
同じ 女
おまえと同様、女で
- 1436 a-ne wa
ア・ネ ワ
我・繋 接
あるから、
- 1437 chikeutusare
チケウトゥサレ
蘇生する
おまえを
- 1438 e-ekarkar-an
エ・エカラカラ・アン
汝・為す・我
介抱してあげたのです。
- 1439 tambe kusu
タムベ クス
これ 由
それで、
- 1440 neitabakno ne yakka
ネイタバクノ ネ ヤッカ
いつまでも 繋 譲
いつまでも
- p. 250
- 1441 e-i-oira somoki
エ・イ・オイラ ソモキ
汝・我・忘れる しない
われを忘れない
- p. 250
- 1442 e-i-oira somoki nankoro
エ・イ・オイラ ソモキ
ナンコロ
だろう
ようにしなさい。
- 1443 aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤッカ
我 繋 譲
われもまた、
- 1444 neita bakno ne yakka
ネイタ バクノ ネ ヤッカ
繋 まで 繋 譲
いつまでも
- 1445 e-oira-an
エ・オイラ・アン
汝・忘れる・我
おまえを忘れ
- 1446 somoki ruwe ne
ソモキ ルウェ ネ
しない 跡 繋
ません。
- 1447 tampa anakne
タムパ アナクネ
今年 は
今年、
- 1448 aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤッカ
我 繋 譲
われもまた
- 1449 shukup menoko
シュクフ メノコ
成長する 女
おとなの女
- 1450 shukup matkachi
シュクフ マトカチ
成長する 少女
成熟した娘に
- 1451 a-ne kusu
ア・ネ クス
我・繋 由
なったので、
- 1452 itomnukar-an kusune
イトムヌカラ・アン クスネ
結婚する・我 意志
結婚します。
- 1453 eani anakne
エアニ アナクネ
汝 は
おまえも
- 1454 ainu matainu e-ne
アイヌ マタイヌ エ・ネ
人間 女 汝・繋
おとなの女になります。
- 1455 tambe kusu
タムベ クス
これ 由
だから
- 1456 e-i-nukar eaikap
エ・イ・ヌカラ エアイカフ
汝・我を見る できない
おまえはわれに
- 1457 ruwe ne
ルウェ ネ
跡 繋
もう会えません。
- 1458 koroka aokai anakne
コロカ アオカイ アナクネ
逆 我 は
だけど、われは
- 1459 base kamui a-ne kusu
バセ カムイ ア・ネ クス
重い 神 我・繋 由
尊い神であるから、
- 1460 neita bakno
ネイタ バクノ
繋 まで
いつまでも
- 1461 e-sanikiri bakno hene
エ・サニキリ バクノ ヘネ
汝・子々孫々まで も
おまえの子々孫々まで
- 1462 ramma a-nukar kane
ラムマ ア・ヌカラ カネ
いつも 我・見る 同時
たえず見守って

*44 現ノートでは-anを欠く。

- 1463 an-an kusune アナン クスネ いる・我 意志 あげるつもりです。
- 1464 taban a-eshibopkep anakne タバン ア・エシボフケフ アナクネ この 我・衣服 は このわれの着物は、
- 1465 obittano オビタノ 皆 全部
- 1466 e-kore-am be エ・コレ・アム ベ 汝・与える・我 もの おまえにあたえます
- 1467 ne ruwe taban ネ ルウェ タバン 繫 跡 この よ。
- 1468 neita bakno ne yakka ネイタ バクノ ネ ヤッカ 繫 まで 繫 譲 いつまでも
- 1469 e-eikeshkor nankor エ・エイケンコロ ナンコロ 汝・受け継ぐ だろう 子孫に伝えなさい。
- 1470 neibakno ネイバクノ いつまでも いつだって
- 1471 ainu katkemat utur アイヌ カトケマト ウトゥル 人間 婦人 間 人間の淑女たちの間には
- 1472 kamuikoinkar korka^{*46} カムイコインカラ コロカ 神の恵みを受ける 逆 神の恵みがあるものだが、
- 1473 sui ouse eani スイ オウセ エアニ 再びただ 汝 ただおまえ
- 1474 shinen batek シネン バテク 一人 のみ 一人ばかりは
- 1475 tap korachi タッ コラチ これ ように このように
- 1476 kamuikoinkar wa カムイコインカラ ワ 神の恵みを受ける 接 神が
- 1477 kamui kor be カムイ コロ ベ 神 持つ もの 宝物を恵んで
- 1478 e-eikeshkon ruwe ne エ・エイケンコン ルウェ ネ 汝・受け継ぐ 跡 繫 それを子孫に伝えられる
- 1479 tapne nei katu タッネ ネ カトウ これである 繫 様子 のです。こうしたことを
- 1480 arobittano アロビタノ すべて すべて
- 1481 Tomisambechi トミサムベチ 地名 トミサンベチ
- 1482 Shinutapka ta シヌタプカ タ 地名 場 シヌタプカの
- 1483 chise kor kamui utar チセ コロ カムイ ウタラ 家 持つ 神 たち 家を統べる神々に
- 1484 a-ewentarapte ア・エウエンタラッテ 我・夢見をさせる 夢見をさせて
- 1485 a-nure ア・ヌレ 我・聞かせる 伝えました。
- 1486 tambe kusu タムベ クス これ 由 そこで、
- 1487 kamui utar wano カムイ ウタラ ワノ 神 たち から その神々から
- 1488 e-yubi e-kor sapo エ・ユビ エ・コロ サポ 汝・兄 汝・持つ 姉 おまえの兄、姉にも
- 1489 a-nure kusune ア・ヌレ クスネ 我・聞かせる 意志 伝わっています。
- 1490 e-kor sapo エ・コロ サポ 汝・持つ 姉 おまえの姉は
- 1491 yayokabashte wa ヤヨカバシテ ワ 我に返る 接 意識が戻って
- 1492 otusui konna オトウスイ コンナ 二回 は 何度も
- 1493 oresui konna オレスイ コンナ 三回 は 何度も
- 1494 yaikeurochiwe ヤイケウオロチウエ 自殺する 自殺
- 1495 kushne koroka クシネ コロカ つもりである 逆 しようとしたが、
- 1496 yaikota ki ヤイコタ キ 自分で する おのれがしたことが
- 1497 wem buri somone kusu ウェム ブリ ソモネ クス 悪い 行い ではない 由 悪いのでないから
- 1498 kamui renkaine カムイ レンカイネ 神 意志に従う 神のおかげで
- 1499 shiknu wa シクヌ ワ 生きている 接 そのたび命を
- 1500 an ruwe taban na アン ルウェ タバン ナ ある 跡 この ぞ とりとめた。
- p. 251*
- 1501 tane e-etoko ta タネ エ・エトコ タ 今 汝・先 場 おまえが戻るまえに
- 1502 hobumpa kor ホブumpa コロ 起き上がる 持つ 床を離れて
- 1503 okai ruwe ne オカイ ルウェ ネ ある 跡 繫 います。
- 1504 Iyochi un e-utari イヨチ ウン エ・ウタリ 地名 方向 汝・親族 イヨチの親族
- 1505 utar ne yakka ウタラ ネ ヤッカ たち 繫 譲 の人々も
- 1506 kamui oro wa カムイ オロ ワ 神 所 から 神から
- 1507 a-inurepa ア・イヌレパ 聞かせられる 言葉を賜り、
- 1508 sonno ukoiyokunurpa koro ソンノ ウコイヨクヌルパ コロ 真に 互いに驚く 持つ みなして驚いて
- 1509 okai ruwe ne オカイ ルウェ ネ ある 跡 繫 います。
- 1510 hetak hokure ヘタク ホクレ さあ 早く さあ、早く
- 1511 tantewano タンテワノ これから これから
- 1512 e-kor kotani un エ・コロ コタニ ウン 汝・持つ 村 方向 自分の村に
- 1513 ran wa ラン ワ 下がる 接 降りて、ともに無事を
- 1514 ukeuhumshu yan ari ウケウフムシユ ヤン アリ 無事を祝う 命令 引用 祝いなさい。」と
- 1515 nea kamui haweokai ネア カムイ ハウエオカイ 繫 神 言う 月の神は言った。
- 1516 inu ne wa イヌ ネ ワ 聞く 繫 接 それを
- 1517 a-ki p ne koroka ア・キ ッ ネ コロカ 我・する もの 繫 逆 聞いただけで
- 1518 tanto torino タント トリノ 今日 一日中 一日中
- 1519 a-chimoshiri- ア・チモシリ- 我・大地 大地に揺す
- 1520 kosuye kane コスイエ カネ ともに揺れる 音調整 られた
- 1521 semkorachi セムコラチ まるで(する)ように かなのような思いになった。
- 1522 sonno he tapne ソンノ ヘ タッネ 真に 疑 これである まことに
- 1523 kamui chikeutusare カムイ チケウトウサレ 神 蘇生する 神の介抱
- 1524 ruwe nei^{*47} ルウェ ネイ 跡 繫 であつたと
- 1525 a-eraman koroka ア・エラマン コロカ 我・知る 逆 われには分かったけれど、
- 1526 naa naa ナア ナア まだまだ まだ(幼い)
- 1527 bashta kamui hene バシタ カムイ ヘネ 地位の低い 神 も 取るに足らない神
- 1528 ne kuni ネ クニ 繫 必 とは
- 1529 a-ramu rok wa ア・ラム ロク ワ 我・思う 完 接 思っていたが、頭が

^{*46} 現ノートでは kamuikoinkarkoka と記されているが、rを補う。解釈する。

^{*47} ruwe ne の前に ne を補って解釈する。

- 1530 i-ioribakka
イ・イオリバッカ
我・畏れつつしむ
下がる思いであった。
- 1531 oroyachiki
オロヤチキ
驚いたことに
驚いたことに
- 1532 kunne chup kamui
クンネ チュッ カムイ
夜 月 神
月の神と
- 1533 ne manu p
ネ マヌ プ
繫 というもの
呼ばれる神は
- 1534 wen-an shiri
ウェン・アン シリ
悪い・我 様子
貧しい
- 1535 otui-an shiri
オトウイ・アン シリ
女のような・我 様子
卑しいわれが
- 1536 rai ne yakka
ライ ネ ヤッカ
死ぬ 繫 譲
死ぬにしても
- 1537 semkatune
セムカトウネ
並でなく
無残な死に方を
- 1538 a-ki shiri okai
ア・キ シリ オカイ
我・する 様子 ある
した
- 1539 rok awa
ロク アワ
完 展開
ところを
- 1540 chikeutusare
チケウトウサレ
蘇生する
ねんごろに
- 1541 i-y-ekarkar
イ・イエカッカ
我・する
介抱してくれた。
- 1542 batek ne yakka
バテック ネ ヤッカ
のみ 繫 譲
それだけでも
- 1543 a-eyairaike p ne wa
ア・エヤイライケ プ ネ ワ
我・感謝する もの 繫 接
感謝したりないのに
- 1544 usa kamui
ウサ カムイ
譲 神
尊い
- 1545 shibopkep hene
シボッケッ ヘネ
着る物 も
着物、
- 1546 tan ainu moshiri
タン アイン モシリ
この人間 国土
この人間世界に
- 1547 moshiri so ka ta
モシリ ソ カ タ
国土 平面上 場
探してもない
- 1548 isam kamui shibopkep
イサム カムイ シボッケッ
ない 神 着る物
立派な着物を
- 1549 a-eshiyuk ruwe
ア・エシユク ルウェ
我・正装する 跡
われが着るようにと
- 1550 a-i-kore ruwe
ア・イ・コレ ルウェ
我・与えられる 跡
くださった
- 1551 okai chiki
オカイ チキ
ある 条件
ので
- 1552 yayiraike ne
ヤイライケ ネ
感謝 繫
感謝の言葉、
- 1553 onkami ne
オンカミ ネ
礼拝 繫
感謝の祈りを
- 1554 a-ye kushne p
ア・イエ クシネ プ
我・言う つもりである もの
言おうとしても
- 1555 chish ne oman
チシ ネ オマン
泣く 繫 行く
泣けて言葉にならなかった。
- 1556 konepkeukata
コネッケウカタ
何ということか
コネッケウカタ
- 1557 konepkashita
コネッカシタ
何としたことか
コネッペカシタ
- 1558 nekona shiko p
ネコナ シコ プ
どのように 目がつく もの
どこの
- 1559 nekona baro p
ネコナ バロ プ
どのように 口がつく もの
馬の骨とももしれない
- 1560 wen kannakamui
ウェン カンナカムイ
悪い 雷神
悪の雷神、
- 1561 toi kannakamui
トイ カンナカムイ
土 雷神
汚い雷神
- 1562 utarorke
ウタロロケ
たち
たちが
- 1563 konep nanka ne p
コネッ ナンカ ネ プ
繫 顔面 繫 もの
どれほどわれが
- 1564 konep shirika ne p
コネッ シリカ ネ プ
繫 表面 繫 もの
美貌であるか
- 1565 a-ne wa kusu
ア・ネ ワ クス
我・繫 接 由
知らないが、
- 1566 chioshikote
チオシコテ
恋慕
われに
- p. 252
- 1567 i-y-ekarkar
イ・イエカッカ
我・する
心奪われ、
- 1568 tambe kusu
タムベ クス
これ 由
それで
- 1569 chiraike ne yakka
チライケ ネ ヤッカ
殺される 繫 譲
殺害のなかでも
- 1570 semkatune
セムカトウネ
並でなく
無残な殺害によって
- 1571 huchi upsor ka
フチ ウッソロ カ
祖母 貞操の帯 も
祖母、母譲りの
- 1572 totto upsorka
トット ウッソロカ
母 貞操の帯
肌を
- 1573 i-kochari
イ・コチャリカ
我・散らす
露わにして
- 1574 shiri okai chiki
シリ オカイ チキ
様子 ある 条件
暴行した。
- 1575 eashka
エアシカ
とても
とても
- 1576 wen yayekatuwen
ウェン ヤイエカトウウェン
悪い 恥をかく
耐えがたい辱め、
- 1577 toi yayekatuwen
トイ ヤイエカトウウェン
土 恥をかく
酷い恥ずかしめを
- 1578 a-ki yakka
ア・キ ヤッカ
我・する 譲
受けだけれど、
- 1579 tane anakne
タネ アナクネ
今 は
今や
- 1580 base kamui
バセ カムイ
重い 神
尊い
- 1581 utarorke
ウタロロケ
たち
神々が
- 1582 pirika kuni ne
ピリカ クニ ネ
よい 必 繫
良かれと
- 1583 esanniyō wa
エサンニヨ ワ
考慮する 接
配慮して
- 1584 i-kore hawe ne ko
イ・コレ ハウェ ネ コ
我・与える 声 繫 条件
くださった。
- 1585 ouse keutum ot ta
オウセ ケウトウム オト タ
ただ 心 所 場
言葉にならないが、
- 1586 yayiraike ne
ヤイライケ ネ
感謝 繫
ただ心の
- 1587 onkami ne a-ki
オンカミ ネ ア・キ
礼拝 繫 我・する
祈りを捧げた。
- 1588 kamui moremat
カムイ モレマト
神 淑女
神の淑女が
- 1589 a-keutumkashi
ア・ケウトウムカシ
我・心の上
わが心を
- 1590 chikushnanukar
チクシナヌカラ
貫き見通す
見透かすように
- 1591 i-y-ekarkar kuni p
イ・イエカッカ クニ プ
我・する 必 もの
配慮してくださった
- 1592 kone p ne kusu
コネ プ ネ クス
である もの 繫 由
のであるから、
- 1593 pirika pirika
ピリカ ピリカ
よい よい
「よし、よし、
- 1594 itekki
イテッキ
決して
決して
- 1595 usaine usaine okai be
ウサイネ ウサイネ オカイ ベ
色々 と 色々 と ある もの
いろいろあったことに
- 1596 eramusarak no
エラムサラク ノ
いまいましい 接
怒らず、
- 1597 orotunashno
オロトゥナッシュノ
一刻も早く
速やかに
- 1598 e-ran kusune
エ・ラン クスネ
汝・降る 意志
お戻りなさい」
- 1599 hawash chiki
ハワシ チキ
言われる 条件
と言われたので

- 1600 eashka nube tura
エアッカヌベ トウラ
とても 涙 ともに
まこと涙とともに
- 1601 boronno boronno
ボロンノ ボロンノ
たくさん たくさん
たくさん、たくさん
- 1602 yayiraike-an koro
ヤイライケ・アン コロ
ありがたく思う・我 持つ
感謝の言葉を述べて
- 1603 soiwasamwa
ソイワサムワ
家の外へ
家の外に
- 1604 a-oshiraipa
ア・オンライパ
我・移動する
出た。
- 2.6 帰還
- 1605 kunne to ta
クンネ トタ
夜 日場
夜は更け
- 1606 kuroma to ta
クロマ トタ
暗い 日場
闇の夜
- 1607 iki korokaiki
イキ コロカイキ
する 逆
だったけれど、
- 1608 kamui machiya
カムイ マチヤ
神 集落
大きな町が見えた。
- 1609 machiya kurka
マチヤ クルカ
集落 上
広々とした
- 1610 koteshnatara
コテシナタラ
平らになっている
町が見えた。
- 1611 machiya noshke ta
マチヤ ノシケ タ
集落 真中 場
その町の中央に
- 1612 tam boro chise
タム ボロ チセ
この 大きい 家
きわめて大きな家が
- 1613 kamui kar tapkop kurka
カムイ カラ タップコプ クルカ
神 作る 小山 上
神の造りし小山の上に
- 1614 chieashi
チエアシ
立つ
建っていた。
- 1615 tam boro chashi tura
タム ボロ チヤシ トウラ
この 大きい チヤシ ともに
大きな柵とともに
- 1616 uworeroshki
ウウオレロシキ
重なってそびえる
並び建っていた。
- 1617 kamui ewaki
カムイ エワキ
神 住まい
神の住まい
- 1618 kone p ne kusu
コネ プ ネ クス
であるもの 繫 由
であるから
- 1619 soike sama
ソイケ サマ
家の外 そば
その周囲は
- 1620 chitomte kashpa kane
チトムテ カシパ カネ
輝いている 甚だしい 音調整
輝いて、まぶしいほどで、
- 1621 anramasu
アンラマス
まったく好ましい
息の飲む
- 1622 a-uwesuye kane
ア・ウウエスイエ カネ
我・思う 同時
ほど感心した。
- 1623 kanto aba^{*48} makke ruwe
カント アバ マッケ ルウエ
天 簾戸 開く 跡
天の戸が明々と
- 1624 maknatara
マクナタラ
輝いている
開いていた。
- 1625 kanto aba
カント アバ
天 簾戸
天の戸に
- 1626 a-yaipekare
ア・ヤイベカレ
我・沿っていく
向かった。
- 1627 konep kamuye
コネプ カムイエ
繫 神
どんな神が
- 1628 ituren rok wa
イトウレン ロクワ
憑く 完 接
われに憑いて
- 1629 humash nankor a
フマシ ナンコラ
気配がする だろう 疑
いるのか、
- 1630 i-enkashike
イ・エンカシケ
我・上
わが頭上で
- 1631 bushkosampa
ブシコサムパ
爆発する
爆音を立てた。
- 1632 taban kamui mau
タバン カムイ マウ
この 神 風
おおきな神風の
- p. 253
- 1633 kamui mau etok
カムイ マウ エトク
神 風 前方
先端に
- 1634 a-i-y-ekoshne-
ア・イ・イエコシネ・
我・軽々と
軽々と
- 1635 buni kane
ブニ カネ
上げる 音調整
載せられて
- 1636 ran-an humi
ラン・アン フミ
降りる・我 音
降りて行く
- 1637 an-ekisarshut-
アネキサラシユト・
我・耳の根元
わが耳たぶが
- 1638 maukururu
マウクルル
風が渦巻く
ぶるぶる震えた。
- 1639 inkar-an ko
インカラ・アン コ
見る・我 条件
見れば、
- 1640 isenramkusu
イセンラムクス
いつものように
いつものように
- 1641 an-ewak shir or
アネワク シリ オロ
我・住む 様子 所
人に住まわれた
- 1642 chibuni tapkop
チブニ タップコプ
盛り上がる 小山
盛り上がった小山が
- 1643 kamui nishkashi
カムイ ニシカシ
神 上空
天まで
- 1644 kotaprikikur-
コタプリキクル・
肩を高く
その肩を
- 1645 buni kane
ブニ カネ
上げる 音調整
そびやかしていた。
- 1646 soyun yakura
ソユン ヤクラ
外にある 櫓
家のそばの矢倉の
- 1647 yakura kurka
ヤクラ クルカ
櫓 上
上に
- 1648 a-i-y-eranke
ア・イ・イエランケ
我・降ろされる
われは吹き降ろされた。
- 1649 inkar-an ko
インカラ・アン コ
見る・我 条件
見れば、
- 1650 chiare abe
チアレ アベ
焚かれる 火
焚き火が
- 1651 soi ta barse
ソイ タ バラセ
家の外 場 燃える
外で炎を上げていた。
- 1652 chise sam ka ta
チセ サム カ タ
家 そば 上 場
家の周囲を
- 1653 apkash-an ko
アプカシ・アン コ
歩く・我 条件
歩くと
- 1654 a-upsorikor-
ア・ウツソリコロ・
我・懐の宝物
わが懐に入れた宝物が
- 1655 kotununatki kane
コトウヌナトキ カネ
鳴る 音調整
音を立てた。
- 1656 mosem tuyor
モセム トウヨロ
玄閣納屋 中
下屋の土間に
- 1657 a-eshikiru
ア・エシキル
我・回る
目を向けると
- 1658 kamui hura
カムイ フラ
神 匂い
良い香り、
- 1659 tomi hura
トミ フラ
財宝 匂い
財宝の香りが
- 1660 rui rera ne
ルイ レラ ネ
激しい 風 繫
強い風となって
- 1661 i-emakna-
イ・エマクナ・
我・背後
我を
- 1662 raipa kane
ライパ カネ
移動させる 音調整
後ずさりさせた。
- 1663 ratki aba
ラトキ アバ
垂れる 簾戸
垂れた戸の御簾を
- 1664 a-kotekturi
ア・コテクトウリ
我・手を伸ばす
手を伸ばして上げ、
- 1665 a-moirechaka
ア・モイレチャカ
我・ゆっくり開ける
ゆっくりと開けた。
- 1666 mintar ka ta
ミンタラ カ タ
土間 上 場
土間に

*48 現ノートでは a-ma となっている。

- 1667 urar tura
ウララ トウラ
霧 ともに
霞とともに、
- 1668 imeru tura
イメル トウラ
光 ともに
光とともに
- 1669 a-rutkosampa
ア・ルトコサムバ
我・押し入る
静々に入った。
- 1670 inkar-an chiki
インカラ・アン チキ
見る・我 条件
見ると、
- 1671 konepkeukata
コネツケウカタ
何ということか
コネツケウカタ
- 1672 konepkashita
コネツカシタ
何としたことか
コネツカシタ
- 1673 ireshuyubi
イレシュユビ
育ての兄
育ての兄がいた。
- 1674 ene an a kamui
エネ アン ア カムイ
斯くある 完 神
かつてあれほどの
- 1675 ene an a bito
エネ アン ア ビト
斯くある 完 人
神人であったのに、
- 1676 hushkotoiwano
フシコトイワノ
以前から
しばらく
- 1677 somo ibe p
ソモ イベ プ
否定 食事する もの
何も食べなかった
- 1678 kone p ne kusu
コネ プ ネ クス
であるもの 繫 由
からであろう、
- 1679 ouse bone
オウセ ボネ
ただ 骨
骨ばかりとなっていた。
- 1680 chikapkokari
チカフコカリ
皮膚が巻き付く
骨に皮膚が巻きついて
- 1681 semkorachi
セムコラチ
まるで(する)ように
いるかのように
- 1682 nambone ka
ナムボネ カ
頬骨 も
顔の骨も
- 1683 chikotarara
チコタララ
突き出す
突き出していた。
- 1684 shiksei asam
シクセイ アサム
眼窩 底
目のくぼみが
- 1685 kokurototke
コクロトトケ
黒々となっている
黒ずんでいた。
- 1686 tek ne kor be
テック ネ コロ ベ
手 繫 持つ もの
その手も
- 1687 chiyakukine
チヤクキネ
未詳
(未詳)
- 1688 chikin ne kor be
チキン ネ コロ ベ
脚 繫 持つ もの
その足も
- 1689 chikukine
チクキネ
未詳
(未詳)
- 1690 eashka tumsak ibor
エアシカ トムサク イボロ
とても 元気がない 顔色
まったく気力を
- 1691 eibottumu
エイボトトムム
顔色
失って、
- 1692 koshumnatara kane
コシムナタラ カネ
萎れている 音調整
顔色がすぐれていない。
- 1693 hoka etok ne
ホカ エトク ネ
炬 前方 繫
炬のかみに
- 1694 ehorarpa
エホラッパ
居る
座っていた。
- 1695 oshiso sam ta
オシソ サム タ
右座 そば 場
右座の傍らに
- 1696 pon a-kor sapo
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さん
- 1697 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤッカ
繫 接 繫 譲
も
- 1698 arukorachi
アルコラチ
同じく
兄と同じように
- 1699 sattek shiri
サトテック シリ
やせた 様子
やせ細って、
- 1700 hushkotoiwano
フシコトイワノ
以前から
泣き暮らしていた
- 1701 chish be ne kusu
チッ ベ ネ クス
泣く もの 繫 由
ためか、まぶたが腫れ、
- 1702 shikrap emko
シクラブ エムコ
まつげ 半分
まつ毛が半分しか
- 1703 koetukukke kane
コエトウククケ カネ
突き出る 音調整
出ていなかった。
- p. 254
- 1704 eashka kurka konna
エアシカ クルカ コンナ
とても 上 は
ほんちに表情が
- 1705 uyanitara
ウヤニタラ
こわばっている
こわばっていた。
- 1706 harkiso beka
ハラキソ ベカ
左座 で
左座を通って、
- 1707 yuppo ari
ユポ アリ
兄 引用
「兄さん」と
- 1708 sapo ari
サポ アリ
姉 引用
「姉さん」と
- 1709 itak-an kane
イタク・アン カネ
言う・我 同時
言って、
- 1710 ireshuyubi
イレシュユビ
育ての兄
育ての兄の
- 1711 temkor kashi
テムコロ カシ
腕で抱える 上
腕の中に
- 1712 a-koyayeyapkir
ア・コヤイエヤツキリ
我・身を投げる
身を投げた。
- 1713 ireshuyubi
イレシュユビ
育ての兄
育ての兄と
- 1714 pon a-kor sapo
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さんは
- 1715 shine ikin ne
シネ イキン ネ
一つの列 繫
一斉に
- 1716 i-kurkashike
イ・クルカシケ
我・上
わが身を
- 1717 uwanpare
ウワンパレ
観て調べる
目でさぐった。
- 1718 shinnai no
シンナイ ノ
違った 接
変わった
- 1719 shiyuk-am be ne kusu
シユク・アム ベ ネ クス
正装する・我 もの 繫 由
装いをしているので、
- 1720 tu urar ikkeu
トゥ ウララ イッケウ
二つの 霧 腰
なんども、なんども
- 1721 re urar ikkeu
レ ウララ イッケウ
三つの 霧 腰
われを包む霧の根を
- 1722 i-kocharikarpa
イ・コチャリカラバ
我・散らす
払おうとした。
- 1723 naani tu sui
ナアニ トウ スイ
大方 二つの 回
ほとんど
- 1724 naani re sui
ナアニ レ スイ
大方 三つの 回
数限りなく
- 1725 ainu katne
アイヌ カトネ
人間 姿をとる
われの姿を
- 1726 i-kar eaikap kane
イ・カラ エアイカフ カネ
我・する できない 同時
現そうと試みたが
- 1727 hushkotoiwano
フシコトイワノ
以前から
できなかった。しばらく
- 1728 i-kourarchari rok ine
イ・コウララチャリ ロク イネ
我・霧を散らす 完 接どこ
そうしていると、
- 1729 tanebo konna
タネボ コンナ
今 は
やっと
- 1730 a-annankurka
ア・アンナンクルカ
我・顔半面
われの横顔を
- 1731 koshikraipa
コシクライパ
目撃する
捉えることができた。
- 1732 eashka kanibor ka ta
エアシカ カニボロ カ タ
とても 顔色 上 場
すると二人の顔色が
- 1733 koraikosampa
コライコサムバ
蒼ざめる
青ざめた。
- 1734 huihuinawano
フイフイナワノ
隔々まで
われをくまなく
- 1735 i-uwampare
イ・ウワンパレ
我・調べる
見改めた。
- 1736 katu ne kane
カトゥ ネ カネ
様子 繫 同時
あたりまえに

- 1737 i-reka kuni p
イ・レカ クニ ヲ
我・ほめる 必 もの
われを賛嘆し、
- 1738 i-erayap kuni p
イ・エラヤッ クニ ヲ
我・感心する 必 もの
われに驚嘆するの
- 1739 ne wa ne yakne
ネ ワ ネ ヤクネ
繋 接 繋 条件
ならば
- 1740 kotom korokaiki
コトム コロカイキ
ようである 逆
あってもおかしくないが、
- 1741 eashka
エアシカ
ほんとうに
まったく
- 1742 shikomompa kane
シッコモムパ カネ
目を伏せる 同時
目を伏せて
- 1743 i-tukaribebo
イ・トゥカリベボ
我・前
われの手前に
- 1744 koshikerana-
コシケラナ・
目を下に
目を
- 1745 attepa kane
アツェパ カネ
立てる 音調整
落とした。
- 1746 tureshpo ari
トゥレシポ アリ
妹 引用
(兄が) 妹よ、と
- 1747 matakpo ari
マタクポ アリ
妹 引用
(姉が) 妹よ、と
- 1748 sambe ari
サムベ アリ
心臓 引用
愛しいものよ、と
- 1749 haweokai kane
ハウエオカイ カネ
言う 同時
言いながら、
- 1750 tun ne wa
トゥン ネ ワ
二人 繋 接
二人して
- 1751 i-kurkashike
イ・クルカシケ
我・上
わが上に
- 1752 onoyoise kane
オノヨイセ カネ
もたれて泣く 同時
もたれ、
- 1753 i-euwomko-
イ・エウオムコ・
我・両腿
われの両腿を
- 1754 chishkar kane
チッカラ カネ
泣く 音調整
泣きながら
- 1755 otusui konna
オトウスイ コンナ
二回 は
なんども
- 1756 oresui konna
オレスイ コンナ
三回 は
なんども
- 1757 i-shikoruiipa
イ・シコルイパ
我・撫でる
撫ぜさすった。
- 1758 tu sui chish noipa
トゥ スイ チシ ノイパ
二つの 回 泣く 捻る
いくども、いくども
- 1759 re sui chish
レ スイ チシ
三つの 回 泣く
泣き
- 1760 noipa kane
ノイパ カネ
捻る 同時
崩れた。
- 1761 inumbe oshmak
イヌムベ オシマク
炬縁 陰
炬縁の後ろに
- 1762 kosankeshup-
コサンケシュブ・
躍
かかとを
- 1763 ashiashipa kane
アシアシパ カネ
立てる 同時
立てて
- 1764 toikootetterke kane
トイコオテテレケ カネ
激しく跳ねる 同時
激しく踏み鳴らし、
- 1765 shine itak
シネ イタク
一つの 言う
同じ言葉を
- 1766 eubaemko-
エウバエムコ・
口の半分
取り合うよう
- 1767 uina kane
ウイナ カネ
手に取る 音調整
口々に言った。
- 1768 achikara ta
アチカラ タ
いやなことだ これ
「なんということ、
- 1769 ayakanna ta
アヤカンナ タ
ろくでもないことだ これ
呆れたもの。
- 1770 toi kannakamui
トイ カンナカムイ
土 雷神
卑しい雷神
- 1771 wen kannakamui
ウェン カンナカムイ
悪い 雷神
悪の雷神
- 1772 utarorke
ウタロロケ
たち
たちの
- 1773 wen renkabi
ウェン レンカビ
悪い 意思
曲がった行いの
- 1774 okai rok kusu
オカイ ロク クス
ある 完 由
ために
- 1775 bokash okai be ka
ボカシ オカイ ベ カ
下らない ある もの
つまらない人でも
- 1776 chietuyashkarap be
チエトゥヤッカラパ ベ
可愛く思う もの
憐れむ
- 1777 a-pontureshi
ア・ポントウレシ
我・小さな妹
わが妹
- 1778 ne rok wa
ネ ロク ワ
繋 完 接
であるのに、
- 1779 inunukashki
イヌヌカシキ
可哀想に
かわいそうに
- 1780 rai ne yakka
ライ ネ ヤッカ
死ぬ 繋 譲
死のなかでも
- 1781 semkatune
セムカトゥネ
並でなく
無残きわまりない死を
- 1782 a-ekarkar shiri yakka
ア・エカラカラ シリ ヤッカ
される 様子 譲
遂げざるをえなかったが、
- 1783 base kamui
バセ カムイ
重い 神
尊い神が
- 1784 i-koinkar kusu
イ・コインカラ クス
我・見る 由
目を掛けてくれたので
- 1785 tane a-tureshpo
タネ ア・トゥレシポ
今 我・妹
今こそわが妹は
- 1786 sonno chinomikamui
ソンノ チノミカムイ
真に 祭られる神
祭り送る神が
- 1787 toika oterke yakne^{*49}
トイカ オテレケ ヤクネ
地面 着地する 条件
地上を飛び立つ
- 1788 a-koenempa korachi
ア・コエネムパ コラチ
似つかわしい ように
姿のように
- 1789 pirika ruwe okai ari
ピリカ ルウェ オカイ アリ
よい 跡 ある 引用
美しくなっている。」と
- 1790 haweokai kor
ハウエオカイ コロ
言う 持つ
言うど、
- 1791 eashka i-ukohenkotpa
エアシカ イ・ウコヘンコトパ
とても 我・抱きしめる
われを抱きしめ愛撫して
- 1792 i-keuhumsupa
イ・ケウフムスバ
我・無事をねぎらう
苦労をねぎらってくれた。
- 1793 konepkeukata
コネップケウカタ
何ということか
コネップケウカタ
- 1794 konepkashita
コネップカシタ
何としたことか
コネップカシタ
- 1795 pon a-kor sapo
ポン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さんは
- 1796 ene he tapne
エネ ヘ タツネ
斯く 疑 これである
このように
- 1797 shukup tuika ta
シュクフ トウイカ タ
成長する 上 場
生い立つあいだ
- 1798 chiesambehanke
チエサムベハンケ
心臓を近づける
心を尽くして
- 1799 i-y-ekarkar
イ・イエカラカラ
我・する
世話をみてくれた
- 1800 shiri okai be
シリ オカイ ベ
様子 ある もの
のを
- 1801 arwen kamui
アウウェン カムイ
ひどい 神
極ワルの神の
- 1802 wen renkabi
ウェン レンカビ
悪い 意思
魔の企み
- 1803 okai kusu
オカイ クス
ある 由
のため

*49 この語のあとに ko と書かれているが、棒線で抹消されている。

- 1804 **chiemoninishte shiri**
チエモニニシテ シリ
酷い仕打ちをする 様子
手荒な仕打ちが
- 1805 **okai rok i**
オカイ ロク イ
ある 完 形名
あったことを
- 1806 **eshikarun chiki**
エシカルン チキ
思い出す 条件
思い出し
- 1807 **eashka yayashish hawe**
エアシカ ヤヤシシ ハウエ
とても くやしがる 声
さかんに口惜しく
- 1808 **kari kane**
カリ カネ
回る 同時
嘆いた。
- 1809 **tu wembakamui**
トゥ ウェムバカムイ
二つの 悪口
数々の
- 1810 **re wembakamui**
レ ウェムバカムイ
三つの 悪口
悪口雑言を
- 1811 **oshirotatpa**
オシロタトパ
そこらにぶちまける
ぶちまけた。
- 2.7 償い
- 1812 **tu pirika kuni p**
トゥ ビリカ クニ プ
二つの よい 必 もの
われは、良い言葉
- 1813 **re pirika kuni p**
レ ビリカ クニ プ
三つの よい 必 もの
優しい言葉を
- 1814 **a-ebakashnu kane**
ア・エバカシヌ カネ
我・言い聞かせる 同時
姉にかけて、
- 1815 **usa akochi**
ウサ アコチ
譲 尾びれ
鮭の尾びれ、
- 1816 **usa mokkeu**
ウサ モクケウ
譲 胸びれ
胸びれ
- 1817 **usa notarap**
ウサ ノタラフ
譲 えら
えらを
- 1818 **a-yomompa hine**
ア・ヨモムパ ヒネ
我・炙る 接
炙って
- 1819 **a-bopte wa**
ア・ボフテ ワ
我・沸かす 接
煮て
- 1820 **nei rurihi**
ネ ルリヒ
繫 だし
そのだしを
- 1821 **a-kurepa chiki**
ア・クレパ チキ
我・飲ませる 条件
二人に飲ませると、
- 1822 **boronno kupa**
ボロンノ クバ
たくさん 飲む
おいおいに飲んだ。
- 1823 **tap oro wa**
タップ オロ ワ
これ 所 から
それから
- 1824 **pirika shuke**
ビリカ シュケ
よい 炊事する
美味しい食事の拵えに
- 1825 **a-koyairikta-**
ア・コヤイリクタ・
我・自らを高く
精一杯
- 1826 **ante kane**
アンテ カネ
あらしめる 音調整
尽くした。
- 1827 **ren a-ne wa**
レン ア・ネ ワ
三人 我・繫 接
われらは三人で
- 1828 **ibe-an**
イベ・アン
食事する・我
食べた。
- 1829 **keshto ibe-an**
ケスト イベ・アン
毎日 食事する・我
そうやって毎日食べて
- 1830 **rok i ne**
ロク イ ネ
完 形名 繫
いと
- 1831 **tane anakne**
タネ アナクネ
今 は
やがて
- 1832 **ireshuyubi hene**
イレシュユビ ヘネ
育ての兄 も
育ての兄も
- 1833 **pon a-kor sapo hene**
ポン ア・コロ サポ ヘネ
小さい 我・もつ 姉 も
ちい姉も
- 1834 **shino tumashnu**
シノ トウマシヌ
まことに 元気になる
体力を回復した。
- p. 256*
- 1835 **shine an kunne wano**
シネ アン クンネ ワノ
一つの ある 夜 から
ある朝、
- 1836 **ireshuyubi**
イレシュユビ
育ての兄
育ての兄が
- 1837 **noshke bakno**
ノシケ バクノ
真中 まで
神窓から
- 1838 **rorunburai kari**
ロルンブライ カリ
神窓 から
身半分を
- 1839 **etuk wa**
エトウク ワ
突き出す 接
出して
- 1840 **chiashi nusa**
チアシ ヌサ
立てられた 祭壇
表に立つ幣棚に
- 1841 **nusabake un inkar**
ヌサバケ ウン インカラ
幣棚の東端 方向 見る
目をやった。
- 1842 **tap oro wa**
タップ オロ ワ
これ 所 から
それから
- 1843 **chisonaraipa**
チソナライパ
戸外に出る
外へ出た。
- 1844 **burai kari**
ブライ カリ
窓 から
神窓から
- 1845 **kanakan kuni p**
カナカン クニ プ
どういふ 必 もの
何かを
- 1846 **ahunke wa**
アフンケ ワ
入れる 接
家の中に入れた。
- 1847 **inkar-an ko**
インカラ・アン コ
見る・我 条件
すると
- 1848 **chise upsoro**
チセ ウツソロ
家 内部
家の中が
- 1849 **makke kane**
マクケ カネ
明るくなる 音調整
明るく
- 1850 **mike kane**
ミケ カネ
輝く 音調整
輝いた。
- 1851 **kani tum wa**
カニ トウム ワ
黄金 中 から
黄金の中から
- 1852 **a-busu apkor**
ア・ブス アフコロ
人々・押し出す かのよう
掘り出したかの
- 1853 **kane okai**
カネ オカイ
同時 ある
ような
- 1854 **kani karauto**
カニ カラウト
黄金 唐櫃
金の宝箱
- 1855 **chishina shuyop**
チシナ シュヨフ
縛られる 箱
紐のかかった箱の
- 1856 **kamui nubeki**
カムイ ヌベキ
神 光
神々しい光が
- 1857 **chise upsoro**
チセ ウツソロ
家 内部
家の中を
- 1858 **emaknatara kane**
エマクナタラ カネ
輝く 同時
照らした。
- 1859 **a-ye rok okai**
ア・イエ ロク オカイ
言われる 完 ある
これがいわゆる
- 1860 **kannakamui utar**
カンナカムイ ウタラ
雷神 たち
雷神たちが
- 1861 **kamui kor be ari**
カムイ コル ベ アリ
神 持つ もの 引用
宝物で
- 1862 **kamui koyayunashke**
カムイ コヤユナシケ
神 詫びる
詫びの
- 1863 **ashimbe ne katu**
アシムベ ネ カトウ
賠償金 繫 様子
印としたもの、と
- 1864 **a-eraman**
ア・エラマン
我・知る
われは理解した。
- 1865 **ireshuyubi**
イレシュユビ
育ての兄
育ての兄が
- 1866 **tarap ari**
タラフ アリ
夢見る で
夢で
- 1867 **eraman wa**
エラマン ワ
知る 接
それを知り
- 1868 **ahupte shiri ne i**
アフフテ シリ ネ イ
入れる 様子 繫 形名
家に入れたということも
- 1869 **a-noeraman**
ア・ノエラマン
我・よくわかる
わかった。
- 1870 **keshto okai-an ko**
ケスト オカイ・アン コ
毎日 いる・我 条件
毎日
- 1871 **Iyochi un a-yubutari**
イヨチ ウン ア・ユブタリ
地名 ある 我・兄たち
イヨチの兄たち
- 1872 **ne wa ne yakka**
ネ ワ ネ ヤッカ
繫 接 繫 譲
も
- 1873 **wen imokir kipa wa**
ウェン イモキリ キパ ワ
悪い 嘆き すぎる 接
ひどくふさぎ込んで

- 1874 naanika
ナアニカ
まさに
もう少しで
- 1875 oro oba
オロ オバ
所 入る
死んでしまう*50
- 1876 rok koroka
ロク コロカ
完 逆
ところだったが、
- 1877 tapne wa
タプネ ワ
これである 接
このような次第で
- 1878 tane anakne
タネ アナクネ
今 は
今では
- 1879 hobumpa wa
ホブムパ ワ
起き上がる 接
床から上がり、
- 1880 shino tumashnupa
シノ トウマシヌパ
まことに 丈夫になる
まったく健康になった。
- 1881 oro ta ne yakka
オロ タネ ヤッカ
所 場 繋 譲
イヨチの兄たちにも
- 1882 kannakamui utara
カンナカムイ ウタラ
雷神 たち
雷神たちが
- 1883 teta ukorachi
テタ ウコラチ
ここで 同じように
ここと同じく
- 1884 kamui korobe ari
カムイ コロベ アリ
神 持つ物 で
宝物で
- 1885 iyashipte yak a-ye
イヤシプテ ヤク ア・イエ
償う と 言われる
賠償したとの
- 1886 bahawe a-nu
バハウェ ア・ヌ
噂 我・聞く
噂が聞こえた。
- 1887 a-eramushinne
ア・エラムシンネ
我・心落ち着く
われは安心した。
- 1888 hoshki ukorachi
ホシキ ウコラチ
先に 同じように
以前同様
- 1889 sui tu kotan kama
スイ トウ コタン カマ
再び 二つの 村 越える
多くの村々をまたいで
- 1890 re kotan kama
レ コタン カマ
三つの 村 越える
遠くまで、
- 1891 uwesamanno
ウエサマンノ
いっしょに
イヨチ人とともに
- 1892 re kotan kama
レ コタン カマ
三つの 村 越える
遠くまで
- 1893 kamui asuru
カムイ アスル
神 噂
この名が
- 1894 chihobunire koro
チホブニレ コロ
起きる 持つ
知れ渡る
- 1895 shiran
シラン
有様である
ことになった。
- 1896 keshto an ko
ケスト アン コ
毎日 ある 条件
毎日
- 1897 pon a-kor sapo tura
ボン ア・コロ サポ トウラ
小さい 我・もつ 姉 とともに
ちい姉さんと
- 1898 uarsotta
ウアソッタ
炬をはさんで向かい合って
炬をはさんで
- 1899 a-karkar kuni p
ア・カラカラ クニ プ
我・刺繍をする 必 もの
刺繍に
- p. 257
- 1900 attom sama
アトトム サマ
中 そば
意を
- 1901 a-yayomare kane
ア・ヤヨマレ カネ
我・みずから入れる 音調整
注いだ。
- 1902 ineapkusku
イネアプクス
何と
なんとまあ、
- 1903 pon a-kor sapo hene
ボン ア・コロ サポ ヘネ
小さい 我・もつ 姉 も
ちい姉さんも
- 1904 aokai hene
アオカイ ヘネ
我 も
われも
- 1905 ashkai-an wa
アシカイ・アン ワ
上手である・我 接
巧みな
- 1906 shiran nankor a
シラン ナンコラ
有様である だろう 疑
ことか。
- 1907 hoshkino a-ki ashkai
ホシキノ ア・キ アシカイ
先に 我・する 上手である
以前の手仕事は
- 1908 poombepo ne
ポオムベポ ネ
子供 繋
子供のわざで、
- 1909 tane a-ki ashkai
タネ ア・キ アシカイ
今 我・する 上手である
今は
- 1910 shioarwenrui
シオアヲウエンレイ
もの凄いい
著しく
- 1911 shino ashkai-an
シノ アシカイ・アン
まことに 上手である・我
上達している。
- 1912 tu kamui chupki
トゥ カムイ チュプキ
二つの 神 光
夥しい
- 1913 re kamui chupki
レ カムイ チュプキ
三つの 神 光
光が
- 1914 a-karkar kuni p
ア・カラカラ クニ プ
我・刺繍をする 必 もの
刺繍の
- 1915 kurkashike
クルカシケ
上
おもてに
- 1916 oshimaka
オシマカ
踵く
躍っていた。
- 1917 pon a-kor sapo
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さんは
- 1918 tekkakibo
テッカキボ
かざした手
肩に
- 1919 rikunruke
リクンルケ
高くかざす
手をかざして
- 1920 raunruke kane
ラウンルケ カネ
低くかざす 同時
上げ下げして
- 1921 a-karkar kuni p
ア・カラカラ クニ プ
我・刺繍をする 必 もの
われの刺繍を
- 1922 anrekakar
アンレカカラ
ひどく褒める
ひどく褒めた。
- 1923 utashpabakno
ウタシパバクノ
互いに
お互いに
- 1924 a-kar be a-ukoreka
ア・カラ ベ ア・ウコレカ
我・する もの 讃えあう
ほめ合った。
- 1925 tu mina itak
トゥ ミナ イタク
二つの 笑う 言葉
色々
- 1926 re mina itak
レ ミナ イタク
三つの 笑う 言葉
おしゃべりを
- 1927 a-utashpare
ア・ウタシパレ
我ら・交わす
して楽しんだ。
- 1928 uweneusar-an
ウエネウサヲ・アン
お話しをする・我ら
物語を交わした。
- 1929 ireshuyubi
イレシュユビ
育ての兄
育ての兄
- 1930 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤッカ
繋 接 繋 譲
も
- 1931 makanneko
マカンネコ
あるときには
ときには
- 1932 tun a-ne wa
トゥン ア・ネ ワ
二人 我・繋 接
二人で縫った
- 1933 a-karkar kuni p
ア・カラカラ クニ プ
我・刺繍をする 必 もの
刺繍の
- 1934 kurkashike
クルカシケ
上
おもてに
- 1935 shikomare kane
シコマレ カネ
見つめる 同時
目を凝らして
- 1936 katu ne kane
カトゥ ネ カネ
様子 繋 同時
あたりまえに
- 1937 erayap kuni p
エラヤフ クニ プ
感心する 必 もの
驚く
- 1938 ne wa ne yakne
ネ ワ ネ ヤクネ
繋 接 繋 条件
ならば
- 1939 kotom korkaiki
コトム ネ コロカイキ
ようである 逆
不思議ではないが、
- 1940 shikkankomomse kane
シクカンコムムセ カネ
目を近づける 同時
目を近づけて
- 1941 tukaribebo
トゥカリケボ
手前
その手前に

*50 この解釈は不確か。

- 1942 koshikerana-
コシケラナ・
目を下に
目を伏せ、
- 1943 atte kane ikichi
アトテ カネ イキチ
たたせる 同時 する
恐れ入っている。
- 1944 ireshuyubi
イレシュユビ
育ての兄
育ての兄は
- 1945 ramma ukorachi
ラムマ ウコラチ
いつも 同じように
いつもと変わりなく
- 1946 ekimne
エキムネ
山に行く
狩りに行き、
- 1947 uturu an ko
ウトウル アン コ
間 ある 条件
狩りの合間は酒器の
- 1948 ikorka nuye
イコロカ ヌイエ カネ
宝器 彫り刻む
おもてに彫り物をし、
- 1949 Tomika nuye kane
トミカ ヌイエ カネ
宝器の表面 彫り刻む 音調整
彫琢を施していた。
- 1950 tane ne kusu
タネ ネ クス
今 繫 由
今となっては
- 1951 obittano
オビトタノ
皆
皆が
- 1952 toikotumashnupa
トイコトゥマシヌバ
ひどく丈夫になる
とても元気になった。
- 1953 shine an i wano
シネ アニ ワノ
一つの ある 形名 から
あるときから
- 1954 a-yaikotuima-
ア・ヤイコトウイマ・
我・自ら遠く
われはあれこれと
- 1955 shiramsuye
シラムスイエ
自分の心を播らす
思いに耽るようになった。
- 1956 nekona shiko p
ネコナ シコ プ
どのように 生まれる もの
どんな
- 1957 nekona baro p
ネコナ バロ プ
どのように 口がつく もの
生まれ合わせなのか、
- 1958 tapne
タプネ
これである
このように
- 1959 Pon Iyochiunkuru
ボン イヨチウンクル
小さい イヨチ人
小イヨチ人
- 1960 pon a-kor yubi ne wa
ボン ア・コロ ユビ ネ ワ
小さい 我・もつ 兄 繫 接
ちい兄さんと
- 1961 tun a-ne wa
トゥン ア・ネ ワ
二人 我・繫 接
われの二人に
- 1962 kannakamui
カンナカムイ
雷神
雷神
- 1963 utarorke
ウタロロケ
たち
たちが
- 1964 chioshikotpa
チオシコトパ
恋情を抱く
恋慕
- 1965 i-y-ekarkar
イ・イエカラカラ
我・する
して、
- 1966 oman ikiri
オマン イキリ
行く 列
そうこうするうち
- 1967 naanohonko
ナアニホンコ
あやうく
もう少しのところで
- p. 258
- 1968 wen rai toi rai
ウェン ライ トイ ライ
悪い 死ぬ 土 死ぬ
殺される
- 1969 a-i-y-ekarkar ko
ア・イ・イエカラカラ コ
我・される 条件
ところだった。
- 1970 kunne chup kamui
クンネ チュプ カムイ
夜 月 神
月の神が
- 1971 okai kusheraibo
オカイ クシケライボ
ある おかげで
いらしたおかげで
- 1972 chikeutusare
チケウトウサレ
蘇生する
命が
- 1973 a-i-y-ekarkar
ア・イ・イエカラカラ
我・される
あった。
- 1974 a-wenrenkabi
ア・ウェンレンカビ
我・悪しき定め
われの悪い定め
- 1975 okai kusu
オカイ クス
ある 由
せいで
- 1976 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
兄たちも
- 1977 a-sautari
ア・サウタリ
我・姉達
姉たちも
- 1978 uwesamanno
ウエサマンノ
いっしょに
ともに
- 1979 shukup imokir
シュクツァ イモキリ
成長する 嘆き
若い身で嘆き
- 1980 kiba rok i
キバ ロク イ
する 完 形名
悲しんだことを
- 1981 a-eshikarun chiki
ア・エシカルン チキ
我・思い出す 条件
思い返すと
- 1982 hetak ta usa
ヘタク タ ウサ
さあ これ 譲
直ぐにでも
- 1983 a-yubutari hene
ア・ユブタリ ヘネ
我・兄たち も
兄たちや
- 1984 pon a-kor sapo hene
ボン ア・コロ サポ ヘネ
小さい 我・もつ 姉 も
ちい姉さんに
- 1985 a-nukar okai ari
ア・ヌカラ オカイ アリ
我・見る ある 引用
会いたいと
- 1986 a-yainu chiki
ア・ヤイヌ チキ
我・考える 条件
思ったので、
- 1987 Pon Iyochiunkuru
ボン イヨチウンクル
小さい イヨチ人
小イヨチ人
- 1988 pon a-kor yubi
ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
ちい兄さんの姿が
- 1989 a-nankotcha
ア・ナンコトチャ
我・顔の前
目の前に
- 1990 eerachitke
エエラチトケ
ぶらさがり
ちらつき
- 1991 a-montumkonna-
ア・モントウムコンナ・
我・腕
力も
- 1992 koshumnatara
コシユムナタラ
萎れている
失せてしまった。
- 1993 kunne an ko
クンネ アン コ
夜 ある 条件
夜になると
- 1994 sotki ka ta
ソトキ カ タ
寢床 上 場
寝台の上で
- 1995 a-yainubeko-
ア・ヤイヌベコ・
我・自らの涙
涙に
- 1996 shiru kane
シル カネ
こする 同時
くれた。
- 1997 tokap an ko
トカプ アン コ
昼 ある 条件
夜が開けると
- 1998 oyap neno
オヤプ ネノ
上陸するように
別人のようになって
- 1999 tu mina itak
トゥ ミナ イタク
二つの 笑う 言葉
色々
- 2000 re mina itak
レ ミナ イタク
三つの 笑う 言葉
楽しい話を
- 2001 a-itasare kane
ア・イタサレ カネ
我・返す 音調整
交わしたけれど、

第3章 華燭の典

3.1 宴の準備

- 2002 shine an to ta
シネ アン タ
一つの ある 日 場
ある日、
- 2003 iresuyubi
イレシュユビ
育ての兄
育ての兄が
- 2004 ene itak i
エネ イタク
斯く言う 形名
こう言った。
- 2005 koninkarkusu
コニンカルクス
いざいざ
「これこれ、
- 2006 a-tureshutari
ア・トゥレシユタリ
我・妹たち
妹たち
- 2007 harukesh boka okai
ハルケシ ボカ オカイ
食物の残り さえ ある
穀物に残りがあるか。
- 2008 okai chiki
オカイ チキ
ある 条件
あるなら
- 2009 rapte wa
ラプテ ワ
下ろす 接
下ろして

- 2010 sake shuipa yan
サケ シュイパ ヤン
酒 炊く 命令
酒を醸してくれ。
- 2011 teeta ne
テエタ ネ
以前 繫
前に
- 2012 a-uimamkarbe ne yakka
ア・ウイマムカラベ ネ ヤッカ
交易で得た品々 繫 讓
交易で得た酒も
- 2013 neino
ネノ
ように
そのまま手付かずに
- 2014 iyapte chise ot ta
イヤッテ チセ オト タ
船荷をあげる 家 所 場
船荷の小屋に
- 2015 okai ruwe ne
オカイ ルウェ ネ
ある 跡 繫
ある。
- 2016 ainu tonoto
アイヌ トノト
アイヌ 酒
アイヌの酒、
- 2017 sam tonoto
サム トノト
和人 酒
和人の酒を
- 2018 a-ukotama wa^{*51}
ア・ウコタマ ワ
我・混ぜる 接
取り混ぜて
- 2019 tanebo konna
タネボ コンナ
今 は
今こそ一族の者たち、
- 2020 a-utari utar
ア・ウタリ ウタラ
我・人々 たち
近隣の者たちを
- 2021 obittano
オビトタノ
皆
ことごとく
- 2022 a-tak wa
ア・タック ワ
我・招く 接
招いて
- 2023 kamuinomi-an
カムイノミ・アン
神に祈る・我
お祭りを
- 2024 kushune na ari
クシュネ ナ アリ
すべき ぞ 引用
しよう。」と
- 2025 hawash chiki
ハワシ チキ
言われる 条件
言ったので、
- 2026 ineapkusu
イネアックス
何と
われはどれほど
- 2027 a-enubetne wa
ア・エヌベトネ ワ
我・喜ぶ 接
喜んだ
- 2028 humash nankor a
フマシ ナンコラ
気配がする だろう 疑
ことか。
- 2029 pon a-kor sapo tura
ボン ア・コロ サポ トウラ
小さい 我・もつ 姉 ともに
ちい姉さんと
- 2030 soiwasamwa
ソイワサムワ
家の外へ
戸外に
- 2031 a-oshiraipa
ア・オシライパ
我・移動する
出た。
- 2032 pon a-kor sapo
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さんは
- 2033 soyun yakura
ソユン ヤクラ
外にある 櫓
外の矢倉の
- 2034 yakura kurka
ヤクラ クルカ
櫓 上
上に
- 2035 chieashi
チエアシ
立つ
立った。
- 2036 tapne ne kusu
タプネ ネ クス
これである 繫 由
「そういうことで、
- 2037 a-utari utar
ア・ウタリ ウタラ
我・人々 たち
近隣の者たちよ、
- 2038 arki wa
アラキ ワ
来る 接
やって来て
- 2039 ikasui wa
イカスイ ワ
手伝う 接
手伝って
- 2040 i-kore kunak
イ・コレ クナク
我・与える 引用
ください
- 2041 ramu yan
ラム ヤン
思う 命令
ませんか」
- 2042 ari hawash chiki
アリ ハワシ チキ
引用 言われる 条件
と言うと、
- 2043 ineapkusu
イネアックス
何と
なんとまあ、
- 2044 a-utari utar
ア・ウタリ ウタラ
我・人々 たち
近隣の者たちは
- 2045 uitaknu wa
ウイタクヌ ワ
言うことを聞く 接
言うことを
- 2046 hawash nankor a
ハワシ ナンコラ
言われる だろう 疑
聞いてくれた。
- 2047 kotan ba un
コタン バ ウン
村 上 方向
村の上からも
- 2048 kotan kesh un wa
コタン ケシ ウン ワ
村 末端 方向 から
村の下からも
- 2049 ainu kutkesh
アイヌ クトケシ
人間 喉の末
ざわざわ人声が
- 2050 sara sara kane
サラ サラ カネ
姿を現す 姿を現す 音調整
して、
- 2051 hontomo ta
ホントモ タ
途中 場
そのうちに
- 2052 nishpa moyono
ニシパ モヨノ
長者 少なく
数少ない長者
- 2053 katkemat moyono
カトケマト モヨノ
婦人 少なく
奥方が
- 2054 uwekarpa
ウウエカラバ
集まる
集まってきた。
- 2055 pon a-kor sapo tura
ボン ア・コロ サポ トウラ
小さい 我・もつ 姉 ともに
われはちい姉さんと
- 2056 tun a-ne wa
トゥン ア・ネ ワ
二人 我・繫 接
二人で、帯の掛かった
- 2057 iwan kutomap
イワン クトマップ
六人 繩のかかったかます
六つの網袋を
- 2058 a-ebuikare
ア・エブイカレ
我・倉から出す
倉から出した。
- 2059 oro wano
オロ ワノ
所 から
それから、
- 2060 inne utar
インネ ウタラ
大勢 たち
多くの者たちの
- 2061 utar kotcha
ウタラ コトチャ
たち 前
前で
- 2062 a-ehobumpa
ア・エホブムパ
我・跳ねる
ともに躍った。
- 2063 uramkobashte-an
ウラムコバシテ・アン
心のままに共に走る
二人心合せて躍った。
- 2064 iyuta p iyuta
イユタ プ イユタ
白をつく もの 白をつく
搗くものは搗いて、
- 2065 wakata p wakata
ワカタ プ ワカタ カネ
水を汲む もの 水を汲む
水を汲むものは汲んで
- 2066 shuke p shuke kane
シュケ プ シュケ カネ
炊事する もの 炊事する 音調整
炊くものは炊いて
- 2067 inauni tuiba p
イナウニ トウイバ プ
木幣にする木 切る もの
イナウの木を切るものは
- 2068 tuiba kane
トウイバ カネ
切る 音調整
切って
- 2069 nina p
ニナ プ
薪を集める もの 薪を集める
たぎぎを集めるものは
- 2070 nina kane
ニナ カネ
薪を集める 音調整
たぎぎを集め、
- 2071 eashka irukaitomta
エアシカ イルカイトムタ
とても 少しい間
なんと、あつという間に
- 2072 iwan shintoko
イワン シントコ
六人 ほかい
六つの酒樽が
- 2073 ror a-oraipa kane
ロロ ア・オライパ カネ
上座 我・移動する 音調整
神の座に並んだ。
- 2074 tutko rerko
トゥトコ レレコ
二日 三日
二日、三日
- 2075 shiran ko
シラン コ
ときがたつ 条件
すると、
- 2076 kamui e rusui be
カムイ エ ルスイ ベ
神 食べる 欲 もの
神が食べたくなる物、
- 2077 ku rusui be
ク ルスイ ベ
飲む 欲 もの
飲みたいと思う物

*51 これに続いて、さらに wa が書かれているが、それは棒線で抹消されている。

- 2078 kone p ne kusu
コネ プ ネ クス
であるもの 繫 由
であるから、
- 2079 kamui tonoto
カムイ トノト
神 酒
神聖な酒の
- 2080 pirika hura mawe
ピリカ フラ マウエ
よい 匂い 風
たえなる香が
- 2081 chise upsororo
チセ ウッソロ
家 内部
家いっばいに
- 2082 eetushnatki kane
エエトウシナトキ カネ
満ちる 音調整
みなぎった。
- 2083 oro wano sui
オロ ワノ スイ
所 から 再び
それから
- 2084 inne utar
インネ ウタラ
大勢 たち
多くの者が
- 2085 shiaworaipa
シアウォライパ
家の中に入る
家に入ってきて、
- 2086 inauke kuni p
イナウケ クニ プ
木幣を削る 必 もの
イナウを削る役の者が
- 2087 inauke humi
イナウケ フミ
木幣を削る 音
イナウを削ると
- 2088 sashnatara
サンナタラ
噪音が鳴り渡る
シュツツ、シュツツと
- 2089 inumpa kuni p
イヌムバ クニ プ
酒を絞る 必 もの
響いた。酒をこす者は、
- 2090 ukoichari-
ウコイチヤリ
酒を漉す
助け合ってざるを
- 2091 bashte kane
バスデ カネ
走らせる 音調整
走らせた。
- 2092 inauke sash hum
イナウケ サン フム
木幣を削る 噪音を立てる 音
イナウを削る音、
- 2093 inumpa sash hum
イヌムバ サン フム
酒を絞る 噪音を立てる 音
ざるでこす音が
- 2094 uwobuk humi
ウウォブク フミ
連続して音が響く 気配
断続して
- 2095 kosashnatara
コサンナタラ
響く
響き渡った。
- 2096 anramasu
アンラマス
まったく好ましい
しびれるほどの
- 2097 a-uwesuye
ア・ウウエスイエ
我・思う
心地よさ。
- 2098 a-ewak ushike
ア・エワク ウシケ
我・住む ところ
わが住まいの中に差し
- 2099 hushko inau
フッコ イナウ
以前 木幣
かけてある古いイナウは
- 2100 soi a-o
ソイ ア・オ
家の外 我・入れる
外に出し、
- 2101 nusa kese
ヌサ ケセ
祭壇 末端
幣棚の端に
- 2102 a-ewakte
ア・エワクテ
我・納める
納めた。
- 2103 ashiri inau
アシリ イナウ
新しい 木幣
新しいイナウで
- 2104 kamui ewaki
カムイ エワキ
神 住まい
神のいますところ
に
- p. 260
- 2105 a-etomtekar
ア・エトムテカラ
飾り立てられる
差しかけて荘厳した。
- 2106 tane eashiri
タネ エアシリ
今 それこそ
今や、
- 2107 kamui ewaki
カムイ エワキ
神 住まい
神の住まうわが家の
- 2108 upsoroho
ウッソロホ
内部
中に
- 2109 retar urar
レタラ ウララ
白い 霧
白いもやが
- 2110 eetushnatki kane
エエトウシナトキ カネ
満ちる 音調整
たなびき、
- 2111 iyapte chise
イヤプテ チセ
船荷をあげる 家
船荷の家
- 2112 oro wa hemem
オロ ワ ヘメム
所 から も
からも
- 2113 usa kamui tonoto
ウサ カムイ トノト
讓 神 酒
芳醇な酒やら
- 2114 usa tono e amam hene
ウサ トノ エ アマム ヘネ
讓 殿 食べる 穀物 も
米やら
- 2115 tono e kerambe hene
トノ エ ケラムベ ヘネ
殿 食べる おいしいもの も
和人の美味、珍味やら
- 2116 usa sarambe usep hene
ウサ サラムベ ウセプ ヘネ
讓 絹 布 も
絹のきれやら
- 2117 kani matchuyop hene
カニ マトチュヨップ ヘネ
黄金 女持ちの手函 も
黄金の手函やら
- 2118 kani boshtoko hene
カニ ボシトコ ヘネ
黄金 小さなシントコ も
黄金のほかいやら
- 2119 usaine
ウサイネ
色々と
などなど
- 2120 usaine okai
ウサイネ オカイ
色々と ある
くさぐさ
- 2121 kamuitono kor be
カムイトノ コロ ベ
和人の殿 持つ もの
殿様の持ち物を
- 2122 boronno a-ewak ushike
ボロンノ ア・エワク ウシケ
たくさん 我・住む ところ
たくさんわが住まいに
- 2123 sonno eshik kane
ソノン エシク カネ
真に いっばいである 同時
満ち溢れるほど
- 2124 inne utar rura
インネ ウタラ ルラ
大勢 たち 運ぶ
皆が大勢で運んだ。
- 2125 ene boronno
エネ ボロンノ
斯くたくさん
これほど大量の
- 2126 pirika ikrap
ピリカ イクラフ
よい 贈り物
すばらしい贈り物
- 2127 pirika imoka
ピリカ イモカ
よい 土産
見事なお土産を
- 2128 ireshuyubi kor wa
イレシユユビ コロ ワ
育ての兄 持つ 接
兄は
- 2129 yan awan ko
ヤン アワン コ
上陸する のだった 条件
もたらしたのだった。
- 2130 tapne tapne
タプネ タプネ
これである これである
こういった
- 2131 ne kusu
ネ クス
繫 由
次第で、
- 2132 orsetakko
オロセタクコ
長い間
ずいぶん長いあいだ
- 2133 nei no
ネ ノ
繫 接
手付かずに
- 2134 iyapte chise ot ta
イヤプテ チセ オトタ
船荷をあげる 家 所 場
船荷の家に
- 2135 okai ruwe
オカイ ルウエ
ある 跡
あったもの、と
- 2136 shiyoro keutum
シヨロ ケウトウム
驚く 心
われは
- 2137 a-yaikore kane
ア・ヤイコレ カネ
我・もつ 音調整
驚いた。
- 2138 tane anakne
タネ アナクネ
今 は
さて
- 2139 iku-an kuni
イク・アン クニ
酒を飲む・我 必
酒宴の
- 2140 korachi etoko
コラチ エトコ
ように 前方
準備が
- 2141 a-oiki okere
ア・オイキ オケレ
我・炊事する 完
すべて整った。
- 2142 a-utari utar
ア・ウタリ ウタラ
我・人々 たち
近隣の者たちは
- 2143 okkayo ot ta
オッカヨ オトタ
若者 所 場
男の席、
- 2144 menoko ot ta
メノコ オトタ
女 所 場
女の席にと
- 2145 chikup shiyuk
チクフ シユク
酒宴 装う
酒宴の正装に
- 2146 uwechiurepa kane
ウエチウレパ カネ
皆が着衣する 同時
身を包み、
- 2147 shiaworaipa
シアウォライパ
家の中に入る
着席した。

- 2148 ireshuyubi
イレシュユビ
育ての兄は
- 2149 chikup shiyuk
チクフ シユク
酒宴 装う
酒宴の礼服に
- 2150 uwechiure
ウウェチウレ
重なり合う
身を装い、
- 2151 mashkin teta
マシキン テタ
ますます ここで
ますます
- 2152 kamui shiri ne okai
カムイ シリ ネ オカイ
神 様子 繫 ある
威儀を正していた。
- 2153 pon a-kor sapo
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さん
- 2154 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤッカ
繫 接 繫 譲
にあっても
- 2155 chikup shiyuk
チクフ シユク
酒宴 装う
酒宴の晴れ着で
- 2156 uwechiure
ウウェチウレ
重なり合う
身を飾り、
- 2157 boo hene
ボオ ヘネ
なおさら も
一層
- 2158 kamui shiri ne okai
カムイ シリ ネ オカイ
神 様子 繫 ある
高貴なおなりであった。
- 2159 aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤッカ
我 繫 譲
われもまた
- 2160 chikup shiyuk
チクフ シユク
酒宴 装う
酒宴のお召しを
- 2161 a-uwechiure
ア・ウウェチウレ
我・重ね着する
身につけて、
- 2162 okutchi urar
オクトチ ウララ
たちこめる 霧
濃いもや
- 2163 urar tumu
ウララ トウム
霧 中
に
- 2164 a-yayomare
ア・ヤヨマレ
我・みずから入れる
包まれていた。
- 2165 i-bishkanike
イ・ビシカニケ
我・周囲
われの周りに
- 2166 kamui imeru
カムイ イメル
神 光
神々しい稲光が
- 2167 eshimaka kane
エシマカ カネ
輝く 音調整
輝き、
- p. 261*
- 2168 inne utar
インネ ウタラ
大勢 たち
多くの者たちの眼差しが
- 2169 i-kurkashike
イ・クルカシケ
我・上
われに
- 2170 shikomarpa
シコモルパ
見つめる
注がれた。
- 2171 katu ne kane
カトウ ネ カネ
様子 繫 同時
あたりまえに
- 2172 i-erayap
イ・エラヤフ
我・感心する
われに感嘆し、
- 2173 i-erasu kuni p
イ・エラマス クニ プ
我・好ましい 必 もの
われを好ましく思う
- 2174 ne wa ne yakne
ネ ワ ネ ヤクネ
繫 接 繫 条件
だけならば
- 2175 kotom korokaiki
コトム コロカイキ
ようである 逆
さもこそあれ、
- 2176 i-tukarikebo
イ・トゥカリケボ
我・前
われの手前に
- 2177 koshikerana-
コシケラナ・
目を下に
目を落として
- 2178 atepa
アテパ
立てる
正視できないでいる。
- 3.2 イヨチ人の来訪
- 2179 tanne chikupso
タンネ チクフソ
長い 酒宴の座
うたげの座は
- 2180 chishiturire
チシトゥリレ
伸びる
長々と延びていた。
- 2181 tap oro wa
タップ オロ ワ
これ所 から
そのとき
- 2182 ireshuyubi
イレシュユビ
育ての兄が
- 2183 shino bawetok
シノ バウエトク
まことに 雄弁
みごとな弁舌の才を
- 2184 uitek hawe
ウイテク ハウエ
使う 声
駆使して
- 2185 ene okai i
エネ オカイ イ
斯くある 形名
こう語った。
- 2186 koninkarkusu
コンインカルクス
いざいざ
「さて、
- 2187 a-akutari
ア・アクウタリ
我・弟たち
わが弟たち、
- 2188 a-tureshipo
ア・トゥレシポ
我・妹
妹たちよ、
- 2189 tanebo konna
タネボ コンナ
今 は
今、
- 2190 shinrit chise
シンリト チセ
出自 家
先祖の家、
- 2191 totto chise
トット チセ
母 家
母の家、
- 2192 kamui ewaki
カムイ エワキ
神 住まい
神の住まう家に
- 2193 upsoro ta
ウフソロ タ
内部 場
会し
- 2194 pon tonotopo
ボン トノトポ
小さい 酒
酒をいささか
- 2195 a-shikupka wa
ア・シクフカ ワ
我・醸す 接
かもし、
- 2196 tanekuran
タネクラン
今夜
今晚その酒もて
- 2197 a-ekamuinomi
ア・エカムイノミ
我・祭りをする
祭りを催している。
- 2198 ikir keseke ta
イキリ ケセケ タ
列 末端 場
その一方、
- 2199 shinurappa hemem
シヌラッパ ヘメモ
先祖を祭る も
先祖の霊祭りも
- 2200 a-ki wa
ア・キ ワ
我・する 接
われは心安した。
- 2201 a-eramushinne
ア・エラムシンネ
我・心落ち着く
われは一安心している。
- 2202 tap oro wa
タップ オロ ワ
これ所 から
これから
- 2203 irkuru buri ne
イリクル ブリ ネ
親族 行い 繫
身内だけの遠慮のない席、
- 2204 tutko bakno
トゥトコ バクノ
二日 まで
二晩でも
- 2205 rerko bak no
レレコ バク ノ
三日 まで 接
三晩でも
- 2206 pirika iku
ピリカ イク
よい 酒を飲む
うまい酒を飲み、
- 2207 keran ibe
ケラン イベ
おいしい 食事する
うまい飯を食べ、
- 2208 ibe tuika ta
イベ トウイカ タ
食事する 上 場
そのあいまに
- 2209 pirika p hene
ピリカ プ ヘネ
よい もの も
良きことも
- 2210 wembe hene
ウェムベ ヘネ
悪いもの も
悪しきことも
- 2211 a-uweneusar
ア・ウウェネウサラ
我・話し合う
ともに語り
- 2212 kushune na
クシュネ ナ
すべき ぞ
あおう。
- 2213 nohanken^{*52}
ノハンケン
近くに
遠くから
- 2214 chikoshirepa
チコシレパ
到着する
いらして

*52 反語。

- 2215 i-y-ekarkar wa
イ・イエカラカラ ワ
我・する 接
賜り、
- 2216 hoshki tuki
ホシキ トウキ
先に 杯
まずは盃を
- 2217 ampa kunak
アムバ クナク
持つ 引用
干して
- 2218 ramu yan ari
ラム ヤン アリ
思う 命令 引用
「いただきたい」との
- 2219 sonko ye chiki
ソンコ イエ チキ
伝言 言う 条件
伝言を述べると、
- 2220 sonko kor be
ソンコ コロ ベ
伝言 持つもの
伝令は
- 2221 chisoinarai pa
チソイナライバ
外へ出る
外に出て
- 2222 soyun yakura
ソユン ヤクラ
外にある 櫓
おもての矢倉の
- 2223 yakura ka wa
ヤクラ カ ワ
櫓 も から
上から
- 2224 kamui nishka kohobuni
カムイ ニッカ コホブニ
神 上空 立ち上がる
空に向かって飛び立ち
- 2225 ine hunak un
イネ フナク ウン
接どこどこ 方向
何処へか
- 2226 oman hum konna
オマン フム コンナ
行く 音 は
去る音が
- 2227 keurototke
ケウロトトケ
響く
ゴーゴーと響いた。
- 2228 humash chiki
フマシ チキ
音がする 条件
それを聞くと
- 2229 eashka ramoshi wano
エアシカ ラモシ ワノ
とても 心の底 から
心の底から
- 2230 keutumoshi wano
ケウトウモシ ワノ
心の中 から
胸の底から
- 2231 toikonubetne-an
トイコヌベトネ・アン
ひどく喜ぶ
ひどく嬉しくなった。
- 2232 tanebo konna
タネボ コンナ
今 は
今こそ
- 2233 pon a-kor yubi hemem
ボン ア・コロ ユビ ヘMEM
小さい 我・もつ 兄 も
小さなわが兄も
- 2234 bon a-yubi hemem
ボン ア・ユビ ヘMEM
小さい 我・兄 も
ちい兄さんも
- 2235 pon a-kor sapo hemem
ボン ア・コロ サポ ヘMEM
小さい 我・もつ 姉 も
ちい姉さんも
- 2236 nōhankeno
ノーハンケノ
近くに
まじかに
- 2237 a-nukar eashkai kusu
ア・ヌカラ エアシカイ クス
我・見る できる 由
目にすることができ
- 2238 hawash chiki sonno
ハワシ チキ ソンノ
言われる 条件 真に
このことで、小躍り
- p. 262*
- 2239 yaikobuntek-an wa
ヤイコブンテク・アン ワ
喜ぶ・我 接
したい気がしたが
- 2240 a-eyaisembir-
ア・エイイセムビリ・
我・己の陰
密かに
- 2241 omina kane an-an
オミナ カネ アナン
笑う 同時 いる・我
笑みを浮かべた。
- 2242 Semohonruino
セモホンルイノ
しばらく
しばらく
- 2243 shirantek ko
シランテク コ
少し時がたつ 条件
して、
- 2244 sonko kor be
ソンコ コロ ベ
伝言 持つもの
伝令が
- 2245 ek hum konna
エック フム コンナ
来る 音 は
戻ってくる音が
- 2246 keurototke
ケウロトトケ
響く
ゴーゴーと響いた。
- 2247 ahup wa
アフワ
入る 接
伝令は入ってきて、
- 2248 kamui ne okai be
カムイ ネ オカイ ベ
神 繫 あるもの
「神のような方々は
- 2249 shine ikin ne
シネ イキン ネ
一つの 列 繫
皆一斉に
- 2250 eashka nubetne wa
エアシカ ヌベトネ ワ
とても 喜ぶ 接
喜びの声をあげ、
- 2251 tane nani
タネ ナニ
今 すぐに
『今すぐ
- 2252 baye an kusune
バイエ アン クスネ
行く ある 意志
参る』
- 2253 ari hawe okai
アリ ハウエ オカイ
引用 声 ある
と言っており
- 2254 ruwe ne ari
ルウェ ネ アリ
跡 繫 引用
ました』とのことを
- 2255 hawash chiki
ハワシ チキ
言われる 条件
述べた。
- 2256 ireshuyubi
イレシュユビ
育ての兄
育ての兄、
- 2257 pon a-kor sapo
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
それに
- 2258 ne yakka
ネ ヤッカ
繫 讓
ちい姉さんも
- 2259 shino nubetne
シノ ヌベトネ
まことに 喜ぶ
実に喜んだ。
- 2260 semohonruino
セモホンルイノ
しばらく
しばらく
- 2261 shirantek ko
シランテク コ
少し時がたつ 条件
すると、
- 2262 tane eashiri
タネ エアシリ
今 それこそ
はや、
- 2263 a-ye manu
ア・イエ マヌ
言われる という
人呼んで
- 2264 Iyochi kotan
イヨチ コタン
地名 村
イヨチ村という村の
- 2265 kotan tapkashi
コタン タツカシ
村 頂き
頂きに
- 2266 bushkosanu
ブシコサヌ
爆音が鳴る
爆発音がとどろき、
- 2267 kamui arki hum
カムイ アラキ フム
神 来る 音
神々がやってくる音が
- 2268 keurototke
ケウロトトケ
響く
響いた。
- 2269 irukai ne ko
イルカイ ネ コ
しばらくの間 繫 条件
まもなくして
- 2270 tura kamui mau
トゥラ カムイ マウ
ともに 神 風
それに伴う風が
- 2271 chashi kar be
チャシ カラ ベ
チャシ 打つもの
柵に当たる音が
- 2272 kosepebatki
コセペバトキ
鳴る
ビュービュー鳴り
- 2273 toyan kar be
トヤン カラ ベ
地面 打つもの
地面を打つ音が
- 2274 koturimimse kane
コトゥリミムセ カネ
響き渡る 音調整
ビュービュー鳴ると
- 2275 kanak okai be
カナク オカイ ベ
誰 あるもの
幾人かが
- 2276 soyun yakura
ソユン ヤクラ
外にある 櫓
外の矢倉の
- 2277 yakura kurka
ヤクラ クルカ
櫓 上
上に
- 2278 chierapte
チエラフテ
落下している
舞い降りた。
- 2279 kohumshinikur-
コフムシニクル・
音の休止
音鳴りが
- 2280 atte kane
アテ カネ
たたせる 音調整
止んだ。
- 2281 chise sam ka ta
チセ サム カ タ
家 そばも 場
家のそばに
- 2282 kanak okai be
カナク オカイ ベ
誰 あるもの
その人々が
- 2283 apkash humi
アツカシ フミ
歩く 音
歩く音がした。
- 2284 tumpa maikan
トゥムバ マイカン
鏝 音
鏝の鳴る音が

- 2285 tununitara
トゥヌニタラ
美しい音が響く
響いた。
- 2286 menoko sama
メノコ サマ
女 そば
女の
- 2287 upsor ikor
ウァソロ イコロ
内部 宝物
胸の飾りがチャリン
- 2288 kotununatki
コトヌナトキ
鳴る
チャリンと鳴った。
- 2289 uwoobuk humi
ウウォオブク フミ
連続して音が響く音
その断続する音が
- 2290 konainatara
コナイナタラ
響く
響き渡った。
- 2291 anramasu
アンラマス
まったく好ましい
好ましい音に
- 2292 a-uwesuye
ア・ウウェスイエ
我・思う
わが胸は揺すぶられた。
- 2293 mosem tuyor
モセム トウヨロ
玄関納屋 中
下屋の中に
- 2294 eshikirpa
エシキリパ
振り向く
身を向けて、
- 2295 mosem tuyor un
モセム トウヨロ ウン
玄関納屋 中 方向
下屋の中から
- 2296 kanak okai be
カナク オカイ ベ
誰 あるもの
その人々の
- 2297 uoshino
ウオシノ
順に
大きな咳払いの音が
- 2298 taban chikutkesh
タバ ン チクトケシ
この 咳払い
次々と
- 2299 chimaknaraipa
チマクナライパ
奥に移る
奥へ聞こえた。
- 2300 beure chikutkesh
ベウレ チクトケシ
若い 咳払い
若々しい咳払いが
- 2301 chikanimai-
チカニマイ・
金属の音
金属の音とともに
- 2302 kotpa kane
コトパ カネ
結び付ける 音調整
響いた。
- 2303 ratki aba
ラトキ アバ
垂れる 簾戸
垂れた御簾の
- 2304 omausui pare
オマウスイパレ
そよがせる
裾が風にそよいだ。
- 2305 mintar ka ta
ミンタラ カ タ
土間 上 場
土間に
- 2306 rutkosampa p
ルトコサムパ プ
すばやく入るもの
すばやく入ってきた者は
- 2307 imeru tak ne
イメル タク ネ
光 塊 繫
光のかたまり、
- 2308 urar tak nepa
ウララ タク ネパ
霧 塊 繫
もやのかたまりだった。
- 2309 hoshki ahun kuni p
ホシキ アフン クニ プ
先に 入る 必 もの
最初に入ってきた者の
- p. 263
- 2310 urar tumu
ウララ トウム
霧 中
もやの中を
- 2311 a-shikechhari
ア・シケチャリ
我・目で散らす
目で払って
- 2312 inkar-an ko
インカラ・アン コ
見る・我 条件
見ると、
- 2313 ireshuyubi
イレシユコビ
育ての兄
わが育ての兄と
- 2314 turbakno
トゥルバクノ
匹敵するほどの
同じくらいの
- 2315 chishikupka
チシクツカ
成長する
年頃の
- 2316 kotomno okai
コトムノ オカイ
ように ある
者らしい
- 2317 ponainu pon kuru
ポナイヌ ポン クル
若い人 小さい人
若者で、
- 2318 ireshuyubi
イレシユコビ
育ての兄
育ての兄の
- 2319 imut ruwe
イムト ルウェ
腰に差す 跡
刀の佩き方、
- 2320 chibopke ruwe
チボツケ ルウェ
服を着る 跡
身の装いが
- 2321 horkasuye
ホロカスイエ
真似る
そっくりであった。
- 2322 kani kosonte
カニ コソント
黄金 小袖
金の小袖の
- 2323 kosonte tumu
コソント トウム
小袖 中
中で
- 2324 ourebuni
オウレブニ
足先を上げる
足を上げていた。^{*53}
- 2325 uwokkanikut
ウウオッカニクト
金のベルト
留め金のついたベルトを
- 2326 tumamkosaipa
トゥマムコサイパ
胴に巻く
胴に巻いていた。
- 2327 kamui ranke tam
カムイ ランケ タム
神 下ろす 刀
神授の太刀を
- 2328 kutbokechiu
クトボケチウ
帯に差す
ベルトに差し、
- 2329 kani pon kasa
カニ ボン カサ
黄金 小さい 笠
金の小さな兜の
- 2330 kasa ran tubep
カサ ラン トウベパ
笠 下がる 紐
紐を
- 2331 yaikoyubu
ヤイコユブ
締める
締めていた。
- 2332 kasa kepsam ta
カサ ケツサム タ
笠 端 場
兜の庇から
- 2333 nannubeki
ナンヌベキ
顔の光
美しいかんばせが
- 2334 komaknatara kane
コマクナタラ カネ
輝いている 音調整
輝いていた。^{*54}
- 2335 setur kashike
セトウル カシケ
背 上
続いて、その背の上に
- 2336 yairarire
ヤイラリレ
いる
のしかかるような
- 2337 pon urar tapkop
ボン ウララ タツコフ
小さい 霧 小山
小さなもやのかたまりを
- 2338 tu urar ikkeu
トゥ ウララ イクケウ
二つの 霧 腰
なんども
- 2339 re urar ikkeu
レ ウララ イクケウ
三つの 霧 腰
なんども
- 2340 a-kocharikar
ア・コチャリカ
我・散らす
はらいのけて
- 2341 kipnekoroka
キツネコロカ
しかし
みようとしたが、
- 2342 naani tu sui
ナアニ トウ スイ
大方 二つの 回
ほとんど限りなく
- 2343 naani re sui
ナアニ レ スイ
大方 三つの 再び
試みても
- 2344 ainu katne
アイヌ カトネ
人間 姿をとる
人間の姿を
- 2345 a-kar eaikap
ア・カラ エアイカフ
我・する できない
現せなかった。
- 2346 hushkotoiwano
フシコトイワノ
以前から
しばらく
- 2347 a-kar aine
ア・カラ アイネ
我・する 接
そうしていると、
- 2348 urar tum ta
ウララ トウム タ
霧 中 場
もやの中で
- 2349 a-shiketoko
ア・シゲトコ
我・目先
わが目線の先が
- 2350 raikosampa
ライコサムバ
ポックリ死ぬ
くらんだ。^{*55}

*53 つま先を見せない、ということか。しかし、この行の解釈は確かではない。未詳とすべし。

*54 イヨチのおお兄さん

- 2351 a-ye rok okai
ア・イエ ロク オカイ
言われる 完 ある
人のいう
- 2352 pon a-kor yubi
ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
ちい兄さんは
- 2353 tampa teta
タムパ テタ
今年 ここで
今年まさに
- 2354 okkayo shirka
オッカヨ シリカ
若者 鞆
若武者振りが
- 2355 aruwoshmare
アルウオシマレ
すっかり備わる
備わっている。
- 2356 pon ainu pon kuru
ボン アイヌ ボン クル
小さい 人間 小さい 人
この若者は
- 2357 chitomte reshū p
チトムテ レシュウ プ
輝いている 育てる もの
大切に育てられ、
- 2358 chiarareshū p
チアラレシュウ プ
大切に育てられる もの
最高の養いを受けたもの
- 2359 sone kusu
ソネ クス
らしく 由
らしく、
- 2360 kani kosonte
カニ コソント
黄金 小袖
金の小袖の
- 2361 kotpar ka ta
ゴトバラ カ タ
胸 上 場
胸元にも
- 2362 chinki ka ta
チンキ カ タ
裾 上 場
裾にも
- 2363 sep birankani
セパ ビランカニ
幅広い 平金
幅広の平金で
- 2364 chiekarbare
チエカヲバレ
取り開む
飾られている。
- 2365 birankani kurka
ビランカニ クルカ
平金 上
平金の上は
- 2366 tu kani shiriki
トゥ カニ シリキ
二つの 黄金 模様
多くの
- 2367 re kani shiriki
レ カニ シリキ
三つの 黄金 模様
金の文様で
- 2368 chietomte kane
チエトムテ カネ
輝いている 音調整
飾られていた。
- 2369 kurkashike
クルカシケ
上
その上に
- 2370 tu kamui chupki
トゥ カムイ チュフキ
二つの 神 光
おびただしい
- 2371 re kamui chupki
レ カムイ チュフキ
三つの 神 光
光が
- 2372 eshimaka
エシマカ
輝く
照り映えていた。
- 2373 uwok kani kut
ウウオク カニ クト
引っかかりあう 黄金 帯
留め金のついた帯を
- 2374 tumamkosaipa
トゥマムコサイバ
胴に巻く
胴に回していた。
- 2375 kamui ranke tam
カムイ ランケ タム
神 下ろす 刀
神授の太刀を
- 2376 shirika tanne
シリカ タンネ
表面 長い
鞆も長く
- 2377 teshpa kane
テッパ カネ
反らせる 音調整
反らせていた。
- 2378 shirika kashi
シリカ カシ
表面 上
鞆の上には
- 2379 tu kamui noka
トゥ カムイ ノカ
二つの 神 形
あまたの神々の
- p. 264
- 2380 re kamui noka
レ カムイ ノカ
三つの 神 形
像が
- 2381 chietomte kane
チエトムテ カネ
輝いている 同時
あしらわれて
- 2382 okai be
オカイ ベ
ある もの
いて、
- 2383 etembokkonna-
エテムボクコンナ・
脇の下
そのため脇の下が
- 2384 chashnatara
チャシナタラ
きらびやかである
きらびやかであった。
- 2385 kani pon kasa
カニ ボン カサ
黄金 小さい 笠
金の兜の
- 2386 kasa ran tubep
カサ ラン トゥベプ
笠 下がる 紐
垂れた紐は
- 2387 esannotkirka-
エサンノトキリカ・
顎
突き出た顎に
- 2388 yuppa kane
ユッパ カネ
締める 音調整
絞められていた。
- 2389 kasa kep sam ta
カサ ケフ サム タ
笠 縁 そば 場
兜の縁には
- 2390 kamui sannanuhu
カムイ サンナヌフ
神 顔
神々しいかんばせが
- 2391 rikoma chup ne
リコマ チュフ ネ
高所にある 月 繫
中天にあがる月のように
- 2392 i-nantasare
イ・ナンタサレ
我が顔に照り返す
輝いていた。
- 2393 rametok sone
ラメトク ソネ
勇者 らしく
勇者らしく、
- 2394 rametok ibor
ラメトク イボロ
勇者 顔色
勇者の気品で
- 2395 eibottumu
エイボトトゥム
顔色
容貌が際立った
- 2396 shinnai kane
シンナイ カネ
違った 同時
ものとなっていた
- 2397 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
わが兄たちの
- 2398 pirika ruwe
ピリカ ルウェ
よい 跡
美しさを
- 2399 a-erayap humi
ア・エラヤフ フミ
我・感心する 気配
われは賛嘆
- 2400 okai rok awa
オカイ ロク アワ
ある 完 展開
していたが、
- 2401 eturbak kuni p
エトゥルバク クニ プ
並ぶ 必 もの
それに及ぶ者
- 2402 ekasu kuni p
エカス クニ プ
越える 必 もの
それを凌ぐ者が
- 2403 okai nankor a
オカイ ナンコラ
ある だろう 疑
いるであろうか。
- 2404 oar oar
オアラ オアラ
全く 全く
いや、いや、
- 2405 pon a-kor yubi
ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
わがちい兄さんに
- 2406 eturbak kuni p
エトゥルバク クニ プ
並ぶ 必 もの
及ぶものは
- 2407 shinen ka isam
シネン カ イサム
一人 も ない
一人も
- 2408 kotomno
コトムノ
ように
ありはしまいと
- 2409 iramu-an
イラム・アン
思う・我
われは思った。
- 2410 konepkeuka ta
コネツケウカ タ
何ということ 場
コネツケウカタ
- 2411 konepkashita
コネツカシタ
何としたことか
コネツカシタ
- 2412 ene an kamui
エネ アン カムイ
斯くある 神
これほどの神、
- 2413 ene am bito
エネ アム ビト
斯くある 人
これほどの神人が
- 2414 konep tashumi
コネツ タシユミ
繫 病
なんのやまい、
- 2415 konep ikoni
コネツ イコニ
繫 病
なんの煩い
- 2416 ki kuni p
キ クニ プ
する 必 もの
に
- 2417 okai nankor a
オカイ ナンコラ
ある だろう 疑
かかったのか、

*55 目が眩んだ。

- 2418 **ibottumkonna-**
イボトウムコンナ・
顔色
表情が
- 2419 **koshumnataru kane**
コシユムナタラ カネ
萎れている
音調整
さえなかった。
- 2420 **kipnekoroka**
キヱネコロカ
しかし
とはいえ、
- 2421 **boo hene**
ボオ ヘネ
なおさらも
ますます
- 2422 **pirika kashpa**
ピリカ カシパ
よい 甚だしい
美しすぎるほどであった。
- 2423 **useturkashi-**
ウセトゥルカシ・
互いの背の上
続いて、背に乗る
- 2424 **rarpa kane**
ラッパ カネ
おさえる 同時
ほどに
- 2425 **seturkashike**
セトゥルカシケ
互いの背の上
くびすを接して
- 2426 **yairarire p**
ヤイラリレ ヲ
いる もの
現れた者の
- 2427 **tu urar ikkeu**
トゥ ウララ イクケウ
二つの 霧 腰
もやの中心を
- 2428 **re urar ikkeu**
レ ウララ イクケウ
三つの 霧 腰
幾度も
- 2429 **a-kocharikar wa**
ア・コチャリカラ ワ
我・散らす 接
目で払って
- 2430 **inkar-an ko**
インカラ・アン コ
見る・我 条件
見ると、
- 2431 **a-ye rok okai**
ア・イエ ロク オカイ
言われる 完 ある
世にいう
- 2432 **Iyochiummat**
イヨチウムマト
イヨチ姫
イヨチ姫であった。
- 2433 **pon a-kor sapo**
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
今年
- 2434 **tampa ne wa**
タムパ ネ ワ
今年 繋 接
ちい姉さんと
- 2435 **iturbakno hene**
イトウルバクノ ヘネ
同じ程度に も
同じ年齢に
- 2436 **okai apkoro okai**
オカイ アッコロ オカイ
ある ように ある
なるとも見える
- 2437 **pom menoko**
ポム メノコ
小さい 女
娘で、
- 2438 **eashka ikueshiyuk be**
エアシカ イクエシユク ベ
とても 酒宴の礼装をする もの
まこと、酒宴の装いは、
- 2439 **mashkin teta**
マシキン テタ
ますます ここで
なおいっそう
- 2440 **riwak kamui ne**
リワク カムイ ネ
帰る 神 繋
天に帰る
- 2441 **riwak bito ne**
リワク ビト ネ
帰る 人 繋
神のように美しかった。
- 2442 **kamui chikirbe**
カムイ チキリベ
神 刺繍衣
神々しい刺繍衣、
- 2443 **kani chikirbe**
カニ チキリベ
黄金 刺繍衣
金の晴れ着を
- 2444 **arutomechiu**
アルトメチウ
身にまとう
身にまとい、
- 2445 **sarambe kut**
サラムベ クト
絹 帯
絹の帯を
- 2446 **tumamkosaipa kane**
トゥマムコサイパ カネ
胸に巻く 音調整
胸に回していた。
- 2447 **kisar kashike**
キサラ カシケ
耳 上
耳に、
- 2448 **rekut kashike**
レクト カシケ
首 上
首に
- 2449 **kamui ninkari**
カムイ ニンカリ
神 耳飾り
耳環、
- p. 265*
- 2450 **kamui tamasai**
カムイ タマサイ
神 胸飾り
玉飾りを
- 2451 **koikataru**
コイカタラ
つける
さげ、
- 2452 **kani boshtoko**
カニ ボシトコ
黄金 小さなシントコ
金のほかいを
- 2453 **eshiyarbok-**
エシヤロボク・
自分の脇の下
脇に
- 2454 **ampa kane**
アムパ カネ
持つ 音調整
抱えていた。
- 2455 **pon a-kor sapo**
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さんに
- 2456 **eturbak shirika**
エトゥルバク シリカ
並ぶ 表面
負けぬ容貌、
- 2457 **ekashu shirika**
エカシュ シリカ
越える 表面
それを凌ぐほどの容貌
- 2458 **ne nankor a**
ネ ナンコラ
繋 だろう 疑
であった。
- 2459 **tap eashiri**
タッ エアシリ
これ それこそ
まことに
- 2460 **ubak shiretok ne**
ウバク シレトク ネ
対等の 美貌の人 繋
競い合うような美貌だと
- 2461 **a-ramu kane**
ア・ラム カネ
我・思う 音調整
われは思った。
- 2462 **arobittano**
アロビタノ
すべて
皆ともに
- 2463 **irbe sone**
イリベ ソネ
兄弟姉妹らしく
兄弟姉弟であるから
- 2464 **shine shikbui**
シネ シクブイ
一つの 目つき
同じ目つき、
- 2465 **shine rachiu**
シネ ラチウ
一つの 肩
同じ肩つきを
- 2466 **ukoturpa kane**
ウコトゥルパ カネ
長く伸ばし合う 同時
しており、
- 2467 **ene wa boka**
エネ ワ ボカ
斯く 接 さえ
なんとも
- 2468 **a-reka i ka**
ア・レカ イ カ
我・ほめる 形名
讃えようもないほど
- 2469 **isampa**
イサムパ
ない
美しかった。
- 2470 **okkayo utar**
オッカヨ ウタラ
若者 たち
若者二人は
- 2471 **hekari sopa**
ヘカリ ソパ
向こうの 座の上手
向こう座の上手を
- 2472 **kohekarimpa**
コヘカリムパ
回る
回った。
- 2473 **kiyannekuru**
キヤンネクル
長男
兄は
- 2474 **hoka etok ne**
ホカ エトクネ
妬 前方 繋
妬の上手に
- 2475 **ehorari**
エホラリ
居る
腰をおろした。
- 2476 **pon a-yubi**
ボン ア・ユビ
小さい 我・兄
ちい兄さんは
- 2477 **kirsam ea**
キリサム エア
膝の傍ら ~に座る
そのすぐそばに座った。
- 2478 **pon a-kor sapo**
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さんは
- 2479 **harkisone**
ハルクソネ
左座に
左座に
- 2480 **ehorarpa**
エホラッパ
居る
座った。
- 2481 **chikupso ka ta**
チクッソ カ タ
酒宴の座 上 場
酒宴の席で
- 2482 **utarpa utar**
ウタラッパ ウタラ
首領 たち
首領たち、
- 2483 **katkemat utar**
カトケマト ウタラ
婦人 たち
その夫人たちは
- 2484 **oribak ruipa p**
オリバク ルイパッ
畏まる 激しい もの
憤み、畏まる念が強い
- 2485 **kone p ne kusu**
コネ ヲ ネ クス
であるもの 繋 由
ので、
- 2486 **okkeu ka wa**
オクケウ カ ワ
首 上 から
頭を垂れて
- 2487 **chininarpape**
チニナッパレ
うつむく
うつむいていた。

- 2488 konep hawe ka
コネフ ハウエ カ
繫 声 も
声ひとつ
- 2489 konep humi ka
コネフ フミ カ
繫 気配 も
音一つさえ
- 2490 oarar isam
オアラ イサム
全く ない
立てなかった。
- 2491 shittoyakan
シトヤカン
地上一帯
座全体が
- 2492 kokishnatara kane
コキシナタラ カネ
静まる 音調整
静まり返った。
- 2493 pon a-kor sapo
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さんは
- 2494 oshiso sam ta
オシソ サム タ
右座 そば 場
右座の脇の
- 2495 ireshuyubi
イレシュユビ
育ての兄
育ての兄の
- 2496 uturkehe
ウトウルケヘ
下座
下手に
- 2497 ehorari
エホラリ
居る
座った。
- 2498 otop chinki
オトフ チンキ
髪 裾
髪の前を
- 2499 eshitchiure
エシチウレ
頭を下げる
床に垂らしていた。
- 2500 nei uturke
ネ ウトルケ
繫 下座
その下手に
- 2501 an-ehorari
アネホラリ
我・居る
われは座った。
- 2502 otop chinki
オトフ チンキ
髪 裾
われもまた髪の前を
- 2503 an-eshitchiure kane
アネシチウレ カネ
我・先を床に垂らす 同時
床に垂らして
- 2504 oribak-an kane
オリバク・アン カネ
畏まる・我 同時
慎んで
- 2505 okai-an
オカイ・アン
いる・我
いた。
- 3.3 饗宴
- 2506 ireshuyubi
イレシュユビ
育ての兄
育ての兄は
- 2507 tekrikikur-
テクリキクル・
手を高々と
手を高々と
- 2508 buni kane
ブニ カネ
上げる 同時
上げて、
- 2509 irkur unukar itak
イリクル ウヌカラ イタク
親族 会見 言う
兄弟姉妹の会見の言葉を
- 2510 ehautumkonna-
エハウトゥムコンナ・
朗々と
- 2511 tununitara
トゥヌニタラ
美しい音が響く
述べた。
- 2512 Iyochi un
イヨチ ウン
地名 ある
イヨチなる
- 2513 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
わが兄たち
- 2514 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤッカ
繫 接 繫 譲
も
- 2515 ukotekrikikur-
ウコテクリキクル・
そろって手を高々と
そろって手を高々と
- 2516 bumpa kane
ブムバ カネ
上げる 同時
上げて
- 2517 irkuru itak
イリクル イタク
親族 言葉
兄弟姉妹会見の辞を
- 2518 ehautumkonna-
エハウトゥムコンナ・
高らかに
- 2519 uwetunuisse kane
ウウエトゥヌイセ カネ
美しく響く 音調整
述べた。
- 2520 inkinebe
インキネベ
どちら
弁につき
- 2521 bawetok ot ta
バウエトゥク オト タ
雄弁 所 場
いずれに
- p. 266
- 2522 urabokkari wa
ウラボッカリ ワ
優劣がある 接
優劣が
- 2523 hawash nankor a
ハワシ ナンコラ
言われる だろう 疑
あるといえようか。
- 2524 arobitta
アロビタ
すべて
いずれも
- 2525 shino bawetok neba
シノ バウエトゥク ネバ
まことに 雄弁 繫
まったく雄弁家であり、
- 2526 shiyoro keutum
シヨロ ケウトウム
驚く 心
われは驚き
- 2527 a-yaikore
ア・ヤイコレ
我・もつ
呆れた。
- 2528 okake an ko
オカケ アン コ
あと ある 条件
会見の辞のあと、
- 2529 a-yubutari
ア・ユブタリ
我・兄たち
兄たちは
- 2530 arusantekkashi
アルサンテッカシ
互いの手の上
互の手を
- 2531 ukoruiruipa uwekap
ウコルイルイパ ウウエカフ
さすり合う 挨拶する
さすり合って挨拶した。
- 2532 pon a-kor sapo tura
ボン ア・コロ サポ トウラ
小さい 我・もつ 姉 ともに
ちい姉さんといっしょに
- 2533 ireshuyubi
イレシュユビ
育ての兄
育ての兄の
- 2534 oshmake beka
オシマケ ベカ
その後 で
後ろを
- 2535 shinu-an kane
シヌ・アン カネ
いぎる・我 同時
膝つき
- 2536 reye-an kane
レイエ・アン カネ
這う・我 同時
進み
- 2537 baye-an wa
バイエ・アン ワ
行く・我 接
行き、
- 2538 a-butari*⁵⁶
ア・ブタリ
我・兄達
兄たちの
- 2539 chinki kese
チンキ ケセ
裾 末端
裳裾を
- 2540 a-oukoraipa*⁵⁷
ア・オウコライパ
我ら・つかむ
両手につかみ敬礼した。
- 2541 yuppo ari
ユポ アリ
兄 引用
「お兄様」と
- 2542 haweokai-an kane
ハウエオカイ・アン カネ
我・言う 同時
われは言い、
- 2543 santekebo
サンテケボ
手
手と
- 2544 sankokkasaba
サンコッカサバ
膝頭
膝頭を
- 2545 a-koruiruyepa
ア・コルイルイェパ
我・さする
さすった。
- 2546 itasa bakno
イタサ バクノ
返す まで
これに返して
- 2547 tureshpo ari
トゥレシポ アリ
妹 引用
「妹よ」と
- 2548 haweokai kane
ハウエオカイ カネ
言う 同時
言うて、
- 2549 tun a-ne wa
トゥン ア・ネ ワ
二人 我・繫 接
われら二人の
- 2550 a-kimuikashi
ア・キムイカシ
我・頭上
頭の上に
- 2551 kotekturpa
コテクトウルパ
手を伸ばす
手を伸ばし引き寄せ、
- 2552 i-shikoruiruyepa
イ・シコルイルイェパ
我・引き寄せてさする
撫でさすってくれた。
- 2553 okake an ko
オカケ アン コ
あと ある 条件
それが済むと

*⁵⁶ a-yubutari とみなす。*⁵⁷ a-ukoraipa とみなす。

- 2554 harkisotta
ハラクソトタ
左座に
ちい姉さんは左座に
- 2555 oribak kane okai
オリバク カネ オカイ
畏まる 同時 ある
慎んで座っていた。
- 2556 Pon Iyochi um be^{*58}
ボン イヨチ ウム ベ
小さい 地名 ある もの
小イヨチ人に
- 2557 a-ukoeshikari
ア・ウコエシカリ
我ら・ともに捉える
姉とともに近づいて
- 2558 a-ukoruiruye
ア・ウコルイルイェ
我ら・さすり合う
撫でさすった。
- 2559 utashpa kane
ウタシパ カネ
互いに 同時
これに返して
- 2560 uruirupa-an
ウルイルイパ・アン
さすり合う・我ら
小イヨチ人もわれらを
- 2561 uwekap
ウウエカフ
挨拶する
さすり、挨拶した。
- 2562 a-utari utar
ア・ウタリ ウタラ
我・人々 たち
われらは
- 2563 obittano
オビタタノ
皆、
- 2564 menoko utar hene
メノコ ウタラ ヘネ
女 たち も
女たちも
- 2565 shine ikin ne
シネ イキン ネ
一つの 列 繋
一斉に
- 2566 Iyochi un
イヨチ ウン
地名 ある
イヨチの
- 2567 a-yubutari hene
ア・ユブタリ ヘネ
我・兄たち も
兄たちも
- 2568 pon a-kor sapo hene
ボン ア・コロ サポ ヘネ
小さい 我・もつ 姉 も
ちい姉さんも
- 2569 tura uwekap wa
トゥラ ウウエカフワ
ともに 挨拶する 接
ともに挨拶しあい、
- 2570 a-eramushinne
ア・エラムシンネ
我・心落ち着く
一同落ち着いた。
- 2571 tap oro wa
タップ オロ ワ
これ 所 から
それから
- 2572 Iyochi un
イヨチ ウン
地名 ある
イヨチの
- 2573 boro a-yubi
ボロ ア・ユビ
大きい 我・兄
おお兄さんの
- 2574 pirika ashke
ピリカ アシケ
よい 手
美しい手を
- 2575 a-riknabuni
ア・リクナブニ
我・高くあげる
とって、
- 2576 shintoko oshmak
シントコ オシマク
ほかい 陰
ほかいの後ろに
- 2577 a-earekar
ア・エアレカラ
我・置く
導いた。
- 2578 pon a-yubi
ボン ア・ユビ
小さい 我・兄
ちい兄さんは
- 2579 yaibekare
ヤイベカレ
向かってくる
自らやってきた。
- 2580 pon a-kor sapo
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さんは
- 2581 chikupso utur
チクプソ ウトゥル
酒宴の座 間
座の間を
- 2582 erututke
エルトゥツケ
行き来する
静々と周り、
- 2583 iyomare
イヨマレ
酒を注ぐ
酒を注いだ。
- 2584 ireshuyubi
イレシュユビ
育ての兄
育ての兄は
- 2585 sake sanke
サケ サンケ
酒 出す
酒を出した。^{*59}
- 2586 oro wano
オロ ワノ
所 から
それから、
- 2587 kamuinomi heashi
カムイノミ ヘアシ
神を祭る 始まる
祈りが始まった。
- 2588 tuima kamui
トゥイマ カムイ
遠い 神
遠くの神、
- 2589 hanke kamui
ハンケ カムイ
近い 神
近くの神に
- p. 267
- 2590 a-tukiebishte
ア・トゥキエビシテ
我・杯をささげる
盃が捧げられた。
- 2591 kanto oro bakno
カント オロ バクノ
天 所 まで
天まで
- 2592 inauebumpa-an
イナウエブムパ・アン
イナウを天に送る
イナウを送った。
- 2593 tonotoebumpa-an wa
トノトエブムパ・アン ワ
酒を天に送る 接
酒も送って
- 2594 a-eramushinne
ア・エラムシンネ
我・心落ち着く
一安心した。
- 2595 tap oro wa sui
タップ オロ ワ スイ
これ 所 から 再び
それからまた
- 2596 a-shinrichi utar
ア・シンリチ ウタラ
我・先祖 たち
われらが先祖を
- 2597 arobittano
アロビタタノ
すべて
まとめて
- 2598 a-koshinurappa wa
ア・コシヌラッパ ワ
我・祭る 接
祭り
- 2599 a-okerpa
ア・オケレパ
我・終わらせる
終えた。
- 2600 tap oro wa
タップ オロ ワ
これ 所 から
それから
- 2601 shisak tonoto
シサク トノト
またとない 酒
たぐいなき酒、
- 2602 kamui tonoto
カムイ トノト
神 酒
香しき酒が
- 2603 a-ukoante
ア・ウコアンテ
我・ととのえる
交された。
- 2604 tanebo konna
タネボ コンナ
今 は
今こそわれは
- 2605 tonoto buri
トノト ブリ
酒 行い
酒宴の作法
- 2606 kamuinomi buri
カムイノミ ブリ
神を祭る 行い
神を祭る作法が
- 2607 a-nukar be ne kusu
ア・ヌカラ ベ ネ クス
我・見る もの 繋 由
見られたので
- 2608 shino a-erayap
シノ ア・エラヤフ
まことに 我・感心する
感銘をうけた。
- 2609 chikupso ka ta
チクプソ カ タ
酒宴の座 上 場
うたげの席で
- 2610 utarpa utar
ウタラパ ウタラ
首領 たち
首領たち、
- 2611 rametok utar
ラメトク ウタラ
勇者 たち
勇士たちの
- 2612 ki chikup hau
キ チクフ ハウ
する 酒宴 声
あげる酒宴の音が
- 2613 kamui riwak ne
カムイ リワク ネ
神 帰る 繋
神の天に帰るときの
- 2614 uwetunuisse
ウウェトゥヌイセ
美しく響く
ように美しく響いた。
- 2615 matutar ka ta
マトウタラ カ タ
女達 上 場
女たちの方にも
- 2616 inne kuni p
インネ クニ プ
大勢 必 もの
大勢の女たちの
- 2617 rimse hawe
リムセ ハウエ
踊る 声
躍る声、
- 2618 ubopo hawe
ウボポ ハウエ
歌う 声
歌う声
- 2619 ronroratki
ロンロラトキ
色々な音が入り交じる
にぎやかに響いた。

*58 原ノートには be が記されていないので補う。

*59 この文意よくわからない。

- 2620 anramasu
アンラマス
まったく好ましい
趣き
- 2621 a-uwesuye
ア・ウエスイエ
我・思う
深かった。
- 2622 rimse atpa
リムセ アトバ
踊る 先頭
踊り初めを*60
- 2623 a-yubu kane
ア・ユブ カネ
我・兄 音調整
われは締め
- 2624 ubopo atpa
ウボポ アトバ
歌う 先頭
歌の初めを
- 2625 a-yubu kane
ア・ユブ カネ
我・兄 音調整
われは締めながら
- 2626 shinnai chikap ne
シンナイ チカプ ネ
違った 鳥 繫
際立って
- 2627 shinnai tori ne
シンナイ トリ ネ
違った 鳥 繫
目に立つものとして
- 2628 iyeutanne-an
イイエウタンネ・アン
仲間に加わる・我
われは女たちに加わった。
- 2629 kunne chup kamui
クンネ チュプ カムイ
黒い 月 神
月の神が
- 2630 i-ekashnukar be
イ・エカシヌカッ ベ
我・見守る もの
われに賜った
- 2631 imi turanno
イミ トゥランノ
着物 ともに
着物と
- 2632 machikor turanno
マチコロ トゥランノ
女の宝物 ともに
女の装身具とで
- 2633 a-eshiyuk be
ア・エシユク ベ
我・正装する もの
装って
- 2634 konep ne kusu
コネプ ネ クス
繫 繫 由
いたものだから、
- 2635 inne utar
インネ ウタラ
大勢 たち
多くの者は
- 2636 oar oar
オアラ オアラ
全く 全く
すっかり感心して
- 2637 a-netobashiri
ア・ネトバシリ
我・身体
われの身に
- 2638 somo nukar noine
ソモ スカヲ ノイネ
否定 見る らしく
目をやるができない
- 2639 iramu-an kane
イラム・アン カネ
思う・我 音調整
ようであった。
- 2640 ne i korachi
ネ イ コラチ
繫 形名 ように
それと同様、
- 2641 chikupso ka ta
チクプソ カタ
酒宴の座 上 場
酒宴の座で
- 2642 pon a-kor yubi
ポン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
ちい兄さんは
- 2643 shinnai chikap ne
シンナイ チカプ ネ
違った 鳥 繫
際立った美しさで
- 2644 iyeutanne
イイエウタンネ
仲間に加わる
加わっていた。
- 2645 bishkanike
ビシカニケ
周囲
その周りには
- 2646 kamui imeru
カムイ イメル
神 光
神々しい光が
- 2647 uweshimaka kane
ウエシマカ カネ
盛んに光る 音調整
輝き渡り
- 2648 pirika an
ピリカ アン
よい ある
あまりの
- 2649 kashpa an ruwe*61
カシパ アン ルウェ
甚だしい ある 跡
美しさを
- 2650 a-nukar chiki
ア・ヌカッ チキ
我・見る 条件
目にする
- 2651 boo hene
ボオ ヘネ
なおさら も
ますます
- 2652 kunne chup kamui
クンネ チュプ カムイ
黒い 月 神
月の
- 2653 more mat
モレ マト
治める 女
女神が
- 2654 a-eshikarun
ア・エシカルン
我・思い出す
思い出された。
- p. 268
- 2655 konepkeukata
コネプケウカタ
何ということか
コネップケウカタ
- 2656 konepkashita
コネプカシタ
何としたことか
コネップカシタ
- 2657 bashta kamui
バシタ カムイ
地位の低い 神
身分の低い
- 2658 hene ne wa
ヘネ ネ ワ
も 繫 接
神さえ
- 2659 atanan ainu oro wa
アタナン アイヌ オロ ワ
ただの 人間 所 から
つまらない人間から
- 2660 inau ari
イナウ アリ
木幣 で
イナウと
- 2661 tonoto ari
トノト アリ
酒 で
酒とで
- 2662 a-nomi hene
ア・ノミ ヘネ
我・祀る も
祭られて
- 2663 eashkai be
エアシカイ ベ
できる もの
いられるのに、
- 2664 ne wa ne yakne
ネ ワ ネ ヤクネ
繫 接 繫 条件
それならば
- 2665 tap korachi
タップ コラチ
これように
このように
- 2666 marapto okai i ta
マラプト オカイ イ タ
祭り ある 形名 場
饗宴のときに
- 2667 a-nomi noine okai be
ア・ノミ ノイネ オカイ ベ
我・祀る らしく ある もの
祭られるべきである。
- 2668 wen-an shiri
ウェン・アン シリ
悪い・我 様子
われは浅ましい身で
- 2669 base kamui
バセ カムイ
重い 神
あるが、尊い神の
- 2670 pirika eshiyuk be
ピリカ エシユク ベ
よい 盛装する もの
美しい晴れ着で
- 2671 a-eshiyuk kane
ア・エシユク カネ
我・正装する 同時
身を包み、
- 2672 shinen ne po
シネン ネ ポ
一人 繫 子
一人、
- 2673 usa kera pirika
ウサ ケラ ピリカ
譲 味 よい
ご馳走や
- 2674 kamui tonoto usa
カムイ トノト ウサ
神 酒 譲
酒や、
- 2675 shirari hene
シラリ ヘネ
麴 も
麴やを
- 2676 kera pirika no
ケラ ピリカ ノ
味 よい 接
おいしく
- 2677 a-e humi
ア・エ フミ
我・食べる 気配
いただけるのを
- 2678 okai chiki
オカイ チキ
ある 条件
思うにつけ、
- 2679 a-keutumkashi
ア・ケウトウムカシ
我・心の上
わがころは、
- 2680 chishkot kane
チシコト カネ
泣く 同時
泣き死にし、
- 2681 nube kush kane
ヌベ クシ カネ
涙 通る 音調整
涙を流して
- 2682 iyeutanne-an
イイエウタンネ・アン
仲間に加わる・我
宴に連なっていた。

3.4 結婚の儀

- 2683 tane chikup noshke
タネ チクプ ノシケ
今 酒宴 真中
饗宴が
- 2684 chiomante kane
チオマンテ カネ
進行する 音調整
たけなわとなると、
- 2685 ireshuyubi
イレシユビ
育ての兄
育ての兄は

*60 この行の意味、よく理解できない。

*61 pirika an kashpa an ruwe の意味はよくわからない。とりあえず pirika kashpa ruwe として意味をとる。

- 2686 tukirikikur- トウキリキクル・
杯を高々と
盃を高々と
- 2687 buni kane ブニ カネ
上げる 同時
上げて
- 2688 pon a-kor sapo ポン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さんに
- 2689 kobakeshoro コバケシコロ
飲み差しの杯を与える
呑みさしの盃を与えよう
- 2690 hotuipakar ホトウイパカラ
呼び寄せる
と呼び寄せると、
- 2691 pon a-kor sapo ポン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さんは
- 2692 anipontari アニポンタリ
酒を注ぐ器
銚子を
- 2693 chikupso utur チクッソ ウトゥル
酒宴の座 間
座の間に
- 2694 eantekar エアンテカラ
に置く
置いて、
- 2695 shinu kane シヌ カネ
膝行する 同時
手をつき
- 2696 reye kane baye wa レイエ カネ バイエ ワ
這う 同時 行く 接
膝をすり進み、
- 2697 tuki kurbok トウキ クルボク
杯 下
盃の下に
- 2698 kohebokiki kane コヘボキキ カネ
頭を下げる 音調整
頭を垂れた。
- 2699 iredshuyubi イレシユユビ
育ての兄
育ての兄は
- 2700 tuki kurka トウキ クルカ
杯 上
盃の上から
- 2701 pon a-kor sapo ポン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さんを
- 2702 koruiruye kane コルイルイェ カネ
なでさする 同時
なでさすり、
- 2703 kurkashike クルカシケ
上
そうしながら
- 2704 itak omare イタク オマレ
言葉 置く
このように
- 2705 hawe ene okai i ハウエ エネ オカイ イ
声 斯くある 形名
言った。
- 2706 koninkarkusu コニンカルクス
いざいざ
「さて、
- 2707 a-borotureshi ア・ボロトゥレン
我・大きい妹
わがおお妹*62 よ、
- 2708 shinrit itak シンリト イタク
出自 言葉
先祖の言葉、
- 2709 chihoppaitak チホッパイタク
遺言
遺言に定められて
- 2710 ene okai i ne kusu エネ オカイ イ ネ クス
斯くある 形名 繫 由
いることだから、
- 2711 Iyochiunkuru イヨチウンクル
イヨチ人
イヨチ人、
- 2712 boro a-akihii ボロ ア・アキヒ
大きい 我・弟
おお弟の
- 2713 chibaroshuke チバロシユケ
世話をする
賄いの世話を
- 2714 e-ekarkar kusune エ・エカラカラ クスネ
汝・する 意志
して
- 2715 ruwe taban ルウエ タバン
跡 この
あげなさい。
- 2716 pirikano ピリカノ
良く
よくよく
- 2717 kamui buri カムイ ブリ
神 行い
気品高く
- 2718 Katkemat buri カトケマト ブリ
婦人 行い
夫人のたしなみを
- 2719 e-eashkai kusu エ・エアシカイ クス
汝・上手にする 由
忘れない
- 2720 ne ruwe taban na ネ ルウエ タバン ナ
繫 跡 この ぞ
ことだ。」
- 2721 ari hawash chiki アリ ハワシ チキ
引用 言われる 条件
と言うと、
- 2722 pon a-kor sapo ポン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さんは
- 2723 oribak tura オリバツ トウラ
畏まる ともに
畏まって
- 2724 tuki uina トウキ ウイナ
杯 手に取る
盃を受け、
- 2725 rikunruke リクンルケ
高くかざす
上へ
- 2726 raunruke ラウンルケ
低くかざす
下へと拝して
- 2727 koonkami iyemetu コオンカミ イイエメトゥ
拝礼する 飲み残す
感謝の意を表した。
- 2728 oro wa tuki rura オロ ワ トウキ ルラ
所 から 杯 運ぶ
盃をイヨチ人のもとに
- 2729 katune kane カトウネ カネ
姿をとる 同時
運んだ。ちい姉さんは
- 2730 enubetne kuni p エヌベトネ クニ プ
喜ぶ 必 もの
ただ普通に
- 2731 ne wa ne yakne ネ ワ ネ ヤクネ
繫 接 繫 条件
この 大きい 杯
喜んだのでは
- 2732 kotom korokaiki コトム コロカイキ
ようである 逆
なくて、
- 2733 shino nubetne p シノ ヌベトネ プ
まことに喜ぶ もの
大きな喜びを
- 2734 konep ne kusu コネプ ネ クス
繫 繫 由
こらえきれずに
- 2735 eyaisembir- エヤイセムビリ・
己の陰
含み笑いを
- 2736 emina kane エミナ カネ
それを笑う 同時
しながら行くと、
- 2737 Iyochi un イヨチ ウン
地名 ある
イヨチの
- 2738 boro a-yubi ボロ ア・ユビ
大きい 我・兄
おお兄さんは、
- 2739 ikkeu noshki イッケウ ノシキ
腰 真中
腰を
- 2740 komkosampa コムコサムパ
折り曲げる
折って
- 2741 mateonkami マテオンカミ
妻帯の拜礼をする
妻に迎える礼をした。
- 2742 shino nubetne kuni p シノ ヌベトネ クニ プ
まことに喜ぶ 必 もの
イヨチ人はとても
- 2743 sone kusu ソネ クス
らしく 由
うれしかったようで、
- 2744 kosamchaotta- コサムチャオッタ・
口元に
口元に
- 2745 mina kane ミナ カネ
笑う 音調整
笑いを浮かべた。
- 2746 iredshuyubi イレスユビ
育ての兄
育ての兄は
- 2747 kanna ruino カンナ ルイノ
上 甚だしく
一層
- 2748 tam boro tuki タム ボロ トウキ
この 大きい 杯
大きな盃に
- 2749 ikakashi イカカシ
すぐ後に続いて
酒をなみなみと
- 2750 moinatara kane モイナタラ カネ
静かである 音調整
注いで、
- 2751 tuki-rikikur- トウキ・リキクル・
杯を高々と
その盃を
- 2752 bumpa kane ブムパ カネ
上げる 同時
高々とあげて
- 2753 i-hotuyekar イ・ホトウイェカラ
我・呼び寄せる
われを呼び寄せた。

*62 ちい姉さん

- 2754 keutum ot ta
ケウトウム オトタ
心 所 場
心の中で
- 2755 eashka nubetne-an kane
エアシカヌベトネ・アン カネ
とても 喜ぶ・我 同時
とても喜んで
- 2756 reye-an kane
レイエ・アン カネ
這う・我 同時
手をつき
- 2757 shinu-an kane
シヌ・アン カネ
いざる・我 同時
膝をすり
- 2758 oribak tura
オリバク トウラ
畏まる ともに
畏まって
- 2759 oman-an wa
オマン・アン ワ
行く・我 接
近づき、
- 2760 tuki kurbok
トゥキ クルボク
杯 下
盃の下に
- 2761 a-kohebokiki
ア・コヘボキキ
我・頭を下げ続ける
頭を垂れた。
- 2762 ireshuyubi
イレシュユビ
育ての兄
育ての兄は、
- 2763 tuki kurka
トゥキ クルカ
杯 上
盃の上から
- 2764 i-koruiruye kane
イ・コルイルイェ カネ
我・撫でる 同時
われを愛撫して
- 2765 ene itak i
エネ イタキ
斯く言う 形名
こう言った。
- 2766 koninkarkusu
コニンカルクス
いざいざ
「さて、
- 2767 a-pontureshi
ア・ポントウレシ
我・小さな妹
わがちい妹よ、
- 2768 e-eraman korachi
エ・エラマン コラチ
汝・知る ように
おまえも承知のように、
- 2769 chihoppaitak
チホフパイタク
遺言
残された言葉、
- 2770 shinrit itak
シンリト イタク
出自 言葉
先祖の言葉に
- 2771 ene okai i
エネ オカイ イ
斯くある 形名
あるの
- 2772 konep ne kusu
コネプ ネ クス
繋 繋 由
だから、
- 2773 Iyochiunkuru
イヨチウンクル
イヨチ人
イヨチ人、
- 2774 pon a-aktonoke
ボン ア・アクトノケ
小さい 我・弟君
わがちい弟の
- 2775 chibaroshuke
チバロシユケ
世話をする
賄いの
- 2776 e-ekarkar kusune
エ・エカヲカラ クスネ
汝・する 意志
世話をやいて
- 2777 ruwe taban
ルウェ タバン
跡 この
あげなさい。
- 2778 pirika kuru anakne
ピリカ クル アナクネ
よい 人 は
よき人は、
- 2779 ukor kushne utar
ウコロ クシネ ウタラ
結婚 つもりである たち
適齢になっても
- 2780 tunashno utura okai
トゥナシノ ウトゥラ オカイ
早く いっしょにある
すみやかに合い添わな
- 2781 somokino anakne
ソモキノ アナクネ
しないうちには
ければ、
- p. 270
- 2782 tu utur sama
トゥ ウトゥル サマ
二つの 間 そば
隙をみつけては
- 2783 re utur sama
レ ウトゥル サマ
三つの 間 そば
油断につけこんでは
- 2784 arwen kamui
アウエン カムイ
ひどい 神
最悪の魔神、
- 2785 arwen bito
アウエン ビト
ひどい 人
極悪の魔物が
- 2786 wente p ne ari
ウェンテ プ ネ アリ
悪くする もの 繋 引用
悪さをするという
- 2787 kamui ubashkuma
カムイ ウバシクマ
神 言い伝え
神の言い伝えが
- 2788 okai be ne
オカイ ベ ネ
ある もの 繋
あると
- 2789 yak a-ye
ヤク ア・イエ
と 言われる
いうことだ。
- 2790 tambe kusu
タムベ クス
これ 由
そこで、
- 2791 orotunashno
オロトウナシノ
一刻も早く
今すぐにも、*63
- 2792 shinrit tutanu p
シンリト トウタヌ プ
出自 次ぐ もの
先祖の衣鉢を継ぐ責任が
- 2793 a-ne kusu
ア・ネ クス
我・繋 由
われにはあるから、
- 2794 tunashno
トゥナシノ
早く
早く
- 2795 a-ki kusu nep
ア・キ クス ネプ
我・する 由 繋
なすべきことを
- 2796 a-ki kuni
ア・キ クニ
我・する 必
なそうと
- 2797 a-ramu ko
ア・ラム コ
我・思う 条件
思っていたが、
- 2798 a-kashkasu aine
ア・カシカス アイネ
我・無為に見過ごす 接
うかうかしている間に
- 2799 tanebo konna
タネボ コンナ
今 は
この度は
- 2800 nei etoko
ネ エトコ
繋 前方
その前に
- 2801 a-i-kowente*64
ア・イ・コウエンテ
我・痛めつけられる
悪さをされた。悪さを
- 2802 wen kamui somone no
ウエンカムイ ソモネ ノ
悪い 神 ではない 接
したのは悪神ではなく、
- 2803 chinomikamui
チノミカムイ
祭られる神
われらが祭る神々だった。
- 2804 utarorke
ウタロロケ
たち
それが
- 2805 haita buri
ハイタ ブリ
欠く 行い
愚かな思いを
- 2806 kor kusu
コロ クス
持つ 由
抱いたために
- 2807 eani hoshkino
エアニ ホシキノ
汝 先に
最初におまえが
- 2808 wen chikeshke
ウェン チケシケ
悪い 妬み
酷い妬み
- 2809 toi chikeshke
トイ チケシケ
土 妬み
嫉みの
- 2810 e-ekarkar-an
エ・エカヲカラ・アン
汝・される
犠牲となったのだ。
- 2811 oman ikiri
オマン イキリ
行く 列
そのため
- 2812 shine ikin ne
シネ イキン ネ
一つの 列 繋
われらはもろとも
- 2813 naanionka
ナアニホンカ
あやうく
危うく嘆き死ぬ
- 2814 imokirekot-an a koroka
イモキレコト・アン ア コロカ
嘆き死ぬ・我 完 逆
ところであつたが
- 2815 tapne tapne
タッネ タッネ
これである これである
あのよう
- 2816 base kamui utar
バセ カムイ ウタラ
重い 神 たち
尊い神々の
- 2817 kor irenka
コロ イレンカ
持つ 意図
なされた処置が
- 2818 pirika a kushkeraibo
ピリカ ア クシケライボ
よい 完 おかげで
よかつたおかげで
- 2819 uwesamanno
ウエサマンノ
いっしょに
(イヨチ人と)ともに
- 2820 nishpa a-ne rok i
ニシパ ア・ネ ロク イ
長者 我・繋 完 形名
われらは神の恵みを受ける

*63 3行下につづく

*64 現ノートは aiko となっている。wente を補い解釈する。

- 2821 tu okkashi ta
トゥ オッカシ タ
二つの 首の上 場
郷紳であったが、何倍も
- 2822 re okkashi ta
レ オッカシ タ
三つの 首の上 場
何十倍も
- 2823 a-epirika kamui
ア・エピリカ カムイ
我・よくなる 神
われらの恩寵深き神が
- 2824 i-koinkar ruwe ne
イ・コインカラ ルウェ ネ
我・見る 跡 繫
恵みを垂れてくれた。
- 2825 tan tewano anakne
タン テワノ アナクネ
この これから は
以後
- 2826 ponno boka
ボンノ ボカ
少し さえ
一切
- 2827 nep ka a-shitoma p
ネフ カ ア・シトマ フ
繫 も 恐ろしい もの
なんの恐怖も
- 2828 isam nankor
イサム ナンコロ
死ぬ だろう
なくなるだろう。
- 2829 eani anakne
エアニ アナクネ
汝 は
おまえは
- 2830 ramma a-aktonoke tura
ラムマ ア・アクトノケ トウラ
いつも 我・弟君 とともに
いつもわが弟と
- 2831 i-soike ta
イ・ソイケ タ
我が家の隣 場
隣に建つ
- 2832 kamui e-kot totto
カムイ エ・コト トット
神 汝・持つ 母
神なる母の
- 2833 ewak ushike ta
エワク ウシゲ タ
住む ところ 場
住まいに
- 2834 a-aktonoke tura
ア・アクトノケ トウラ
我・弟君 とともに
わが弟とともに
- 2835 echi-ekorarpa
エチ・エコララバ
汝ら・移る
移りなさい。
- 2836 tambe kusu
タムベ クス
これ 由
それなら
- 2837 keshto^{*65}
ケスト
毎日
毎日
- 2838 unukar-an eashkai
ウヌカラ・アン エアッカイ
会う・我 できる
会うことができる。
- 2839 uwenishte-an nankoro
ウウェニシテ・アン ナンコロ
支え合う・我 だろう
支え合うことができる。
- 2840 tambe kusu
タムベ クス
これ 由
それゆえ
- 2841 pirikano
ピリカノ
良く
よくよく郷紳の妻に
- 2842 katkemat keutum kor
カトケマト ケウトウム コロ
婦人 心 持つ
ふさわしい心を保ち、
- 2843 kamui buri
カムイ ブリ
神 習い
神の習いを
- 2844 e-ashkai wa
エ・アッカイ ワ
汝・習う 接
学び、
- p. 271
- 2845 pon e-kor yubi
ボン エ・コロ ユビ
小さい 汝・持つ 兄
おまえのちい兄さんを
- 2846 ainu kor wa
アイヌ コロ ワ
男 持つ 接
夫として
- 2847 chibaroshuke
チバロシユケ
世話をする
万事賄い
- 2848 e-karkar kunak
エ・カラカラ クナク
汝・する 引用
よろしく
- 2849 ramu yan ari
ラム ヤン アリ
思う 命令 引用
やるのだ。」と
- 2850 tu pirika kuni p
トゥ ピリカ クニ フ
二つの よい 必 もの
良かれと思うことを
- 2851 i-ebakashnu
イ・エバカシヌ
我・教える
われに教えた。
- 2852 taban boro tuki
タバン ボロ トウキ
この 大きい 杯
兄の差し出す大きな盃を
- 2853 a-uina wa
ア・ウイナ ワ
我・取る 接
受け取り、
- 2854 a-rikunruke
ア・リクンルケ
我・高くさしあげる
上にあげ、
- 2855 a-raunruke
ア・ラウンルケ
我・低くかざす
下にさげて
- 2856 a-koonkami
ア・コオンカミ
我・拝礼する
礼拝した。
- 2857 ponno a-ku oro wa
ボンノ ア・ク オロ ワ
少し 我・飲む 所 から
われは少し飲んで
- 2858 a-emetu tuki
ア・エメトゥ トウキ
我・土産にする 杯
酒が残る 盃を
- 2859 a-rura
ア・ルラ
我・見送る
ちい兄さんに運んだ。
- 2860 ineapkus
イネアプクス
何と
なんと大きな
- 2861 a-enubetne wa
ア・エヌベトネ ワ
我・喜ぶ 接
喜びが
- 2862 humash nankor a
フマシ ナンコロ
音がする だろう 疑
込上がってくることか。
- 2863 an-eyaisembir-
アネヤイセムビリ・
我・己の陰
われは笑みを
- 2864 omina kane
オミナ カネ
笑う 音調整
押し隠した。
- 2865 pon a-kor yubi
ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
ちい兄さんは
- 2866 ikkeu noshkike
イクケウ ノシキケ
腰 真中
腰の真ん中を
- 2867 komkosampa
コムコサムバ
折り曲げる
折って
- 2868 mateonkami
マテオンカミ
妻帯の拝礼をする
結婚の礼拝をした。
- 2869 ireshuyubi
イレシユビ
育ての兄
育ての兄は
- 2870 kanna ruino
カンナ ルイノ
上 甚だしく
再び勢いよく
- 2871 tukirikikur-
トゥキリキクル・
杯を高々と
盃を高く
- 2872 buni kane
ブニ カネ
上げる 同時
掲げ
- 2873 Iyochiummat
イヨチウムマト
イヨチ姫
イヨチ姫を
- 2874 hotuipakar
ホトゥイパカラ
呼び寄せる
呼び寄せた。
- 2875 pon a-kor sapo
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さんは
- 2876 kamui shiri ne
カムイ シリ ネ
神 様子 繫
神のように美しく
- 2877 oribak tura
オリバク トウラ
畏まる ともに
うやうやしく
- 2878 shinu kane
シヌ カネ
膝行する 同時
手をつき
- 2879 reye kane
レイエ カネ
這う 同時
膝行
- 2880 baye wa
バイエ ワ
行く 接
し、
- 2881 tuki kurbok
トウキ クルボク
杯 下
盃の下に
- 2882 kohebokiki kane
コヘボキキ カネ
頭を下げる 音調整
頭を垂れた。
- 2883 tuki kurka
トウキ クルカ
杯 上
育ての兄は盃の上から
- 2884 koruye kane
コルイエ カネ
さする 同時
ちい姉さんをさすり
- 2885 ene itak i
エネ イタキ
斯く言う 形名
ながら、こう言った。
- 2886 koninkarkusu
コニンカラクス
いざいざ
「さて、
- 2887 Iyochiummat
イヨチウムマト
イヨチ姫
イヨチ姫、

*65 現ノートでは kesto と書かれているので、hを補う。

*65 現ノートでは kesto と書かれているので、hを補う。

- 2888 a-tureshipo
ア・トゥレシボ
我・妹
わが妹よ、
- 2889 chihoppa itak
チホッパ イタク
残される 言葉
母系を継いで伝わる
- 2890 totto itak
トット イタク
母 言葉
遺言には
- 2891 ene okai i
エネ オカイ イ
斯くある 形名
こうある
- 2892 kone p ne kusu^{*66}
コネ プ ネ クス
であるもの 繋 由
ので、
- 2893 taban tewano
タバンの テワノ
この これから
これからは
- 2894 taban kamui ewaki
タバンの カムイ エワキ
この 神 住まい
この神の住まい、
- 2895 shinrit chise upsoroho
シンリット チセ ウッソロホ
出自 家 内部
先祖から伝わる家に
- 2896 e-horari wa
エ・ホラリ ワ
汝・住まう 接
移ってきて、
- 2897 chibaroshuke
チバロシユケ
世話をする
食事を整え、
- 2898 chiomumbekare
チオムムベカレ
世話をする
われの世話を
- 2899 i-y-ekarkar wa
イ・イエカカラ ワ
我・する 接
して
- 2900 i-kore kunak
イ・コレ クナク
我・与える 引用
あげようと
- 2901 ramu yan
ラム ヤン
思う 命令
決めなさい。
- 2902 pirikano
ピリカノ
良く
心を込めて
- 2903 katkemat buri
カトケマト ブリ
婦人 行い
淑女の習い、
- 2904 kamui buri
カムイ ブリ
神 行い
気品高きふるまいを
- 2905 e-ki kusune
エ・キ クスネ
汝・する 意志
するの
- 2906 ruwe taban na
ルウェ タバン ナ
跡 この ぞ
ですよ。」
- 2907 ari hawash chiki
アリ ハワシ チキ
引用 言われる 条件
と言うと、
- 2908 pon a-kor sapo
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さんは
- p. 272*
- 2909 katune kane
カトウネ カネ
姿をとる 同時
あたりまえに
- 2910 enubetne kuni p
エヌベトネ クニ プ
喜ぶ 必 もの
喜ぶならば
- 2911 ne wa ne yakne
ネ ワ ネ ヤクネ
繋 接 繋 条件
尋常の
- 2912 kotom korkaiki
コトム コロカイキ
ようである 逆
ことなのだが、
- 2913 eashka eyaisembir-
エアシカ エヤイセムビリ・
とても 己の陰
胸のなかに
- 2914 omina kane
オミナ カネ
笑う 同時
喜びの笑いを押し隠し、
- 2915 utut ta arki wa
ウトウト タ アラキ ワ
火尻座 場 来る 接
下座に戻り
- 2916 emina p boka
エミナ プ ボカ
それを笑う もの さえ
笑いを
- 2917 isam isam kane
イサム イサム カネ
死ぬ 死ぬ 音調整
押し殺していた。
- 2918 shiriki chiki
シリキ チキ
そのような有様である 条件
それを見ると、
- 2919 aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤッカ
我 繋 譲
われもまた
- 2920 eashka nubetne-an
エアシカ ヌベトネ・アン
とても 喜ぶ・我
うれしくてならなかった。
- 2921 chikupso ka ta
チクッソ カ タ
酒宴の座 上 場
宴の席で
- 2922 nishpa utar
ニッパ ウタラ
長者 たち
近隣の郷紳たち、
- 2923 katkemat utar
カトケマト ウタラ
婦人 たち
その夫人たちの
- 2924 iramyne hawe
イラムイエ ハウエ
感謝する 声
祝いの言葉、
- 2925 nubetne hawe
ヌベトネ ハウエ
喜ぶ 声
喜びの音が
- 2926 chiutasare kane
チウタサレ カネ
入り乱れる 音調整
飛びかった。
- 2927 chikupso ka ta
チクッソ カ タ
酒宴の座 上 場
宴の席で、
- 2928 a-utari utar
ア・ウタリ ウタラ
我・人々 たち
わが一族
- 2929 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤッカ
繋 接 繋 譲
とはいえ
- 2930 ukor kushki kuni p
ウコロ クシキ クニ プ
結婚 しようとする 必 もの
成婚するばかりの者は、
- 2931 arobitta no
アロビッタ ノ
すべて 接
皆そろって
- 2932 ireshuyubi
イレシユユビ
育ての兄
育ての兄の
- 2933 pirika bakashnupa koro
ピリカ バカシヌバ コロ
よい 教諭し 持つ
よき教えを受け入れ、
- 2934 ukorpare wa
ウコロパレ ワ
共有する 接
共有し、
- 2935 eramushinne
エラムシンネ
安心する
心が落ち着いた。
- 2936 oro wano sui
オロ ワノ スイ
所 から 再び
それからまた、
- 2937 a-utari utar turanno
ア・ウタリ ウタラ トウランノ
我・人々 たち ともに
近隣の者たちとともに
- 2938 shisak tonoto
シサク トノト
またとない 酒
たぐいなき
- 2939 kamui tonoto
カムイ トノト
神 酒
神の酒を
- 2940 a-ukoante
ア・ウコアンテ
我・ととのえる
交わり、
- 2941 uwenubetne-an
ウウェヌベトネ・アン
喜ぶ・我
ともに喜んだ。
- 2942 tap oro wa
タップ オロ ワ
これ所 から
それから、
- 2943 a-utari utar
ア・ウタリ ウタラ
我・人々 たち
近隣の者たちに
- 2944 boronno imekare kane
ボロンノ イメカレ カネ
たくさん 配膳する 同時
ご馳走をたくさん
- 2945 iyemetpa kane
イイエメトパ カネ
土産を持たせる 音調整
土産として包んだ。皆、
- 2946 shino yayiraikepa koro
シノ ヤイライケパ コロ
まことに 感謝する 持つ
感謝の言葉を口々に
- 2947 tu wan onkami
トゥ ワン オンカミ
二つの 十の 礼拝
言い、幾度も
- 2948 re wan onkami
レ ワン オンカミ
三つの 十の 礼拝
幾度も
- 2949 arukakushte koro
アルカクシテ コロ
重ねる 持つ
礼拝を繰り返して
- 2950 arobbitano
アロビタノ
すべて
皆
- 2951 iwak okerpa
イワク オケレパ
帰る 終える
帰ってしまった
- 2952 okake ta
オカケ タ
あと 場
あとは、
- 2953 sonno irwak ne
ソノン イリワク ネ
真に 兄弟 繋
本当の兄妹
- 2954 utar batek a-ne wa
ウタラ バテック ア・ネ ワ
たち のみ 我・繋 接
たちばかりとなって、
- 2955 tutko kane
トゥトコ カネ
二日 音調整
二日も

*66 現ノートには konep の前に、tanna と書かれ、棒線で抹消されている。

- 2956 **rerko kane**
レレコ カネ
三日 音調整
三日も
- 2957 **sonno ratchitara**
ソノノ ラトチタラ
真に 穏やかである
穏やかに
- 2958 **shine ikin ne**
シネ イキン ネ
一つの 列 繋
口々に
- 2959 **wembe hene**
ウエムベ ヘネ
悪いのも
悪かったことも
- 2960 **pirika p hene**
ピリカ ヲ ヘネ
よい ものも
良かったことも
- 2961 **a-yubutari**
ア・ユブタリ
我・兄たち
男たちは
- 2962 **euweneusar**
エウウエネウサラ
話し合う
語り合った。
- 2963 **pon a-kor sapo utar**
ボン ア・コロ サポ ウタラ
小さい 我・もつ 姉 たち
われはちい姉さんたちと
- 2964 **turanno sui**
トゥランノ スイ
ともに 再び
ともに
- 2965 **arukorachi**
アルコラチ
同じく
以前とそっくりに
- 2966 **uweneusar-an**
ウウエネウサラ・アン
お話しをする・我ら
お話を楽しんだ。
- p. 273*
- 2967 **tu mina itak**
トゥ ミナ イタク
二つの 笑う 言葉
たくさんの
- 2968 **re mina itak**
レ ミナ イタク
三つの 笑う 言葉
楽しい話を
- 2969 **a-utashpare**
ア・ウタシパレ
我ら・交わす
交わした。
- 2970 **a-yubutari**
ア・ユブタリ
我・兄たち
兄たちの間に
- 2971 **inkinenebe**
インキネネベ
どちら
どちらが
- 2972 **shiretok ot ta**
シレトク オトタ
美貌の人 所 場
容貌容姿の点で
- 2973 **rametok ot ta**
ラメトク オトタ
勇者 所 場
胆力の点で
- 2974 **urabokkari wa**
ウラボッカリ ワ
優劣がある 接
優劣が
- 2975 **shiran nankor a**
シラン ナンコラ
有様である だろう 疑
あろうか。
- 2976 **tap eashiri**
タップ エアシリ
これ それこそ
まさに
- 2977 **ubak shiretok**
ウバク シレトク
対等の 美貌の人
同等の美貌、
- 2978 **ubak rametok**
ウバク ラメトク
対等の 勇者
並び立つ気迫で
- 2979 **nepa koroka**
ネパ コロカ
繋 逆
あるが、いつも
- 2980 **ramma pon a-kor yubi**
ラムマ ボン ア・コロ ユビ
いつも 小さい 我・もつ 兄
ちい兄さんのほうが
- 2981 **shiretok ot ta**
シレトク オトタ
美貌の人 所 場
見栄えでも
- 2982 **rametok ot ta**
ラメトク オトタ
勇者 所 場
肝の太さでも
- 2983 **areikaun**
アレイカウン
全く優れる
勝っていた。
- 2984 **shiyoro keutum**
シヨロ ケウトウム
驚く 心
驚き呆れる
- 2985 **a-yaikore**
ア・ヤイコレ
我・もつ
思いになる。
- 3.5 宴の果て**
- 2986 **tane a-yubutari**
タネ ア・ユブタリ
今 我・兄たち
イヨチの兄たちが
- 2987 **hekompa**
ヘコムパ
戻る
帰るときとなった。
- 2988 **oro wa**
オロワ
所 から
それから
- 2989 **irukai shiran ko**
イルカイ シラン コ
しばらくの間 ときがたつ 条件
しばらくすると
- 2990 **pon a-kor yubi ne wa**
ボン ア・コロ ユビ ネ ワ
小さい 我・もつ 兄 繋 接
ちい兄さんと
- 2991 **pon a-kor sapo**
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さんは、
- 2992 **shiotari no**
シオタリ ノ
帰省する 接
イヨチの村に帰ってから
- 2993 **arki kusune**
アラキ クスネ
来る 意志
戻って来る、
- 2994 **ari haweokai**
アリ ハウエオカイ
引用 言う
と言った。
- 2995 **pon a-kor sapo**
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さんは
- 2996 **chirikibumpa**
チリキブムパ
立ち上がる
立ち上がり、
- 2997 **shutketushi**
シュトケトウシ
女物の鞆
女物の鞆に
- 2998 **pirika p batek**
ピリカ ヲ バテク
よい もののみ
美しいものばかり
- 2999 **monnumkere wa**
モンヌムケレ ワ
選り分ける 接
選んで
- 3000 **eshikte**
エシクテ
詰める
詰めて
- 3001 **rarpa kane**
ララパ カネ
おさえる 同時
抑えて
- 3002 **tomotarechiu**
トモタレチウ
荷繩を締める
荷繩(タラ)を締めた。
- 3003 **tap oro wa**
タップ オロワ
これ 所 から
それから
- 3004 **tu pirika kuni p**
トゥ ピリカ クニ ヲ
二つの よい 必 もの
多くのよきことどもを
- 3005 **i-ebakashnu**
イ・エバカシヌ
我・教える
われに教え諭して
- 3006 **re pirika kuni p**
レ ピリカ クニ ヲ
三つの よい 必 もの
多くのよき教えを
- 3007 **i-ebakashnu**
イ・エバカシヌ
我・教える
われに覚えさせた。
- 3008 **otu sui konna**
オトウ スイ コンナ
二つの 回 は
幾度も
- 3009 **oresui konna**
オレスイ コンナ
三回 は
幾度も
- 3010 **i-ekobi wa**
イ・エコビワ
我・別れる 接
我と別れて行くのが
- 3011 **oman niukesh**
オマン ニウケン
行く しかねる
辛いそぶりを見せた。
- 3012 **eashka uwekoppa boka**
エアシカ ウウエコッパ ボカ
とても 別れが さえ
われも別れが
- 3013 **a-niukesh kane**
ア・ニウケン カネ
我・しかねる 同時
辛かった。
- 3014 **a-kor sapo**
ア・コロ サポ
我・もつ 姉
ちい姉さんは
- 3015 **otu henkuror**
オトウ ヘンクロロ
二つの うなずくこと
何度も何度も
- 3016 **ore henkuror**
オレ ヘンクロロ
三つの うなずくこと
うなずい
- 3017 **i-koanukar**
イ・コアヌカラ
我・置く
て、
- 3018 **sonno pombe shinne**
ソノノ ポムベ シンネ
真に 赤子 のように
赤ん坊をあやすように
- 3019 **i-henkotpa kane**
イ・ヘンゴトパ カネ
我・口づけする 音調整
われに口づけした。
- 3020 **a-yubutari**
ア・ユブタリ
我・兄たち
兄たちは
- 3021 **eashka eashka**
エアシカ エアシカ
とても ほんとうに
深く、深く
- 3022 **yayiraike kane**
ヤイライケ カネ
感謝 同時
感謝して
- 3023 **tu wan onkami**
トゥ ワン オンカミ
二つの 十の 礼拝
いくども
- 3024 **re wan onkami**
レ ワン オンカミ
三つの 十の 礼拝
礼拝を
- 3025 **arukakushtepa kane**
アルカクシテパ カネ
繰り返す 音調整
繰り返した。

- 3026 **Iyochiummat**
イヨチウムマト
イヨチ姫、
イヨチ姫、
- 3027 **pon a-kor sapo**
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さん、
- 3028 **a-yubutari**
ア・ユブタリ
我・兄たち
兄さんたちは
- 3029 **pirika mekarba p hene**
ピリカ メカラバ プ ヘネ
よい 配膳する もの も
おいしい振る舞いもの、
- 3030 **pirika chiemetup hene**
ピリカ チエメトupp ヘネ
よい 土産の食べ物 も
うまい残り酒の
- 3031 **boro shike se wa**
ボロ シケ セ ワ
大きい 荷物 背負う 接
大きな荷を背負い
- p. 274
- 3032 **naa ponno**
ナア ポンノ
まだ 少し
「もう少し
- 3033 **shiran ko**
シラン コ
ときがたつ 条件
したら
- 3034 **arki kusune ari**
アッキ クスネ アリ
来る 意志 引用
戻ってきますよ」と
- 3035 **itak kane**
イタク カネ
言う 同時
言いながら、
- 3036 **uweutanne wa**
ウウエウタンネ ワ
仲間になる 接
一団となって
- 3037 **utapkurka-**
ウタppクルカ・
肩の上
肩を
- 3038 **rarpa kane**
ラppカネ
おさえる 同時
接して帰っていった。
- 3039 **pon a-kor yubi**
ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
ちい兄さんは
- 3040 **shisembir beka**
シセムビリ ベカ
自分の後ろ で
密かに
- 3041 **i-kohosarpa chiki**
イ・コホサラpp チキ
我・振り向く 条件
われに振り向くと
- 3042 **kosancha ot ta**
コサンチャ オト タ
口元 所 場
にっこりと
- 3043 **mina kane**
ミナ カネ
笑う 同時
ほほえんだ。まるで
- 3044 **kamui shiri ne okai wa**
カムイ シリ ネ オカイ ワ
神 様子 繫 ある 接
神のように気高かった。
- 3045 **nep ka i-or un**
ネpp カ イ・オロ ウン
繫 も 我・ところ 方向
なにかわれに
- 3046 **ye rusui wa ne yakka**
イエ ルスイ ワ ネ ヤッカ
言う 欲 接 繫 譲
言いたかったようだが、
- 3047 **shikiki kuni p**
シキキ クニ プ
臆する 必 もの
臆するところが^{*67}
- 3048 **konep ne kusu**
コネpp ネ クス
繫 繫 由
あるのか
- 3049 **shine itak boka**
シネ イタク ボカ
一つの言う さえ
一言も
- 3050 **somo ye kane**
ソモ イェ カネ
否定 言う 同時
言わなかった。
- 3051 **aokai ne yakka**
アオカイ ネ ヤッカ
我 繫 譲
われも
- 3052 **shine itak boka**
シネ イタク ボカ
一つの言う さえ
一言も
- 3053 **somo a-ye**
ソモ ア・イエ
否定 我・言う
口にできなかった。
- 3054 **yepnu kuni p**
イエppヌ クニ プ
無垢な 必 もの
無垢で
- 3055 **shikiki p kuni p**
シキキ pp クニ プ
臆する もの 必 もの
おずおずする
- 3056 **a-ne p ne kusu**
ア・ネpp ネ クス
我・繫 もの 繫 由
われであるから、
- 3057 **pon a-kor yubi**
ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
ちい兄さんが
- 3058 **ekoobi wa**
エコオビ ワ
別れる 接
去り、
- 3059 **shikiru-an ko**
シキル・アン コ
振り向く・我 条件
家の方へ振り返ると
- 3060 **a-nanka konna**
ア・ナンカ コンナ
我・顔 は
わが頬に
- 3061 **chiunu kane**
チウヌ カネ
流れ出る 同時
涙が激しく流れた。
- 3062 **toop kamui nishka**
トopp カムイ ニシカ
ずっと速く 神 上空
ちい兄さんたちの
- 3063 **kohobumpa**
コホppムバ
立ち上がる
はるか大空へ飛び上がり
- 3064 **baye humi**
バイエ フミ
行く 気配
行く音が
- 3065 **keurototke**
ケウロトトケ
響く
ゴーゴーと鳴った。
- 3066 **kohumokake**
コフモカケ
音の後
その音がやむと
- 3067 **chakkosampa**
チャックコサムバ
急に静まり返る
しんと静まり返った。
- 3068 **okake ta**
オカケ タ
あと 場
そのあと、
- 3069 **ireshuyubi tura**
イレシュユビ トウラ
育ての兄 とともに
育ての兄と
- 3070 **tun a-ne wa okai-an**
トゥン ア・ネ ワ オカイ・アン
二人 我・繫 接 いる・我
二人していた。
- 3071 **ireshuyubi**
イレシュユビ
育ての兄
育ての兄
- 3072 **ne wa ne yakka**
ネ ワ ネ ヤッカ
繫 接 繫 譲
も
- 3073 **shino nishmu**
シノ ニシム
まことに 寂しい
深い寂しさに
- 3074 **kotomno a-ramu**
コトムノ ア・ラム
ように 我・思う
浸っているように見えた。
- 第4章 結婚
- 4.1 イヨチ長女来る
- 3075 **tutko rerko**
トゥトコ レレコ
二日 三日
二日、
- 3076 **bakno shiran awa**
バクノ シラン アワ
まで ときがたつ 展開
ほどたつと、
- 3077 **Iyochi kotan**
イヨチ コタン
地名 村
イヨチ村の
- 3078 **kotan tapkashi**
コタン タppカシ
村 頂き
峰の頂きに
- 3079 **bushkosampa**
ブシコサムバ
爆発する
爆発音がとどろき、
- 3080 **kamui ek humi**
カムイ エック フミ
神 来る 気配
神がやってくる音が
- 3081 **keurototke**
ケウロトトケ
響く
ゴーゴーと鳴った。
- 3082 **ek aine**
エック アイネ
来る 接
どンドン
- 3083 **tane ehanke**
タネ エハンケ
今 近付く
近づいてきた。
- 3084 **hum tuyorke**
フム トウヨロケ
音 只中
そのとどろきの中心を
- 3085 **a-kouwante^{*68} wa**
ア・コウワンテ ワ
我・調べる 接
調べて
- 3086 **inu-an ko**
イヌ・アン コ
聞く・我 条件
見ると、
- 3087 **Iyochiummat**
イヨチウムマト
イヨチ姫、
イヨチ姫、
- 3088 **pon a-kor sapo**
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さんが
- 3089 **ek humi ne i**
エック フミ ネ イ
来る 気配 繫 形名
やって来る音だと

*67 この句の解釈は不確実。

*68 現ノートは kouwante. a-を補って解釈する。

- 3090 a-nosatkirkar
ア・ノサトキリカラ
我・悟る
わかった。
- 3091 soyun yakura
ソユン ヤクラ
外にある 櫓
外の矢倉の
- 3092 yakura kurka
ヤクラ クルカ
櫓 上
上に
- 3093 chieranke
チエランケ
降りる
降り立った。
- 3094 shittoyakan
シトヤカン
地上一帯
あたり一面
- 3095 kokishnatara
コキシナタラ
静まる
静まりかえった。
- 3096 shiran chiki
シラン チキ
有様である 条件
そこで
- 3097 a-matkosampa
ア・マトコサムパ
我・立ち上がる
われは急いで立ち上がり、
- 3098 soyoterke-an
ソヨテレケ・アン
外に飛び出す・私
家の外へ飛び出た。
- 3099 inkar-an awa
インカラ・アン アワ
見る・我 展開
見ると
- 3100 soonnoboka
ソオンノボカ
まことに
まことに
- p. 275
- 3101 Pon Ishkarummat^{*69}
ボン イシカルムマト
小さい イシカリ姫
小石狩姫であって、
- 3102 kamui shiri ne
カムイ シリ ネ
神 様子 繫
神々しい姿だった。
- 3103 kani pon ketushi
カニ ボン ケトウシ
黄金 小さい 長持ち
金の小さな鞆の
- 3104 tomotarechiu kane
トモタレチウ カネ
荷縄を締める 同時
荷縄で締めたものを
- 3105 shisam omare kane
シサム オマレ カネ
自分の側 置く 同時
おのれの傍らに置いて、
- 3106 mintar ka ta
ミンタラ カ タ
土間 上 場
(下屋の)地べたに
- 3107 otop chinki
オトフ チンキ
髪 裾
髪先の
- 3108 eshitchiure kane
エシチウレ カネ
頭を下げる 同時
地面に垂らして
- 3109 rok wa okai
ロク ワ オカイ
完 接 ある
座っていた。われは
- 3110 sapo ari itak-an kane
サポ アリ イタク・アン カネ
姉 引用 言う・我 同時
「お姉さま」と言って
- 3111 a-kotetterke
ア・コテテレケ
我・踏みつける
飛びついた。
- 3112 itasa sui
イタサ スイ
返す 再び
それに応えて
- 3113 i-eshikari
イ・エシカリ
我・つかまえる
われを抱きしめ、
- 3114 matakpo sambe ari
マタクポ サムベ アリ
妹 心臓 引用
「妹よ、わが心臓よ」と
- 3115 itak kane
イタク カネ
言う 同時
言いながら、
- 3116 i-shikoruye
イ・シコルイェ
我・撫でる
抱き寄せ愛撫した。
- 3117 ketushihi
ケトウシヒ
鞆
われは鞆を
- 3118 a-se kane
ア・セ カネ
我・背負う 同時
背負って
- 3119 santekebo
サンテケボ
手
手を
- 3120 a-ampa kane
ア・アムパ カネ
我・つかむ 同時
取って
- 3121 ahup-an chiki
アフフ・アン チキ
入る・我 条件
家の中に入ると
- 3122 chituyeamset
チトウイェアムセト
切られた寝台
板造りの寝台の
- 3123 amset ka ta
アムセト カ タ
寝台 も 場
上で
- 3124 ireshuyubi
イレシユコビ
育ての兄
育ての兄が
- 3125 kebushbe nuye
ケブシベ ヌイエ
鞆 彫り刻む
槍や刀、ナイフの鞆を
- 3126 shirika nuye
シリカ ヌイエ
表面 彫り刻む
一心不乱に
- 3127 kokipshiriechiu kane
コキプシリエチウ カネ
床に額を向ける 同時
彫っていた。
- 3128 pon a-kor sapo
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さんの姿が
- 3129 nukar chiki
ヌカラ チキ
見る 条件
目に入ると
- 3130 katune kane
カトウネ カネ
姿をとる 同時
あたりまえに
- 3131 enubetne kuni p
エヌベトネ クニ プ
喜ぶ 必 もの
喜ぶの
- 3132 ne wa ne yakne
ネ ワ ネ ヤクネ
繫 接 繫 条件
ならば
- 3133 kotom korokaiki
コトム コロカイキ
ようである 逆
尋常なことなのに、
- 3134 shino ramoshi wano
シノ ラモシ ワノ
まことに 心の底 から
心の底から
- 3135 nubetne kuni p
ヌベトネ クニ プ
喜ぶ 必 もの
喜んだ
- 3136 kone p ne kusu
コネ プ ネ クス
であるもの 繫 由
ものだから、
- 3137 tam tarara kane
タム タララ カネ
刀 掲げる 同時
刀を上あげて^{*70}
- 3138 kosancha ot ta
コサンチャ オト タ
口元 所 場
口元に
- 3139 mina kane
ミナ カネ
笑う 同時
笑みを浮かべた。
- 3140 pon a-kor sapo
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
われはちい姉さんを
- 3141 shisosam ne
シソサム ネ
右座 繫
右座へ案内し、
- 3142 abe teksam
アベ テクサム
火 すぐそば
火のすぐそばに
- 3143 a-eare
ア・エアレ
我・座らせる
座らせた。
- 3144 ireshuyubi
イレシユコビ
育ての兄
育ての兄は
- 3145 chirikibuni
チリキブニ
起き上がる
立ち上がって
- 3146 kutsam konna
クトサム コンナ
喉元 は
喉を
- 3147 uwetunuisse
ウウェトウヌイセ
美しく響く
鳴らして
- 3148 ene itak i
エネ イタク イ
斯く言う 形名
こう言った。
- 3149 koninkarkusu
コンインカルクス
いざいざ
「やあ、やあ
- 3150 a-tureshipo
ア・トゥレシポ
我・妹
わが妹よ
- 3151 tane Iyochiummat
タネ イヨチウムマト
今 イヨチ姫
もうはやイヨチ姫、
- 3152 a-tureshipo
ア・トゥレシポ
我・妹
わが妹が
- 3153 shiotarino
シオタリノ
旅立って
腰を上げて
- 3154 kamui ewaki
カムイ エワキ
神 住まい
神の住まい(わが家)に
- 3155 koitomnukar kusu
コイトムヌカラ クス
結婚する 由
嫁入りするべく

*69 Iyochiummat のこと。おそらく書き誤りであろう。

*70 喜びの仕草。

- 3156 ek ruwe ne
エック ルウェ ネ
来る 跡 繫
やって来たのだな。
- 3157 tambe kusu
タムベ クス
これ 由
ならば
- 3158 a-aktonoke
ア・アットノケ
我・弟君
わが弟 (ちい兄さん)
- 3159 ne wa ne yakka
ネ ワ ネ ヤッカ
繫 接 繫 譲
も
- 3160 orotunashno
オロトゥナンノ
一刻も早く
まもなく
- 3161 shiotarino
シオタリノ
旅立って
出かけて
- 3162 ek nankor na
エック ナンコロ ナ
来る だろう ぞ
くるだろう。
- 3163 shinrit chise
シンリト チセ
出自 家
先祖からの家*71、
- 3164 kamui ewaki un
カムイ エウキ ウン
神 住まい 方向
神の住まいへ
- 3165 tane etup kushne
タネ エトウップ クシネ
今 未詳 つもりである
もう着くであろう。*72
- 3166 subuya eatte kusune
スブヤ エアトテ クスネ
煙 立てる 意志
そこに住みつき煙を立て
- 3167 a-aktonoke
ア・アットノケ
我・弟君
るであろう。わが弟君が
- 3168 inanhembara ta
イナンヘムバラ タ
いつか 場
いつ
- p. 276
- 3169 ek wa ne yakka
エック ワ ネ ヤッカ
来る 接 繫 譲
やって来ても
- 3170 samashik sakno
サマシク サクノ
隣りの目 無くて
おまえたちは人目を
- 3171 oainu sakno
オアイヌ サクノ
人 無くて
気にせず
- 3172 echi-unukar
エチ・ウヌカラ
汝ら・見合う
交わることが
- 3173 eashkai ruwe
エアッシュカイ ルウェ
できる 跡
できるの
- 3174 taban na
タバナン ナ
この ぞ
だ。
- 3175 tane e-tura-an na
タネ エ・トゥラ・アン ナ
今 汝・同行する・我 ぞ
これから連れて行く。
- 3176 hokure ek ari
ホクレ エック アリ
早く 来る 引用
さあ、おいで。」と
- 3177 itak kane
イタク カネ
言う 同時
言いながら
- 3178 chisoinaraipa
チソイナライパ
外へ出る
家の外に出た。
- 3179 yairenkane
ヤイレンカネ
喜ぶ
喜んで
- 3180 Seturkashike
セトゥルカシケ
互いの背の上
兄の後ろに
- 3181 a-yairarire
ア・ヤイラリレ
我・みずからを押しつける
ついて
- 3182 soiwasamwa
ソイワサムワ
家の外へ
外へ
- 3183 a-oshiraipa
ア・オシライパ
我・移動する
出た。
- 4.2 母の家
- 3184 an-ewak shiroro
アネワック シロロ
我・住む 場所
われらが住むあたりの
- 3185 chise mauka ta
チセ マウカ タ
家 東 場
家の東に
- 3186 baye-an wa
バイエ・アン ワ
行く・我 接
行つて
- 3187 inkar-an ko
インカラ・アン コ
見る・我 条件
見ると、
- 3188 tam boro chise
タム ボロ チセ
この 大きい 家
とても大きな家、
- 3189 kani chise
カニ チセ
黄金 家
黄金の家と
- 3190 kani chashi
カニ チャシ
黄金 チャシ
黄金の柵が
- 3191 uworeroshki
ウウォレロシキ
重なってそびえる
立ち並んでいた。
- 3192 toi tukari
トイ トウカリ
土 手前
地面が
- 3193 kokinnatara kane
コキンナタラ カネ
きらびやかである 同時
キラキラ輝いていた。
- 3194 chise soinake
チセ ソイナケ
家 家の外
家の外も、
- 3195 chashi soinake
チャシ ソイナケ
チャシ 家の外
柵の外も
- 3196 huihuinawano
フイフイナワノ
隅々まで
どこもかしこもが
- 3197 a-koerayap
ア・コエラヤップ
我・感嘆する
驚くほど美しく
- 3198 a-eramasu kane
ア・エラマス カネ
我・好ましく思う 同時
好ましい。
- 3199 chise aba
チセ アバ
家 簾戸
入口は
- 3200 kani torattush ari
カニ トラトトゥシ アリ
黄金 獣皮の縄 引用
金の皮縄で、
- 3201 a-toikotubetube kane
ア・トイコトゥベトゥベ カネ
我・かたく縛る 同時
しっかりと閉ざされて
- 3202 shiran chiki
シラン チキ
有様である 条件
いたので
- 3203 ireshuyubi
イレシュユビ
育ての兄
育ての兄は
- 3204 bita wa
ビタ ワ
解く 接
それをほどいて
- 3205 mosem tuyor
モセム トウヨロ
玄関納屋 中
下屋の中へ
- 3206 a-eshikirpa
ア・エシキリパ
我・向かう
入った。
- 3207 kamui hura
カムイ フラ
神 匂い
神々しい
- 3208 tomi hura
トミ フラ
財宝 匂い
財宝の匂いが
- 3209 rui rera ne
ルイ レラ ネ
激しい風 繫
強い風となった
- 3210 i-emaknakur-
イ・エマクナクル・
我・奥
われを後ずさりさせる
- 3211 raipa kane
ライパ カネ
移動させる 同時
ほどであった。
- 3212 kani abaotbe
カニ アバオトベ
黄金 母屋戸口のすだれ
入口に下がる御簾が
- 3213 ratki ruwe konna
ラトキ ルウェ コンナ
垂れる 跡 は
美しく
- 3214 tonnatara
トンナタラ
光っている
揺れていた。
- 3215 ireshuyubi
イレシュユビ
育ての兄
育ての兄は
- 3216 kotekturi
コテクトゥリ
手を伸ばす
手を伸ばし
- 3217 moirechaka
モイレチャカ
ゆっくりと開ける
ゆっくりと上げた。
- 3218 mintar ka ta
ミンタラ カ タ
土間 も 場
土間に
- 3219 imeru tura
イメル トウラ
光 とともに
光とともに
- 3220 urar tura
ウララ トウラ
霧 とともに
もやとともに
- 3221 rutkosampa*73
ルトコサムパ
すばやく入る
踏みいった。

*71 狼神の妹の家

*72 この行の意味は不明。とりあえずの訳。

- 3222 inkar-an ko
インカラ・アン コ
見る・我 条件
見ると
- 3223 kunne urar
クンネ ウララ
黒い 霧
黒いもやと
- 3224 retar urar
レダラ ウララ
白い 霧
白いもやが
- 3225 chise upsoroho
チセ ウツソロホ
家 内部
家の中に
- 3226 eetushnatki kane
エエトウツナトキ カネ
満ちる 同時
みなぎっていた。
- 3227 irukai ne ko
イルカイ ネ コ
しばらくの間 繋 条件
しばらくすると
- 3228 ben etubok
ベン エトウボク
東 煙出しの窓
東向きの煙り出しと
- 3229 ban etubok un
バン エトウボク ウン
西 煙出しの窓 方向
西向きの煙り出しへ
- 3230 taban urar
タバ ン ウララ
この 霧
もやが
- 3231 koshietaipa
コシエタイパ
跳び上がる
昇り
- 3232 chise upsororo
チセ ウツソロ
家 内部
家の中が
- 3233 maknatara
マクナタラ
輝いている
明るくなった。
- 3234 iyainumare
イヤイヌマレ
驚いた
驚いた、
- 3235 tam boro chise
タム ボロ チセ
この 大きい 家
この大きな家の
- 3236 upsoroho
ウツソロホ
内部
内部の
- 3237 iyoma ruwe
イヨマ ルウエ
家内部を宝物で飾る 跡
飾り付けは、
- 3238 tane bakno
タネ バクノ
今 まで
今まで
- 3239 a-ewak ushike
ア・エワク ウシケ
我・住む ところ
われが住んでいた家の
- 3240 iyoma ruwe
イヨマ ルウエ
家内部を宝物で飾る 跡
飾り付けと
- 3241 ponno boka
ボンノ ボカ
少し さえ
少しも
- 3242 echutkonno okai somoki
エチユトコンノ オカイ ソモキ
間違っ てる ある しない
変わらない。
- p. 277
- 3243 sonno sonno
ソノン ソノン
真に 真に
まったく
- 3244 arukorachino
アルコラチノ
そっくり
そっくりに
- 3245 iyoma ruwe
イヨマ ルウエ
家内部を宝物で飾る 跡
飾られ
- 3246 a-tomte ruwe okai
ア・トムテ ルウエ オカイ
輝いている 跡 ある
輝いている。
- 3247 ikit tukari
イキト トウカリ
列 手前
宝壇の手前に
- 3248 chituyeamset
チトウイエアムセト
切られた寝台
板造りの寝台、
- 3249 kani amset
カニ アムセト
黄金 寝台
金の寝台が
- 3250 chishiturire
チシトウリレ
伸びる
長々と延びていた。
- 3251 kurkashike
クルカシケ
上
その上に
- 3252 kamui nubeki
カムイ ヌベキ
神 光
神々しい光が
- 3253 komaknatara
コマクナタラ
輝いている
照り映えていた。
- 3254 kani amso
カニ アムソ
黄金 座
金の座の
- 3255 amso kurka
アムソ クルカ
座 上
上は
- 3256 koteshnatara
コテッナタラ
平らになっている
平らかであった。
- 3257 kani inumbe
カニ イヌムベ
黄金 垢縁
金の垢縁が
- 3258 baye ruwe konna
バイエ ルウエ コンナ
行く 跡 は
伸びるさまは
- 3259 rumaibe tom ne
ルマイベ トム ネ
未詳 輝く 繋
ルマイベの色をなして
- 3260 shiso sam ta
シソ サム タ
右座 そば 場
いた。右座のそばでは
- 3261 iyoikir kesh wano
イヨイキリ ケン ワノ
宝列 末端 から
宝壇のしも端から
- 3262 kani matchuyop
カニ マトチュヨフ
黄金 女持ちの手函
女持ち金の箱が
- 3263 ikirbok konna
イキリボク コンナ
列の下 は
並んでいて、その下は
- 3264 meunatarata
メウナタラ
きらびやかである
きらびやかに輝いて
- 3265 utur un shikkeu
ウトウル ウン シッケウ
火尻座 ある 隅
下座の隅まで
- 3266 chieushi kane
チエウシ カネ
とどく 音調整
届いていた。
- 3267 nei kotchake
ネ コトチャケ
繋 前
その手前に
- 3268 menoko mukru
メノコ ムクル
女 枕
女物の枕、
- 3269 kani mukru
カニ ムクル
黄金 枕
金の枕が
- 3270 chieshituri
チエシトウリ
伸びている
延びていた。
- 3271 enkashi ta
エンカシ タ
離れた上 場
その上に
- 3272 nekona shiko p
ネコナ シコ フ
どのように 目がつく もの
異族の者が
- 3273 nekona baro p
ネコナ バロ フ
どのように 口がつく もの
異国の者が
- 3274 tekekar kuni p
テケカラ クニ フ
手ずからに作る 必 もの
作った
- 3275 kone nankor a
コネ ナンコラ
である だろう 疑
物なのか、
- 3276 rikun kakenchai
リクン カケンチャイ
上にある 掛け竿
上の掛け竿
- 3277 ranke kakenchai
ランケ カケンチャイ
下の 掛け竿
下の掛け竿の
- 3278 kurkashike
クルカシケ
上
上に
- 3279 kamui chikirbe
カムイ チキリベ
神 刺繍衣
立派な
- 3280 kani chikirbe
カニ チキリベ
黄金 刺繍衣
金の刺繍着が掛かり、
- 3281 eereweuse kane
エエレウエウセ カネ
しなる 音調整
たわんでいた。
- 3282 kurkashike
クルカシケ
上
その表は
- 3283 tu kamui chupki
トゥ カムイ チュフキ
二つの 神 光
神々しい光が
- 3284 re kamui chupki
レ カムイ チュフキ
三つの 神 光
さかんに
- 3285 uweshimaka
ウエシマカ
盛んに光る
照り映えていた。
- 3286 anramasu
アンラマス
まったく好ましい
好ましい思いに
- 3287 a-uwesuye
ア・ウエスイエ
我・思う
心が揺すぶられた。
- 3288 ireshuyubi
イレシュユビ
育ての兄
育ての兄は
- 3289 rorunso kurka
ロルンソ クルカ
上座 上
神の座の上に

*73 原ノートでは arutkosampa と記されているが a- を省く。

- 3290 chieashi kane
チエアシ カネ
立つ 音調整
立ち、
- 3291 katune kane
カトゥネ カネ
姿をとる 同時
あたりまえに
- 3292 kamui ewakih
カムイ エワキヒ
神 住まい
この神の住まいの
- 3293 upsororke
ウソソロケ
懐の中
しつらいに
- 3294 erayap kuni p
エラヤッ クニ ッ
感心する 必 もの
驚いた
- 3295 ne wa ne yakne
ネ ワ ネ ヤクネ
繋 接 繋 条件
としても
- 3296 kotom koro kaiki
コトム コロ カイキ
ようである 持つ も
不思議ではないが、
- 3297 eashka rayap kuni p
エアッカ ラヤッ クニ ッ
とても たまげる 必 もの
ほんとうに驚き
- 3298 kirorokai kuni p
キロロカイ クニ ッ
喜ぶ 必 もの
かつ興じたもの
- 3299 kone p ne kusu
コネ ッ ネ クス
であるもの 繋 由
だから、
- 3300 usa okai be
ウサ オカイ ベ
譲 ある もの
あらゆる物に
- 3301 koshikchupchubu kane
コシクチュッチュブ カネ
目をしばたかせる 同時
目をしばたかかせて
- 3302 ene itak i
エネ イタキ
斯く言う 形名
こう言った。
- 3303 hokure abeare
ホクレ アベアレ
早く 火を起こす
「さあ、火を焚き
- 3304 tanekuran wano
タネクラン ワノ
今夜 から
今晚から
- 3305 totto sotki
トット ソトキ
母 寝床
母方から、
- 3306 shinrit sotki
シンリト ソトキ
出自 寝床
祖先から伝わる臥所に
- 3307 pirikano e-emokonno
ピリカノ エ・エモコンノ
良く 汝・よく眠る
ぐっすり休み
- 3308 nankor na ari
ナンコロ ナ アリ
だろう ぞ 引用
なさい。」と
- 3309 itak kane
イタク カネ
言う 同時
言い残して
- p. 278
- 3310 chisoinaraipa
チソイナライパ
外へ出る
出て行った。

4.3 ちい兄さんを待つ

- 3311 okake ta
オカケ タ
あと 場
そのあと、
- 3312 chinuinaabe
チヌイナアベ
埋もれ火
炬の埋もれ火を
- 3313 abekanriki-
アベカンリキ・
火を高く
灰の上に
- 3314 a-busu kane
ア・ブス カネ
人々・押し出す 同時
掘り起こした。
- 3315 ruirui abe
ルイルイ アベ
強い 火
盛んな炎を
- 3316 a-ebarsere
ア・エバッセレ
我・翻す
われは立てた。
- 3317 abe teksam
アベ テクサム
火 すぐそば
火の傍らに
- 3318 a-ehorari kane
ア・エホラリ カネ
我・腰を据える 同時
腰をおろし、
- 3319 kamui ewaki
カムイ エワキ
神 住まい
神の住まいの
- 3320 upsoroho
ウソソロホ
内部
中を
- 3321 a-shikkushpare
ア・シククシパレ
我・見渡す
見渡した。
- 3322 huihuinawano
フイフイナワノ
隅々まで
隅ずみまで
- 3323 a-uwambare
ア・ウウムバレ
我・調べる
目をやった。
- 3324 anramasu
アンラマス
まったく好ましい
興趣に
- 3325 a-uwesuye kane
ア・ウウエスイエ カネ
我・思う 同時
あふれている。
- 3326 nekona shiko p
ネコナ シコ ッ
どのように 目がつく もの
どんな生まれの
- 3327 nekona baro p tapne
ネコナ バロ ッ タッネ
どのように 口 もの これ
どんな筋の者でわが
- 3328 kamui a-kot totto ne wa
カムイ ア・コト トット ネ ワ
神 我・持つ 母 繋 接
母上はあらせましたのか。
- 3329 ehorarpa ushike
エホラッパ ウシケ
居る ところ
その母の住まわれた
- 3330 orsaureko
オロサウレコ
とんでもなく
この家は尋常でない
- 3331 pirika ruwe
ピリカ ルウエ
よい 跡
美しさで
- 3332 a-tomte kashpa
ア・トムテ カシパ
輝いている 甚だしい
あまりにも眩い
- 3333 ruwe okai
ルウエ オカイ
跡 ある
ほどだ。
- 3334 tantewano
タンテワノ
これから
これから
- 3335 ruwokake
ルウオカケ
跡
母方の遺風の残る家に
- 3336 an-ehorarpa shiri
アネホラッパ シリ
我・住まう 様子
住まうことになって
- 3337 arkehe ta
アラケヘ タ
半分 場
半分は
- 3338 a-eyaikobuntek yakka
ア・エヤイコブンテック ヤッカ
我・喜ぶ 譲
うれしく、
- 3339 arkehe ta
アラケヘ タ
半分 場
半分は
- 3340 kamui a-kor totto hene
カムイ ア・コロ トット ヘネ
神 我・もつ 母 も
母や
- 3341 a-kor ainu hene
ア・コロ アイヌ ヘネ
我・もつ 人間 も
父に
- 3342 a-nukan rusui chiki
ア・ヌカン ルスイ チキ
我・見る 欲 条件
会いたいとの思いで
- 3343 a-shikshutkashi
ア・シクシユトカシ
我・目元の上
わが目元が
- 3344 ekobuyuse kane
エコブユイセ カネ
湿る 同時
涙でうるんだ。
- 3345 semohonruino
セモホンルイノ
しばらく
まもなく
- 3346 shirantek ko
シランテック コ
少し時がたつ 条件
して、
- 3347 pon a-kor sapo
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さん^{*74} が
- 3348 pirika aep
ピリカ アエッ
よい 食物
すてきな食材を
- 3349 boronno
ボロンノ
たくさん
たくさん
- 3350 ampa kane
アムパ カネ
持つ 同時
携えて
- 3351 shinu kane
シヌ カネ
膝行する 同時
いざるように
- 3352 reye kane
レイエ カネ
這う 同時
にじるようにして
- 3353 oripak tura
オリパッ トウラ
畏まる ともに
うやうやしく
- 3354 shiaworaipa
シアウオライパ
家の中に入る
入ってきた。
- 3355 sunke ashbe
スンケ アッベ
嘘 うわさ
あること
- 3356 sone ashbe
ソネ アッベ
らしく うわさ
ないことを

*74 兄嫁

- 3357 a-ubaroka-
ア・ウバロカ・
我・口の上
口の端にのせて
- 3358 tata kane
タタ カネ
たたく 音調整
談笑していると
- 3359 oro wano
オロ ワノ
所 から
やがて
- 3360 tane shiri kunne
タネ シリ クンネ
今 様子 暗い
日が暮れた。
- 3361 pon a-kor sapo
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
兄嫁が帰って
- 3362 oman okake ta
オマン オカケ タ
行く あと 場
行ってしまったあと、
- 3363 shuke-an wa
シュケ・アン ワ
炊事する・我 接
ご飯を作り
- 3364 ibe-an
イベ・アン
食事する・我
食べた。
- 3365 tanebo konna
タネボ コンナ
今 こそ
は
- 3366 shinrit sotki
シンリト ソトキ
出自 寝床
先祖から伝わる
- 3367 totto sotki
トット ソトキ
母 寝床
母の寝床の
- 3368 sotki upsor
ソトキ ウフソ
寝床 内部
中に
- 3369 an-ehotke
アネホトケ
我・寝る
身を横たえた。
- 3370 shino mokonno-an
シノ モコンノ・アン
まことに よく眠る・我
よく眠れた。
- 3371 tutko bakno
トゥトコ バクノ
二日 まで
二日ほど、三日ほど
- 3372 rerko bakno an-an
レレコ バクノ アナン
三日 まで いる・我
そうして過ごした。
- 3373 a-karkar kuni p
ア・カカカラ クニ プ
我・刺繍をする 必 もの
刺繍づくりに
- 3374 attomsama
アトムサマ
真ん中
心を
- 3375 a-yayomare
ア・ヤヨマレ
我・みずから入れる
向けて
- 3376 ikarkar-an ko
イカカカラ・アン コ
刺繍をする・我 条件
針を運んだ。
- 3377 pon a-kor yubi
ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
ちい兄さんの姿が
- 3378 a-nankotchake
ア・ナンコトチャケ
我・顔の前
目に
- 3379 eerachitke
エエラチトケ
ぶらさがる
ちらついた。
- p. 279
- 3380 a-eyairam-
ア・エヤイラム・
我・己の心
わが思いを
- 3381 oyakunruke
オヤクンルケ
よそにやる
それから逸らそうと
- 3382 kushne yakka
クシネ ヤッカ
つもりである 譲
しても
- 3383 or un boo hene
オロ ウン ボオ ヘネ
所 方向 なおさら も
ますます
- 3384 a-eshikarun
ア・エシカルン
我・思い出す
思い起こされ
- 3385 hetakta usa
ヘタクタ ウサ
早く 譲
早く早く
- 3386 ek wa
エック ワ
来る 接
来て
- 3387 i-kore okai ari
イ・コレ オカイ アリ
我・与える ある 引用
ください、と
- 3388 a-yainu kane
ア・ヤイヌ カネ
我・考える 同時
念じた。
- 3389 makanneko
マカンネコ
あるときには
ときには
- 3390 somo ibe-an
ソモ イベ・アン
否定 食事する・我
何も食わずに
- 3391 tutko hotke-an
トゥトコ ホトケ・アン
二日 寝る・我
二日
- 3392 rerko hotke-an
レレコ ホトケ・アン
三日 寝る・我
三日寝込んで
- 3393 sotki ka ta
ソトキ カ タ
寝床 上 場
臥所で
- 3394 a-yainubekoshiru kane
ア・ヤイヌベコシル カネ
我・涙をぬぐう 同時
涙をぬぐって
- 3395 an-an
アナン
いる・我
いた。
- 4.4 ちい兄さん来る
- 3396 shine an to ta
シネ アン ト タ
一つのある 日 場
ある日
- 3397 tane shiyan tokesh
タネ シヤン トケシ
今 全くの 日暮れ
日が
- 3398 oman kane
オマン カネ
行く 音調整
沈む頃、
- 3399 Tomisambechi
トミサムベチ
地名
トミサンベチの
- 3400 bet kuretoke
ベトクレトコ
川 上流
川のみなもとの、
- 3401 bushkosampa
ブシコサムパ
爆発する
爆発音がして、
- 3402 kanakan kuni p
カナカン クニ プ
どういふ 必 もの
誰かが
- 3403 bet besh rera
ベト ベシ レラ
川 沿う 風
川を下る風と
- 3404 yaiturare
ヤイトウラレ
横たえる
ともに
- 3405 san hum konna
サン フム コンナ
くだる 音 は
さがって来る音が
- 3406 keurototke
ケウロトトケ
響く
ゴーゴーと鳴った。
- 3407 i-oyak un
イ・オヤクウン
我・他所 方向
ほかの人のもとに
- 3408 sam be ne wa ne yakne
サム ベ ネ ワ ネ ヤクネ
くだる もの 繋 接 繋 条件
下りてくるなら
- 3409 kotom korokaiki
コトム コロカイキ
ようである 逆
さもあるうが、
- 3410 i-attomsama
イ・アトムサマ
我・中
さにあらず、われを
- 3411 yayomare wa
ヤヨマレ ワ
自分が入れる 接
めがけて
- 3412 san kuni p
サン クニ プ
くだる 必 もの
下りて来るの
- 3413 ne kusu
ネ クス
繋 由
だから
- 3414 tura kamui mau
トゥラ カムイ マウ
ともに 神 風
伴う神風が
- 3415 chashi kar be
チャシ カラ ベ
チャシ 打つ もの
バタバタと
- 3416 kosebebatki
コセベバトキ
鳴る
屋根を打った。
- 3417 toyan kar be
トヤン カラ ベ
地面 打つ もの
地を打つ音が
- 3418 koturimimse
コトゥリミムセ
響き渡る
とどろいた。
- 3419 hum tuyorke
フム トウヨロケ
音 只中
その音の中を
- 3420 a-kouwante wa
ア・コウワンテ ワ
我・調べる 接
耳を立てて
- 3421 inu-an chiki
イヌ・アン チキ
聞く・我 条件
注意していると、
- 3422 konepkeukata
コネップケウカタ
何とことか
コネップケウカタ
- 3423 konepkashita
コネップカシタ
何としたことか
コネップカシタ
- 3424 ene he tapne
エネ ヘ タプネ
斯く 疑 これである
このように
- 3425 a-eshikarun humi
ア・エシカルン フミ
我・思い出す 気配
やまいに寝付くほど
- 3426 a-ewen humi
ア・エウエン フミ
我・病気になる 気配
こがれて

- 3427 **okai rok**
オカイ ロク
ある 完
いた
- 3428 **pon a-kor yubi**
ボン ア・コロ ユビ
小さい我・もつ兄
ちい兄さんに憑く
- 3429 **turen kash kamui**
トゥレン カシ カムイ
憑依する 仮小屋 神
守り神であることが
- 3430 **usetara**
ウセタラ
はつきり
はつきりと
- 3431 **a-nosatkirkar**
ア・ノサトキリカラ
我・悟る
悟った。
- 3432 **eashka**
エアシカ
ほんとうに
まこと、
- 3433 **raun keutum ot ta**
ラウン ケウトウム オト タ
下にある心 所 場
心の底から
- 3434 **shino a-enubetne kane**
シノ ア・エヌベトネ カネ
まことに我・喜ぶ 音調整
うれしく思った。
- 3435 **a-karkar kuni p**
ア・カッカク クニ プ
我・刺繍をする 必 もの
縫いかけの刺繍衣に
- 3436 **a-kemeninu**
ア・ケメニヌ
我・針を差し留める
針を差しとどめ、
- 3437 **shioshmak**
シオシマク
自分の後ろ
まるめて
- 3438 **a-osaipa**
ア・オサイパ
我・丸める
後ろに隠した。
- 3439 **otop chinki**
オトッ チンキ
髪 裾
髪を先を
- 3440 **a-eshitchiure kane**
ア・エシチウレ カネ
我・床に垂らす 同時
床に垂らし、
- 3441 **oribak-an kane**
オリバク・アン カネ
畏まる・我 同時
畏まって
- 3442 **an-an raboki ta**
アナン ラボキ タ
いる・我 間 場
いると
- 3443 **inausan teksam un**
イナウサン テクサム ウン
祭壇 すぐそば 方向
(外の) 幣棚のそばから
- 3444 **boro yuk shike**
ボロ ユク シケ
大きい鹿 荷物
おおきな荷にした獲物を
- 3445 **a-ante humi**
ア・アンテ フミ
我・あらしむ音
おろす音が
- 3446 **rimkosampa**
リムコサムパ
ドスンと音がする
ドスンと聞こえた。
- 3447 **pon a-kor yubi**
ボン ア・コロ ユビ
小さい我・もつ兄
ちい兄さんが一人で
- p. 280*
- 3448 **yaikokamahupte**
ヤイコカマフテ
一人で肉を家に入れる
神窓から肉を入れた。
- 3449 **tap oro wa**
タップ オロ ワ
これ所 から
それから
- 3450 **isenramkusu**
イセンラムクス
いつものように
言うまでもなく
- 3451 **chise sam ka ta**
チセ サム カ タ
家 そば 上 場
家をまわって
- 3452 **tumpa mai kan**
トゥムパ マイ カン
鏝 音 は
鏝の音を
- 3453 **tununitara**
トゥヌニタラ
美しい音が響く
響かせながら
- 3454 **mosem tuyor**
モセム トウヨロ
玄間納屋 中
下屋の前に
- 3455 **oshikiru**
オシキル
回る
立ち、おとないの
- 3456 **taban chikutkesh**
タバン チクトケン
この 咳払い
咳払いをした。
- 3457 **chimaknaraipa**
チマクナライパ
奥に移る
その音が奥に届いた。
- 3458 **chiokanimau-**
チオカニマウ・
金の風
金の風が
- 3459 **kotpa kane**
コトパ カネ
結び付ける 音調整
それに続いた。
- 3460 **ratki aba**
ラトキ アバ
垂れる 簾戸
垂れている御簾を
- 3461 **moirechaka**
モイレチャカ
ゆっくりと開ける
おだやかに上げ、
- 3462 **mintar ka ta**
ミンタラ カ タ
土間 上 場
土間の上に
- 3463 **urar tura**
ウララ トウラ
霧 ともに
もやと
- 3464 **imeru tura**
イメル トウラ
光 ともに
光とともに
- 3465 **rutkosampa**
ルトコサムパ
すばやく入る
すっと入ってきた。
- 3466 **otop ka utur**
オトッ カ ウトゥル
髪 糸 間
髪の間から
- 3467 **a-ebekare wa**
ア・エベカレ ワ
我・覗く 接
のぞいて
- 3468 **inkar-an chiki**
インカラ・アン チキ
見る・我 条件
見ると、
- 3469 **pon a-kor yubi**
ボン ア・コロ ユビ
小さい我・もつ兄
ちい兄さんのこの前
- 3470 **hoshkino an pirika**
ホシキノ アン ピリカ
先に ある よい
来たときの美しさなど
- 3471 **poombepo ne**
ポオムベポ ネ
子供 繫
赤ん坊のようなもので、
- 3472 **tane am pirika**
タネ アム ピリカ
今 ある よい
今の美しさは
- 3473 **shioarwenrui**
シオアロウエンルイ
もの凄いい
ものすごかった。
- 3474 **kamui shiri ne**
カムイ シリ ネ
神 様子 繫
神のように
- 3475 **pirika ruwe**
ピリカ ルウェ
よい 跡
美しかった
- 3476 **okai be ne koroka**
オカイ ベ ネ コロカ
ある もの 繫 逆
が、
- 3477 **isenramkusu**
イセンラムクス
いつものように
やはり
- 3478 **kanna ruino**
カンナ ルイノ
上 甚だしく
それよりも
- 3479 **konep tashumi**
コネプ タシュミ
繫 病
なにかのやまい、
- 3480 **konep ikoni**
コネプ イコニ
繫 病
なにかのわずらいに
- 3481 **kichi rok wa**
キチ ロク ワ
する 完 接
おかされて
- 3482 **okai nankor a**
オカイ ナンコラ
ある だろう 疑
いるようだった。^{*75}
- 3483 **aokai ukorachi**
アオカイ ウコラチ
我 同じように
われと同じく
- 3484 **sattek kane**
サトテク カネ
やせた 音調整
やせ細って
- 3485 **ibottom konna**
イボトトム コンナ
顔色 は
表情が
- 3486 **koshumnataru**
コシユムナタラ
萎れている
すぐれず、
- 3487 **koreunataru kane**
コレウナタラ カネ
曲がる 同時
萎れ、歪んで
- 3488 **okai chiki**
オカイ チキ
ある 条件
いる。
- 3489 **boo hene**
ボオ ヘネ
なおさら も
そのためいっそう
- 3490 **pirika kashpa kane**
ピリカ カシパ カネ
よい 甚だしい 音調整
美しい。美しすぎる。
- 3491 **yakka**
ヤッカ
譲
とは言え
- 3492 **rametok ibor**
ラメトク イボロ
勇者 顔色
ますらお振りが
- 3493 **eibottumu**
エイボトトム
顔色
その表情に
- 3494 **shinnai kane**
シンナイ カネ
違った 同時
際立っている。

*75 シヌタプカの娘に思い焦がれてやつれている様。

- 3495 i-kurkashike
イ・クルカシケ
我・上
われの身を
- 3496 uwampare kane
ウワムバレ カネ
見て調べる 同時
目でなでまわし、
- 3497 i-kosoturashi
イ・コソトゥラシ
我に向かって座を横切る
われに向かって
- 3498 eshisoun wa
エシソウン ワ
上座へ 接
右座へと
- 3499 urerutu
ウレルトゥ
すり足する
足を運んだ。
- 3500 shirki chiki
シリキ チキ
そうする 条件
すると、
- 3501 hemakashi wa
ヘマカシ ワ
奥から 接
われは後ろに
- 3502 shinushinu-an^{*76}
シヌシヌ・アン
膝について進む・我
いざった。
- 3503 i-kotchake
イ・コトチャケ
我・前
われの前を
- 3504 urekushte
ウレクシテ
足を運ぶ
通って足を運び、
- 3505 i-rorke ta
イ・ロロケ タ
我・上座 場
われより上座に
- 3506 a hum konna
ア フム コンナ
座る 音 は
優美に
- 3507 naikosampa
ナイコサムパ
爽やかな音がする
座った。
- 3508 a i moire
ア イ モイレ
座る 形名 遅い
座るやいなや
- 3509 kamui huchi
カムイ フチ
神 祖母
火の神に
- 3510 kotekrikikur-
コテクリキクル・
手を高々と
高々と手を
- 3511 bumpa kane
ブムパ カネ
上げる 音調整
上げて、
- 3512 yaishinritkashi
ヤイシンリトカシ
己の先祖
おのれの血筋を
- 3513 bita kane
ビタ カネ
解く 音調整
解きほぐして語り、
- 3514 tantewano
タンテワノ
これから
これより
- 3515 taban kamui ewaki
タバン カムイ エワキ
この 神 住まい
この神の住まいに
- 3516 ehorarpa wa
エホララパ ワ
居る 接
住むので
- p. 281*
- 3517 maukopirika kuni ne
マウコピリカ クニ ネ
幸せになる 必 繋
幸せになる よう
- 3518 kamui shikoinkare
カムイ シコインカレ
神 目を掛ける
神よわれに目をかけよ、
- 3519 kuni ne
クニ ネ
必 繋
と祈り、また、家に
- 3520 usa bishkani
ウサ ビシカニ
譲 周囲
いますほかの神々にも
- 3521 koomommomo kane
クオモムモモ カネ
詳しく述べる 同時
同じように述べて
- 3522 ekamuikoitak wa
エカムイコイタク ワ
祈る 接
祈った。
- 3523 okerpa chiki
オケレパ チキ
終える 条件
それが終わると
- 3524 sui eshisoun^{*77}
スイ エシソウン
再び 上座へ
再び右座寄りの
- 3525 chise soba ta
チセ ソバ タ
家 上座 場
神座に
- 3526 horari kamui
ホラリ カムイ
座って居る 神
います家の神に
- 3527 koshikirpa
コシキリパ
振り向く
向かって
- 3528 arukorachi
アルコラチ
同じく
先と同様
- 3529 tapne tapne
タップネ タップネ
これである これである
かくかく
- 3530 ne ari
ネ アリ
繋 引用
と
- 3531 kamuikoitak
カムイコイタク
神に祈る
願いの言葉をかけた。
- 3532 tap oro wa okere
タップ オロ ワ オケレ
これ 所 から 完
それが済んで
- 3533 eramushinne
エラムシンネ
安心する
心が静まった。

4.5 むつまじい二人

- 3534 abe teksam
アベ テクサム
火 すぐそば
火の傍らに
- 3535 koshikiru
コシキル
振り向く
振り向いて
- 3536 shiutur un
シウトウル ウン
自分より下座寄り 方向
おのれより下座にいる
- 3537 i-raukotabu
イ・ラウコタブ
我・つかむ
われに抱きつき
- 3538 i-eshikarpa
イ・エシカラバ
我・抱き締める
われを抱きしめた。
- 3539 tureshpo ari
トゥレシポ アリ
妹 引用
愛しい
- 3540 sambe ari
サムベ アリ
心臓 引用
妹よ、と
- 3541 itak kane
イタク カネ
言う 同時
言いながら
- 3542 shietemkurka
シエテムクルカ
己の腕の中
腕の中に
- 3543 i-enere kane^{*78}
イ・エネレ カネ
我・ならしむ 同時
われを抱いた。

- 3544 a-kimuika ta
ア・キムイカ タ
我・頭 場
わが頭を
- 3545 i-koruiruipa kane
イ・コルイルイパ カネ
我・撫でる 同時
なでさすり、
- 3546 a-sannanka ta
ア・サンナンカ タ
我・顔 場
わが顔に
- 3547 i-echopnure
イ・エチヨブヌレ
我・接吻する
口づけした。
- 3548 kamui hura
カムイ フラ
神 匂い
匂い立つ
- 3549 utarpa hura
ウタラパ フラ
首領 匂い
首領の気品が
- 3550 rui rera ne
ルイ レラ ネ
激しい 風 繋
強い風のように
- 3551 i-emaknakur-
イ・エマクナクル・
我・奥
われを
- 3552 raipa kane
ライパ カネ
移動させる 同時
後ずさりさせる。
- 3553 aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤッカ
我 繋 譲
われもまた
- 3554 chish turanno
チシ トウランノ
泣く ともに
涙を流して
- 3555 tanebo konna
タネボ コンナ
今 は
今こそ
- 3556 yuppo ohai
ユポポ オハイ
兄 感
お兄さま、と
- 3557 a-raikotenke
ア・ライコテンケ
我・泣き叫ぶ
泣きじやくった。
- 3558 chinki kese
チンキ ケセ
裾 末端
わが兄の裾を
- 3559 a-oukoraipa
ア・オウコライパ
我ら・つかむ
両手で引き寄せた。

*76 現ノートは shinu shinu となっているが、このような形で解釈する。

*77 現ノートでは esoun と書かれているがこのような形で解釈する。

*78 ieshietemkur/nerere という例が見られる。ユ集 V, p..

- 3560 **santekka ta**^{*79}
サンテッカ タ
手 場
手の上を、
- 3561 **sankokkasaba**
サンコッカサバ
膝頭
膝を
- 3562 **a-koruiruye**
ア・コルイルイェ
我・撫でさせる
さすった。
- 3563 **sannan ka ta**
サンナン カ タ
顔 も 場
顔を差し出し
- 3564 **utashpabakno**
ウタシババクノ
互いに
互いに
- 3565 **a-echopnure**
ア・エチヨツマレ
我・接吻する
口づけした。
- 3566 **shisak rametok**
シサク ラメトク
またとない 勇者
このまたとない美丈夫が
- 3567 **i-kurkashike**
イ・クルカシケ
我・上
われの上に
- 3568 **tu nubur nube**
トゥ ヌブル ヌベ
二つの 霊力 涙
尊い涙を
- 3569 **re nubur nube**
レ ヌブル ヌベ
三つの 霊力 涙
ボロボロ
- 3570 **orapte kane**
オラッテ カネ
こぼす 同時
こぼした。
- 3571 **otu sui konna**
オトゥ スイ コンナ
二つの 再び は
いくども
- 3572 **ore sui konna**
オレ スイ コンナ
三つの 再び は
いくども
- 3573 **i-shikoruye**
イ・シコルイェ
我・撫でる
われを抱きしめ
- 3574 **i-keuhumshu**
イ・ケウフムシュ
我・祝福する
われを祝福した。
- 3575 **utashpa kane**
ウタシパ カネ
互いに 同時
互いに
- 3576 **shukup tuika ta**
シュクフ トウイカ タ
成長する 上 場
これまであった
- 3577 **okai usa orushbe**
オカイ ウサ オルシベ
ある 譲 話
さまざまなことを
- 3578 **a-ye kane**
ア・イエ カネ
我・言う 同時
語った。
- 3579 **ene ene**
エネ エネ
斯く 斯く
草々語った。
- 3580 **usembirke ta**
ウセムビリケ タ
互の陰 場
お互い密かに
- 3581 **ueyaikataikar-an wa**
ウエヤイカタイカラ・アン ワ
互いに思い焦がれる・我ら 接
思い焦がれ、
- 3582 **tashup**^{*80} **akkari**
タシユブ アッカリ
未詳 まさる
病気にかかったときより
- 3583 **keworsak-an rok i**
ケウオロサク・アン ロク イ
やせ細る・我 完 形名
やせ細ってしまった
- 3584 **hene an korachi**
ヘネ アン コラチ
も ある ように
ことなど
- p. 282
- 3585 **utashpabakno**
ウタシババクノ
互いに
言葉を交わして
- 3586 **a-ye kor uwepak-an**
ア・イエ コロ ウウエカフ・アン
我・言う 持つ 挨拶する
ねぎらいあった。
- 3587 **ireshuyubi**
イレシュユビ
育ての兄
育ての兄が
- 3588 **ye rok i korachino**
イエ ロク イ コラチノ
言う 完 形名 ように
言ったように
- 3589 **samashik sakno**
サマシク サクノ
隣りの目 無くて
人目を
- 3590 **oainu sakno**
オアイヌ サクノ
人 無くて
はばかりの必要もなく、
- 3591 **ramoshi wano**
ラモシ ワノ
心の底 から
心の底から
- 3592 **ukoitak-an**
ウコイタク・アン
話し合う・我ら
打ち明け合い、
- 3593 **ukeuhumshu-an kane**
ウケウフムシュ・アン カネ
無事をねぎらう・我 同時
ねぎらい合い、
- 3594 **uomap-an wa**
ウオマフ・アン ワ
愛し合う・我 接
愛し合って
- 3595 **a-eramushinne**
ア・エラムシンネ
我・心落ち着く
人心地ついた。
- 4.6 ちい兄さんの手料理
- 3596 **tap oro wa**
タップ オロ ワ
これ 所 から
それから、
- 3597 **pon a-kor yubi**
ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
ちい兄さんは
- 3598 **chirikibumpa**
チリキブムパ
立ち上がる
立ち上がり、
- 3599 **yayoteknare**
ヤヨテッナレ
みずから手を下す
みずからの手を動かして
- 3600 **boro shu oro**
ボロ シュ オロ
大きい 鍋 所
大鍋に
- 3601 **wakka o wa**
ワッカ オ ワ
水 入れる 接
水を入れ
- 3602 **hoka tuikashi**
ホカ トウイカシ
炉 上
火の上に
- 3603 **eterkere**
エテレケレ
跳ねとばす
掛けた。
- 3604 **shiriki chiki**
シリキ チキ
そのような有様である 条件
それを見て、
- 3605 **otu ni temkor**
オトゥ ニ テムコロ
二つの 木 腕で抱える
われは
- 3606 **ore ni temkor**
オレ ニ テムコロ
三つの 木 腕で抱える
たくさんの薪を腕に
- 3607 **a-ukaerura**
ア・ウカエルラ
我・重ねて運ぶ
抱えて運んだ。
- 3608 **pon a-kor yubi**
ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
ちい兄さんを
- 3609 **a-kashui kane**
ア・カシユイ カネ
我・手助けする 同時
助けて
- 3610 **rui rui abe**
ルイ ルイ アベ
激しい 激しい 火
強い炎を
- 3611 **a-ebarsere kane**
ア・エバラセレ カネ
我・翻す 音調整
躍らせた。
- 3612 **pon a-kor yubi**
ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
ちい兄さんは
- 3613 **kam biye i**
カム ビイエ イ
肉 脂がつく 形名
肉の脂ののったところ、
- 3614 **kirbu biye i**
キルブ ビイエ イ
脂身 脂がつく 形名
こつてりした脂身を
- 3615 **shuworotauki**
シュウオロタウキ
ぶつぶつ切って鍋に入れる
鍋の上でぶつぶつ切って
- 3616 **boro shu**
ボロ シュ
大きい 鍋
大きな鍋に
- 3617 **toikoshikno o**
トイコシクノ オ
いっぱい 入れる
なみなみと入れた。
- 3618 **nei yake ta**
ネ ヤケ タ
繁 陸の方 場
炉端では
- 3619 **hu ike oro**
フ イケ オロ
生の こと 所
生で食べられるところを
- 3620 **emush kushbare**
エムシ クシバレ
刀 何度も通す
刀でさばいて
- 3621 **raisonabi kar wa**
ライソナビ カラ ワ
高盛の腕 作る 接
大盛りにして
- 3622 **iyokir kurka**
イヨイキリ クルカ
宝列 上
宝壇に
- 3623 **eante**
エアンテ
置く
置いて
- 3624 **tap oro wa**
タップ オロ ワ
これ 所 から
から
- 3625 **raisonabi**
ライソナビ
高盛の腕
その腕を

*79 ta は不要と思われるがこのままとする。

*80 この語、あるいは誤記で tashum「病」か。

- 3626 i-kobuni
イ・コブニ
我・捧げる
われに差し出した。
- 3627 a-rikunruke
ア・リクンルケ
我・高きさしあげる
われは上へ
- 3628 a-raunruke
ア・ラウンルケ
我・低くかざす
下へと押し頂き
- 3629 a-koonkami
ア・コオンカミ
我・拝礼する
礼拝し
- 3630 sho kotchake
シオ コトチャケ
座 前
座の前に
- 3631 a-eante
ア・エアンテ
我・置く
置いた。
- 3632 raisonabi
ライソナビ
高盛の椀
ちい兄さんも
- 3633 yaikobuni
ヤイコブニ
自分で給仕する
自分の椀に盛った。
- 3634 oro wano
オロ ワノ
所 から
それから
- 3635 a-e chiki
ア・エ チキ
我・食べる 条件
われらは食べたが
- 3636 ineapkusu
イネアプクス
何と
なんと
- 3637 ashit chikoikip
アシト チコイキプ
新しい 獲物
新鮮な獲物の
- 3638 usa haru kor
ウサ ハル コロ
讓 食物 持つ
実の入っていて
- 3639 usa kera pirika wa
ウサ ケラ ビリカ ワ
讓 味 よい 接
おいしかった
- 3640 humash nankor a
フマシ ナンコラ
気配がする だろう 疑
ことだろう。*81
- 3641 sonno kera pirika
ソンノ ケラ ビリカ
真に 味 よい
ほんとうにおいしい。
- 3642 irukai ne ko
イルカイ ネ コ
しばらくの間 繫 条件
しばらくすると
- 3643 tam boro shu
タム ボロ シュ
この 大きい 鍋
大きな鍋が
- 3644 chi hine
チ ヒネ
煮える 接
煮えてきた。
- 3645 boro nima
ボロ ニマ
大きい 鉢
ちい兄さんは大きな鉢を
- 3646 sanasapte wa
サナサプテ ワ
取り出す 接
取り出して
- 3647 or un kam yapte
オロ ウン カム ヤプテ
所 方向 肉 火から下ろす
そこに肉をあげ、
- 3648 kirbu yapte
キリーブ ヤプテ
脂身 火から下ろす
脂身をあげた。
- 3649 sui raisonabi
スイ ライソナビ
再び 高盛の椀
再び高盛の椀を
- 3650 imoma kurka
イモマ クルカ
宝壇 上
宝壇に
- 3651 eantekar
エアンテカラ
に置く
置いた。
- 3652 oro wa sui
オロ ワ スイ
所 接 再び
それから
- 3653 kam hene
カム ヘネ
肉 も
肉や
- 3654 kirbu hene
キリーブ ヘネ
脂身 も
脂身の
- 3655 boro sonabi
ボロ ソナビ
大きい 高盛の椀
高盛を
- 3656 i-kobumpa wa
イ・コブムパ ワ
我・差し出す 接
われに差し出した。
- 3657 a-koonkami wa
ア・コオンカミ ワ
我・拝礼する 接
われは押しいただいた。
- p. 283
- 3658 a-e chiki
ア・エ チキ
我・食べる 条件
食べてみると、
- 3659 eashka ashiri chikoikip
エアッカ アシリ チコイキプ
とても 新しい 獲物
新しい獲物の肉が
- 3660 shino kera pirika
シノ ケラ ビリカ
まことに 味 よい
とてもおいしかった。
- 3661 koohapsekur-
コオハナセクル・
ハップ
ハップという感謝の
- 3662 echiu kane
エチウ カネ
突く 音調整
声が漏れた。
- 3663 kurkashike
クルカシケ
上
すると
- 3664 pon a-kor yubi
ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
ちい兄さんは、われに
- 3665 i-ehenkotpakar kane
イ・エヘンコトバカラ カネ
我・愛撫する 音調整
唇を寄せ愛撫してくれた。
- 3666 anihi ne wa ne yakka
アニヒ ネ ワ ネ ヤッカ
彼 繫 接 繫 讓
自分のためにも
- 3667 boro sonabi
ボロ ソナビ
大きい 高盛の椀
椀に
- 3668 yaikobuni
ヤイコブニ
自分で給仕する
盛り付け、
- 3669 ibe-an
イベ・アン
食事する・我
われらは食べた。
- 3670 tap oro wa
タプ オロ ワ
これ 所 から
それから
- 3671 iberuoka
イベルオカ
食事の跡
食事がすみ、
- 3672 chiobashbare*82
チオバシバレ
過ぎさせる
あとが片付くと
- 3673 pon a-kor yubi
ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
ちい兄さんは
- 3674 ene itak i
エネ イタキ
斯く言う 形名
こう言った。
- 3675 irukai
イルカイ
しばらくの間
「ちよっとのあいだ
- 3676 ireshuyubi
イレシュユビ
育ての兄
育ての兄さん
- 3677 umurek utar
ウムレク ウタラ
夫婦 たち
夫妻の
- 3678 ebibi a-ani wa
エビビ ア・アニ ワ
食べ物 我・運ぶ 接
食事を持って行ってくる。
- 3679 ek-an katu
エック・アン カトゥ
来る・我 姿
われが来たことは
- 3680 eramokai wa
エラモカイ ワ
知る 接
二人とも承知している
- 3681 nea yakka
ネア ヤッカ
繫 讓
だろうが、
- 3682 yaikota ne yakka
ヤイコタ ネ ヤッカ
自分で 繫 讓
こちらからも
- 3683 a-ye kusune ari
ア・イエ クスネ アリ
我・言う 意志 引用
伝えておきたい。」と
- 3684 itak kane
イタク カネ
言う 同時
言って
- 3685 kani birakka
カニ ビラッカ
黄金 履き物
金の下駄を
- 3686 ureunruke
ウレウンルケ
足に履く
履いて
- 3687 tu boro imek
トゥ ボロ イメク
二つの 大きい 御馳走
たくさんのご馳走を
- 3688 ampa kane
アムパ カネ
持つ 同時
抱えて
- 3689 chisoinaraipa
チソイナライパ
外へ出る
外に出た。
- 3690 oro wano sui
オロ ワノ スイ
所 から 再び
それからまた
- 3691 uwekap
ウエカプ
挨拶する
挨拶のあと
- 3692 uwenubetne
ウウェヌベトネ
喜ぶ
歓談

*81 獣の肉はふつつ茹でて干して保存し、随時調理する。ここで食べられるのは保存食ではない。

*82 現ノートでは chibashbare と記されている。

- 3693 uweneusarpa
ウエネウサッパ
語り合う
している
- 3694 ruwe ne kotom ne
ルウェ ネ コトム ネ
跡 繫 ようである 繫
らしく
- 3695 ohonno ohonno
オホンノ オホンノ
しばらく しばらく
ちい兄さんは
- 3696 pon a-kor yubi
ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
なかなか
- 3697 ek ka somoki aine
エック カ ソモキ アイネ
来る も しない 接
帰ってこなかった。
- 4.7 妻となる
- 3698 tane toikoshirikunne
タネ トイコシリクンネ
今 すっかり日が暮れる
もうすっかり日が暮れた。
- 3699 or wa
オロワ
所 から
しばらくして
- 3700 pon a-kor yubi
ボン ア・コロ ユビ
小さい 我・もつ 兄
ちい兄さんは
- 3701 shino nubetne tura
シノ ヌベトネ トウラ
まことに 喜ぶ ともに
とてもうれしそうに
- 3702 hoshipba
ホシッパ
帰る
帰ってきた。
- 3703 eashka ireshuyubi ne wa
エアシカ イレシユビ ネ ワ
とても 育ての兄 繫 接
「育ての兄さんも
- 3704 pon a-kor sapo
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さんも
- 3705 sonno nubetne ruwe ne
ソノン ヌベトネ ルウェ ネ
真に 喜ぶ 跡 繫
とても喜んでいた。」
- 3706 ari itak kane
アリ イタック カネ
引用 言う 同時
と言って、
- 3707 i-rorke sam ne
イ・ロロケ サム ネ
我・上座 そば 繫
われの上座に
- 3708 ehorarpa
エホラッパ
居る
座った。
- 3709 tap oro wa
タッ オロワ
これ 所 から
そして
- 3710 ene itak hi
エネ イタック ヒ
斯く言う こと
こう言った。
- 3711 hokure a-tureshipo
ホクレ ア・トゥレンシポ
早く 我・妹
「さあ、妹よ。
- 3712 tanebo konna
タネボ コンナ
今 は
やっと
- 3713 kamui ewaki
カムイ エワキ
神 住まい
神の住まいに
- 3714 upsoro ta ek-an
ウッソロ タ エック・アン
内部 場 来る・我
戻ってきた。
- 3715 kamui teksam ta
カムイ テッサム タ
神 すぐそば 場
神のそばで
- 3716 tanekuran wano
タネクラン ワノ
今夜 から
今晚から
- 3717 sonno umurek
ソノン ウムレック
真に 夫婦
本当の夫婦に
- 3718 a-nepa ruwe ne
ア・ネパ ルウェ ネ
我・である 跡 繫
なるのだ。
- 3719 tambe kusu
タムベ クス
これ 由
そこで
- 3720 chibaroshuke
チバロシユケ
世話をする
口に入れるものを
- 3721 i-y-ekarkar wa
イ・イエカッカラ ワ
我・する 接
作って
- 3722 i-kore kunak
イ・コレ クナック
我・与える 引用
欲しいの
- p. 284
- 3723 ramu yan ari
ラム ヤン アリ
思う 上陸する 引用
だが」と
- 3724 hawash chiki
ハワシ チキ
言われる 条件
言うので
- 3725 a-kon ram konna
ア・コン ラム コンナ
我・もつ 心 は
われの心も
- 3726 bashkosampa
バシコサムパ
ざっと走る
ホツとして
- 3727 itak etoko
イタック エトコ
言葉 前方
言われてすぐに
- 3728 a-ehobuni
ア・エホブニ
我・立ち上がる
立ち上がった。
- 3729 utut ta oman-an
ウトウト タ オマン・アン
火尻座 場 行く・我
下座に行った。
- 3730 otubetchirbe
オトウベトチリベ
二つの滴
柄杓で数多くの
- 3731 orebetchirbe
オレベトチリベ
三つの滴
しずくを
- 3732 a-yaikarpare
ア・ヤイカッパレ
我・為す
滴らせて手を洗い、
- 3733 pirika pon shu
ピリカ ボン シュ
よい 小さい 鍋
美しい小鍋に
- 3734 komshutna wano
コムシュトナ ワノ
鍋の耳元 から
その耳の付け根から
- 3735 a-obekarpare
ア・オベカッパレ
我・水を掛ける
水を掛けて清め、
- 3736 oro wakka a-o wa
オロ ワッカ ア・オ ワ
所 水 我・入れる 接
その中に水を入れた。
- 3737 hoka tuika
ホカ トウイカ
炉 上
それを炉に
- 3738 an-eterkere
アネテレケレ
我・〜へ跳ね上げる
掛けた。
- 3739 shu chorbok ne
シュ チョロボク ネ
鍋 下 繫
鍋の下に
- 3740 a-eusheush
ア・エウシエウシ
我・頭を差し入れする
顔を入れて息吹きかけて
- 3741 abeare-an
アベアレ・アン
火をたく・我
火を起こした。
- 3742 taban pon shu
タバン ボン シュ
この 小さい 鍋
小鍋は
- 3743 bopbir konna
ボッピリ コンナ
沸き立つ泡 は
ブツブツ
- 3744 hokushitara
ホクシタラ
ひっくり返る
沸いてきた。
- 3745 umso pirikep
ウムソ ピリケッ
しまつてある 搗いた穀粒
しまつておいた精米を
- 3746 shu wonna wa
シュ ウオンナ ワ
鍋 中 接
鍋の中へ
- 3747 an-echobopo
アネチョポポ
我・撒きこぼす
撒きこぼした。
- 3748 pirika meshi
ピリカ メシ
よい 飯
おいしいご飯を
- 3749 a-yaikokarkar
ア・ヤイコカッカ
我・みずから作る
一人で炊いた。
- 3750 pirika meshi
ピリカ メシ
よい 飯
よく炊けたご飯を
- 3751 a-berakokiru
ア・ベラコキル
我・へらでかます
へらでかました。
- 3752 bera tuika ta
ベラ トウイカ タ
へら 上 場
飯は
- 3753 pirika meshi
ピリカ メシ
よい 飯
へらの上で
- 3754 mausamama
マウスアママ
湯気をたなびかせる
湯気をたなびかせ、
- 3755 mauchimimi kane
マウチミミ カネ
湯気をふるわせる 音調整
湯気をふるわせていた。
- 3756 a-butauunu
ア・ブタウヌ
我・蓋を閉じる
われは鍋ぶたを閉じたり
- 3757 a-rikoraipa kane
ア・リコライパ カネ
我・上にあげる 音調整
開けたりした。
- 3758 ponno shiran ko
ボンノ シラン コ
少し ときがたつ 条件
少しして
- 3759 a-yanke
ア・ヤンケ
我・陸に上げる
火からあげた。
- 3760 kabarbe ochike
カバッベ オチケ
薄造りの物 膳
うす造りの御膳と
- 3761 kabarbe itanki
カバッベ イタンキ
薄造りの物 御碗
うす造りの碗を

- 3762 a-sanasapte
ア・サナサッテ
我・炉辺に出す
取り出して
- 3763 a-uworeroshki kane
ア・ウウォレロシキ カネ
我・並べる 音調整
並べ、
- 3764 raisonabi
ライソナビ
高盛の椀
高盛の椀を
- 3765 oribak tura
オリバク トウラ
畏まる ともに
恭しく
- 3766 shikankitai
シカンキタイ
自分の頭上
頭の上に
- 3767 a-eimekani
ア・エイメカニ
我・御膳を持つ
上げて
- 3768 pon a-kor yubi
ボン ア・コロ ユビ
小さい我・もつ 兄
ちい兄さんに
- 3769 a-koibuni chiki
ア・コイブニ チキ
我・椀を授ける 条件
差し出すと
- 3770 uina wa
ウイナ ワ
手に取る 接
ちい兄さんは受け取って
- 3771 rikunruke
リクンルケ
高くかざす
上に
- 3772 raunruke
ラウンルケ
低くかざす
下にと押し頂き
- 3773 koonkami wa
コオンカミ ワ
拝礼する 接
礼拝した。
- 3774 moire ibe
モイレ イベ
遅い 食事する
ゆったりと
- 3775 koyaiurka-
コヤイクルカ・
自らの上
食事を
- 3776 oma kane
オマ カネ
ある 音調整
した。
- 3777 shuke-an
シュケ・アン
炊事する・我
料理が
- 3778 eashkai am^{*83} manu
エアシカイ アム マヌ
できる ある という
上手だと
- 3779 anrekakar
アンレカカラ
ひどく褒める
誉めてくれた。
- 3780 koohapseechiu kane
コオハフセエチウ カネ
ハップと言う 音調整
ハップと感謝して
- 3781 ibe okere
イベ オケレ
食事する 完
食べ終えた。
- 3782 imek arke
イメク アラケ
御馳走 半分
椀の残った半分を
- 3783 i-korutrutu
イ・コルトルトウ
我・ずり寄せる
われによこした。
- 3784 a-uina hine
ア・ウイナ ヒネ
我・取る 接
われは取って
- 3785 a-koonkami wa
ア・コオンカミ ワ
我・拝礼する 接
礼拝して
- 3786 a-e chiki
ア・エ チキ
我・食べる 条件
食べてみると
- 3787 ineapkus
イネアプクス
何と
なんとまあ、
- p. 285
- 3788 pon a-kor yubi
ボン ア・コロ ユビ
小さい我・もつ 兄
ちい兄さんが
- 3789 pirika mekare p
ピリカ メカレ プ
よい 御馳走を分ける もの
上手に盛ったご馳走の
- 3790 kera pirika wa
ケラ ピリカ ワ
味 よい 接
おいしかった
- 3791 humash nankor a
フマシ ナンコラ
気配がする だろう 疑
ことか。
- 3792 eashka kera pirika
エアシカ ケラ ピリカ
とても 味 よい
そのおいしさに
- 3793 a-koohapse-
ア・コオハフセ・
我・ハップ、ハップと言う
ハップ、ハップと
- 3794 echiu kane
エチウ カネ
突く 音調整
感謝の声をあげた。
- 3795 moire ibe
モイレ イベ
遅い 食事する
われは
- 3796 a-koyaiurka-
ア・コヤイクルカ・
我・我が上
優美に
- 3797 oma kane
オマ カネ
ある 音調整
食べた。
- 3798 ibe ruoka
イベ ルオカ
食事する 跡
食事のあとが
- 3799 chiobashpare
チオバシパレ
片付く
片付くと
- 3800 tap oro wa
タプ オロ ワ
これ 所 から
いよいよ
- 3801 ainu buri
アイヌ ブリ
人間 行い
人の習わし
- 3802 kamui buri
カムイ ブリ
神 行い
神の習わし
- 3803 ene okai kuni
エネ オカイ クニ
斯くある 必
とはこうで
- 3804 konep ne kusu
コネプ ネ クス
繋 繋 由
あるから、
- 3805 pon a-kor yubi tura
ボン ア・コロ ユビ トウラ
小さい我・もつ 兄 ともに
ちい兄さんといっしょに
- 3806 shinrit sotki
シンリト ソトキ
出自 寢床
先祖からの
- 3807 totto sotki
トット ソトキ
母 寢床
母から譲られた臥所
- 3808 pirika sotki
ピリカ ソトキ
よい 寢床
美しい寢床の
- 3809 kurkashike
クルカシケ
上
上で
- 3810 a-emokonnopa kane
ア・エモコンノパ カネ
我ら・よく眠る 音調整
われらは良き眠りについた。
- 3811 tane anakne
タネ アナクネ
今 は
今はもうわれは
- 3812 pon a-kor yubi
ボン ア・コロ ユビ
小さい我・もつ 兄
ちい兄さんの
- 3813 a-eyaimakna-
ア・エヤイマクナ・
我・後に
後ろに
- 3814 horarire
ホラリレ
座らせる
座ることになった。^{*84}
- 3815 pon a-kor yubi
ボン ア・コロ ユビ
小さい我・もつ 兄
ちい兄さんは
- 3816 sonno hese attom
ソノノ ヘセ アトトム
真に 息をする 中
息のただ中
- 3817 sambe attom
サムベ アトトム
心臓 中
心臓のただ中に
- 3818 i-y-ekotekar
イ・イエコテカラ
我・結びつける
われを結びつけた
- 3819 aokai ne yakka
アオカイ ネ ヤッカ
我 繋 譲
われもまた、
- 3820 pon a-kor yubi
ボン ア・コロ ユビ
小さい我・もつ 兄
ちい兄さんを
- 3821 sambe etok
サムベ エトク
心臓 前方
心臓の先に
- 3822 a-omare kane
ア・オマレ カネ
我・音の休止 同時
入れて
- 3823 a-obenkarkar
ア・オベンカラカラ
未詳
上をさすり
- 3824 a-obankarkar
ア・オバンカラカラ
未詳
下をさすった。^{*85}
- 3825 boo hene
ボオ ヘネ
なおさら も
ちい兄さんはますます
- 3826 i-eomapkar
イ・エオマフカラ
我・愛する
われをかわいがって

*83 この am は不要とみて解釈する。

*84 夫婦になった。

*85 この 2 行の解釈は不確か。

- 3827 moshit tuika ta
モシト トウイカ タ
国土 上 場
くれた。この国で
- 3828 uwepirik-an hawe
ウウエピリカ・アン ハウエ
共に幸せ・我ら 声
幸せにしていると
- 3829 kamui asun ne
カムイ アスン ネ
神 噂 繫
神の噂が
- 3830 chihobunire
チホブニレ
起きる
広がった。
- 4.8 親族のむつみ
- 3831 neino sui
ネノ スイ
ように 再び
同様に
- 3832 ireshuyubi umurek
イレシュユビ ウムレク
育ての兄 夫婦
育ての兄夫婦も
- 3833 Iyochi un
イヨチ ウン
地名 方向
イヨチに住まう
- 3834 pon a-kor sapo
ボン ア・コロ サポ
小さい 我・もつ 姉
ちい姉さん
- 3835 umurek utar
ウムレク ウタラ
夫婦 たち
夫婦も
- 3836 shine ikin ne
シネ イキン ネ
一つの 列 繫
同じように幸せに
- 3837 uwepirika hawe
ウウエピリカ ハウエ
幸せに暮らす 声
暮らしているとの噂が
- 3838 tu kotan kama
トゥ コタン カマ
二つの 村 越える
村々を
- 3839 re kotan kama
レ コタン カマ
三つの 村 越える
越えて
- 3840 kamui asun ne
カムイ アスン ネ
神 噂 繫
神の噂となって
- 3841 chihobumpare*⁸⁶
チホブムパレ
起きる
伝わってきた。
- 3842 sonno hosaochiwe
ソンノ ホサオチウエ
真に 前に座る
どちらが前に座り、
- 3843 homakochiupa
ホマコチウパ
後に座る
どちらが後に座るか
- 3844 koyaikush
コヤイクシ
できない
決められない*⁸⁷
- 3845 shino nishpa
シノ ニシパ
まことに 長者
全き紳士、
- 3846 katkemat
カトケマト
婦人
淑女に
- 3847 uwesamanno
ウウエサマンノ
いっしょに
われらは
- 3848 a-nepa
ア・ネパ
我・である
いずれも成った。
- 3849 tap korachi
タッ コラチ
これ ように
このように
- 3850 pirika-an
ピリカ・アン
美しくある
われらが
- 3851 uwesamanno
ウウエサマンノ
いっしょに
いずれも
- 3852 ki i anakne
キ イ アナクネ
する 形名は
富者となったのは、
- 3853 sonno a-obittano
ソンノ ア・オビタノ
真に 我・すべて
実に
- 3854 uhaita buri
ウハイタ ブリ
釣り合いのとれない 行い
愚かなふるまい
- 3855 wen keutum
ウェン ケウトウム
悪い 心
悪しき心根
- 3856 somo a-kor
ソモ ア・コロ
否定 我・もつ
とは無縁で
- p. 286
- 3857 ouse shinrit
オウセ シンリト
ただ 出自
ただひたすら先祖の
- 3858 i-bakashnu
イ・バカシュヌ
我・教える
遺訓、
- 3859 totto tu itak
トット トウ イタク
母 二つの 言葉
数々の女の戒めを
- 3860 ponram orwano
ボンラム オロワノ
幼少 始点
幼いころから
- 3861 a-shikkashima
ア・シッカシマ
見守られる
守ってきたから
- 3862 tambe kusu
タムベ クス
これ 由
それで
- 3863 sonno kamui koinkar
ソンノ カムイ コインカラ
真に 神 見守る
われらには神の恵みが
- 3864 a-ki shiri ne i
ア・キ シリ ネ イ
我・する 様子 繫 形名
あった、ということが
- 3865 a-noeraman
ア・ノエラマン
我・よくわかる
わかった。
- 3866 tane anakne
タネ アナクネ
今 は
いまでは
- 3867 uwesamanno
ウウエサマンノ
いっしょに
三組の夫婦とも
- 3868 tu po re po
トゥ ポレ ポ
二つの子 三つの子
たくさん
- 3869 a-ukosapte
ア・ウコサプテ
生まれる
子供ができた。
- 3870 Iyochi ta
イヨチ タ
地名 場
イヨチに
- 3871 sake an ko
サケ アン コ
酒 ある 条件
祝い事、
- 3872 marapto an ko
マラプト アン コ
祭り ある 条件
祭り事があると、
- 3873 a-obittano
ア・オビタノ
我・すべて
われらは皆で
- 3874 baye-an wa
バイエ・アン ワ
行く・我 接
出かけ、
- 3875 uwenubetne-an
ウウエヌベトネ・アン
喜ぶ・我
喜びあった。
- 3876 keshto kane
ケスト カネ
毎日 音調整
毎日
- 3877 ukotori-an
ウコトリ・アン
宿泊しあう・我ら
互の家に泊まりあった。
- 3878 utashpa
ウタッパ
互いに
代わる代わる
- 3879 a-poutari
ア・ポウタリ
我・子供達
子供たちを
- 3880 a-ukoomap
ア・ウコオマップ
我・可愛がる
可愛がって
- 3881 a-ukohenkotpa kane
ア・ウコヘンコトパ カネ
我・皆を愛撫する 同時
あやしなながら
- 3882 ibeno-an
イベノ・アン
たくさん食べる・我
よく食べ、
- 3883 uweneusar-an
ウウエネウサラ・アン
お話しをする・我ら
お話に興じ、
- 3884 i-y-ot ta
イ・ヨト タ
我・所 場
我が家で
- 3885 sake an ko
サケ アン コ
酒 ある 条件
祝い事、
- 3886 marapto an ko
マラプト アン コ
祭り ある 条件
祭り事があっても
- 3887 arukorachi
アルコラチ
同じく
同じようにした。
- 3888 ireshuyubi
イレシュユビ
育ての兄
育ての兄の
- 3889 ot ta sake an ko
オト タ サケ アン コ
所 場 酒 ある 条件
家で祝い事、
- 3890 marapto an ko
マラプト アン コ
祭り ある 条件
祭り事があっても
- 3891 arukorachi
アルコラチ
同じく
同じようにした。
- 4.9 神のもとへ
- 3892 sake an ko batek
サケ アン コ バテック
酒 ある 条件 のみ
宴のときだけでも

*⁸⁶ 現ノートでは chihobupare と記されている。m を補う。*⁸⁷ この行の意味はよくわからない。とりあえずの訳。

- 3893 utashpa shinki apkash
ウタシバ シンキ アフカシ
互いに 疲れる 歩く
訪ねあおうにも、歩くに
- 3894 a-ki kane
ア・キ カネ
我・する 音調整
疲れるようになり、
- 3895 tane uweepaki ta
タネ ウウェエパキ タ
今 順序 場
われらは順番に
- 3896 uwesamanno
ウウェサマンノ
いっしょに
同じように老いて
- 3897 kemabase-an ko
ケマバセ・アン コ
足が重くなる・我 条件
足が重くなると
- 3898 a-poutari
ア・ポウタリ
我・子供達
子供たちが
- 3899 chihorkareshpa
チホロカレシバ
子が親の面倒をみる
面倒をみてくれて
- 3900 shisak chinunuke
シサク チヌヌケ
またとない 大切に
またとない老いの世話に
- 3901 i-y-ekarkarpa
イ・イエカラカッパ
我・為す
尽くしてくれた。
- 3902 sonno a-eyaikamuinere
ソンノ ア・エヤイカムイネレ
真に 我・誇る
誇り高く暮らせた。
- 3903 tapne kane
タップネ カネ
これである 音調整
以上、このように
- 3904 shukup tuika ta
シュクフ トウイカ タ
成長する 上 場
若い時分、
- 3905 kannakamui utar
カンナカムイ ウタラ
雷神 たち
雷神たちに
- 3906 chiukokeshke
チウコケシケ
嫉まれる
妬まれ
- 3907 a-i-y-ekar a koroka
ア・イ・イエカラ ア コロカ
我・される 完 逆
そねまれたが、
- 3908 tapne
タップネ
これである
このように
- 3909 uwesamanno
ウウェサマンノ
いっしょに
われらいずれとも
- 3910 pirika sambe
ピリカ サムベ
よい 心臓
よき心を
- 3911 korba p a-ne kusu
コロバ フ ア・ネ クス
持つ もの 我・繫 由
持っていたので
- 3912 kunne chup tono mat
クンネ チュフトノ マト
黒い 月 神 女
尊い
- 3913 base kamui
バセ カムイ
重い 神
月の女神
- 3914 chikeutusare
チケウトウサレ
蘇生する
の看護によって
- 3915 i-y-ekarkar wa
イ・イエカラカッワ
我・する 接
傷を
- 3916 i-kore
イ・コレ
我・与える
癒された。
- 3917 kashikeun
カシケウン
さらに
その上さらに
- 3918 kamui
カムイ
神
われに神の恵みが
- 3919 i-koinkar kuni ne
イ・コインカラ クニ ネ
我・見る 必 繫
あるように
- 3920 kar wa
カラ ワ
する 接
氣遣って
- 3921 i-kore ruwe ne
イ・コレ ルウェ ネ
我・与える 跡 繫
くれた。
- 3922 tambe kusu
タムベ クス
これ 由
それで
- 3923 tap korachi
タップ コラチ
これ ように
このように
- p. 287*
- 3924 uwesamanno
ウウェサマンノ
同様に
あい共に
- 3925 imoshit tuika ta
イモシト トウイカ タ
国 上 場
この国には
- 3926 isam
イサム
ない
ほかにない
- 3927 nishpa umurek utar
ニシパ ウムレク ウタラ
長者 夫婦 たち
富貴な夫と妻で
- 3928 a-ne ruwe
ア・ネ ルウェ
我・繫 跡
あるの
- 3929 tap okai na
タップ オカイ ナ
これ ある ぞ
です。
- 3930 a-poutari
ア・ポウタリ
我・子たち
わが子
- 3931 a-matnepoutari
ア・マトネポウタリ
我・娘たち
たちよ、
- 3932 taban orushbe
タブン オルッベ
この 話
この話を
- 3933 nei ta bakno
ネイ タ バクノ
繫 場 まで
いつ
- 3934 ne yakka
ネ ヤッカ
繫 譲
までも
- 3935 itekki oira no
イテッキ オイラ ノ
決して 忘れる 接
忘れずに、悪い思いに
- 3936 itekki wenkeutumkor
イテッキ ウエンケウトウムコロ
決して 悪心を抱く
かられたりしたら
- 3937 kunak ramu yan
クナク ラム ヤン
引用 思う 命令
だめですよ。
- 3938 kunne chup kamui
クンネ チュフ カムイ
黒い 月 神
月の神の
- 3939 chorobok beka
チヨロボク ベカ
下 場
下を
- 3940 echi-apkash chiki
エチ・アフカシ チキ
汝ら・歩く 条件
歩くときは
- 3941 keutum ot ta
ケウトウム オト タ
心 所 場
心の中で
- 3942 onkami
オンガミ
礼拝
拝んで
- 3943 boronno yairaike kane
ボロンノ ヤイライケ カネ
たくさん 感謝する 同時
うんと感謝して
- 3944 oribak kane
オリバク カネ
畏まる 同時
慎んで
- 3945 apkash yan ari
アフカシ ヤン アリ
歩く 命令 引用
歩きなさいな。と
- 3946 Tomisambechi un
トミサムベチ ウン
地名 ある
トミサンベチに住まう
- 3947 shino katkemat
シノ カトケマト
まことに 婦人
立派な夫人が
- 3948 poutari
ポウタリ
子供達
子供たちに
- 3949 bashkuma kor
バシクマ コロ
教え諭す 持つ
語り、
- 3950 kamui or un oman
カムイ オロ ウン オマン
神 所 方向 行く
神のもとへ昇っていった。